



住吉の語り部になりたい

祖父良矩とのダイアログ

深田 正雄

住吉の語り部 になりたい

祖父良矩とのダイアログ



深田 正雄

住吉の語り部になりたい

祖父良矩とのダイアローグ

深田 正雄

住吉の語り部 になりたい

祖父良矩とのダイアローグ

深田 正雄

住吉の語り部 になりたい

祖父良矩とのダイアローグ

深田 正雄

はじめに

著書の深田正雄さんのお付き合いは、私が一九九〇年の衆議院議員総選挙で愛知一区から初めて出馬した時までさかのぼります。名古屋生まれの同年で、学年は違うものの大学も一橋大学商学部で同じという縁もあり、たいへん意気投合して、多くの面白い仲間たちと共に厳しい選挙を戦いました。

深田さんは私のことを「家業の古紙回収業に従事しながら司法試験に九回も挑戦したユニークな男」という触れ込みでずいぶん多くの人に紹介し、人脈を広げてくれました。残念ながらその時は落選でしたが、それ以来ずっと応援していただいています。

私たちが意気投合した一番の理由は、郷土の歴史、暮らしたや想いを受け継ぐ人々を重んじるという気持ちがお互いとも強く、共鳴し合えたからです。同世代ならではの時代感覚や共通の思いも多くて、お互いに考えていることが非常によく理解できるのです。

深田さんは、名古屋の栄で百有余年に渡って暖簾を守り続ける料亭つたも蔦茂の会長で、まちづくりを中心に名古屋の歴史や文化を掘り起こして広める活動をしていらっしゃいます。そんな活動の一環として、祖父の深田良矩氏が語り伝えたストーリーを中心にメールマガジンに書き綴ってられました。百編余りにおよぶコラムがこの度一冊の本としてまとまる運びとなり、まるで私自身のことのように喜ばしく思っています。

というのも、旧町名復活を目指す運動や名古屋城木造化構想などには私も名を連ねており、深

田さんが活動する場へ応援に出向くことがあるのはもちろん、そのコラムを通じて彼が私の想いを汲んで代弁してくれることもあって、何やら強い絆のようなものを感じていたからです。

折に触れて深田さんと話していますと、たとえば住吉の一角にきび団子で有名な和菓子屋があつてよく父と立ち寄ったこと、その娘さんが可愛かったことなども思い出されてくるのです。この本を読んで、そんな話を家族や友人・知人といっぱいしていただけたら庶民文化も受け継がれていくと思います。

歴史を愛することは地域を愛すること、地域を愛することは人を愛することです。古いまち並み、高齢者、人情味、そういったものを大事にするまちづくりこそが大切なのです。深田さんにも私にもそういう強い想いがあります。名古屋城の木造化も、戦後に鉄筋コンクリートで復元したのとは違い、歴史的価値をもつ本来の姿にしてまちの歴史と文化を継承していくべきだと考えるからです。

深田さんの熱い心を感じながら、まちの昔と今とこれからについてイメージしていただけました。幸いです。

名古屋市長

河村たかし

目次

はじめに
名古屋市長 河村たかし

序

文化編



- 紫川ストーリー 14
- 紫式部伝説と供養塔 15
- 名古屋最古の竪三蔵通遺跡 18
- 名古屋城築城前の名古屋台地「那古野」 20
- 産宮住吉神社とからくり人形 23
- 明治150年・江戸末期のお寺巡り 24
- 名刹・白林禅寺と政秀寺 28
- アメリカ村 30
- アメリカ村返還 33
- アメリカ村から芸術と科学の杜へ 35
- 白川公園遺跡、寺町、白川小学校 38
- 名古屋の名門・栄小学校 39
- 御園タブノキの思い出 42
- 美術の殿堂、画廊巡りを楽しもう！ 45
- 「本町通り歴史資料館」開設 47
- ぼくらのテレビ塔、そして、エンゼルパーク！ 49
- 久屋大通公園 51
- 新しい御園座と和テイストの意匠建築で復興する伏見金融街 54
- 御園座の繁栄とともに頑張る御園通商店街 56
- 伏見地下織維街から立飲み屋「長者町横丁」へ 59

人物編



- 三業者の街、終戦後住吉の商人達 64
- 古川為三郎のエピソードと飲食業者 66
- タバコ屋のよねちゃん 69
- 住吉の名門、今は？ 71
- 住吉神社の石柵寄進者 74
- 本殿亀甲石積銘記 75
- 末広町の旦那衆 78
- 末広町の風雲児・山田才吉 82
- 松井武兵衛と吉田禄在の街づくり功績 85

- 幕末の紅葉屋事件と富田家の発展 87
- 自由民権運動と秋琴楼事件 92
- 神田鐘蔵家系碑除幕式に
涉澤栄一來名 97
- 若き後藤新平の故郷、
大須1丁目・洲崎町 99

ストリート編



- 広小路ものがたり 104
- 広小路ものがたり・続編
〜丸栄屋上バラダイス〜 106
- 錦通りの変遷 108
- 「生活と文化を結ぶマツザカヤ」
南大津通りの賑わい 111
- 本町通り 113
- 矢場町通&東陽通りは
「山田才吉ストリート」 117
- 新発見！名駅と栄を結ぶ・
歩いて楽しい三蔵通り 119
- しんしょさかえし花屋町、
白川通りを散策して 121

- 路地裏物語 124
- 栄の路地「むつみ小路」が
袋小路に危機一髪！ 126
- 名門路地街「松竹小路」と
懐かしのトリオカレー！ 130
- 栄小路「栄銀座」には八幡屋、
夜来香が健在です！ 132
- 日活映画館の「栄楽天地」と
広小路劇場小路！ 135
- 路地裏変遷 137

思い出の旧町名編



- 名古屋の旧町名を復活させる有志の会 142
- 富沢町4丁目・住吉1―2丁目の思い出 143
- 南呉服町1―2丁目の思い出 146
- 名古屋の金融街「南伊勢町物語」 148
- 大久保見町には紫川が流れておりました
末広町は門前町として繁栄 150
- 末広町3丁目の思い出 154
- 下町情緒感ずる住吉町3丁目 157
- 伝統文化豊かな住吉町3丁目 160
- 南呉服町2丁目南、
プリンセスガーデンホテル界隈 162

- 常もにぎあふ広小路
〜日もくれかかると入江町〜 165
- 「料亭・割烹・屋台の町」
南桑名町と桶屋町5丁目 168
- 「おたひ所横町」うちこして 171
- 八百屋町は高級レジデンスシャルエリアへ
長者町はアートの町 176
- 白川町は都心のオアシスに 180
- 南鍛冶屋町は風光明媚なりゾート 182
- 明治の南久屋町はお役所街と豪商の邸宅 184

矢場町編



- オアシス・矢場公園 188
- 矢場町1丁目北地区と土地バブル 189
- なつめ・住吉ビル 192
- 守綱寺と小倉トースト 195
- ものづくりの起点 199
- 矢場公園周辺 201
- 矢場公園パークサイドストーリー 204

栄ミニナミ編



- 栄、そして栄ミニナミの歴史と由来 208
- 「栄中部を住みよくなる会」が街づくりの原点 211
- 楽しく愉快な仲間たちと街づくり活動 213
- 中高年男性の街からお洒落な若者の街に「なごやめし」と老舗爰遷 217
- 栄で競輪！「サテライト名古屋」 220
- 活性化の起爆剤「栄ミニナミ音楽祭」 223
- 栄ミニナミのイベントの特徴 225
- 「NAGORIN」の思い出 226
- 「シネマキャラバン」の思い出と早咲き桜まつり 228
- 「リビングタウン」として脚光浴びる本町通り 230
- 住吉通都市景観協定からデザインコンセプト策定 233
- 「掃除と挨拶」から新たな社会実験へまちを演出する、仕掛けとしてのデザイン 238
- 栄ミニナミまちづくり構想と社会実験 241
- 236

◎スペシャル対談

河村たかし・名古屋市長 × 深田正雄・料亭葛茂会長 245

料亭葛茂編



- お蔭様で創業100周年を迎えます 252
- 道楽三昧できた最後の旦那衆・深田良矩 255
- 山田静江の細腕繁盛記と再建 253
- 良矩の遊び心とアイデア旅館経営から料亭へ 259
- 住吉町から栄3丁目へ、業態変更と生き残り 261
- わが母、2代目女将「のり子」の悲哀と現在の発展 263
- 名古屋市登録地域建造物資産第100号に登録される 267
- 戦前、そして空襲後の再建と建物の記憶より 269
- 旅館の営業と飲食税・公給領収書 270
- 料亭営業の再開と葛茂を支えた職人衆「和食・日本人の伝統的な食文化」と葛茂料理人 276
- 「おもてなし」と名妓連 280
- ロバート・モージャーの戦後写真と料亭葛茂の黒歴史 282
- 273

あとがき 参考文献

住吉の語り部になりたい

祖父良矩とのダイアログ

序

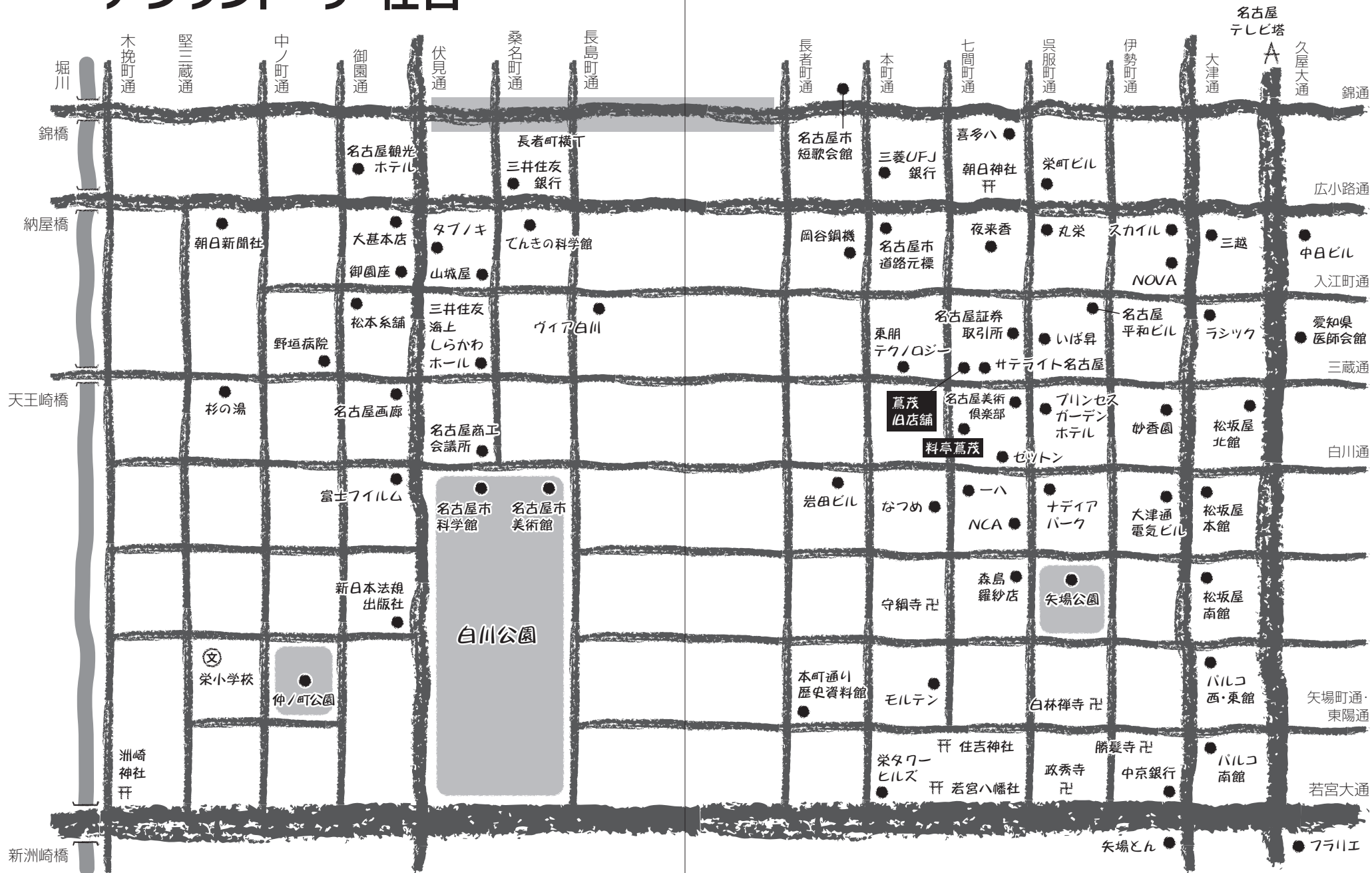
名古屋開府400年祭をキッカケに生粋のなごや人である「住吉の正雄ちゃん」に尾張名古屋の城下町、町衆の話をとの依頼が多くなりました。当時、NTT西日本名古屋支店長の笹倉信行さんが前任地の金沢でのご経験から「名古屋の旧町名復活活動を地元の皆さんからスタートすべき」と何度も諭されましたし、さらに「我が親分の故夢童由里子女史からも厳命されました。栄ミナミの街づくりには尾張徳川藩からの歴史と文化を伝える必要があると痛感しており、清州越しから由緒や謂れのある町名などを伝承しなくてはという思いと啓蒙活動として住吉から発信する情報提供の場を作りたいと執筆をスタートさせた次第です。

しかしながら、特に歴史を勉強しているわけでもなく、郷土についての造詣もなく、苦慮しております。ただ、料亭蔦茂の創業者であり明治21年生まれよしのりの祖父・深田良矩よしのりが一人の内孫「正雄」に語り続けたストーリーを語り継ぎたいと思います。



正雄の

アラウンド・ザ・住吉



文化編

紫式部の碑

※本文中に掲載されている地図の中で
住宅地図協会が昭和35年に発売した
地図に北見式賃金研究所の北見昌朗
氏が加工した地図を「北見式地図」
と表記しました。

紫川ストーリー

昭和23年生まれの正雄は、料亭蔦茂の筋向いの伝光院にある白川幼稚園に入園しました。そこには紫式部のお墓「五輪の塔」があり、泉が湧いておりました。住吉一帯は泉に恵まれ川の源流となり、それは「紫川」と呼ばれました。2万7千年前頃、旧石器時代の竪三蔵遺跡、縄文時代の白川公園遺跡・紫川遺跡が流れに沿ってありました。

海拔11・5メートルの台地にある料亭蔦茂には3本の井戸があり、深さ33尺(10メートル)に木曾の伏流水が豊富に流れておりました。開府400年を迎える清洲越えで、徳川家康に命じられた豊臣恩顧の大名は町衆が住むために碁盤割のブロックに25本前後の井戸を掘り庶民の生活用水としていたようです。この3本の井戸を誰が掘ったかわかりませんが、きっと名古屋築城と時を同じにしていると祖父良矩は申ししておりました。

祖父によれば洲崎神社南、現在の大須1丁目花園町は「旭廓」と呼ばれ、江戸時代から遊女800人を超える遊廓街で、大正時代に中村に移転したとのこと。祖父たちは女性と遊びに行くことを「紫川に行く」、そして、良い連れ合いができたときは「紫川にはまる」と言っておりました。おじいちゃんは随分はまった(?) ようでございます。

明治時代となり、汚水がどす黒くなり「紫川がきれいになって欲しい」という願いを込めて「白川」と呼ばれるようになったとの口伝でございます。

名古屋科学館と名古屋商工会議所の間の白川通りは江戸中期から「花屋町」と呼ばれ、紫川の新鮮なパワー水を基に多くの花卉^{かき}商人が軒を並べ、南寺町に墓参に行く庶民の憩い

の場であったようでもあります。

(2011・4・10)

紫式部伝説と供養塔

正雄が昭和27年から通っていました料亭蔦茂の西30メートル、三蔵通り南にある白川幼稚園は今はありませんが、伝光院敷地内で先代の吉田宣章住職が幼児教育の経営をされていたのです。戦後の区画整理後で400坪くらいの敷地でそう広くはありませんが、南北に奥行きが長くて60メートルくらいあったと思います。通りに面した北入り口から階段を降りた左側に泉があり水が湧いていたことは覚えていきます。有名な方(紫式部)の石碑があるということも聞いていました。

泉のむかえ西側には集会所を兼ねた本堂があり、週2回ほどバレエ教室もあり可愛い女の子の練習を覗くのが楽しみでした。そして、教室が3つ、年少は赤組、年中は黄組、年長は青組と並び、小さな運動場南奥にはブランコがあり乗るのがチョット怖かった思い出があります。

清洲越しの由緒ある浄土宗法燈山・伝光院は昭和35年に名古屋千種区猪高町(現・名東区名東本町20)に移転し、跡地にはマンションが建設されましたが、現在も紫式部の碑は本堂の北にそのままの形で現存しております。

千年ほど前のお話ですが、伝光院二十八代目・吉田教行現住職が語っていらっしやい



紫川流域図



紫式部の碑(伝光院)

ます。

「碑には伝説があつて、紫式部に仕えた越後という侍女が京都からこの地を訪ねました。越後は湧いていた泉があまりにも清らかなのを見て、『紫式部様をここでお弔いしたい』と村人に頼んだという話があります」

「村人に墓を建ててもらったあと、越後は尼となり、3年ほど墓の前で経を上げておりました。そして、彼女は『紫式部様のもとに参ります』という置手紙を残し、川に身を投げたといわれております」

寺に湧いていた泉は越後の入水の後「紫の泉」と呼ばれ、流れは「紫川」と名付けられました。昭和二十年の空襲で伝光院の資料はすべて焼失して、その因果は現代に残されておられません。

では、なぜ寺に紫式部の供養塔が建立されたのか？

江戸時代の家康の都市づくりでは、「政治の江戸、文化の京都、経済の尾張」といわれ、名古屋は豊かな経済に恵まれ、教育熱心で女・子供にいたるまで読み書きが非常に盛んで、識字率が世界で最も高く85パーセント以上と考えられています。

それは武家衆が職芸として寺子屋で町衆や職人衆に読み書きや学問を教えていたからです。お武家さまが士業以外の仕事をもよいシステムで、豊かで文芸盛んで平和な城下町といえます。そして、からくりや和時計など物づくりの基礎には、「誰でも文字が読める」教育レベルの高さ、設計図や指図書を職人衆が理解したインフラがあつたといえます。

町中の人は読み書きができ、寺子屋では教科書代わりに武家の得意な「論語」を学ぶ、

すると人々は恕の心構えを实践、親孝行して徳が上がる。治安も良好、悪質な犯罪やイジメも皆無の理想郷でした。

それに文学も盛んとなり、短歌を詠んだり俳句を一般庶民が楽しんだとつても裕福な地域といえます。松尾芭蕉はなんども尾張を訪ね、町衆や農家のリーダー達と句会や連歌の集いを開いたりしております。庶民が歌でお互いの心を通わす、平安の貴族文化をたしなむレベルに到達していたようにも思われます。

女性を中心に平仮名文字も盛んになり、版画印刷に適する『源氏物語』は名古屋の版元から出版され、街の貸本屋にも常設されるベストセラー。これは正雄の推察ですが、当時の伝光院の住職か檀家衆が寺子屋のPR活動のシンボルとして伝説を作ったのではないかと泉があつて、「紫式部に仕えていた官女が住んだ」という話にしたら繁盛するだろうと考えたかもしれません。

町衆は『源氏物語』が好きですから、それを聞けば入塾申込み殺到。伝光院の住職がロマンチックっぽい石碑や話題を作つて、寺子屋を繁盛させ、紫川にはまった。かもしれませんが、子供の頃通った白川幼稚園の由来が、紫式部から連なる庶民教育の伝統と考えると感無量です。

紫川も文明開花の明治時代となると汚染がすすみ、どす黒い流れとなり、住民たちがもっと綺麗になってほしいという願いを込めて「白川」と呼び直したと祖父良矩は語っていました。



白川幼稚園のクリスマスパーティ(昭和27年12月)



『新紫式部往還』の表紙(2013春刊)

名古屋最古の堅三蔵通遺跡

数万年前より紫川の谷沿い、北側の台地に石器時代より人類がいたようで、名古屋最古の遺跡は栄小学校の東西にあった「堅三蔵通遺跡」です。旧石器時代3万年前のナイフ型石器の出土をはじめ、近世にわたる複合遺跡といわれています。

農耕生活以前に清流の水をもとめて獲物が到来、谷を見渡せるこの周辺は見晴らしの良い台地で絶好の狩猟ポイントになったと思われまます。そして紫川の流域沿い、南の若宮通り沿いに縄文土器が発掘された「旧紫川遺跡」、名古屋科学館周辺の白川通り南には古墳時代の「白川公園遺跡」が確認されています。

数多くの蔵に小舟で米俵を輸送するために三蔵通りと広小路の間に水路が掘られ、「入江町」通りの名称となりました。当時は尾張藩の米蔵26倉がありましたが、明治6年に広小路より移転し「三ツ蔵懲役場」を開設、11年には日本最初の監獄精神病室が設置され話題となりました。また、石垣跡が以前の「劇団四季」の周辺で見つけることもできます。レンガ造りであったため濃尾大震災で多くの建物が倒壊して12名が圧死、明治30年に「愛知県監獄」（明治24年に改称）は愛知県千種村（現・吹上公園付近）へ移転しました。

その後名古屋刑務所に改称、昭和40年若宮大通の建設に伴いみよし市ひばりヶ丘に移転しています。現在は全国で4番目の規模といわれています。

戦災で焼失した跡地は昭和30年代に「名古屋温泉パレス」となり、千人規模の大型ダンスホール、プール、テニスコート、アイススケートリンクに進駐軍のかっこいいアメリカ

人が地元民と親しく一緒に過ごしていました。

南には「名古屋自動車学校」という教習所が開業。その後、ホテルニュージャパン火災で話題となった横井英樹の「トヨーボール」がオープンし、ボーリングブームの先駆けとなったようです。

しかし、堀川沿いの東陽倉庫南には薄暗くなると多くのいかがわしい女性がドンドン出現して物議を醸していました。ヤクザ風のお兄ちゃんが大きな箆籠ざるかごを差し出しながら、商売で客待ちの女性から所場代を投げ銭の如く徴収している姿が思い出されます。

東海倉庫は名古屋倉庫と合併して東陽倉庫となり、納屋橋東地区市街地再開発組合のリーダーとして新しい街づくり企画をスタートしています。正雄の東海中学の同級生・山岸博之さんが理事長として、平成3年の再開発準備組合の設立から23年という長い苦難の末に平成29年6月の完成を目指して、UR都市機構のコーディネイイトのもと、納屋橋HUBグループと一体となって事業を推進していくとのこと。堀川の水辺空間を生かし、名駅や栄と差別化した都市づくりが楽しみです。

栄小学校の帰途は、横三蔵通りの同級生・中島次郎くんの酒屋「中島屋本店」でラムネをいただき、野垣肛門病院で秀才の敬くんのお母さんにお世話になりました。お隣は名古屋一のキャバレー「白菊」で、夕刻には派手な夜の蝶のお姉さんがいっぱいでした。救急外来の多い山崎病院周辺では救急車のサイレンが毎日鳴っていたようです。角のゼネラルガソリンスタンドは三油商会から一光グループに経営がかわり、現在は再開発のためか空き地となっています。



名古屋市中心部の遺跡の分布



堀川沿いの土地には26もの蔵が建てられていました



堅三蔵町あたりの北見式地図



真ん中には堀川、中央の三蔵通り南には焼け残った家屋や再興された倉庫なども見受けられます（モージャー撮影写真）

横三つ蔵で同じ場所に現存するのは、一丁目界限ではオート三輪の「サカイオートサービス」、簾・提灯などの雑貨屋「伊藤繁治郎商店」、愛知県味噌醤油会館、最近まで銭湯「杉の湯」の看板があり、並びには手作りオーダーと舶来超高級靴の「明治屋靴商店」が頑張っています。

梅本は尾張藩御用達商人で、中庭には素晴らしい日本庭園や水琴窟すいきんくがあり、当主の磯村義典さんは平成25年まで栄学区区政協力委員長として地元町内活動にご尽力されていました。伏見通り沿い「旅館秋月」は13階建ての「秋月ハイツビル」となっています。

(2015・7・22)

名古屋城築城前の名古屋台地「那古野」

徳川家康の清州越え以前の名古屋台地がどうなっていたか、あまり知られていません。那古野村長が保管していた慶長以前の地図が『金城温古録』にあり、六田隆郎（通称・熱田三六）が発表した研究を紹介しつつ、約500年前の名古屋城周辺から大須地区のロマンの旅を楽しんでまいりましょう。

北半分の古図によれば、台地の北端は天神・山神、その西が宗形神社（現・本丸あたり）。応永17（1410）年に建立された甚目寺からの興西寺は城西に移転。延喜11（911）年建立といわれる「天王社」が名古屋城築城にあたり移転予定でしたが、普請奉行の佐久間政実が御籤みくじ占いで「不遷」の神託がでたことそのままの場所に鎮座。明治9年の陸軍

鎮台創置にあたり名古屋東照宮とともに旧藩校明倫跡、現在の丸の内2丁目に移転。32年に「**那古野神社**」と改称したとことです。

八王子社と若宮八幡は文武4（700）年ごろ創建。享祿5（1532）年に織田信秀の城攻めで焼失後、天文8（1539）年再建。秀吉から鎮守として社領200石の寄進を受け、家康の慶長15（1610）年築城にあたり現在の栄3丁目に移転しております。

享祿3（1530）年建立の**西山浄土宗誓願寺**は築城にあたり久屋に移転。戦後、名古屋テレビ塔北の丸の内3丁目に移っています。磯貝邸には家康の四男、清須62万石藩主の松平忠吉が鷹狩りの際に立ち寄ったという記録があるそうです。

南半分の中心は**亀嶽山萬松寺**です。天文9（1540）年、信秀が織田家菩提寺として建立。敷地5万5000坪、七堂伽藍の構えで、現在の錦から丸の内2―3丁目地域の里山で泉に恵まれ、家康が幼少時に3年間人質として過ごしたといわれています。

泥江神社は天安3（859）年創建。小山と林の八丁四方の神領で、万松寺建設や清須越し、戦災もあり現在地の袋町通り北（錦1―7）にて泥江縣神社となりましたが、氏子は広い地域にまたがっています。

小袖懸けの松は名古屋中央大通連合発展会の由来版があり、藤原師長にまつわる恋慕物語と戦国の長者の娘の話が記されています。名古屋台地の東端に位置し、小袖川の流れば南下して精進川（新堀川）に注いでいると思われれます。

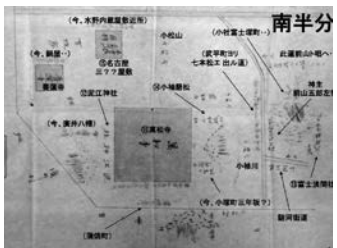
富士浅間社は現在の東区の富士神社。教育委員会の説明文によれば、「名古屋城築城の際、西区浅間町に遷座の後、明治43年に再建された」と、灯籠の銘に記されています。



「尾張名所図会」堀川流域の洲崎神社・港と八角堂、右が紫川河口



杉の湯（手前）と愛知県味噌醤油会館



慶長以前の尾張古図。名古屋城は図の北に1610年に建設されました。築城前は那古野の中心・万松寺西に小山があり、南北に小袖川が流れています（熱田三六氏提供）

名古屋山三郎邸は戦国の森忠政の家臣・山三郎の実家とされます。山三郎は類稀な美貌の持ち主であり、蒲生氏郷も初見では少女と勘違いして嫁にとるために身元を調べたといひます。遊芸に通じた伊達男でもあり数々の浮名を流し、ついには「山三郎と淀殿の子が豊臣秀頼ではないか」という噂まで流れたそうです。

後に、美男で人気の傾奇者^{かぶきもの}は歌舞伎の祖として伝説化しております。最近デビューしたカブキカフェ「ナゴヤ座」でナゴヤカブキを披露する「名古屋山三郎一座」はお屋敷近くの円頓寺商店街で頑張っています。

名古屋台地の水源、萬松寺の東西の泉を水源とする紫川は現在の中日病院（標高14メートル）から南下し、料亭蔦茂界隈の支流の湧き水と合流。標高差9メートル、流域2.5キロの清流は住吉から西に白川公園北を流れておりました。そして、伏見通りを南下して若宮通りを西に洲崎神社の南（標高5メートル）、洲崎橋北で堀川へ暗渠^{あんきょ}として現在も地下に流れております。もう一つの支流は現在の日本銀行名古屋支店周辺（標高11メートル）。江戸の頃は浄願寺と浄教寺を源とし、南下して名古屋商工会議所南（標高7メートル）の中消防署あたりで本流と合流しております。

太古この地は入江で洲崎になり、**洲崎神社**には地神（石神）が祀られていました。築城以前は現在の栄一丁目全域が社地でした。築城後、社地には武家屋敷が建てられて境内に堀川が掘削されるなど大きく縮小したようです。

今でこそ平らな土地ですが、かつては山あり谷ありの自然豊かで栗やドングリ林に恵まれ、藤の花が散った水面が美しく「紫川」と名付けたという伝えもあります。

(2017・10・25)

産宮住吉神社とからくり人形

若宮八幡社の敷地北東に住吉町の氏子たちの寄進にて「産宮住吉神社」が昭和34年に造営され、我が国で最も古いといわれるからくり人形9体が御神体として祭られております。祖父良矩を代表に町内の多くの料理店やキャバレー、飲食関連の店・企業が寄付した石碑が大戦後賑やかな飲食業の繁栄を彷彿とさせます。

旧住吉町の山車は、延宝2（1674）年に建造された産宮^{うぶみやまわいり}参車が最初です。上段に社壇を設け、その前面に神主・神子・乳母・小児・丁稚、5体の人形を配置しています。その後、宝暦11（1761）年に能楽「菊慈童」の人形に変更されました。

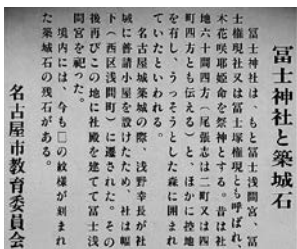
住吉神社（旧住吉町所管）の社壇に安置される9体の人形頭の内、5体は複数の絵画資料が存在することもあり、すでに高い史料性を示す文化財です。また残りの4体についても、今後の精密な調査を加えれば同じく重要な文化遺産になる可能性が高いと判断されます。

「正雄が倉庫で玩具代わりにからくり人形にいたずらするので、新しくできた神社にご神体として祭っておくのだ。もう誰も売却もできないし、美術館に取られることもない」祖父良矩も安心していたようです。

お蔭で毎年11月15日の住吉祭礼の日のみに拝謁できる神様となり、写真撮影・解体調査



「小袖懸けの松」の由来説明板



富士神社と築城石の説明板



産宮参車（名陽旧覧図誌より）



住吉町の氏子たちの寄進によって造営された産宮住吉神社

は全くできない状態となりました。

また、住吉町は多くのからくり師が住みついた他、踊りやお茶、能楽師とともに武家衆と町衆が共に遊興した、三業者の町として江戸時代から発展したといわれております。

では、なぜ最も古いといわれる「産宮参りからくり人形」5体が残ったのでしょうか？

山車保存会の木村哲男によりますと、町名が住吉大社に由来していることもあり、住吉三神とともに祀られる神功皇后が三韓征伐後に応神天皇（若宮八幡社の祭神のひとり）を産んだという神話にあやかって、氏子中の安産の祈りを込めて載せたものと思います。

使用されない人形頭は町の宝として、江戸時代は住吉町町代宅に保管されていましたが、明治年間に八幡社内に住吉町の蔵を造営、その中に河水車とともに保管されていきました。

昭和20年の名古屋大空襲においても蔵と保管中の山車「河水車」、からくりが焼失を免れましたが、山車は東区出来町中之切にて保存活用いただけるとのこと。昭和22年に売却治安に課題があり町内総代の祖父良矩が「からくり人形」を料亭蔦茂内の倉庫に保管することとなり、名古屋城再建の昭和34年に住吉社完成とともに社に移し、何と「御神体」としてしまったのです。

(2011・5・11)

明治150年・江戸末期のお寺巡り

碁盤割の南、万治の大火（1660年）以降、防火帯としてできた「広小路」は道路と

いうより庶民の広場・公園であったようです。溝川の西南には寛永5（1628）年建立の臨済宗古松山新福院があり、「柳薬師」と呼ばれて庶民の憩いの場であったといわれております。

柳の木で彫った薬師如来が安置されたか、柳の大木が繁茂している寺なので柳薬師となったか定かではございません。毎年夏の御開帳はたいへんな繁盛ぶりです、ありとあらゆる見世物や屋台夜店が並んだといわれています。

寺は明治7年に取り壊され、春日仏師の作といわれるご本尊の薬師如来は緑区大高の長寿寺に遷座されています。

柳薬師の枝垂れ柳が名所となり、東海道線名古屋駅が開設された翌年の明治20年、名古屋の街路樹第一号として、名古屋区長の吉田緑在が開発した「広小路通り」にシダレヤナギが植えられました。四千本近くのシダレヤナギは広小路の景観に欠かせないものとなりました。

その後、柳は南隣の長円寺境内地となりましたが、尾張藩主が熱田神宮参拝の途中に休息されていたという古松「千尺龍松」、名古屋駅からも見えた大銀杏、全て戦災で跡形もなく焼失してしまいました。

また、柳薬師の跡地で、戦後進駐軍相手の橋本モーターズの橋本裕さんは昭和24年生まれ、正雄の栄小学校1年後輩です。その橋本さんのコメントを紹介させていただきます。

60年前には栄にホテルがいたようです。やはり紫川の泉がどこかに湧き出ていたのと思われ。



空襲による消失を免れた「河水車」



明治2年本町、住吉界隈地図



長円寺の説明板

名刹・白林禅寺と政秀寺

江戸時代の東海山白林禅寺は南寺町の北端、寛永2（1625）年の夏、尾張藩主・徳川義直が妙興寺より蘭叟紹秀を招聘して開山しております。現在の矢場公園一帯約5000坪を寺領とした大きな臨済宗妙心寺派の寺院で、南隣の政秀寺と相似していることが「尾張名所図会」からわかります。

白林寺は3万5000石の尾張藩犬山城主・成瀬家の菩提所でありましたが、名古屋大空襲で山門と御霊屋を残し焼失。その後、元の地に再建され、戦災復興土地区画整理事業により墓地は正成の墓とともに平和公園に移動しております。

開発による接収と土地賃貸のため現在の面積は600坪くらいとなりましたが、境内には戦前からの数本の楠が名古屋市の保存樹として青々と茂り、南には約50坪の畑もあり都心とは思われない緑の空間です。

昭和区にある檀溪橋や檀溪通は、250年前に第五世檀溪徹和尚が隠棲した地と言われています。昔、東郊第一の勝地として、文人墨客が足を運んだ幽邃の仙境であったところです。

現在の武山廣道住職は名古屋禅センターを主宰され、毎週木曜日の座禅会、禅の著作も多く、NHK文化センターの講師などで禅の心や「般若心経」について語られています。

また、50坪ほどの畑にご家族が手作りのナス、トマト、胡瓜などの野菜を栽培されていることは近所でもあまり知られておりません。

政秀寺の清須越しの建物は北隣の白林寺のモデルとなる本堂、庫裏、座敷、書院でしたが、戦災ですべて焼失、昭和40年前後に再建されました。

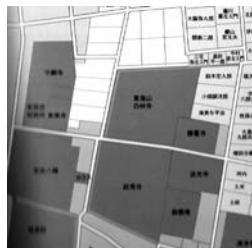
本尊は木造十一面観世音菩薩坐像で、平手政秀の墓はかつて本寺にありましたが、今は平和公園内の政秀寺墓地に移されています。「无名会」という法話会が毎月継続され、名古屋の財界から昭和の名僧「山田無文老師」のお話を聞きたいとの要請でスタート。50年前から本堂で開催され、老師ゆかりの方々から気づきを得られるとのことで話題となっています。また、毎月第4土曜日の夕刻には「ささえあい坐禅会」も開催され、お抹茶をいただくながら気軽に座禅に親しめることも楽しみのひとつです。

両寺と守綱寺は尾張藩家老格の菩提寺で、南寺町の北端に位置して、万が一の名古屋城への外敵攻撃の最終防衛拠点として位置付けられていたと思われます。現在は白林寺と同様に周辺の土地建物を賃貸されて運営の一助とされているようですが、昭和30年前後の木造建物が多く老朽化が激しくなっていました。

寺所有の周辺土地は建物所有者や居住者が異なり、転貸物件も多く権利関係が複雑に入り組み地域の再開発には課題が多いように思われます。また、一部戦災で焼失を免れた所も、戦後の区画整理が不十分な地区で道路幅も狭く電線の地中化も困難となっています。今後は、江戸時代のような寺社を中心とした街づくりを考えていくことも大切に思います。



「尾張名所図会 第2巻」白林寺と政秀寺を西より望む



南北に隣接する白林寺と政秀寺（明治2年矢場町地図）



白林寺案内板と広小路散歩コース



白林寺山門

政秀寺西の慈雲庵門前は、明治4年に勝鬘寺地子に合併されました。また、真宗大谷派法光寺は戦後に一部再建されましたが、昭和40年頃に八事山王通り角に移転しております。跡地には、昭和44年に中京相互銀行（現・中京銀行）本店が移転しております。

すべてのお寺に共通するのは、戦災でほとんどが焼失し、都市復興計画で敷地の60パーセント以上を供出させられたこと。また、墓が平和公園などに移設したことに伴い檀家離れが激しく、土地の不動産賃貸で経営を維持されていることです。

(2018・12・12)

アメリカ村

戦後、栄のど真ん中に「アメリカ」があったのを御存知ですか？

太平洋戦争直後、昭和20年9月26日には進駐軍が名古屋到着。10月には米軍2万7000人が名古屋港に上陸、広小路の大和生命ビルに司令部開設、そして上級将校の家族住宅132世帯が翌21年8月から現在の栄2丁目に建設され、地元民は追い出されてしまいました。

栄2丁目一带は、戦前は南側に大林寺を中心に多くの寺院がならび、北地区は白川小学校や商人の町として栄えておりました。深田宅も八百屋町3-7（現・栄2-13-20周辺）にありましたが、駐留軍に接収されました。昭和28年5月28日の賃貸契約書には「宅地72・9坪、月額3043円21銭を名古屋調達局が支払う」と記されています。

日本占領後、1年で大都市の中心に家族とともに居住するというトンデモナイ発想でした。一面焼け野原となり、生活苦にあえぐ名古屋市民には自分の家どころか、米軍の要請で一刻も早急に敵国家族の住宅建設が命令されたわけです。用地は戦前の名古屋の都市計画に沿って寺町を中心に公園予定地（現・白川公園）と北部分となりました。

地域の尽力者でもある紅葉屋の浅野甚七さんから武勇伝を何度も聞かされたことがあります。

「友人が通訳をしており、司令部では当初、進駐軍のプランでは東は本町と西は伏見通りとなっているとの情報入手。名古屋の文化・歴史のメイン、本町御幸通りを占領されては活券にかかわると案じ、早速、仲間たちと焼け跡の本町に小屋を建てて住みつき境界を一本西に移動させた」

アメリカ村のゲートは北側、入江町通りにあり（現・ハミルトンホテル栄近辺）、周りにはキャバレー「ミカド」や映画館など賑やかに米軍と市民が一緒に遊興できる地域となりました。

住吉町の子供達は栄小学校へ通学するためにはアメリカ村を北廻りで毎日往復することとなり、朝にはゲートで「ハロー！」とスマイル顔の衛兵さんに挨拶して、手を出すと「HERSHYS」のチョコレートや「WRIGLEYS」のチュウインガムをもらって国際交流？大好きなアメリカとなったのです。

正雄はアメリカ村が米国と思っていた次第です。そして、『少年ケニア』のワタルのガールフレンドで金髪の少女ケートにあこがれていたので、たまに村内に誘われたときの興奮



政秀寺の庫裏と本堂



現在の法光寺



白川公園には昭和21年から駐留軍宿舎として駐留軍人と家族が暮らしていました（阿部英樹編著『占領期の名古屋』（風媒社）より）



アメリカ村建設前、焼け野原となった白川町一帯。上へのびる道は三蔵通り（阿部英樹編著『占領期の名古屋』（風媒社）より）

は今も忘れません。

緑の芝生に囲まれた住宅、靴を履いたまま入り、風呂や蒲団に足がついている（ベッド）のにビックリ！ エアコン、キッチン、冷蔵庫……映画で見るアメリカの生活に感動いたしました。そして、村内学校の中で8ミリ映画鑑賞。本当のアメリカは海の向こうで素晴らしい発展している国であることを知り、大きくなったらアメリカで生活するのが夢となりました。

祖父良矩は、このアメリカ村が名古屋の産業や文化に与えた影響を語ってくれました。「進駐軍は占領前に日本を徹底的に研究していた。原爆投下予定地の名古屋の都市計画を知りつくし、いち早く区画整理を実施。寺社には60パーセント、庶民には40パーセントの土地の供出実施で新しい街づくりを実行させたのだ。反対すれば銃殺だとも言われたぞ！」

そして、住宅建設や造園、警備、清掃、電設工事、キャバレー・バンド、ダンス、ゴルフなど欧米の技術や文化を名古屋市民に伝承させたのでした。

正雄はニコニコ笑顔で「コンニチハ……」。たくさんのチョコレートや25セント玉を貰って喜んでいました。住吉通り向えのキャバレー「メーフラワー」や「赤玉会館」では庶民とともに遊ぶ米兵がとても明るく友好的に感じました。米軍の駐屯で多くの外貨が住吉の復興と繁栄に寄与したようです。

祖父曰く、

「祖母の自動車会社が経営危機の時、朝鮮動乱の調達として500台のトラックを発注！

その自動車会社は軍の発注書を持って銀行融資を得て再建した」

本当に、アメリカ村の名古屋市民への経済・文化への貢献には感謝せねばなりません。

(2011・6・24)

アメリカ村返還

昭和31年10月の名古屋観光ホテル返還に続き、33年6月30日にはアメリカ村も地元地権者に戻されることとなりました。南半分は白川公園として開発されることでしたが当分は荒地となり、栄小学校への通学もアメリカ村を迂回してタブノキまで行かずに、敷地内を探検しながら直接伏見通りを越える楽しい毎日となりました。

撤退後の跡地は侵入禁止のロープはあったものの出入りは自由で、広大な空き地で乗馬の練習をしたり、廃墟となったアメリカンスクールへ侵入、かつてお寺の土葬墓地では人骨が散乱、小学生の度胸試しに頭蓋骨や埋葬品を掘り返したり、終戦直後から手がついていない残留品発掘、防空壕を覗きながら宝探し、子供の遊び場として別天地となりました。でも、とうとう小判や金貨を見つけることはできませんでした。

そして、都市整備計画で5・4メートルの小路から拡幅された50メートル幅の伏見大通りを超えた南伏見町西側は、昭和22年に全国に先駆けて復興した御園座を中心とする劇場門前ストリートです。34年頃の地図を用いて、現存するお店を北角から紹介させていただきます。



廃墟となったナゴヤアメリカンスクールへよく侵入しました



南伏見1-2丁目あたりの北見地図



広大な空き地で乗馬の練習をする正雄



現在の御園銀座入口にある大甚中店と工事の進捗する御園座ビル

明治40年創業、日本を代表する名門老舗酒場「大甚本店」。広小路伏見の交差点の脇にあるお店で名店の噂は全国に轟き、名古屋に来たら一度は立ち寄ってみたい。憧れの酒場。中店は御園座北の御園銀座入口にあり、小学校の同級生・山田陽子ちゃんが2階に住んでいました。お酒は『賀茂鶴』『菊正宗』、ビールは『キリンラガー』、セルフサービススタイルの気軽な居酒屋です。宅見時計店も戦前からの老舗。空襲で丸焼けとなりましたが、店の奥にそびえる金庫は焼け残り現役で活躍しています。

中消防署南、新日本法規出版は昭和25年に岐阜から現在地に移転、加除式法規図書の発行・法律書では全国でも有数と聞いております。創業者の河合善次郎さんは下呂・竹原地区のご出身で料亭葛茂の上顧客、そして、父正矩の溪流釣りの師匠でもありました。

平成9年、新栄2丁目に移転した名古屋音楽学校は昭和23年南伏見2丁目に設立。併設された名古屋合唱団幼稚園は音楽を幼児教育に取り入れ、戦後のベビーブームで多くの子供たちがあこがれのモダンな校舎に入園しました。合唱ホール、音楽教室とともに地域の文化振興に貢献されましたが、現在跡地は5層の立体自走式駐車場となっております。

思い出深いのは、美人でしっかり者の同級生・左右木忍ちゃんの住んでいた愛知看板製作所。明治20年創業の最も歴史ある看板屋で25年ほど前に名東区に移転、スポーツセンターなどの経営を経て、現在も新栄の雲竜フレックスビルにて忍社長の陣頭指揮のもと、新業態でチャレンジされているようです。

(2017・1・23)

アメリカ村から芸術と科学の杜へ

栄2丁目一带は、戦前は南側に大林寺を中心に多くの寺院がならび、北地区は白川小学校や商人の町として栄えておりました。昭和20年の大空襲で焼け野原に。翌21年には連合軍将校の家族住宅132世帯の「アメリカ村」が建設され、地元民は追い出されてしまいました。深田宅も八百屋町3-7（現・栄2-13-20周辺）にありましたが駐留軍に接收されました。昭和28年5月28日の賃貸契約書には「宅地72.9坪、月額3043円21銭を名古屋調達局が支払う」と記されています。

昭和33年の返還後、南は白川公園として整備、北は減歩^{げんぶ}して旧所有者に返還されました。北側の8ブロックは南桑名町・南長島町・南伏見町・八百屋町・白川町と旧町名にいったん戻り、41年3月に栄2丁目6-13番と新町名となりました。

「みて、ふれて、たしかめて」

だれもが楽しみながら科学に親しめる国内屈指の総合科学博物館、**名古屋科学館**は昭和33年に科学館建設調査委員会が初会合、35年12月に第1期工事（天文館）建設着工。37年11月に天文館オープン以来、理工館、生命館、平成23年3月19日にはギネス認定世界一の大きなプラネタリウムと増設を重ね、26年には来場4000万人を達成しております。

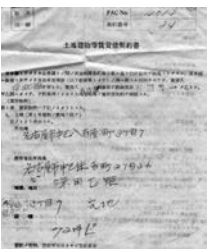
同年よりプラネタリウムは、ブラザーグループが掲げる環境活動のスローガンで、オフィシャルスポンサーとして「Brother Earth」のネーミングライツ権（年間6650万円）で支援いただいています。



名古屋合唱団の跡地は自走式駐車場ビル



昭和18年頃の愛知看板製作所（愛知看板製作所のホームページより）



アメリカ村の土地賃貸借契約書



木下大サーカステントと世界一のプラネタリウム

平成26年4月に就任した12代館長の瀬瀬満は日本ガイシのOBで、正雄の東海の同級生。民間の発想で「考えてわかることは、楽しい！」のテーマで、子供たちの科学への興味を刺激しています。科学館の正面道路を渡り歩道を見ると4星座のタイルが埋め込まれていますので、南長島町通りの舗道を散策してみてください。

大昔、氷河期から気候が暖かくなると白川公園あたりはドングリヤクルミなどが採れる豊かな森となり、紫川の清流沿いに縄文人は実りの季節に木の実を集め、土器に入れて地下の穴に蓄えていたようです。科学館周辺には「白川公園遺跡」があり、地中から20以上の穴や石皿が発見されています。

平成21年頃、プラネタリウム新設工事前に名古屋市教育委員会は発表しました。

「県内で最大規模の縄文時代の貯蔵穴群がある白川公園遺跡で、縄をねじったような彫刻が施してある縄文時代晩期(約2500年前)の彫刻石皿(縦約40センチ、横約30センチの楕円形)が出土した」

同時期の彫刻石皿は石川と富山県で各1皿出土していますが、周囲に凹凸がある簡単な模様が付いている程度で、今回のように複雑な模様の彫刻がほどこされている石皿の発見は「日本初」といわれています。

名古屋美術館は昭和63年4月22日に開館。建物は地元蟹江出身で、東海中高OBの建築家・黒川紀章の代表作として有名です。随所に日本の伝統的手法と色彩が盛り込まれており、西欧と日本の文化、あるいは歴史と未来の共生がこの建築の主要なテーマとなっています。

内部のドア枠や窓には西欧の建築様式や江戸の天文図等が引用され、梅鉢うめぼしの紋や茶室の模擬などが採り入れられています。同様に屋外にも木曾川の風景、名古屋城の石垣など物語性をつくりだすための記号が配置されています。これらの様々な仕掛けを床や壁、天井そして建物まわりから読み取ることができ、新しい発見があるのもこの美術館の特色の一つです。

稲沢出身の荻須高徳のご縁から「エコール・ド・パリ」「瀬戸市ゆかりの北川民次から「メキシコ・ルネサンス」のコレクションほか、ユニークな特別展示が常時企画されています。また公園内周辺には多くの彫刻作品があり、木陰を散歩してゆっくり楽しむのも一興です。**でんきの科学館**は中部電力が運営する「電気文化会館」として昭和61年に開館。平成18年及び23年に「サイエンスプラザ」として拡張しています。ここは名古屋で初めての発電所の跡地なのです。

明治20年、尾張藩士を救済する士族授産の活動により設立された名古屋電灯が発電所の用地として南長島町と入江町にまたがる360坪ほどの土地を購入したのがでんきの科学館の場所です。ここにアメリカから輸入したボイラーと蒸気機関、ドイツから輸入した発電機(総出力100キロワット)を据え付けて「電灯中央局」と名づけ、後の第一発電所となりました。

発電所は明治22年11月に竣工し、11月3日の天長節を開業日と決めましたが、電球を積んだ第一便の船が沈没してしまい第二便を待ったため、開業は1ヵ月遅れて12月15日となったといわれています。



しし座



おとし座



うお座



さそり座



名古屋美術館



でんきの科学館

三井住友海上しらかわホールは平成6年に住友海上が創立100周年を記念し、伏見にコンサートホールを完成させました。当初は「しらかわホール」の名称でしたが、名古屋を代表する中規模コンサートホールとして、内外の一流演奏家をはじめプロ・アマチュアなど幅広いコンサートが行われています。開館15周年を迎えるにあたり、21年4月1日にホールの名称を「三井住友海上しらかわホール」と変更しました。

(2019・4・16)

白川公園遺跡、寺町、白川小学校

「住吉から西は紫川沿いに、南側には光明寺や大林寺など寺院が連なり、きつと墓参も多く川の清水を利用した花屋さんが多かったのではないか」

祖父良矩は正雄に語っていました。

紫川沿いは、農耕定住前に縄文時代の古代人が居住した栗林と河川に恵まれた土地です。この肥沃な果樹が茂る地域には、清州越しによって紫川の北は中級武士の屋敷、南は大林寺や光明寺を中心とする寺町が大須や橘町まで続きました。実は太平洋戦争前の名古屋市街化計画ではこの地区の寺の多くを廃寺とし、一部を郊外に移転する大規模な都市公園造営予定があったようです。

浄土宗西山禅林寺派西光院に明治5年「第13義校」が開校、その後、本校が明治18年に落成となります。明治20年には教育令改により「尋常小学白川学校」となり、次いで26年

に「白川尋常小学校」と改正されています。

白川尋常小学校には江戸川乱歩が34年入学、40年には児童数808名となり手狭になったようで、大正2年には西光寺より200メートル程北方の横三蔵町に新校舎が立てられました。

同校は三十余年間にわたる立派な伝統を残し、昭和20年の空襲で歴史を閉じました。この校名を後世に伝える石碑が公園にあります。54年に昭和3年卒業生有志一同によって「市内で『白川』の名を残す白川公園を学校創立の場所とし、学校卒業50周年の記念事業として国際児童年の年に設置した」と記されています。

その後「白川国民学校」となり、戦災で焼失した南久屋国民学校とともに移転。一部戦災を免れた中ノ町国民学校の敷地に3校が一緒となり、昭和22年に「栄小学校」と改称されました。

(2016・9・23)

名古屋の名門・栄小学校

昭和30年、桜満開の栄小学校に正雄はピカピカの一年生として入学。住吉町と南呉服町の分団で、なんとアメリカ村の北を回り伏見通りを越え堀川近くまで約30分、距離にして1.5キロとは、6歳の児童にとっては長い登校の旅？ でビックリしていました。でも、もっと遠くからは南久屋大通り東側より約50分かけて、また生徒の1割以上が寄留登



三井住友海上しらかわホール



宝暦12(1762)年名護屋路見大図。東西の花屋町筋と寺町



白川公園石碑「白川小学校ありき」



石碑の裏の銘文

録で遠隔地からバスや市電で名門「栄小学校」に通学しておりました。

実は栄小の前身、中ノ町国民学校は大正末期の鉄筋コンクリート建設で、戦災にあっても躯体と地下の防空壕が残りしました。現白川公園北にあった白川国民学校、及び現名古屋パルコ南館位置の南久屋国民学校は戦災で消滅し、唯一消失を逃れた中ノ町国民学校に合併となり昭和21年に栄小学校に名称変更、栄1丁目から5丁目地域が学区民となり、戦後ベビーブームの栄地区一帯の子供達の児童教育を支えました。

正雄の入学時昭和29年、1年3組は磯部了先生の担任で55名、学年は270名を超える児童数で5組あり超過密マンモス小学校といえました。明治5年の開校から平成27年で143年を迎えております。

南北に学区を縦断するアメリカ村を越えることが通学の子供達にとって難儀であり、せめて朝の一定時刻にアメリカ村敷地内を通過したいという要望のため、PTAから米軍名古屋基地司令部宛に陳情書が昭和27年頃から何度も出されていきました。

対象の子供は約700名でありましたが、同村は軍人将校家族の住居が中心で軍事上の課題は少ないにもかかわらず治外法権から一度も許可されませんでした。でも、正雄らは勝手にゲートから侵入してアメリカの小学生たちと一緒に遊んだ楽しい記憶が残っています。

昭和33年にアメリカ村の撤退計画決定があった頃は正式な交流がスタート。相互の授業参観などがあり、民間レベルで進駐軍との融和がすすんでいました。

校門を入ると正面には二宮尊徳の石造、右の木造建物には「こづかいさん」の兼子一家

がお住まいで、大きなヤカンで給食時にはお茶をいただいたり、ウサギを飼っていたりたりお世話になりました。奥様の名前が「兼子」で、氏名が「兼子兼子」でしたので忘れられません。

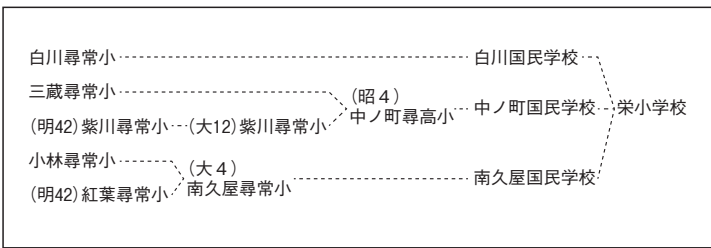
通学時の交通事情は、車優先時代の頃で交通事故がひん発していたようです。中でも国道19号線伏見通りはトラックなど重量車両が多くとても危険で児童の死亡事故があったため、地元の念願であった名古屋市第1号の歩道橋が白川通り南に昭和39年に完成してあります。

何といっても思い出は、昭和34年9月の「伊勢湾台風」。周辺の被害は少なかったのですが、被災（床上浸水2メートル、校舎倒壊）した港区の南陽小学校の生徒や父兄の避難所となり、4階の雨天体操場には100名近い家族が生活されていました。正雄の5年3組にも6、7名の編入があり、年度末まで一緒に暮らしておりました。

クラブ活動も盛んで、土曜日の午後は様々なサークルが活動しておりました。正雄は女の子がいっぱいいる音楽部に所属、仲ノ町公園東にある御園市場で1つ5円のコロケや惣菜を購入して、土曜の友達とのランチは興奮のひとつでした。

仲ノ町公園では野球部の練習が活発で、正雄らの卒業した翌年には名古屋市少年野球大会で全市優勝を達成しております。その後、シヨートを守っていた平野謙（昭和30年生）は中日ドラゴンズで大活躍しております。

スポーツ選手といえば、平成26年2月3日朝、女子フィギュアスケート日本代表の村上佳菜子選手の壮行会が体育館で行われました。そのとき全校生徒集合でしたが、約200



音楽部の七夕祭が講堂で行われました（昭和35年）



仲ノ町あたりの北見式地図

名。正雄らの頃の一学年人数より少ないのにチョット寂しさを感じた次第です。

遊びでは、缶蹴りやかくれんぼ、馬跳び、書き石など近所の子供と楽しんでいましたが、いつの日か「ホッピング」「フラフープ」など一人遊びの遊具がはやり、個人競争となりました。また、クロンボ人形「だっこちゃん」も登場。週刊誌『少年サンデー』が発刊、オマケ付き「グリコキャラメル」を購入して、野球カードを集め野球用具を揃えていた懐かしい思い出がいっぱいです。

校庭の大銀杏が今も児童をやさしく見守っていますが、大正時代に建造されたスチーム暖房付き鉄筋校舎は昭和57年に取り壊され、翌年に現建物が完成しております。

(2015・6・24)

御園タブノキの思い出

『尾張誌』は、伏見町の町名由来を「もと山城の国伏見の商人が、名古屋に移って住んでいたの、このように名づけた」と記しております。その人は名古屋開府早々に移ってきた伏見屋六兵衛といい、魚の棚筋の東南の角に屋敷を構えていた町人とのことです。

江戸時代、広小路と本町通を除く碁盤割の道路幅は「三間」だったとのことですから、約5・4メートルでした。道路幅というより「建物同士の間隔」といった方がわかりやすいかもしれません。戦後の復興都市開発で現在、伏見通は50メートル、桜通は40メートル、それ以外の碁盤割（錦・丸の内）の道路は15メートル以上ですから、当時の町の様子を想

像することは容易ではありません。

昭和34年ごろ、正雄の栄小学校通学途中にあったタブノキの思い出を紹介していきます。

アメリカ村北側の入江町通りを西に、伏見通りの角にでっかいタブノキが大昔からありました。江戸末期の地図によりますと紫川のほとりにあった中級武士「江原鍋吉・茂平」宅の一角の大樹で、昔から「白蛇が宿る神木だ」として船頭たちの守り神として崇められてきました。

第二次世界大戦の空襲で焼け焦げて無残な枯れ木になりましたが、奇跡的に数年たって芽を吹き出し、今も注連縄を飾り信仰心を受け継いでいます。

正雄らにとっては、アメリカ村との「国境」角地にあるタブノキは栄小学校への中間点、余りの大きさに圧倒され気味悪くも感じ、よじ登る子供はいませんでした。6年間探したご神体の白蛇はどうとう見つかりませんでした。

北角・南伏見町1―20は松岡久晴くん（ニックネームは猿）の自宅、母上はピアノの先生で、姉の三恵さんは昭和12年生まれで幼い頃からピアノを習い、NHKで演奏するほどの腕前。空襲で自宅は全焼しピアノは失いましたが、放課後に栄小学校のピアノで練習を続けたとのこと。

昭和27年に桐朋女子高等学校音楽科の第1期生として入学、3年生の時に「日本音楽コンクール」で第1位を獲得、ヤマハ社員の石井宏さんは三恵さんが自分のピアノを持っていないことを聞いて驚き、川上源一社長に直訴し、川上社長よりアップライトピアノを無



大銀杏と旧校舎



伏見入江町交差点にあるタブノキと説明板



タブノキと現在の御園座



名古屋城下図・明治元年高力全休庵作図。南伏見の中級武士宅群。●がタブノキ、南北に走る線が紫川流域。戦後、三間の伏見町筋が50メートルに拡張される

償貸与されたとのこと。下校時には久晴くんの家で魂揺さぶる音色を鑑賞させていただきました。

その後、フランスへ留学され研鑽、帰国後は我が国の花形ピアニストとして活躍され、後進のピアノ教育に邁進されたとうかがっています。昭和38年には音楽評論家の石井宏さんと結婚されました。その後、石井さんが遺品となるコンサート録音の音源を見つけ、秋にCD『松岡三恵リサイタル』を制作されました。平成27年に78歳で亡くなった奥さまへの捧げ物となりました。久晴くんはバイオリンを嗜み、仲間とオーケストラを編成して活躍とこのことを風の便りに聞いています。

栄小学校の美人教師・倉知亮子先生とお会いした時に、懐かしい思い出をお話しいただきました。生徒の下校に伴って伏見通りを越えようと米軍兵に「Beautiful Teacher!」とよく追っかけられ、子供たちと松岡くん宅に避難したそうです。

北隣は古田明弘くんのエスキモー冷機。進駐軍への調達用なのかデッカイ冷蔵庫やエアコン機械が展示され、テレビの人気番組『アイ・ラブ・ルーシー』のような米国家庭の一端をテレビではなく実際に拝見しました。

タブノキを南に100メートル、横断歩道を渡り西側へ通学、当時は車の往来も多くな
く舗装されていない緑地帯は砂埃すなぼこりもいっぱい、祖父良矩の乗馬の練習場でもありました。

(2016・12・19)

美術の殿堂、画廊巡りを楽しもう！

栄2―3丁目は広小路通りを中心に舗道での「まちなかアート」。日本を代表する日動画廊名古屋支店ほか多くの画廊や骨董商があり、三味線・尺八・琴の岩田商店など文化豊かな芸術の街といえます。

名門のウロコヤでは、茶道具を中心に古美術から新作まで幅広く取り扱っております。気軽に使える手頃な品から逸品まで心惹かれる品を取り揃え、年に3回ほど開催する「茶器展」では多数の品を正札展示し、好評を博しているようです。

黒川紀章設計の名古屋美術館、「生活と文化を結ぶ……」松坂屋美術館では毎月企画展が開催されています。そして、丸栄、名古屋三越、松坂屋の画廊ではユニークな個展で絵画を中心に新人発掘にも貢献しております。

『ナゴヤアートニュース』掲載の一般ギャラリー市内48店の中、栄3丁目には11店舗、栄1・2丁目はそれぞれ3店舗、周辺の栄4丁目4店、そして、錦3丁目は愛知県立芸術大学サテライトギャラリーなど3店、錦2丁目には日動画廊他1店と半数以上が栄地区に集中しており、文化レベルの高さを自負しております。リストでは名駅前地区にデパート以外の画廊はなく、地域の特徴が感じられます。

正雄は祖父良矩に連れられ、全て無料の画廊巡りを子供の頃から楽しんでおり、料亭鳶茂の掛け軸やお道具を購入する様子が思い出されます。

骨董品屋の集約には2つの理由があります。一つは、地域では武家の嗜み「茶の湯」が



現在の伏見入江町交差点の角地にあるHAIR ICE QUARTETと会計事務所ビル 松岡宅とエスキモー冷機跡



旧美術倶楽部前で馬に乗る有本富夫さん

庶民の楽しみとなったこと。

爺ちゃん曰く、

「お茶事の道具屋がぎょうさんでけた、饅頭屋（茶菓子）もたんとあるがや！」

もう一つは、朝日町にあった美術倶楽部が戦災で焼けて、南呉服町に移転したことであるとのこと。

平成17年5月、名古屋美術商協同組合員による名古屋美術倶楽部は創立百周年を迎え、各種行事が実施されました。翌年12月には記念誌『名美百年史』が刊行されました。

同誌によれば「明治38年5月12日名古屋古物(株)が創立、同43年東区朝日町3―11―2に土地300坪を1979円60銭で取得、(株)名古屋美術倶楽部と名称変更し、本社屋116坪新築を代金15100円にて谷武商店に請け負わせた」との記録があります。そして、「隣接地取得、増築し各展示会やお茶会、集会に活用され、昭和20年3月12日の空襲焼失時には633坪であった」。

その後、「昭和23年に借地権交換などを経て、現在地、南呉服町2―5に土地358坪と2階木造建物を代金551900円にて購入した」とされています。数寄屋造りの料亭のような粋な門構えで、正雄はどうして仲居や芸者の出入りがいいのか、不思議？ でもありました。

名古屋美術倶楽部会館では数多くの展示会やお茶会、発表会など開催され、近隣の料亭 葛茂は出前配達など幅広くご贖^{ひいき}員になっております。五都美術商連合会（東京・大阪・京都・名古屋・金沢美術倶楽部）主催の「五都展」は日本画巨匠の新作オークションで、素

人も入札できるとあって毎年祖父や親父と同行しました。料亭葛茂の絵画も一部ここで取得していたようです。しかし、殆どが関東・関西勢の落札。名古屋ではメナードの野々川へラルドの古川、林テレンプの独壇場であった記憶がございます。各美術館のコレクションの多くが名古屋美術倶楽部会館のご縁ではないかと思っております。

そして、幾多の増改築を経て、昭和54年に竹中工務店請負で現在の鉄筋コンクリート4階建てビルが新築されました。

『ナゴヤアートニュース』記載の名古屋美術商協同組合員は、栄地区では伊藤美術店と岩勝画廊の2店のみですが、ほかに茶道具・古美術・骨董のウロコヤ、横井商店、天然堂、茶道具商ながさか、長善、長谷川長宜堂、古川古美術、前田壽仙堂、美の伊美術品店、日本画・洋画ではマエマス画廊、ギャラリーあおい、近現代工芸の玉齋各店が個性豊かな展示をされています。メンバー以外の新しいギャラリーも多く、街の活性化に貢献しております。

(2013・11・24)

黒船車祭囃子

若宮八幡社の祭礼に末広町の黒船車などの山車が登場したのは延宝2（1674）年からで、最盛期は7輛の山車が氏子町内から曳き出されました。

「本町通り歴史資料館」開設



現在の名古屋美術倶楽部



名古屋美術倶楽部旧社屋（「名美百年史」より）

祭車7輛のうち、目を引くのは地域を代表する旦那衆の末広町のもの。特別に大きな黒船車で、常に先頭を誘導しており「名古屋系船型山車」といわれております。

他6輛は、名古屋型からくり人形を屋台に配置した山車です。住吉町の河水車を除きすべてが本町通りの各町内所有であり、江戸初期より本町衆の華麗なる旦那衆文化を担っておりました。なかでも本町通り若宮に面した末広町神楽団の祭囃子は名物で、代々商店主家族が継承しておりました。

平成元年から長らく中断していましたが、3人の祭好きが中心となって復元され、若宮祭礼でも神楽殿にてご披露されました。

伊勢門水とは？

旦那衆・末広町の粋男、伊勢門水^{いせもんすい}を紹介しなくてはなりません。末広町2丁目28番の伊勢屋薬局「水野」の前には名古屋市教育委員会の門水宅跡があり、往時を偲ぶことができます。

本名・水野宇右衛門は安政6（1859）年に生まれ、昭和7年に没した末広町の住人。芸名は屋号の「伊勢屋」にちなみ、さらに雅号を「水の上の門」と洒落て「門水」と称しました。伊勢屋は旗商ですが、昔は薬業を営み、明治になってから転業したといえます。狂言師として6歳で4世早川幸八入門。16年に「三番叟」を披く。35年には自宅の庭に舞台を造り、「鳳友舞台」と名付けて素人の子弟に狂言を教えました。実は門水は稽古嫌いでも有名だったらしい。

芸風は洒脱な芸で、独特なとぼけた味でした。「鬼瓦」の大名の人情味、「大藤内」など

を得意とし、また「唐船」の間狂言で唐人の船頭などに扮する時、最も印象的であったといえます。また、狂言画や狂歌、戯作にも長けており、新作狂言や常磐津の作詞、著作も数々ある当地の誇る文化人であり、祖父良矩の尊敬する「遊興人」であったようです。

門水と仲間たちの繰り広げたキレツな振る舞いのサークルが「御洒落会」。その下らなさは想像以上でした。大の大人がこんなことに心血を注いでいたのかと呆れを通り越して、畏怖の念まで湧いてくる程です。さらに「末廣町神楽団」を創始した人であり、狂言師であり、名古屋の山車祭りを明治時代に研究して本にまとめ、画家・デザイナーでもある、名古屋が誇る一大文化人です。

そんな大先輩を現代の名古屋人に広く認識していただくために、門水と末広町との関わりを中心に「本町通り歴史資料館」でパネル展示しております。

この資料館は平成30年2月、末広町の所有する末広会館3階にオープンしました。展示内容は、神楽団の山本・木村・寺西さんたちが中心となって構成しました。末広町八幡講・末広会事務局の笹田勝巳さんから気軽にご案内していただけます。

(2018・6・23)

ぼくらのテレビ塔、そして、エンゼルパーク！

久屋大通？ 子供頃は「地の果て……」、大きな空地の北にトンデモない鉄塔建設？ 台風が到来して倒れたら家の屋根までくるかと、子供達は心配しておりました。



伊勢門水門跡の案内板



「本町通り歴史資料館」のポスター

完成したらとてもカッコいいタワーで、エレベーターは有料でしたがチビツ子は階段で登るとタダでしたので、近所のがキどもと恐々、フーフーと展望台まで登っておりました。

東側（現・愛知美術文化センター）にはテニスコートがあり、進駐軍ではなく日本人がプレーしていたようで嬉しかった記憶があります。その南の栄児童図書館は3階建レトロ調のレンガビルで、絵本や漫画がいっぱい興奮。特に『少年ケニア』は金髪の女の子ケイトに憧れ一気に読みました。建物は焼け残りましたが、外人に接収されませんでした。

名古屋財界の重鎮、祖父良矩の尊敬する矢田績寄贈の名古屋公衆図書館「栄図書館」は平成6年に現在の建物に改築され、西館に移された今も胸像は2階庭園に佇み、ひっそりと図書館を見守っているようです。

南には名古屋中央教会。鳶をからませた古風な建物がとても入りづらい感じで、高校生になってキリスト教系の女学生に案内され訳も分からず礼拝したものです。

広大な空地のど真中（現・バスターミナル）の朝日生命ビルは、なんと引きずり工法で100メートルほど東に移転、現在の中区役所ビルの前身です。後、角地に中日ビルが完成したのは昭和41年、屋上のグルグル廻る回転レストランがランドマークとなりました。

空地の最南端はエンゼルパークと野球場。少年野球大会開催、名古屋まつり英傑行列の集合場所でした。「エンゼル」は森永乳業のシンボルマークで、ベビーブーム団塊世代に粉末乳の販売促進策でスポンサーになったとか？

若宮大通と交差するあたり名古屋タイムズの社屋から夜間に出される航空管制ライトが青、赤、黄色と気味悪く市内を照らしていたのが思い出されます。その南には平屋の市営

住宅がずらりと並び、若宮大通には違法建築のバラック小屋が林立しておりました。

100メートル道路の広大な空地が徐々に整備されて「久屋大通公園」となりましたが、昭和50年代は暴走族や麻薬密売、ホームレス対策で、地元は大変であったと聞いております。

(2013・3・24)

久屋大通公園

久屋大通公園は、北は外堀通、南は若宮大通へ約2キロにわたる都市公園で、名古屋市のシンボルロード・100メートル道路です。平成30年、三井不動産を代表とする企業グループが事業者に決まり、全国初の「Park-PFI制度」による再開発事業がスタート。現在、北エリアとテレビ塔エリアの再整備が進められています。来年3月のオープンを控え、生まれ変わった市民の憩いの広場への期待が高まっています。

戦国時代から泉が湧いていた北端は海拔12メートル、南の名古屋大通庭園「フラリエ」は海拔6メートルと大きな谷となっており、豊かな小袖川が流れていてフラリエあたりで精進川に合流していたと思われれます。川沿いには街道ができ、美濃から三河を結ぶ駿河街道につながる要路であったようです。

テレビ塔の南には、松の木の下に小袖川の由来の看板が地元発展会によって立てられました。恋の伝説が残る「小袖懸けの松」です。平家全盛期である平安時代、藤原頼長の長



名古屋中央教会から開発工事
中の久屋大通公園を望む



令和2年秋、新しくなった久
屋大通公園「レイヤードヒ
サヤオオドリパーク」



「尾張名所図会」小袖塚川
沿い

男で太政大臣であった藤原師長は「治承三年の政変」とよばれる平清盛のクーデターが起ると、清盛によって井戸田村（現・瑞穂区）に流されました。師長は琵琶の名手として知られており、井戸田で琵琶を奏で自らを慰めていたようです。師長町や妙音通の名称由来ともなっています。

師長の身辺の世話をしていた娘、井戸田村横江村長の娘「槐」と契りあっていましたが、まもなく帰京を許可されます。師長は土器野里（現・清須市）まで見送りにきた娘に形見として琵琶の白菊を与えました。娘は後を追おうとしますがそれもかなわず、別れを悲しむあまり松に小袖を脱いで掛け、与えられた琵琶を抱いたまま小袖川に身を投げてしまったのです。

慶長15（1610）年の名古屋城築城とともに藤野といわれた台地の山や川が整地され、碁盤割の城下が建設され清須越しという、大都市移転が行われました。

久屋公園・テレビ塔の北東の足から20メートルぐらい離れたところに、巻紙を連想させる蕉風発祥の石碑と、その横には副碑と教育委員会による説明パネルが建っていました。

「蕉風」とは、松尾芭蕉とその門人によって確立された俳句の作風。俳諧は連歌から生まれ、当初は「洒落」や「滑稽」を主とする言葉遊びでしたが、松尾芭蕉は「さび」を重んじ閑寂で気品高い芸術をめざしました。芭蕉は伊賀上野に生まれ、貞享元（1684）年に伊賀上野から江戸に下る途中名古屋に立ち寄り、名古屋の青年俳人らと連句の会を催して句集『冬の日』（芭蕉七部集の一）を刊行しました。「宮町筋久屋町西入ル南側」の借家

に住んだその場所がここです。

家主は傘屋久兵衛、身元引受人は大和町の備前屋野水で尾張の町衆がスポンサーであったようです。弟子の河合會良を伴って「奥の細道」の旅に出たのは、この5年後のことです。発祥碑は俳諧師が持つ「控え帳」をデザインしたもので、「こがらしの身は竹斎に似たる哉」を筆頭にした『冬の日』巻頭の表六句が刻まれています（「発祥の地コレクション」愛知県の発祥の地より）。

百年余り後の葛飾北斎も、名古屋大好き文化人です。文化9（1812）年の秋、北斎は関西旅行の途次、南久屋（現・ラシック）門人・牧墨僊宅に半年ほど滞在しました。その折、北斎が描いたという三百点余りの絵を、永楽屋東四郎が文化11（1814）年に出版したのが『北斎漫画』です。

文化14（1817）年に再び来名した北斎は、10月5日に本願寺名古屋別院（西別院）で120畳敷（縦約18メートル、横約11メートル）の紙に大だるまの半身像を描くイベントを行いました。北斎のスポンサーは斯波氏家臣で小林城を治めた牧一族のお武家様であったようです。尾張藩の文芸への開放政策や出版業育成が芭蕉や北斎逗留のきっかけと思われまます。

江戸時代の町割りでは、久屋町は北の外堀通り1丁目から広小路に面する8丁目まで8ブロックありましたが、度重なる町名変更や道路建設のためなくなっていました。現在、南端の8丁目6番地、名古屋中央教会のみ一軒が表示住居として現存しています。



「小袖懸けの松」の由来の案内板



テレビ塔北東の桜通り南にあった蕉風発祥の碑



「久屋町」唯一の住宅表示がある名古屋中央教会

新しい御園座と和テイストの意匠建築で復興する伏見金融街

明治30年5月、創業者・長谷川太兵衛の固い決意のもと市川左團次一座による柿葺落しこけらおとし行は、当時の名古屋市民の胸を期待で大きく膨らませたと伝え聞いています。建物の名称は「御園座」――。以来、名古屋の文化・歴史の中心として歌舞伎公演などで輝かしい伝統が継承されています。

このたび数々の困難を乗り越えて、建て替え工事を行っています。事業主を積水ハウスが担い、平成27年4月に着工。工事は順調に進捗しています。完成すれば、下層階には御園座劇場、上層階に分譲マンションが入る40階建て高さ150メートルのビルとなります。総事業費は約300億円で、平成29年12月に完成し新たな御園座は30年春にオープンする予定。劇場の客席数は1298席、304戸の分譲マンション「グランドメゾン」は、すでに予約だけで26年末に完売した超人気の新住居空間です。

新しい御園座のデザインは、東京・歌舞伎座の建て替えを手掛けた建築家の隈研吾さんが監修とのこと。

御園通り商店街は、多くの店舗が半世紀前の昭和38年、御園座会館完成時から同一地・同一ファミリーで事業承継されており、建築や外内装も御園座を意識した和のテイストを大切にされております。



工事中の新伏見金融街。伏見三蔵交差点より御園座を望む



建築家の隈研吾さんが監修した新しい御園座

特に伏見通り南側、かつては芸人役者のお宿「旅館山多屋」跡地には、昭和41年に山口銀行名古屋支店がオープン。建築家・福田一豊の解説によると、設計は現代建築の大御所で日本建築家協会会長の円堂政嘉。縦の柱と横の梁を強調し、その間を大きなガラス窓で構成。三層部分が下層部に浮いたように積み重ねられたダイナミックな建物です。

そして、円堂の師匠・中村順平が手がけた名古屋城金鯱鉾設置工事を描いた『城を築く』のモザイク大壁画（高さ7メートル・幅12メートル）がロビーを飾っています。

南の三蔵通り角地は、ガソリンスタンド跡地に碧海信用金庫御園支店が平成29年7月オープン予定です。隈研吾の意匠設計による「和の伝統」、独創的な外観・ロビーは街に木のぬくもりを感じさせてくれるでしょう。

デザインコンセプトは「立体庭園グリーンヴォイド・軽やかな木組みスクリーンで芝居街にふさわしい和の華やかな街並みを形成する。インテリアにも木や和紙を使用して、優しい空間が提供されることとなる」。

三蔵と御園交差点東、御園座のバス駐車場には日建設計と岡崎の小原建設によって岡崎信用金庫名古屋支店が建設中。和文様を表現した外装スクリーンが伝統を感じさせ、低層部は開放的なガラスウォールと黒の花崗岩を使用して、歴史の重みを表現されているようです。

歴史と文化を象徴した新しい和感覚の建築によって、新しい伏見金融街復興が実現されることとなり、御園座と相まって街の名所地区として期待されています。

かつての「キャバレー白菊」跡の西角には天正10（1582）年からの「印傳屋」第13



山口銀行名古屋支店のロビー壁画「城を築く」



かつてのキャバレー白菊跡地に建つ印傳屋名古屋御園店

代上原勇七による甲州印傳のシヨウルーム、伏見角には「名古屋画廊」が美術界の重鎮作家を紹介する文化ストリートとしての位置づけもユニークです。

空襲で焼け野原となったこの地区で奇跡的に消失を免れた家屋、印傳屋の斜め南向かいの「梅本」。尾張藩御用達商人の「松川屋」という漆器商で、中庭には素晴らしい日本庭園や水琴窟がありました。当主の磯村義典さんは、3年前まで栄学区区政協力委員長として地元町内活動にご尽力されてきました。

「私の父は昭和8年に本重町でメリヤスの卸業を始め、昭和12年ごろにこの地に移転してきました。荷車に積んで堀川の倉庫まで品物を運ぶ。堀川から舁で名古屋港に持っていく。そこから朝鮮、満州に輸出する。三蔵筋は商売するのに非常に便利な土地だったですね。通りの幅は3間（5・4メートル）ですから、向かいの家の声が聞こえてくるような狭い道でした」と語ってくれました。

西に歩くと戦災を免れたもう一つの建物、簾・提灯・雑貨の「伊藤繁治郎商店」は昭和16年建設。西となりの長屋は明治時代の造りでしたが最近取り壊され、新装のマンションが完成したようです。

(2016・6・22)

御園座の繁栄とともに頑張る御園通商店街

北は名古屋城御園御門から大須新地「旭の郭」に抜ける御園座西の「御園通り」は上園

町・下園町、広小路より南は南園町・常盤町と呼ばれておりました。御園の由来は清須の御園御門が清須越しで名古屋城西南角に移転したとの説が有力です。

祖父良矩は「遺跡の多い紫川沿いの肥沃な台地でとれる農作物を伊勢神宮の荘園を管理する洲崎神社から奉納したので大昔から『御園』と呼んでいたのがもとであり、これにちなんで清須越しで御園門を設置した」と言っていました。

明治30年の御園座開業とともに発展した、粋で文化の香いっぱいの御園地区の住所が栄1丁目ではなんととも寂しいと、平成15年に「居東屋」のご主人・伊藤巧は「南園町」復活を求め当局に嘆願書を提出されました。しかし、あと一步のところまで反対者が出て断念！伊藤は「未開の地へ移る先人の決意と苦労が旧町名に詰まっている。当時を知る世代が復活させないと歴史が途絶えてしまう」と訴えます。

居東屋は昭和6年に呉服町にて創業。御園座復興再建にともない現在地に24年移転、63年にはインペリアルタワーを建設され、4階の能舞台「聚光殿」は磨き上げられた木目と色鮮やかな鏡の松が見事です。

昭和30年代、伊藤巧会長は料亭蔦茂に週2、3回はお出入りされ、宴会のギフトや芸者衆、仲居の小物を調達いただいております。祖父良矩がいつも無理を言っており、関谷齒科で金歯から総入れ歯に変えたとき、抜いた金歯の地金に真珠をいれたカフリングを金工職人に特注しました。これは正雄の記念の形見となっています。

御園座の門前町「御園通商店街」は劇場工事中閉店で、御園通商店街振興組合の松本一義理事長を中心に活性化にも力をいれております。昔懐かしいお店を訪ねてまいりました。



御園通商店街振興組合事業でからくり人形「白波五人男」が設置されました



御園通りのイベント

昭和40年頃の御園通り繁華街地図から、御園座の繁栄とともに多くの商店が頑張っている様子が見えます。「母と子の心をつなぐ結び糸」という松本糸舗のキャッチフレーズをご存知の方も多と思います。はた織の残り糸を1本1本結びつなげて一枚の着物を作り上げるといふ風習が尾張では盛んでした。

かつて料亭蔦茂の店内でも仲居たちが松本糸舗で残糸を求め、手作業で結び糸をテニスボールくらいに固く巻いておりました。一反の織物製作にふつう1、2ヶ月かけて楽しんで来たようです。その糸を緯糸として織りあげるのですが、結び目が節となり独特の風合いが特徴といえます。御園座南のリッカーミシン名古屋支店を昭和40年代初頭に取得され、個性ある呉服店として拡張されており、東京にも出店されています。

葛谷眼科院は当時と同じ建物で、今は先代のお嬢さんが承継されています。小学生の正雄は大井プールへ行く毎に結膜炎、目を真っ赤に充血させ通院していました。待合室の山川惣治作の絵物語『少年ケニヤ』を腫らした目で読んでいた思い出が懐かしいです。

南の横山硝子店はバラエティーグッズ「よこ山」に、うどんの浅井屋、肉の杉本、魚屋の御園丸正も健在です。振興組合事業でからくり人形「白波五人男」を建設、名古屋の芸文化を伝承されています。

野菜せんべいの秀松堂光栄は「おみやげに ちょっとなもなも ええがなもー」というフレーズの名古屋弁看板、そして「名古屋方言競」解説しおりと昔同様、大活躍！ お煎餅色々あるでなも！

もう一軒、うす皮饅頭の山本屋菓子舗。芝居見物のお客さんで長蛇の列となることもし

ばしばで、「饅頭売り切れ」で何度涙をのんだことか……

そして、御園座北の宝石のシバタは確か関谷齒科の関谷昭雄先生の遠縁にあたることか。名古屋進出の折、歯医者のお店として2階を間借りして診療をされていました。現在は中京銀行で修行された3代目が活躍、隣接する「小物バッグの百花堂」やユニモール店を経営されています。

東館本店は「老舗は常に新しい」をモットーに、伝統の味覚を大切にされています。戦前は御園座と地下道でつながり、現在もデパ地下や地下街と多店舗展開されています。早稲田大学OBの横井太郎社長は写真家としても著名で、月刊『なごや』への投稿や写真展で話題の方です。

(2015・8・22)

伏見地下織維街から立飲み屋「長者町横丁」へ

長者町地下街竣工記念の銘板には長者町織維街の理事が居並ぶ中で、本町衆で瀧定の瀧潤次郎と万兵の山村豹平が後ろ盾、異色なヘラルドグループの古川為三郎の名前が目立ちます。地下織維街の中にパーラー喫茶店をオープンされたようです。

「祝・竣工」に名を寄せる名古屋市長の小林橋川は、戦前3間幅であった蒲焼通りを高架鉄道にする計画を変更し、幅員40メートル・6車線の「錦通り」と名付け、露天掘りで大きな穴を掘り、名古屋駅と栄間に地下鉄を開設。そして、線路の北側に長者町の商人だ



葛谷眼科院は当時と同じ建物で今は先代のお嬢さんが承継されています



野菜せんべい「秀松堂光栄」は昔同様、大活躍！



「うす皮饅頭山本屋」は芝居見物のお客さんで長蛇の列になることもしばしば



長者町地下街竣工記念の銘板

けの地下街を開設することとなりました。

これをリードしたのが中栄の横井栄一郎です。繊維業者のとりまとめだけでなく、店舗も本町の大和生命ビル北に進出されました。横井は愛知県知事の桑原幹根の盟友かつ選挙参謀として昭和26年より6期24年もの間支援したことは、語り草となっています。

昭和31年に結成された長者町地下街繊維問屋協同組合は、初代理事長に横井栄一郎が就任し、平成6年までなんと37年の長期政権？ となりました。2代目には横井一が就任し、出店者を対象に運営する「長者町地下発展会」が発足しましたが、繊維業の衰退とともに人の往来も少なくなり空き店舗も目立つようになりました。そして、平成10年に「伏見地下街協同組合」に名称変更、平成19年には理事長のなり手がなく、正雄が尊敬する小池建夫氏が6代目に就任しました。

当時は退店者が相次ぎ、一時は3割くらいが空き家で廃墟の洞窟のようでしたが、旧来の地権者の意識改革に苦勞しつつ理解を得ながら、様々なトライアルを重ねて新展開を模索されていきました。爾来、全国でも例のない民間運営の60年の歴史、昭和レトロ文化と人情味溢れる商店街の再生がスタートしました。

再生のきっかけは第2回「あいちトリエンナーレ2013」。台湾からやってきた打開連合設計事務所が描いた『長者町ブループリント』のマジックアートでイメージ一新！

そして、「レトロストリート骨董市」を毎月開催。手作り市、長野ワインフェスタ、長者町通りのえびす祭に共催して「大黒祭り」、立飲みイベントの企画実施などで話題作りをし、初めて地下街を知る人も多くなりました。

平成27年11月、アメリカ帰りの後藤謙太郎さんが「ハンサムバーガー」、翌月にはイベント大好き大島真さんが「伏見立呑・おお島」を開店。チャレンジ精神いっぱい若いパワーが地下街を再活性化させる動機づけとなり、見事、飲み屋横丁としてよみがえりました。

いまや、伏見駅東改札口から長者町通りまで全長240メートルの地下街は、6坪の53コマに個性ある40店舗がびっしりと軒を連ねています。出店希望も多く、出店申込はウエイティングになっている様子です。

ほぼ中央にある小出商店は最も古参の婦人衣料卸として、卸業ではゼビアンと共に頑張っています。「チカ酒場のり」、「蕎麦野」、「酒津屋・酒処」と立飲みスタイルが人気で、通路でも楽しめる昭和レトロな路地裏屋台感覚がお客さんに大好評です。珠には、流しのギターの音色も一興を添えています。

開業60周年を機に大規模改装に乗り出し、経済産業省から「商店街・まちなか集客力向上支援事業」に採択されました。名古屋市の助成金も活用して、3年間で1億5000万円を投資して大改修や耐震化、デジタルサイネージ、そしてインバウンドに対応した新しい商店街のブランドデザインを提言しています。

また、小池理事長のリードのもと「おもてなし規格認証2017」に登録し、記念事業イベント「第1回酒と器とあなたに出逢う」を開催。インバウンドPRで「第20回釜山国際観光展」に出店するなど、積極的な街づくりへの展開が話題となっています。

地下鉄改札の営業時間も延長され、トイレも完備。「新しく変わる長者町地下街」で楽



長者町通り東側入り口。長者町横丁の看板が呑み屋横丁への転換を象徴しています



通路のマジックアート（トリエンナーレ2013作品）



3月に開業した「チカ酒場のり」オーナーの壁下志保さん



今も頑張る婦人服卸の小出商店

人物編



しいひと時をお楽しみください。

(2017・7・22)

三業者の街、終戦後住吉の商人達

元禄の頃、御畳奉行・朝日文左衛門は芝居が大好きで、目立つ本町通を避けて住吉界限で深く編み笠をかぶって、若宮八幡や清寿院、大須観音、七つ寺に出かけたようです。このころから本町の東、住吉通りは芸者・置屋・料亭の三業者の街として栄えました。祖父良矩曰く。

「戦前の住吉は、芸者300名、料理店・置屋40店舗以上で大きな料亭が軒を連ねていた……」

正雄も小学生の頃には、住吉通りの西はキャバレー、東は割烹店が多く繁盛していたことを思い出しております。

何か記録はないかと思っていたところ、昭和34年4月、皇太子殿下と美智子さま（現・上皇と上皇后）のご成婚を祝って産宮住吉神社建立時の寄進碑より、当時の進駐軍マーケットから神武、岩戸景気に沸き立つ商売のツワモノ達をたどっていきます。

鳥居一对…料理旅館鳥茂（住吉町2丁目）

祖父良矩が若宮の専務総代を務め、旅館としても繁盛。この頃は南館ビル建設や日本画の収集にも熱心でした。

狛犬一对…山田久太郎（2丁目）

キャバレー「メーフラワー」経営、「ミカド」の山田泰吉の実弟で多くの米兵が出入りしております。よく火事騒動があり、近所ではハラハラの連続でした。久太郎は外車が

大好き、赤いサンダーボードに正雄は乗せてもらって興奮していました。兄同様、経営が困窮して事業処分されました。上田現オーナーも名前は継承されて、飲食テナントの「メイフラワービル」と呼ばれています。

燈籠一对…浅井鎮一・川本真一（3丁目）

中京既製服として、いち早く既製服（首吊り）の背広を全国のテーラーに販売。現在はマンション経営。

清め洗い…菊花堂本店（2丁目）

明治時代に外松銀三郎が創業した文具卸老舗、皇室の菊の御紋がトレードマーク。絵葉書や地図、アルバムでは著名。自主廃業に伴い、現在は加藤憲ホールディングスの関連組織となる。「かに道楽」跡地となり、現在はサラ・スクエアビル。

神殿横・石柱一对…近藤産業（2丁目）

老舗の鞆卸商として活躍、先代は3丁目の「水野鞆店」から独立創業したとのこと。当時から本町を中心に鞆袋物問屋が多く、全国の百貨店を販路としたようです。現在は若者向け飲食店の「今昔物語」、「ななやタイガー」などが入居。

石柵碑・正面北角…中部観光・赤玉会館（1丁目）

日本のドン・キホーテといわれた山田泰吉。戦後政府によって作られた慰安所「特殊慰安施設協会」が従業員を募集した。たかをくくっていたら、若い女性が殺到したとしばらくして報道された。「女は現実的だ」と再認識した山田は、昭和21年に進駐軍を相手にした「赤玉」というキャバレーを広小路角の焼け残った富国生命ビルで開業。23年には中



住吉神社（若宮境内東北）



寄進狛犬…山田久太郎



寄進清め洗い…菊花堂本店



寄進石柵碑…中部観光・赤玉会館

部観光を設立し幅広いレジャー産業に参入。翌24年にはパチンコ赤玉会館をオープン。その後のキャバレーミカドの展開は余りに有名。跡地は東急イン栄となっています。

(2011・7・20)

古川為三郎のエピソードと飲食業者

〃住吉の名物じいさん〃フルタメこと古川為三郎についてお話しましょう。

昭和53年、アメリカの経済誌『フォーチュン誌』に、当時98歳のフルタメは、世界最高齢の富豪〃として取り上げられ話題となりました。資産4兆3000億円と称された為三郎王国は住吉から南に始まります。古川より2年先輩で親しい仲間の祖父良矩が語ったエピソードを紹介しましょう。

どえりや土地持ち！

「兎に角、広小路から大須南までフルタメの土地続きで繋がつとるぞ。この前も蔦茂の南角の土地を坪50万で契約しようとしたら古川が急に坪60万で取ってしまったがや、悔しいな」

日本画収集家

「著名な日本画家の秀作が出品されたらフルタメに見つからんように買わんと、皆かっさらわれてしまうがや。倉庫にしまつて置くなら、料亭でお客様に楽しんでもらったほうが絵も喜ぶのにな？ 今年も美術倶楽部の杉山寧^{やすし}と東山魁夷の新作、フルタメ落札だ。また、



古川美術館の玄関

悔しい思いだ！」

節税で国税・役人を

「相続税評価の路線価、この住吉界限がチョット安い評価の理由を知とるか！ フルタメが新任局長達を接待して、将来の相続対策しとるがや。でも、宴会やるなら蔦茂なら嬉しいけど、いつも河文では！ おもろないのだ」

大金持ちのドケチ

「住吉神社建立、ドーンとデッカイ寄付を期待したんだ。フルタメの関連する企業の中では住吉ホテル名で石柵ひとつが寄贈された。でも、一番小さい石柱一本とは町内をナメトれせんか？」

若い女の肌が大好きスケベ爺さん

「住吉で最近はやりのピンクサロン、80歳超えても毎晩出入りしとるがや。隣のヘルスへ行くのでヘラルドの番頭から頼まれて蔦茂の玄関番がお守をしていたようだ。フルタメは毎晩、若い女の肌を楽しんでいるそうな！ 羨ましいな！」

親しいのか、悔しいのか、祖父は羨望しながらヘラルドグループの創始者としてスケールの大きな人物に感心する毎日のようでした。慈善事業に力を尽くし、名古屋大学博物館となった古川記念館、世界デザイン博覧会開催時に名古屋市への寄贈、そして自らが所蔵していた書画骨董を寄付して古川美術館を設立、103歳の天寿をまっとうされた偉人。住吉のホテル、パチンコ、ゲームセンターなどがヘラルドコンツェルンの戦後のスタートといえます。



為三郎記念館の玄関

住吉ホテル

フルタメの住吉での戦後最初の事業。名古屋観光ホテルが進駐軍に接収されていましたので、日本人が泊まれる唯一のホテルでした。もちろん米軍の利用も多く、向かいの赤玉会館とならびいつも満室。幼稚園児の正雄は蒲団に足があり（ベッド）、靴のまま部屋に入るのでビックリしていました。

その後、パチンコやゲームセンターを経て、現在はコインパーキングとなっております。先日フルタメの孫の古川為之さんとお話したら、経営母体の住吉会館は現存しているとのこと。

社交デパート 女の城・赤い靴

住吉1丁目南西角の大型キャバレー、米軍と邦人庶民が一緒に楽しんだ遊興施設は「社交デパート」というユニークな表示となりました。

千代富久

待合風の割烹料理店。現在は月極め駐車場（栄3-9-3）。

香楽

住吉2丁目東北角の老舗かしわ料理店、東区白壁の料亭「香楽」とは先代がご兄弟とか。現在は新和ビルで、一階にはコーヒー店「ボルサ」が入居（栄3-9-1）。

八百健・高田富次郎

名古屋ナンバーワンの老舗八百屋。住吉の高級飲食店への業務用青果を一手に取り仕切る。八百屋に高田姓が多いのはこの親戚筋、また暖簾分けも多い。現在は「ジリオンパ

キング」名で立体駐車場（栄3-9-2）。

（2011・8・30）

タバコ屋のよねちゃん

終戦後、山田泰吉と古川為三郎の偉人2人とも頭が上がらない名物姐さんが住吉1丁目に頑張っておりました。その人は大正6年生まれ、タバコ屋の平尾米子さんです。

間口が1間少々で、北側に日本専売公社の懐かしいガラスカウンター、南には小さなティールームで、いつも「よねちゃん」は番台に座って住吉の煙草屋の看板娘？ を任じていたようです。

広小路から最初が郵便局、住吉小路、住吉ホテルの南、3軒目の間口が狭く奥行き長い鰻の寝床で住居兼用。三業者の街の入り口にある観光案内人として大活躍！

戦後、町に遊びに来た客はタバコや菓子を買いつつ、よねちゃんから情報収集。どこが美味しいか、安いか、可愛い子は、サービスは？。生涯独身、噂話が大好きなカシマシおばさん。嫌われたら何を言われるか、住吉の商人は戦々恐々としていたようです。

山田泰吉もフルタメも必ず立ち寄り、コーヒーをすすりながら社員や町内の情報をよねちゃんから入手、経営戦略の一助としていたそうです。

昭和35年頃、栄北にあった大和銀行（現・りそな銀行）名古屋支店（現・JPR名古屋栄ビル）の多田甚作さんはよねちゃんから紹介を受けて山田や古川宅に日参、大口の新規



寄進石柱：社交デパート、住吉ホテル



寄進石柱：千代富久、赤玉会館



おふさげ中の良矩とよねちゃん

取引となり役員候補までいったとか？

祖父良矩もとにかくよねちゃんから依頼されたら、何でもお役に立てるべくフォローしていたようです。そういえば料亭蔦茂の社員の給与振込みや財形貯蓄も全てりそな銀行となっています。

フルタメパチンコの景品交換のみならず進駐軍からもらうチップを集めて、正雄も1ドル400円でヤミ両替をした記憶があります。住吉町の「ミニバンク」でもあったようです。

よねちゃんのティールームで、正雄はハイカラなオランダ製ココア『VAN HOUTEN』をご馳走になっていました。お礼に料亭蔦茂の調理場からお惣菜をお返ししておりましたことは自明の理といえましょう。祖父良矩ですら、こんなよねちゃんには住吉社寄進のお願いはできないようでした。

よねちゃんは数年前に逝去され、跡地にはタバコの自販機が3台も横並び、2階には間口一間くらいのブティックがテナントして営業されています。

住吉神社外柵石柱寄進者リスト（北側奥、西の石柱より）

初政・森初一

下之一色の大手鮮魚商。戦前から業務用魚屋として町内に入入りし、3丁目に住居を構える。料亭蔦茂との取引も多く、正雄は幼稚園の頃から、毎年祖父良矩と下之一色の花火大会に招待され美味しい魚をご馳走になりました。そういえば、よねちゃんも一緒にしてお

りました。織田家家臣・森蘭丸の御一党？とのこと。

有本富夫

古川靴店の南店舗、「割烹有本」。御主人は料亭蔦茂の料理人のOBで、戦後引揚げ時には祖父良矩の口利きで清須の平松豊助商店の未亡人さわにお願いして、栄町東南（現・名古屋三越）にてヤミ商売で天ぷら屋台を営んでいたとのこと。その後、独立して料理店経営で繁盛。そして、西浦温泉開発とともに大きな温泉旅館「有本」を開業され一世を風靡した事業家です。千種区日岡町の「うなぎ有本」の元祖で、小川珊鶴さんかくワールド[®]など毎月楽しい企画やイベントも開催されています。

うを与・岩井正夫

住吉1丁目南東角、魚メインの居酒屋。現在は息子さんさんが経営される「大文字ステーキ」という焼肉屋。現在は3階以上を住居として賃貸され、1丁目で唯一、居住者のいる建物。可愛いお嬢さんは正雄と白川幼稚園と栄小学校で同期生。元気かな？

(2011・9・25)

住吉の名門、今は？

三業者の街、住吉には戦前から近年まで頑張っていた老舗名門が多数ありました。

灘屋・山岡竹次郎

住吉2丁目の中心で数年前まで営業されていた、もっとも広い間口の老舗料亭「灘屋」



よねちゃん（左）と母のリ子のツーショット



タバコ屋跡地にはタバコ自販機と2階にブティック



三輪車にまたがる有本富夫さん



寄進石柱・灘屋・山岡竹次郎

を御存知の方は多くいらつしやると思います。創業者の山岡竹次郎のお嬢さんが東京・三田の天ぶら屋で修行中に、慶応ボーイの伊藤泰弘さんが見初めたと聞いております。

伊藤さんは製パンの長栄軒のオーナー家の長男で後継者ですが、掛け持ちで灘屋の経営もやるという条件でご結婚されたとのこと。冬はふぐ料理、夏は天ぶら、芸者衆も毎日出入りする繁盛店でした。

住吉の町内会長を務めた泰弘社長は熱心に地域開発に尽力され、アーチ塔やナディアパーク開業にともない住吉景観地区協定を実施、254枚の歩道用陶板絵タイルを埋設するなど奮闘されておりました。

昭和末期に敷地北側に4階建ての灘屋ビルを建設。地下に洒落たワインバー、1階には天ぶらカウンター「灘」、2階に「スパゲッティ・ハウス ヨコイ」、そして上層階はお住まいであった記憶があります。

現在、息子さんが料亭から転じて新ビルを建設、シダックスに大型カラオケハウスとして賃貸されております。あんかけスパの元祖？「スパゲッティ・ハウス ヨコイ」は山岡さんの親戚。塩屋ビルにて開業後、旧灘屋ビル2階を経て三桃ビル2階で営業中！

西川鯉次郎

住吉3丁目で唯一戦災を逃れた蔵があった踊りの名門・西川流家元宅。土蔵の周りには和風庭園、洒落た門から竹囲いの道の奥にはお稽古場もありましたが、現在はハワイアンレストラン「LUAU」東のコインパーキングとなっています。

西川鯉三郎の右腕といわれた鯉次郎（1921年生れ）は日本舞踊「鯉水会」を主宰。

住吉の伝統芸能の中心として戦前戦後にわたりお稽古場から邦楽の音が絶えることはございませんでした。奥様のあやめは昭和50年の美空ひばり御園座公演に準主役で出演するなど舞踊を超えて活躍。

鯉次郎との間に生まれた三子はいずれも西川流名取。長男の鯉之丞は舞踊家、俳優としても活躍。三男のひろしは鳴物・住田長十郎として活躍。二男の長次郎は母上の名をとったお座敷天ぶら「あやめ」を経営され、現在は中区橋1丁目19に移転されましたが、独特のチョット濃い目のスモークがかつたような天つゆでの「えび天井」の味が忘れられません。ミシュランの一ツ星の人気店です。

雀おどり・古橋新三郎

「江戸時代末期の安政三年（1856年）に始まったういろやお餅、団子などの菓子屋さんで本町筋南門前町の宝餅と称したお店、看板に雀踊の図柄が街の評判となり、後に『雀踊』と屋号を変えた」と大津通り「雀おどり總本店」のホームページに記されています。

空襲で門前町本店が罹災し、戦後に南大津通り松坂屋前へ移転、同時に弟の新三郎は暖簾分けで住吉に出店。また、番頭や親族が雀おどりを伝承して「今同系に属する店舗は十指余り盛業」であったと昭和27年の店主のコメントにあります。長年、料亭蔦茂の茶菓子ではお世話になっていましたが、いつのまにかレジャービルになっていました。

(2011・10・25)



タイル…慶應マークのワイン



タイル…ふぐと魚
(灘屋前の歩道より)



天ぶら「あやめ」



寄進石柱…西川鯉次郎と雀おどり・古橋新三郎

住吉神社の石柵寄進者

くに平

界限でナンバーワンのおでん専門店。一本ヒノキのカウンター、そして「素だね」を大切に継続していく独特のおでん鍋の味わいで一世を風靡した名店です。おばあちゃんが元気な頃は、夕刻から出汁の香りと新内三味線やギターの流しの音色が住吉名物でした。

今は木造2階建ての建築は残したまま「タジン鍋の創」というレストラン。後継の甥の森島さんは大手居酒屋チェーンの幹部として活躍中！

石橋敏子

料亭蔦茂の隣地で、戦後から「いづみや」という下駄屋と煙草屋。下駄の時代が終わりお菓子や雑貨を販売、ちよつとしたコンビニ感覚で住吉の水商売女性には重宝されるお店でした。

タバコの番台には通称「チーチ」という敏子叔母さんが鎮座して、1丁目のよねちゃんと双壁の姉さまでした。同居していた甥の木下明くんは正雄と白川幼稚園からの同級生。おぼっちゃまでは体験できないお遊びなど随分お世話になり、いつも祖母静江に叱られていたようです。

敏子叔母さん引退にともない料亭蔦茂が平成17年3月に取得、現在はヨシックスに賃貸して「全品280円均一・ニパチ」として盛業中。ニパチが廉価居酒屋の契機となり、住吉280円戦争が勃発して話題となりました。地下には「バツカーノ」というバーが入

居して、早朝まで賑やかに営業されています。

間瀬商店

住吉3丁目つたもパーキング跡地。記憶によれば大手の繊維屋で、社員が数名住み込みで生活されていたようです。廃業にともない、父正矩がアメリカ村土地返還により八百屋町にあった土地を売却して、間瀬さんの物件を取得しました。

間瀬さんのお宅はそのまま蔦茂板場社宅を経て解体後は駐車場、そして2階は居酒屋「そぞろあるき」から「スローフードあいち」の会長も務める橘秀希さんに賃借。「オーダーバイキング鉄」として盛業中です。

(2011・11・25)

本殿亀甲石積銘記

住吉3丁目の長老・竹内稔さんにかがいましたところ、建立のキツカケは戦後焼け残った住吉の山車「河水車」を東区古出来町に売却、その代金を元本に寄付を町内で集めたとのこと。そして、からくり人形を御神体とした住吉社、そして建造石組みは亀甲文様で6角となっており、北側の銘版には3丁目町内有力者を中心に16名の寄進者が列挙されています。

福井浩

3丁目北西角のミドリヤカメラ店の親父さんで、写真館として料亭蔦茂での会合に記念



寄進石柱、くに平、石橋敏子、間瀬商店



亀甲文様の建造石組み

写真を出張撮影されておりました。長男の剛さんは現在、町内会長として3丁目をまとめて街づくりに貢献されております。

関谷昭雄

歯科医師として活躍。特にインプラント技術では全国有数の名医と言われ、遠方より患者が尽きないようです。正雄の父正矩とは溪流釣り仲間でもあり、口腔歯科技術を生かした釣道具仕掛けではお世話になっております。

岩田寛男

佳陽ビルのオーナーでもあり、スイス製「ビクトリノックス」の万能ナイフの輸入元としても著名。一時健康を害されましたが、お元気に町歩きを楽しんでいらしゃいます。お嬢さんの恵美ちゃんは街のイベント大好きで、第3回栄ミナミ音楽祭のテーマソングを唄った「プライナス」を発掘されました。

大野産業

3丁目の大きな袋物問屋でした。事業整理されたようです。

古川商店

かばん屋で、幼稚園児のバッグの指定があるのか、子供用通学袋など幅広く取り扱い、現在も家族で営業中。

竹市秀雄

「たけいち文房具」として外商中心の文具配達業。能を愛され、戦前には能舞台があつたと聞いています。住吉社建立の昭和34年に他界されました。現在は「アーチン」というブ

ライダレストランに賃貸、建物の躯体や奥の庭は戦後建築のままとなっております。

聯合紙器

住吉2丁目に名古屋支店がありました。日本一のダンボールメーカーで、大阪から創業者の井上貞次郎が葛茂旅館を常宿として^{ひいき}。祖母静江が何とお客様に寄進を依頼したように思われます。関西に本拠をもつレンゴーは現在も料亭葛茂の顧客として住吉を支援していただいております。

ミスズ商会

富士フィルムをメインとする写真材料4大特約店の名古屋支店。石造りの3階建造物は現在、甲羅グループの韓国料理「赤豚屋」、エスニック料理「バリハイ」として若者に人気の店舗となっております。料亭葛茂の三つ蔵通りをはさんで向かい側。

八木佐

文具雑貨卸で商店用のディスプレイやタッグもあり、現在のシモジマ流営業形態の元祖で小売りもあり、本町の問屋には便利なお店。現在は料亭葛茂駐車場でコインパーキングとなっております。

共立袋物

鞆小物問屋として現在も営業中。

水野一樹

水野鞆店会長の水野一樹は、石柱建設時は3歳の幼稚園児。明治23年に水野増次郎が鞆製造卸として創業した老舗中の名店。この地域にバッグや袋物商が多いのは水野鞆店から



歯科医師の関谷昭雄さんの家族



3丁目町内有力者を中心に16名の寄進者が列挙されています

の暖簾分けや独立したからと思われます。尾張藩家老格の名門とのこと。『Buffalo』ブランドで全国展開されています。先代夫妻は本社5階に在住、息子さん4人が仲良く共同経営されています。

中島屋酒店

中島屋本店の分店として、昭和23年に住吉3丁目「八木佐」の北側で開業、『白鶴』を中心にした業務用酒販売。38年に大須一丁目に移転されるまで、料亭蔦茂もビールやお酒でお世話になりました。

鈴蘭荘

住吉3丁目「古川商店」の南、純粋な商人宿として繁盛しておりました。住吉では珍しく割烹や料亭兼業ではない営業でした。現在はコインパーキングとなっております。

(2011・12・25)

末広町の旦那衆

旦那衆の末広町は袋物雑貨・靴問屋、羅紗（服地）店など多くの老舗が現在も業態を変えて存続発展されております。1丁目西側の北からユニークな人々をご紹介しますまいりましょう。

岩田工機

明治6年創業の岩田商店が発祥で、機械の製造販売からスタート。大正10年には亜細亜

製靴として西洋靴の製造販売、昭和58年にマドラスに商号を変更しました。南大津通りの靴専門店「アジアの靴」は最近まで営業され、とてもお洒落な専門店でした。

昭和6年、先々代の岩田武七が飛騨下呂の霊泉に、日本に誇れる温泉施設「湯之島館」を開業。「自然の霊泉に恵まれない、中京人士の唯一の慰安場たらしむと同時に山國飛騨の神秘を拓いて文化のパイオニアとして地方疲弊の窮状を救はん」と岩田の言葉にあります。

また同じ年には石炭ガスの製造及び供給する犬山瓦斯を創業するなど、現在は社員数600名以上、売上も178億円という地域への貢献企業です。そして、現代表の岩田達七、栄七ご兄弟には栄地区の街づくりへも幅広くご尽力いただいております。なお、若宮八幡社東の大鳥居は2代目岩田武七の寄贈です。

西脇人形店

末広町は「山車からくり」につながる人形店もあり南隣の西脇人形店も老舗でしたが、いつしかコインパーキングになっています。息子さんの西脇仁司くんは白川幼稚園、栄小學校と同期生で、とてもヤンチャでイタズラっ子でした。

正雄はいつも仁司くんにいじめられてばかりでしたが、名古屋商工会議所の国際部長から「愛知・名古屋国際ビジネス・アクセス・センター」の代表として愛知県へ進出を希望する外国企業のサポートに尽力されているようです。

松本商店

創業者の松本満が靴・袋物・靴卸商として昭和23年にスタート。百貨店やスーパーへの



関谷親子の背後には古川商店、鈴蘭荘、佳陽ビル（右から）が見えます。



岩田ビル看板



2代目岩田武七寄贈の若宮八幡社東の大鳥居

ランドセル卸の大手として発展、ヨーロッパへ進出ほか販路を全国に拡大されています。最近まで満夫人のおばあちゃんは元気で活躍されていました。平成18年に孫の勝さんが社長に就任され、新しいブランド展開を企てていらっしゃいます。会長の松本孝二は20年に旭日双光章受章され、名古屋中ロータークラブ会長を歴任されました。欧州通の大的ワイン好きで、貴重なボトルを近所のよしみでご馳走になりました。

モリシマ本店

喫煙具販売を中心に営業されていましたが、貸オフィスビルとなつていきます。平成28年から正雄が代表取締役を務めた森島羅紗店が入居しています。南隣は大型マンションに、松村薬粧は賃貸ビルと変わりました。

大橋大吉商店

大正5年、矢場町にてべっ甲髪飾り専門卸として大橋大吉が創業されました。12年から現在地に移転、松坂屋名古屋店ほか各地へ事業展開。平成8年大橋栄治社長就任後は、宝石や毛皮イベントや海外ツアー開催で話題の企業です。

山口商店

昭和27年に現在地に移転、昭和38年エリットに社名変更しました。山口勝弘社長はブランドと社名を統一し、販路を全国に展開され靴卸の大手として活躍。末広町町内会長として街の伝統と文化を承継しつつ地域の発展に寄与しております。

かぎや本店

おじいちゃんが他界したのを機に2、3年前に酒屋を閉店し、コインパーキングとなつ

ています。

村瀬吉三郎商店

明治時代からの化粧品卸の老舗でしたが、土地を売却された後も村瀬達夫さんは前町内会会長として尽力されておりました。

西脇商店

大旦那といえば服地の西脇商店。明治10年に初代の西脇由兵衛が西洋羅紗の切売り商として研屋町に開業。38年に末広町の現在地に移転、大旦那として貢献され、大正11年には若宮八幡社の境内に神御衣社を建立されました。

針塚とともに針供養祭りが毎年2月8日に行われます。特製の豆腐やこんにやくに長年使用した針をさして供養するとともに裁縫の上達を願う女性達の古くからの年中行事の一つで、現在では神御衣社でのこのお祭りは女性達のえん結びを願うお祭りとして知られるようになりました。

森島羅紗店は、昭和12年「西脇」の番頭・森島慶一が暖簾分け頂いて創業しております。そして、2代目の由兵衛の大番頭・実弟の嫁が父正矩の従姉でもありご縁が繋がります。現在でも毎年11月12日「洋服記念日」には、供養祭を森島スタッフと有志で執り行っております。

3代目の由兵衛さんは先の大戦の傷痍軍人ですが、右腕を失っても各方面で活躍されました。全国服地卸商協同組合の重鎮としてだけでなく、左打ちでゴルフを練習され和合コースでプレー、日本画も達者で嶋谷自然画伯の弟子としても話題の人です。



現在の末広町ビル群（左よりエリット、大橋大吉、モリシマ、松本）



昭和35年当時の賑やかな末広町



西脇由兵衛さんご本宅（白川町3丁目）

白川3丁目の南角にある数寄屋造りの本格家屋の西脇家ご本宅に、数年前まで由兵衛夫人がお元氣でお住まいでした。昭和15年生まれの光彦さん（4代目由兵衛？）は正雄の織維業界での後見人でもあり、兄貴分として公私にわたりお世話になっております。

（2014・6・26）

末広町の風雲児・山田才吉

漬物製造「喜多福」若宮隣にオープン

末広町代々の旦那衆、伊勢門水は御洒落会を主宰し、町衆文化を堪能されました。同時代のもう一人の奇人、山田才吉（1852～1937年）は現在の岐阜市大仏町で出生し、若くして家を飛び出して板前修業をしながら江戸など各地を転々となりました。

才吉は明治11年、26歳で大須門前町に漬物店を開業し、14年5月15日、若宮祭礼にあわせて八幡社門前に間口12間の漬物屋「喜多福」を開店しました。この頃に「守口漬」（守口大根の味醂粕漬）を考案したとされ、これが評判を呼び本町通に据えられた陣太鼓の威勢とともに紅白の幔幕が引き上げられました。

例祭に繰り出した人々に長良大根と青瓜の守口漬けを大皿に盛り大試食会！ 表戸は総ガラス張り、色とりどりの香の物・鯛味噌、南蛮渡来のワインに洋酒！

北の町内・大久保見町の「福祿寿車」（現存）は店名の「福」と重なり縁起を担ぎ、全戸にウリの守口漬をプレゼント。末広町内には「末ながーくよろしく」と長良大根の守口



山田才吉（『愛知千年企業 明治時代編』北見昌朗著より）

漬を贈りました。この一件で、才吉は一躍、末広町の旦那衆の仲間入りを果たします。

末広町に店を構えたこともあり、才吉は地元財界からもひっぱりだこで、名古屋商業会議所、市会、県会議員の公職、「愛知県五二会」と称する勸業団体を結成しております。

明治17年には「日本缶詰」を立ち上げて、愛知県下で初めて缶詰製造販売に参入。日清・日露戦争で大量の軍用缶詰の注文を受けて、さらなる財をなしたようです。

道路開発から東陽通り商店街

民業奨励政策で、缶詰工場用地として港新開地（現・東築地5号地）5万坪を県から払い下げてもらったこともあり、明治19年に元長州藩士の勝間田稔愛知県令（知事）より、喜多福と隣接する若宮北の「おたび所横町」から南鍛冶屋町を経て千種村に至る道路の開発を依頼されております。

当時の国道並みの4間幅（7・2メートル）として総延長1600間（約3キロ）の沿線地主を説得し、将来の鉄道整備に備える意向であったと思われます。才吉は持ち前の器量と実行力を発揮。苦勞に苦勞を重ね、懸命に地域の了解を得ました。

晴れて、沿線の工事に着手できたのは7年後の明治26年、時任爲基知事（薩摩藩士の息子）の時代になってからといわれています。当然、才吉は県の計画に便乗。前津小林、南武平町、南久屋町、そして御器所村、千種村の大地権者となったようです。大津通から中央線千種駅南までの「東陽通り」は何と12丁目まであり、名古屋では最も長い町内として千種、吹上、御器所への幹線ストリートとなりました。

明治30年3月1日、才吉は「東洋一の都心リゾート」といわれた遊園地付テーマパーク



末広町1～2丁目あたりの北見式地図



本町の喜多福（喜多福のホームページより）

料亭「東陽館」を東陽町4丁目（現・中土木事務所周辺）に創業しています。「一流料亭の味を一般庶民に」のテーマで御殿風の木造2階建て、内部に料理店・温泉・雑貨店・遊技場まで完備。大庭園は池をメインに山水楼閣を配し、多くの市民が訪れました。

矢場町から東陽館への門前通りは賑やかに発展し、戦前は名古屋五大商店街の一つに数えられておりました。当時の名古屋観光は昼に名古屋城を見物して、夕刻からは東陽館で庭の風情を愛で、山海の珍味が名物コースとなりました。また、前年5月には御園座開業、旭廓を擁する大須と庶民文化に花が咲きました。

東陽館の名をとって付けられた「東陽町」が誕生したのは明治26年。矢場町から丸田町、老松へと東陽館に通じる道路が開けました。この道路を中心として田は宅地へと変わってゆきました。東陽町が誕生した年の戸数は60戸でしたが、44年には4千余戸へとまたたくうちに戸数は増えていったと言われています。

守口漬元祖「喜多福総本家」と才吉の財界活動

大正3年に喜多福の番頭・安藤與吉が暖簾分けし、安藤商店（松喜屋）を広小路伏見に開業。3代目の安藤米秋が戦後大活躍し、名古屋名物「なすからし漬」を発案。鉄道弘済会（現・キヨスク）で好評となり、現在は5代目の安藤郁子さんが喜多福総本家を承継し、本店を中村区日ノ宮町に移転して漬物製造販売をされています。

東陽館は明治36年に焼失しましたが、才吉は水族館やプール併設の3階建「南陽館」を築地（現・東築地小学校地）に、現在の可見市に木曾川河畔リゾート「北陽館」を開業しました。そして、昭和2年に天皇陛下（昭和天皇）御成婚記念事業として東海市の聚楽園

に鉄筋コンクリート製の阿弥陀如来大仏を建立、海水浴場（現・愛知製鋼）、料亭などを開業し、海浜リゾートの先駆ともなりました。

財界人として、才吉の事業は漬物・缶詰製造販売、新聞『中京新報』の発刊、中央市場や大曾根市場のほか、南陽館へ誘客する電気鉄道事業「熱田電気軌道」、名古屋瓦斯（現・東邦ガス）発起人など、多岐に亘りました。

家庭では、幼馴染の「なつ」と明治9年に結婚。苦楽を共にしながら、同年末に瀬戸で鰻蒲焼き「山才屋」を興し、夫婦で事業をスタートしました（翌10年に熱田に移転）。しかし、「なつ」は健康が優れず子宝に恵まれなかったため、親族の後継者を得ることはなかったようです。また、チャレンジした施設は火事や台風の災難に遭い、波乱万丈の人生といえます。詳しくは、『不屈の男 名古屋財界の怪物・山田才吉』（藤澤茂弘著）をご覧ください。

（2018・7・21）

松井武兵衛と吉田禄在の街づくり功績

藩祖・義直の家来で普請奉行の松井武兵衛は家康の命により清須越しを所轄、豊臣恩顧の大名の資金と労役を駆使してバラバラであった清州の町衆を町名そのまま中央部の碁盤割に移転しました。その際、寺社仏閣は宗派にわけて南寺町と東寺町を形成、万が一の外部からの攻撃に備えて松平の頃からの家老の菩提寺を碁盤割南に移設しております。そ



現在の若宮大通の丸田町交差点北西には東陽館という巨大なレジャーランドがありました



東陽館の本館と前庭（鶴舞中央図書館蔵）



中区役所北の公開空地に表示された昔の広小路説明パネル

して、大木戸と各所木戸による城郭形成と町の自治を庶民に委託して世界に類ない見事な都市移転開発プロジェクトを実行しました。

また、豊富な木曾の伏流水から紫川、小袖川の流れと各ブロックに井戸を20〜30本掘削して生活用水とし、ゴミゼロ社会、そして糞尿処理を汲み取りで近隣の田畑に下肥として活用。この完璧な環境循環社会には、現代人が見習うべきポイントが多くあります。

町人衆の碁盤割の東隅、武平町には中級武士の屋敷が並び、武兵衛が居住していた地については諸説あります。郷土史家の水谷盛光によれば「愛知県立第一高等女学校（現・明和高等学校）があった現在の栄公園付近」とされています。

名古屋の地名で個人の名前が承継されているのは、明治時代の治水工事で貢献し「黒川」の名前が残る技師で南久屋町の住人・黒川治愿（1847〜97年）と武兵衛のみで、二人とも名古屋の大恩人です。

南武平町3丁目には『ナゴヤ歴史探検』の「名古屋近代化の礎を築いた11人の偉人たち」で紹介された吉田禄在の3000坪の邸宅が、現在の中区役所北東角にある記念パネル「100年前ここから見た武平通」に表記されています。

禄在は明治16年、初代名古屋区長として東海道線ルートを起案し名古屋へ誘致させ、広小路を長者町筋から西に拡幅、笹島の名古屋駅まで整備し街の開発に寄与しています。その後、中央線の千種駅開設に伴い広小路を東に延長、武兵衛と並ぶ名古屋街づくりの恩人といえます。

禄在宅は南に5メートルほど低くなり高低差を活かした野趣にあふれる庭園から、山田才吉が開発した東陽町通りをへて堀留となり、精進川の源流となっていました。この精進川を改修して現在の新堀川建設、そして浚渫土を活用して鶴舞公園埋め立てに貢献しています。他には、区役所の新築や戸籍の整備、名古屋城金鯱の保存、伝染病隔離病棟の設立、名古屋米商会所の設立、第十一国立銀行設立などの多くの功績を残しています。

区長を辞した後も名古屋実業界において活躍し、自身が設立に関わった名古屋米商会所頭取、その後身の名古屋米穀取引所理事長、第四十六国立銀行頭取に就任しております。名古屋近郊の愛知郡御器所村（現・昭和区鶴舞）に別宅を保有しており、第10回関西府県連合共進会開催による鶴舞公園整備に伴って寄付し、かつての別荘地（現在の野球場周辺）には吉田の名を取って「吉田山」の名称が残されています。

正雄は「名古屋都市づくりの三英傑」として、武兵衛、禄在、そして空襲で焼け野原となった名古屋の復興計画を実行した田淵寿郎の3人を挙げ、偉人たちのプランや思い入れを街づくりの原点として大切に語り継ぎたいと思っています。

(2018・10・16)

幕末の紅葉屋事件と富田家の発展

幕末、尾張藩を揺るがした青松葉事件とともに紅葉屋事件があります。尊王攘夷の尾張藩士「金鉄組」一党が夷敵、西洋の羅紗・洋品の商いを拡大している紅葉屋を誅するため襲撃した騒動です。



現在の中区役所から南へ元禄在邸を望む



現在の中区役所北東角にある「100年前ここから見た武平通」の説明パネル



明治42年の南武平町地図

この事件は城山三郎著『中京財界史』の巻頭や『冬の派閥』に取り上げられ、町の話題となりました。鈴井沢一の「本町通りものがたり」から抜粋して説明を加え、紹介させていただきます。

本町通り岡谷鋼機から入江町筋を渡りますと、通りに面して右側に「紅葉屋」が平成30年末までありました。この店は、幕末に洋反物商として巨財をなした紅葉屋の屋号と経営権を明治9年の富田重助逝去にともない、番頭の浅野甚七が承継した店です。

浅野甚七の店と通りを隔てた向い側にある「しもた屋」には、新田持豪長者の神野金之助の自宅（現・東朋テクノロジー本社周辺）がありました。神野は名古屋財界の重鎮として明治銀行、福寿生命などの会社を起し、明治四十三年には名古屋鉄道社の社長に就任しております。

金之助の長兄・友三郎は、嘉永四（一八五二）年に十五歳で紅葉屋の富田重助の家に養子入りし、経営の才を発揮しました。3代目を襲名した富田重助重政は、練油や白粉、紅などを扱う小間物屋であった紅葉屋を西洋の物品や舶来の毛織物を扱うことよって、大幅に業績を伸ばして名古屋一流の洋物店になりました。洋物は仕入れをすれば、右から左に飛ぶように売れてゆく。重助の時代をみる確かな眼と商人としての大胆な発想が、ますます紅葉屋を栄えさせました。

横浜が開港されているにもかかわらず尊皇攘夷の嵐が日本中に吹き荒れており、名古屋の町でも、「金鉄組」と称する若い藩士たちが攘夷をかねて過激な運動をしておりました。洋物を扱って金儲けをするのはけしからんと、金鉄組は洋物商を目の敵にしていたようで

す。慶応元（一八六五）年、百五十人の連署をもって藩主・慶勝に対し「紅葉屋重助など十軒の洋物商を廃業にせよ」との建白書を出しました。

建白書だけでは埒が明かないとみるや、金鉄組の七人の藩士は実力行使。刀を突きつけ、すぐさま廃業せよと重助を脅した。役者は重助が一枚も二枚も上手だったようで、如才なく揉み手をしながら番頭に用意させた五百両を差し出す。日に千両の商売をするという紅葉屋にとっては、五百両の損失はたいした痛手ではない。金鉄組の面々に向かい「在庫の洋物がすべて捌けるまで廃業を待つてほしい」と言う。約定書と五百両を受けとり金鉄組は紅葉屋を去って行きました。

この話を聞いた人々は、紅葉屋の洋物が蔵からなくないうちに買おうと店におしかける。在庫の品は、またたく間になくなる。重助は、横浜から品物をこっそりと仕入れ、それをまた売る。廃業どころ吹く風と平然と重助は商売を続けたとのこと。

慶応二（一八六六）年二月八日の夜、金鉄組が二度目の襲撃を実施。前年の約定を破り、商売を続けているのはけしからんという理由です。金鉄組は刀を抜き、洋物を切り裂き意気揚々と引きあげた。

紅葉屋襲撃後の二月二十三日、大曾根の「十州楼」で事件の黒幕、田中不二磨や丹羽賢たちが酒を飲み、乱暴を働くという事件を起こした。彼らは紅葉屋事件とあわせ、「差控え（自宅謹慎）」という処分となり、紅葉屋の方は2週間の「戸締謹慎」を命ぜられました。慶応三（一八六七）年に伊勢神宮のお札が、本町通りの金持の商家の上に舞い降りるといふ事件が相次いだ。人々は通りを踊り狂って歩いた。「ええじゃないか」の騒動に際し



城山三郎著「創意に生きる
中京財界史」



初代・神野金之助



商人でありながら短刀所有を許された3代目富田重助重政（前列右）。コウモリ傘に高下駄という出で立ち（東朋テクノロジーホームページより）

て紅葉屋は、絶好のかせぎ場とばかりに踊り子のゆかたの売り込みに成功し、莫大な利益をあげました。

明治時代に入り、紅葉屋事件の首謀者・金鉄組の田中不二麿は新政府に仕えて初代の司法大臣、丹羽賢は五等判事、中村修は初代名古屋市長です。紅葉屋の富田重助、神野金之助の兄弟は、名古屋の産業基盤を創設し活躍されました。紅葉屋に攻め入った側、守る側とも新しい時代の波に乗ることができたのは、才覚と器量が備わっていたからこそとおもわれます。

戦後の「紅葉屋」は靴の間屋で、月星化成代理店として営業していましたが、現在は宝不動産のマンション開発予定地として解体が始まりました。3代目の浅野甚七は地元町内会や若宮八幡社総代会、名古屋ロータリークラブの要職を務め、15年ほど前まで正雄に街づくりと歴史文化への指導をいただき感謝しております。長男の浅野栄一さんは白川幼稚園、栄小学校と同期で仲良く一緒に遊んでおりました。現在は鉄砲町の町内会代表として活躍されています。

文政年間に大曾根で創業した料理旅館「十州楼」は、周りに大きな建物はなく眺望に優れ、恵那山や御嶽山を含む十州（尾張、三河、遠江、信濃、美濃、加賀、越前、近江、伊賀、伊勢）の山々が望めるとしてこの屋号が付けられたとのことです。名古屋では最も古い料亭として頑張っていました。十数年ほど前に廃業され、現在は料亭蔦茂が最も歴史を誇る店となりました。

紅葉屋の経営を浅野に委譲した4代目重助重慶は殖産事業や新田開拓、名古屋電気鉄道、

明治銀行、福寿生命の設立、そして茶道の造詣が深く、三井財閥の益田鈍との茶会エピソードはいまでも地元財界の語り草です。

5代目重助重信は昭和の金融恐慌や戦時下の苦難をのりこえて、日立製作所の特約店展開で現在の東朋テクノロジーの「創意と躍動の歴史」の基礎づくりをされました。明子夫人は瀧定オーナー・瀧広三郎の長女です。

6代目の和夫は文化を愛する裏千家（今日庵）老分の茶人、ホトトギス同人の俳人。中部経済同友会の代表幹事としても活躍され、入会したての近所の正雄のお世話をしていたできました。結構なお酒好きで、料亭蔦茂で名妓連と共に酒宴をともした楽しい思い出があります。この頃は昼の同友会の例会では「キャッシュバー」があり、一杯嗜みながらフリーディスカッションに参加するのが常でした。

道子夫人の兄上は日本トラスティの小菅弘正です。弟の信夫は東海銀行（現・三菱UFJ銀行）本店営業本部長として活躍。その後、中京銀行に転じ平成4年より6年の間、頭取を務められました。

7代目の英之は三菱商事を経て平成13年の社長就任後、アメリカやアジアへの幅広い事業展開でグローバル企業に躍進、中部経済同友会でも父上に続いて平成29年まで代表幹事として素晴らしいリーダーシップで活性化に尽力されました。また公職も多く、栄ミナミ地域活性化協議会の副会長職もお願いしています。三良子夫人は石塚ガラスの石塚芳三会長の長女です。

知多の古見から鉄砲町に店を構えた初代、富田重助鹿助の化粧品『通天香』のマークが



解体工事の紅葉屋（手前）、奥のビルは昔屋こと岡谷鋼機



東朋テクノロジー本社ビル。本町通りを挟んで茶色ガラス窓のビルは蝶屋（池田商店）マンション工事がオカメザクラ並木の三蔵通り西に進捗中



東朋テクノロジー本社壁に掲げられているモニユメント

紅葉であったことから「紅葉屋さん」と呼ばれ、地域では愛着をもたれています。同じく北の岡谷銅機「笹屋さん」、南の貴金属・池田商店「蝶屋さん」とともに名家が長く続き発展することを誇りに感じています。

(2019・1・22)

自由民権運動と秋琴楼事件

昭和41年4月、東海高校3年の正雄は長谷川昇教諭が担任のD組に入りました。当時、少年サンデーの人気漫画『オバケのQ太郎』にそっくりで、あだ名は「お化け」。早稲田大学卒の文学士で日本史の先生、映画が大好き！ 学校をサボって映画館に入りびたっていた友人が見つかり、「お化け」のお咎めと思っただら……。

「T君、不登校で映画館に入りびたりか……高校で下らん授業聞くよりよっぽどましだ！ だが、事前に休みを報告すること（卒業のため出席扱いすると思われまます）。そして、面白い映画を観たら感想を先生に聞かせてくれ（？）」。諸君、活動写真はいいぞ！ 俺も学生時代は年間200本くらいは観たぞ」

と、豪語する物分かりのよい先生。日本史の授業は研究テーマである名古屋地区の自由民権運動とヤクザのお話ばかりで感動の連続……。正雄は大の歴史好きとなり、「住吉の語り部」の元凶？ とまりました。

その「お化け」が語る、印象的な2つのエピソードをご紹介します。

板垣退助遭難事件

明治15年、大隈重信総理は「立憲改進黨」を組織。国民の政治的関心が大いにたかまるなか、国会期成同盟への活動において全国で「自由党」と覇権を争っておりました。

対する自由党総理の板垣退助は勢力の強い三河から愛知自由党・愛国交親社のメンバーを核に、東海道遊説の旅を同年3月に開始いたしました。3月27日名古屋に入り、29日午前は大須大光院で、午後は門前町博物館で決起集会。イベントは「撃剣興行」のチャンバラショーで人集め。各地で興行して4月6日には桜花爛漫の岐阜・金華山麓で大演説会。旅館への帰途、待ち伏せていた壮漢に襲われ胸と手かなりの傷を負いました。

その時、流血の板垣総理が刺客を睨みつけ「板垣死すとも自由は死せず」と叫んだ有名な「板垣総理岐阜遭難」的一幕……そして、同行の内藤魯一が堀川沿い（現・栄1丁目）の愛知県病院院長・後藤新平の求診を仰いで一命をとりとめたとお話し！

長谷川先生曰く。

「治療で板垣は元気になったが、代わりに自由党の民権運動は死んだ！」

生徒は爆笑で大喜びの講義でした。

秋琴楼事件

もう一つは「秋琴楼事件」。

立憲改進黨の懇談会に自由党が殴り込み！ 栄に明治屋があるが、その場所には明治時代に「秋琴楼」という旅館があった。当時の名古屋を代表する一流旅館で、伊藤博文や板垣退助たちは、来名した折にはこの旅館を常宿としていた。そこが自由民権運動の事件現



懐かしの名古屋市電。正雄は栄町より山口町まで中高6年間通学



日本史の授業をする長谷川昇先生



明治の広小路を西より東を望む。秋琴楼（右下屋根）、山田旅館（右中央）、松坂屋（右奥）、朝日神社（左）

場になったことがあった。

板垣退助が岐阜で襲われた翌年に名古屋でも政党の衝突により事件が起きた。自由党と立憲改進黨が秋琴楼を舞台として抗争したのである。

愛知県で勢力をもつ自由党に対し、立憲改進黨は3月に末広座で大演説会を開催し、党勢の拡大を図ろうとした。東京から来た立憲改進黨の弁士は、尾崎行雄らだった。末広座とは、若宮八幡宮の敷地内にあった芝居小屋だが、足の踏み場もないほどの超満員だった。だが、会場内では自由党の内藤魯一が指揮者となって、演説会を中止させようと手ぐすねひいて待ちかまえていた。尾崎行雄が舞台上がり、自由党を弾劾する演説を始めた。内藤魯一が合図をすると自由党員が舞台にかけあがった。会場は大混乱となり演説会は中止となった。

翌日、秘密裡に立憲改進黨の党員だけが集まり、旅館・秋琴楼で有志懇談会を開くことにした。これを知った自由党員は夜、秋琴楼にだれだれ込み、汚物を詰めた酒樽を会場の広間に投げつけた。名旅館の掃除の行きとどいた広間は、異様な臭気を放ち汚物は散らばった。

長谷川先生が語ります。

「酒樽に木桶で、糞瓶（クソガメ）から糞尿を汲んだ！ 住吉の各町家には井戸と糞瓶が設備され、特に下肥として近隣の農家に配送する仕組みが素晴らしいゴミゼロ環境循環社会を形成していた」

幕末から明治に至る、政治問題から汲み取りや生活文化史まで興味深くお話しされてい

ました。一般的な暗記もの歴史には触れず、ユニークな切り口で生徒の向学心を高揚させた名伯楽ともいえます。

明治10年代の愛知自由党の組織率は非常に高く、尾張各郡では50パーセントを超える地域も多かったようです。また、演説会などの会合には新政府となり廃刀令後に失業した剣術の師を中心に、大相撲をまねて「撃剣興行」という武術ショーで集客。その後、剣道が存続するキッカケとなったともいわれています。

自由党といえは弁士・川上音二郎を紹介させていただきます。

川上音二郎は江戸増上寺近隣で福澤諭吉と出会い、慶應義塾の学僕（雑用を手伝いながら勉強する生徒）・書生として慶應義塾に学び、一時は警視庁巡査となります。しかし、長続きせず反政府の自由党の壮士となりました。明治16年には立憲帝政党員となり、旧福岡藩士を中心とした玄洋社の結成に参加します。

この頃から「自由童子」と名乗り、大阪を中心に政府攻撃の演説、新聞発行などの運動を行って度々検挙されました。明治18年に講師の鑑札を取得。自由民権運動の弾圧が激しさを増した20年には「改良演劇」と銘打ち、一座を率いて興行を行いました。また、落語家の桂文之助（後の2代目曾呂利新左衛門）に入門、浮世亭〇〇（まるまる）と名乗りました。やがて世情を風刺した『オッペケペー節』（3代目桂藤兵衛作）を寄席で歌い、22年から日清戦争時に最高潮を迎えて大評判となりました。

『オッペケペー節』のネタとして板垣退助遭難事件や秋琴楼事件は格好のテーマで、撃剣に代わる余興となったようです。音二郎の死後、妻の川上貞奴が諭吉の養子である桃介と



五拾銭札の肖像は板垣退助でした



明治屋ビル全景

二葉館を中心に名古屋財界で活躍したご縁がつながってきます。

その後、秋琴楼は「旅館千秋楼」と店名を変えて、「河文」の番頭の杉浦さんが経営しておりましたが火事で焼失しました。大正14年に杉浦ファミリーは「八勝館」の支配人として迎えられ、現在は3代目の典男に至っています。八勝館は八事地区の開発にともない、名古屋の材木商だった柴田孫助が明治初期に八事に別荘を建てたことに始まります。

南呉服町と広小路角の跡地には昭和13年に明治屋ビルが建設され、戦後、^{ひきや}曳家移転工法で東に移動したレトロな建物ですが、平成26年5月に閉店しました。現在、所有者のダイテックは隣接する旧丸善名古屋ビル（現・コインパーキング）と合わせた敷地面積約3千平方メートルを使い、商業とマンションの複合施設を建設する構想を打ち出し、早ければ翌年にも着工するはずでしたが、明治屋ビルのテナントとの退去調整が難航しているようです。丸栄の再開発も遅々として進まず、広小路本通一帯のにぎわいづくりは暗雲が立ち込めて開発の遅れが気になります。

また、明治42年の地図をみますと西隣に「山田旅館」がありましたが、その後、大正2年に焼失してしまいました。息子の山田光成（明治40年生まれ、自宅はラシツク南あたり）が慶応高等部卒業後に父の残した他の土地を売り、「山田モト旅館」として23歳の時に再オープン、実家の経営を再建しております。

光成は戦時中に下呂温泉で旅館を取得、誘客のために「後払い月賦」の仕組みをスタートしました。クレジツトビジネスの嚆矢といえます。昭和23年、41歳の時に資本金40万円で、わが国初の割賦販売会社である日本百貨サービス（のちの日本信販）を設立し、現在

は三菱UFJニコスとなっています。そして、36年に三和銀行と折半出資で「日本クレジツトビューロー」（略称・JCB）を設立されました。

また、白壁の料亭「桜明荘」の維持運営に尽力され、岐阜県美濃加茂市にある正眼寺のスポンサーとしても地域に貢献されました。正雄がアメリカより帰国した昭和56年頃、ホテルオークラで開発担当をしているときに、祖父のご縁もあり本郷の日本信販本社にご挨拶に伺いました。

お元気でボクシング協会への思い入れを語られた後、「世界一のリゾートといわれるハワイのカハラ・ヒルトンホテルを取得したいので、君の人脈で調査してくれ」と依頼されました。残念ながら、当時はヒルトンとの契約ががんにがらめで買収が難しい旨報告しました。晩年まで、宿屋の親父としての心意気を感じた次第です。光成は城山三郎著の『風雲に乗る』のモデルとして有名です。享年79歳。

（2019・2・19）

神田鍮藏家系碑除幕式に洪澤栄一來名

大正4年、洪澤栄一が子分・^{かんだらいぞう}神田鍮藏の激励のために名古屋来訪されたお話をご紹介してまいります。

明治5年生まれの鍮藏は洪澤栄一とも親しく、東京証券取引所設立に尽力して外債発行で活躍。日露戦争で資金調達・外債募金に尽力して財をなし、43年には逗子開成中学が七



明治42年広小路3丁目南
呉服町を挟んで西・旅館千秋
楼（秋琴楼）、東・山田旅館（北
見昌朗氏制作の地図より）



城山三郎著『風雲に乗る』



神田鍮藏

里ヶ浜ボート遭難事故で大きな負債を抱えて廃校の危機に陥ったときに、負債の一部を肩代わりし窮状を救うなど教育にも熱心でした。平成22年、蟹江町教育委員会主催の神田鐳蔵セミナーで同中学高校の袴田潤一元校長がお越しになり、偉業をたたえられました。

大正7年に神田銀行を設立し、倉庫や土地、生命保険、信託など多角経営を展開。全盛期には浮世絵の海外流出を防ぐために収集した「浮世絵風俗肉筆名作コレクション」、別名・神田鐳蔵コレクションが有名で、現在は大倉集古館の一部が承継されています。しかし、昭和2年の金融恐慌により破産し、9年12月8日に63歳で逝去されました。

須成から名古屋進出にあたり、祖父良矩は鐳蔵の弟分として伊勢町界隈で新株発行引受部門を担当しておりました。また、同郷の後藤道政は神田銀行の名古屋支店長として資金面で両名をサポートしていたようです。

洪澤は大正4年4月3日、神田家の家系碑題字を揮毫し、除幕式に出席して祝辞を述べております。前日に東海道線にて東京を発し、上園町の「丸文楼」に宿泊。丸文楼は名古屋の高級人気旅館で、広小路秋琴楼、豎三蔵町の名古屋ホテルと並ぶ名門トップ3でありました。

翌朝は7時に起床入浴。朝食後は伊藤守松（いとう呉服店）や中井巳次郎（京都中井紙店・名古屋別邸は料亭「かもめ」）などの訪問を受けたのち、鐳蔵とともに午前9時に名古屋駅より貸し切り列車で蟹江に到着。松井茂愛知県知事、阪本鈺之助名古屋市長ほか名士とともに、名古屋の芸妓100名余り（おそらく良矩が手配）も同行したとのこと。家系碑のある須成の善敬寺は園遊会で大賑わい、雨模様にもかかわらず蟹江川堤の満開の桜

と山海の珍味を揃えた屋台料理で午後4時まで200名を超える宴が催されました。

平成24年に国の重要無形民俗文化財に指定され、28年12月ユネスコ無形文化遺産に登録された「須成祭」は、江戸末期から地主や資産家が支え、後藤家、深田家、奥田家が身上持ちとして「紅葉屋酒造」の神田家とともに資金面でのスポンサーとなったのでありました。

(2019・5・22)

若き後藤新平の故郷、大須1丁目・洲崎町

明治の元勳・後藤新平は青春時代に洲崎神社の近隣に住み、天王崎橋南東にあった愛知県医学校（現・名古屋大学医学部）の若き校長として19歳から6年間を大須で過ごしました。

新平は医師・官僚・政治家で、位階勲等爵位は正二位勳一等伯爵。台湾総督府民政長官や満鉄初代総裁、通信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市第7代市長、ボーイスカウト日本連盟初代総長、東京放送局（のちの日本放送協会）初代総裁および拓殖大学第3代学長を歴任しました。

計画する規模の大きさから「大風呂敷」とあだ名された植民地経営者で、都市計画家です。台湾総督府民政長官や満鉄総裁を歴任し日本の大陸進出を支え、鉄道院総裁として国内の鉄道を整備しました。関東大震災後には内務大臣兼帝都復興院総裁として東京の帝都



須成にある神田鐳蔵家の家系碑。後方が蟹江川、かつて川沿いの桜並木が名物でした



善敬寺にある深田家代々の家系碑の手にあります



後藤新平宅跡の説明板

Site of Goto Shinpei's House

復興計画を立案しました。

安政4（1857）年、陸奥国胆沢郡（現・岩手県奥州市水沢区）に仙台藩の留守家家臣の下級武士・後藤実崇の子として生まれました。新政府に抵抗した賊軍でしたが、胆沢県庁の幹部だった安場保和の薫陶を受け、須賀川医学校を出て医師となりました。その後、愛知県令となった安場からスカウトされ、愛知県医学校に医師として月給10円でスタート。オーストリアからのローレッツ先生、語学の天才・司馬凌海のもとで勉学。24歳で学校長兼病院長となり実績を残した後、内務省衛生局入りしたことが政治家へ転じる契機となったといわれています。

名古屋県仮医学校・仮病院は明治4～5年に名古屋藩評定所跡（丸の内3―1、産業貿易館本館）に開設されました。その後、大須西本願寺内に移設され、10年7月に愛知県医学校として天王崎・御普請方役所と千賀与八郎・虎吉宅跡地（現・トーエネック本社）に移転。43年、関西府県連合共進会の開催後、整地された鶴舞公園北に大正3年3月愛知県病院となり、現在の名古屋大学医学部付属病院に至っています。

イケメン青年・新平は名古屋一の繁華街の大須で若き生活を楽しみました。自宅の裏は「旭遊郭」で、名古屋の遊興と芸能をさぞ満喫したと思われれます。正雄は新平の名古屋での功績を3つ挙げます。

第一は、新設の愛知県医学校の発展から名古屋大学付属病院への礎。そして、2つ目は海水浴普及があります。

明治14年夏、愛知県職員の保養所を知多の大野海岸に造ることとなりました。大野海岸

の海音寺、その宿坊・恩波楼では昔から「潮湯治」といって健康や治療のために海で泳ぐ習慣がありました。新平は大野を世界最古の海水浴場として売り出す指導をして、中京屈指の海浜リゾートとして発展していきました。その後、明治の終わりには愛知電気鉄道（現・名古屋鉄道）が引かれ、名古屋の別荘地として開発されてきました。

現在でも「おんぱろう」は、老夫婦が昔からの建物で営業を継続しています。料金も一泊2食4500円からと、とてもお値打ちのようです。また、明治15年に新平は記念すべき出版第1号『海水功用論』を著わし、一般人に海水浴を紹介しております。

3つ目の功績は、新平が全国にその名を知られるようになった板垣退助遭難事件！

自由党総理の板垣退助は岐阜の金華山麓で大演説会を催し、玉井屋旅館（現在は鮎の形の和菓子で有名）への帰途、待ち伏せていた士族の相原尚文に「国賊、覚悟」と襲われた時、流血の板垣は刺客を睨みつけ「板垣死すとも自由は死せず」と叫びました。同行の内藤魯一が愛知病院院長の新平の来診を仰いで一命をとりとめました。

板垣を診るなり、新平が発した「閣下、さぞかしご本望でしたでしょうな！」と板垣の心中を見抜いたような一言に党員は度肝を抜かれました。この出会いが新平の後の政治家としての人生に大きく影響したといわれています。

その年、新平は安場保和の次女、当時17歳の和子と結婚。翌年には医学校での実績や才能を見出されて内務省衛生局に入省、医者としてよりも官僚として衛生・保健行政に従事することとなりました。

新平を顕彰する「後藤新平の会」（事務局長・藤原書店の藤原良雄社長）は平成17年に



愛知県病院と愛知県医学校。病院東は三蔵学校（明治43年）



おんぱろう
恩波楼は日本最古の海水浴場大野浜に接する由緒ある旅館です（おんぱろうホームページより）



後藤新平顕彰イベントのポスター

ストリート編



設立されています。新平の業績を正しく評価するための研究活動を行ない、その遺産を継承し発展させてゆく活動で、後藤新平賞の創設、会報の出版など地道に発展しています。また、生まれ故郷の岩手県奥州市水沢では後藤新平記念館にて生い立ちや偉業の見学ができます。

しかしながら、若き新平の名古屋時代については地元大須でも語られることも少なく、名古屋大学医学部創立者としてのPRも不足しているように思われます。

(2019・6・16)



名古屋大学創立70周年記念事業で建てられた堀川沿いの記念碑

広小路ものがたり

1660年万治の大火後、それまでの堀切筋を防火帯として広く整備したのが広小路であります。

この時は久屋町筋と長者町筋との間、即ち本町通の1本西の筋まででした。明治政府となり、そこから西は明治19年に笹島の名古屋停車場開設にあわせて拡張したとされております。そして、南武平町ロータリー（現・中区役所北）中央には日清戦争戦没者記念碑、本町交差点には日露戦争凱旋門が建てられました。記念碑は日泰寺建立にともない移転し現存、凱旋門は数年で取り壊されたと聞いております。

第2次大戦の空襲で広小路は丸焼け、躯体の残った鉄筋ビルは全て進駐軍に接収、アメリカ村開設に伴い広小路はジープの行きかう軍用道路となりました。

そこで、アメリカ村を北廻りで仲ノ町の栄小学校に通学した、昭和30年頃の思い出をお伝えしたいと思います。

朝の登校は町内分団（住吉町と南呉服町）で、20名弱がアメリカ村を北廻りで通学、時にはゲートの米兵からチョコレートをもらって喜んでおりました。下校はバラバラで、仲間と毎日楽しい広小路を徘徊？『トムソーヤの冒険』さながらの思い出を紹介してまいります。

小学校の北、広小路の朝日新聞ビル1階の進駐軍専用公設モール（PX）では、ハイカラ品ばかりで何故か台形のコーンビーフ缶が懐かしく思われます。そして、名宝会館を代

表に多くの映画館が軒を連ねていました。

特に大空中劇場「スカラ座」はビルの7階にあり、満席の銀幕終了後に金網の非常階段で広小路に降りたのが記憶に残ります。向かいには名古屋観光ホテル、GHQの接収が解除（昭和31年）になり、営業再開したばかりでロビーの電話はゼロ発信で無料！よくイタズラ電話をして遊んでおりました。電話やテレビが貴重で、正雄のお家（店）には両方あるのが自慢でした。

なんといつでもチンチン電車と屋台は名物！粋な街路樹「しだれ柳」と間口一間少々の屋台が栄まで300軒以上もあったようです。この数ある屋台では同級生の家族やら料亭蔦茂の関連も多く、夕刻の開業準備前に幅広いメニューを試食しながら「戦後のなごやめし」を満喫して栄まで興奮の学校帰りといえました。あの「どて焼き」や「みたらし団子」の味をもう一度トライするのが夢です。

その後、市電は昭和46年に、屋台は48年に廃止。平成になりましたら柳がケヤキに替わり歩道も1メートルほど拡張されたとのことですが、通りは金融街となり人々の情緒が失われ人通りも少なく寂しくなりました。

本町北西角のGHQ本部、黒いレンガの大和生命ビル入り口には衛兵が両側に2人、いつものように正雄は笑顔で「ハロー！」と手を出しましたが、ここではスマイルだけでチョコレートはもらえませんでした。

東海銀行本店東のペコちゃん、ポコちゃんの「不二家」の美味しかったシュークリーム、エクレアの味は格別でした。確か1ヶ25円、住吉の戸田屋のうどん一杯と同価格、入り口



栄から東を見る。左が日銀名古屋支店、右がいとウ呉服店。先に日清戦争戦没者記念碑が見えます。



現在も日泰寺にある日清戦争戦没者記念碑



広小路本町交差点の西には、広小路をまたいで日露戦争凱旋門が建てられました。尾張徳川家18代当主・徳川義礼の書で「凱旋門」と書かれています。名古屋城の第3師団は明治39年に凱旋

のケーキ売場の奥はレストラン併設、母親と食べたハンバーグ定食120円也が感激の一時でした。

南側にはゆとりある「広小路劇場」で、西部劇の古典的名作『馱馬車』（ジョン・フォード監督とジョン・ウェイン主演のゴールデンコンビ）のロングラン興行、前庭での釣堀、お洒落な鏡張り壁のカウンター喫茶店「CA」、舶来物宝飾「ヤマダ時計店」……素敵なデートスポットでした。

いつも賑わう「赤玉パチンコ」、「キャバレー赤玉」を過ぎると、車道側の屋台と並んで電報局前広場では、対面の朝日神社に対抗したのか「文鳥の占い」でぴよんぴよんと小さな神殿からお御くじを引く可愛い小鳥、掛け声いっぱい「詰め将棋」、勝てばなんと現金1000円とか？そして、義足の傷痍軍人が白衣をまもってアコーデオンを奏でる様子が今も思い浮かびます。

そして、栄のデイズニールワールド「丸栄百貨店」の屋上遊園地？へと向かいます。

(2012・12・24)

広小路ものがたり・続編〜丸栄屋上パラダイス〜

いよいよ「丸栄」周辺の話題となります。
人通りも多くなるため南呉服町前後から広小路南側には飲食屋台が規制されていたようで、小さなカウンターでの物販が多くなります。

「えーい、持ってけ泥棒！」バナナのたたき売り、「一枚が二枚、二枚が四枚……ガマの油がたりたり……」と『タイガーバーム』オイル？の口上が懐かしく思い出されます。紙芝居や雑誌・新聞販売、そして丸栄西側壁画下に数人の靴磨きコーナーも賑やかでした。

ビックリしたのはビルが動くハプニング！小学校の低学年のころ、道路の拡幅工事とやらで角の明治屋ビルを掘下げて地下に枕木のようなコロを敷き、2、3日かけてゴロゴロと曳家移転を友達と見物。「ビルがいのく（動く）」とんでもないビッグショーに大喜びしました。そして、明治屋ビルには金属製蛇腹ドアを開閉するエレベーターおばさんが笑顔で「コンニチワ」ととっても優しい印象があります。

そして、僕らの遊園地、丸栄デパート屋上が最終パラダイス。東郷青児制作のエレベータードアが開くと熱帯魚がいっぱい。エンジェルフィッシュやグッピー、ネオンテトラ、キッシングフィッシュ……水族館を経て今度はベットショップ。最近見なくなったスピッツやカナリアと遊び、植木やお花、栄特設の動植物園には興奮しました。

遊具はゴーカート、メリーゴーランド……楽しく乗っていましたが、なぜか代金を払った記憶がないのです。当時、正雄は「通い帳」(代金請求伝票)なるものを持ったお坊ちゃん、特別サービスの古き良き時代であったようです。圧巻は日本で初？といわれたモノレールが塔屋にあり、名古屋市内を一望し御岳山や名古屋港、市内一のビル眺望のなか、近くのテレビ塔の高さに驚いておりました。

また、これまた名古屋初。丸栄百貨店の4階まで「いのく階段」(エスカレーター)も



丸栄屋上エレベータードアは東郷青児筆



屋上塔屋のモノレール跡。現在はスカイパーキング



屋上遊園地跡は2012年から広小路屋台をテーマとしたピアガーデン(ゴーカート広場跡)。右奥の神社は以前の面影があります

スリル満点。手すりを上から滑り降りて可愛いエスカレーターガールのオネエチャマに叱られたのも思い出です。丸栄冒險から、ぼつぼつお家に帰る時間となってきました。

当時はアイデアマン社長だったのかユニークな営業展開でもあり、外装や内装を人気の東郷青児画伯に依頼、よく丸栄のご招待で画伯が蔦茂旅館に投宿やお食事をされていたようです。母のり子も格好のモデルであったようで、今も仏壇の横にある母の美人画に毎朝、線香を添えております。

(2013・1・24)

錦通りの変遷

錦通本町交差点より東へ4ブロック、大津通まで「蒲焼町」の横文字看板があるのはご存知でしょうか？ 最初はブルーの下地に黒字でしたが、すぐに現在の白地に変更されました。きっと、町内会の有志が旧町名復活を願ってPRされていると思われます。

沢井鈴一の「名古屋の街探索紀行」によると、蒲焼町の町名由来には諸説があるのとこと。

「金鱗九十九之塵（こんりんつくものちり）には、名古屋城築城以前、織田信長が香倍焼町と呼ばれた地に遊里を開いた。徳川の碁盤割の町づくりの後、香倍焼町がつづまって蒲焼町と称された」

『名古屋市史』には「築城のとき諸国から城と町普請のために多くの人々が集まってきた。この地に茶屋、煮売り酒肴など城普請の人足相手の商売が盛んとなり、なかでも蒲焼を売

る店が多かったので、いつしか蒲焼町と呼ばれるようになった」とか。

『街巷事述考』では、桜の皮を焼いている細工物を作る職人が住んでいたから「かんばんやき町」と呼ばれ、略して「かばやき町」と呼ばれるようになったとのこと。

名古屋城築城や清須越しで蒲焼町界隈は多くの人夫や商人が集まる町となり、それらの人々を相手とする色里（いろざと）でした。賑やかな町に流れる紫川の泉も豊富で、「扇風呂」という銭湯が賑わっていたそうです。『尾張名陽図会』によると、肌がきれいになるといわれて芸妓に人気だった風呂の水は「名古屋三名水」としてあげられています。他の二名水は、大須にある清寿院の飲用に良い「柳下水」、清水口近くにある絵の具を溶くのに適した亀尾天神の清水です。

碁盤割の南、町衆の遊興地として栄えた蒲焼町通り。戦前は3間幅で飲食店街として賑やかでした。小林橋川名古屋市長は「橋川道路」と呼ばれた100メートル幅の巨大道路建設に伴い、一大プロジェクトを実施します。高架鉄道の当初予定を変更して幅員40メートル・6車線の「錦通り」と名付けました。

錦通りにも由来があります。都心の中にある瀧定ビルには自然豊かな公開空地があり、その小公園に石碑があります。『古今和歌集』の素性法師（そせい）が詠まれている「見わたせば柳桜をこきまぜて 都ぞ春の錦なりける」という歌から引用して、柳の広小路と桜通りの中間の蒲焼町を「錦通り」と名付けたと説明されています。

では、昭和34年地下鉄開通時の地図から当時の思い出を語っていきたいと思います。南側、蒲焼町1丁目は東海銀行本店、酒卸・梅澤商店。2丁目は梅澤のスタンドバーや



蒲焼町名の吊看板。名古屋国際ホテル前、1-4丁目南北に約10メートル間隔で設置



錦通り由来の石碑（瀧定名古屋前道路）



瀧定名古屋の公開空地。ビルの谷間の緑で癒されます

食堂が軒を並べ、「うなぎ平野」などの飯屋街はその後「キャバレー太平洋」となりました。10年ほど前に閉店した後、廃墟と化したその建物は今も残っていますが再開発のプロジェクトは決まっていないようです。

東角は「寿司会館喜多八」。終戦直後より現在地でご活躍です。街づくりにも熱心で、オーナーの舟橋幸男・幸江ご夫妻は「宗春ロマン隊」を設立。尾張藩第七代藩主・徳川宗春の顕彰から元氣な名古屋を創る市民運動をされています。寿司会館北側の宗春壁画は斎藤吾朗作、角の歩道には「宗春ポスト」、そして名古屋城での宗春もちまき大会、錦通りでの夏の「宗春パレード」など話題には事欠きません。

3丁目角にはふぐ料理「可ん寅」、映画館はピカデリー劇場や4丁目の名古屋東映など懐かしい思い出です。

通りの北、瀧定名古屋の西隣りの「都心芳舎」と号される青木宅は、昭和39年に歌人の青木稔子により「名古屋市短歌会館」として名古屋市に寄付された文化施設です。

青木は短歌会館において昭和46年に没しており、中庭には青木の銅像があります。地上3階・地下1階建てで、展示室・集會室・和室・図書室（蔵書「青木文庫」）を備え、集會などで市民が気軽に利用できる都心のオアシスとなっています。

青木は高山の女流漢詩人・白川琴水の娘で、御主人は秤「守随本店」のご次男・守随錫とうかがっています。

(2017・8・23)



寿司会館喜多八



宗春開運ポストはいたすらで
キセルが損傷



短歌会館の中庭には青木稔子
胸像、1階には青木文庫があ
ります

「生活と文化を結ぶマツザカヤ」南大津通りの賑わい

栄小学校の通学路から離れた大津通りはヨソイキの街。特に大人についていく「松坂屋さん」(どろろという訳か、この店だけ「さん」付で呼ぶのが慣わしでした)は特別の存在でありました。

幼稚園の頃から、毎日のようにお祖父ちゃんに手を引かれて松坂屋さんに通う日々が思い出されます。カンガルーがシンボルの「オリエンタル中村」から通りの両側にはアーケードがあり、楽しいお店がいっぱいありました。

東側には守口漬大和屋の南、「浪越軒」の鬼まんじゅうとお汁粉、そして白川幼稚園の同級生・市川裕子ちゃんのお母さんが作ってくれる大福の味が忘れられません。お店の左奥にある階段を上がった3階が住まいで、アーケード屋根根の上からの風景がチョット印象的でした。

スポーツ玉澤、うどん屋、婦人衣料の鈴丹、アジアの靴、ガス器具屋の前ではライカのカメラを持った女性がパチパチ。お祖父ちゃんに住所を聞き、孫との写真を路上販売する商売が懐かしく思い出されます。そして花長、日本画材の美草屋、タチソウ、桃源亭、岡本造花、風呂釜屋、岩田結納店……皆、繁盛していたようです。

松坂屋さんに入ると、玄関右の石造りの階段を下がったところにある理容店が正雄の行きつけの床屋で、椅子も豪華でしたが大理石の鏡は贅沢なヨーロッパ調でした。勿論、屋上には丸栄に倍する大規模な遊園地。階段を使った2基の滑り台を中心に遊具がいっぱい



松坂屋前で祖父良矩と正雄
(街角カメラ女性撮影)

で、お祖父ちゃんのデパブラを待ちつつ集まった子供達と遊んでいました。

当時から、松坂屋さんは市民の文化への貢献も多く、イベントや展覧会、劇場での公演がいつも開催され、生活になくはない存在価値がありました。

お祖父ちゃん曰く。

「これからは本町通りより大津通りが賑やかになるぞ。本町衆は市電を通すことに反対したのが凋落の始まりだ！」

明治末の関西府県連合共進会開催に伴い、電車の軌道開設により大津通りが拡幅され、松坂屋や中村呉服店も本町から移ってきたとのこと。

西側には、栄町角から松坂屋食品館、カワムラヤデパート、日本勧業銀行（現・みずほ銀行）、中央相互銀行（現・愛知銀行）、一柳葬具總本店、布地・丸澤屋、ふとん杉野、雀をどり、大林堂、安藤七宝店、呉服の松下屋など名門専門店が軒を並べていましたが、妙香園の街に漂う「ほうじ茶の香り」が名物でもありました。

現在、三蔵通りにある「ZARA」の西隣には、料亭蔦茂のメインバンクだった名古屋信用金庫がありました。社内は裸電球と板張り床で、靴を脱いで上がっていました。毎日売上げの集金に来る営業担当が正雄の子守役を仰せつかっていたようです。もちろん、同金庫の子供預金第1号は正雄のはずです。のちに大道相互銀行と合併した現在の中京銀行の社史に掲載を依頼しなくてはなりません。

南に行く料亭「蓬萊」、漆器屋、氷屋、乳母車屋（藤細工）、そして戦災で焼け残った閑所長屋をとり、勝鬘寺北のそばん塾「東海算盤」は学校帰りの子供達でこったがえつ

ていました。塾帰りは、寺の西の「一文菓子屋」で駄菓子を求め、矢場公園で紙芝居や鬼ごっこをしていると日も暮れだします。「栄・三丁目の夕日」、良き時代でした。

南大津通りから市電や両側のアーケードがなくなり、近年商店街では積極的な街づくりへの取り組みがなされています。歩道の拡幅、街づくり協定に基づく建築セットバック（2.5メートル）規制、共同清掃、共聴システム、街路灯・イルミネーション、バナナ、ケヤキ並木の景観維持、歩行者天国再開など素晴らしい活動が栄地区全体をリードしています。

仲良しの専門店グループの指導者、澤木公義さんや杉野峯一郎さん、そして栄ミナミ商店街連盟の勝田明会長の尽力と奮闘に改めて敬意を表したく思います。

(2013・2・24)

本町通り

「アーエ花の名古屋の 碁盤割りはアー アー都に負けない京町や 竜宮浄土の魚の棚七珍万宝詰め込みし 大黒殿の袋町 広小路から見渡せば なかなか届かぬ鉄砲町 次第次第に末広の 家並みは続く門前町……」

名古屋甚句に唄われている名古屋城と熱田神宮を結ぶ幹線道路・本町通りの歴史と昭和30年代の思い出をお伝えしたく思います。

江戸時代、広小路と本町の交差点西南の柳葉師（新福寺の通称）が賑わいの中心。明治



松坂屋屋上遊園地の木馬にまたがる正雄



松坂屋屋上遊園地の電気自動車にのる正雄



鉄砲町1-2丁目あたりの北見式地図

に入り新福寺が移転し、境内地の一部が柳の木とともに長円寺の境内地とかわりました。そして、広小路には日露戦争凱旋門、昭和に入り映画館が並ぶ広ブラ、戦後は北西の大和生命ビルをGHQ司令部が占拠、屋台は常に繁昌、名古屋の起点として発展してまいりました。

道路元標は国・県道の起終点を示すもので、大正8年に制定された旧道路法により各市町村に一個を置くこととされました。名古屋市では、9年の愛知県告示により「中区鉄砲町1丁目18番地の1地先」が道路元標の設置場所とされ、この付近に設けられました。つまり、設置当時はこの付近が名古屋の中心であったことを物語っております。

道路元標方式は昭和27年の新道路法の制定で廃止となったため、現在設置されているものは往時の道路元標を後世に残すために、本町通りの整備にあわせて往時のものを復元したものです。「名古屋市道路元標」と書いてあり、名古屋市の道路の起源と言っても良いものです。

本町通りには、正雄の子供のころから不思議なことに電柱が一本もなく、昭和初期に電線の地中化工事が実施されたようです。

祖父良矩曰く。

「本町の旦那衆は5月16日の若宮八幡社祭礼時、電線が山車「渡行」の邪魔になる！電気会社に地中化を要請し、実現させた」

昭和4年、昭和天皇が名古屋に行幸されたときに契機となり、今でも「御幸本町通」と呼ばれています。しかし、名古屋城と熱田を結ぶ電車を走らせようと計画すると、「うる

さい邪魔だ！」との意見。やむなく本町から筋を変更し大津通りを拡幅して熱田神宮へ市電が敷設されたようです。

本町も鉄砲町も清須からの地名で、「清須で鉄砲を製造する職人が住んでいた」町であったようです。老舗が並ぶ鉄砲町には多くの現存企業が頑張っています。

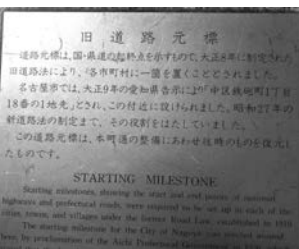
一町目の柳葉師南にはメリヤス八木文、「笹屋さん」の岡谷鋼機、音楽リサイクルなどが親近感のある会館を運営される長円寺、東側には明治33年創業の牛肉「スギモト本店」が歴史を誇っています。角のメガネ「つの市」商店はビルに建替え、牧野おばあちゃんが上階のマンション住まいでしたが、最近お会いしなくなりました。栄地下街に昔からメガネ「つの市」の看板で、コーヒー店があるのは転貸されているのでしょうか？

平成26年に入り、繊維卸業を牽引する高橋家の「八木文」のシャッターが閉まっているのがチョット気がかりです。岡谷鋼機は寛文9（1669）年に初代岡谷總助宗治が鉄砲町にて金物商「笹屋」を創業以来、親戚筋の松坂屋・伊藤家と共に代々名古屋財界のリーダーです。岡谷篤一現社長は名古屋商工会議所会頭、中法人会会長、若宮八幡社総代会長など多くの要職を務め、名古屋のリーダーとして活躍されています。

2丁目西には、洒落た家具「飛騨木工」と移転された横山商店（現・リオ横山）の跡地は宝第一ビル、南の野村タオル、中村合資と老舗が続き、現在も看板建物がありますが営業の拠点は他に移っているようです。

名古屋財界の祖「紅葉屋」は番頭の浅野甚七さんが屋号を引き継ぎましたが、終戦直後、アメリカ村建設時の地域の尽力者でもある甚七さんの武勇伝を何度も聞かされたことがあ

名古屋市の道路の起源となる「名古屋市道路元標」



旧道路元標の説明板



代々名古屋財界をリードする岡谷鋼機本社ビル

ります。

「友人が通訳をしており、司令部では当初、進駐軍のプランでは東は本町と西は伏見通りとなつてゐるとの情報を入手。名古屋の文化歴史のメイン本町御幸通りを占領されては活券にかかわると案じ、早速、仲間たちと焼け跡の本町に小屋建て住みつき境界を一本西に移動させた」

南角の創業明治19年、通称「貴金属の蝶屋」こと池田商店は昭和34年名古屋城再建時の名古屋城の金シャチの地金を納入した実績も話題で、浮き沈みの激しい宝石業界で長年活躍されています。

また、2丁目東角には文久2（1862）年創業、組紐類の販売からスタートした「青山リボン」。先代の青山義郎社長は英国流ハンターとして進駐軍将校を狩猟に案内されていました。竜土現社長は鉄砲町内会会長として街づくりや祭礼にご尽力されています。

老舗呉服の「扇屋」は明治から代表的な繊維業界のリーダーです。若宮八幡社南正門の大鳥居は先々代の平松愛之助が紀元2600年（昭和15年）を記念して寄贈。唯一戦災を免れた鉄筋本ビルは現存し、本町表通りのランドマークと言えます。

先代の平松一道社長は東京大学卒、内務省官僚から転身。大のゴルフ好きで駐車場奥にはなんとバンカー練習場が最近までありました。正雄も名古屋に戻り、先代からナオリ健康保険組合や和合ゴルフ、若宮祭礼など幅広い指導をいただき感謝しております。

南には長い玄閑庭が特徴の料亭「つたや」、リオ横山のビルなど懐かしい思い出いっぱい歴史を誇る旦那衆の街といえます。

(2014・3・26)

矢場町通&東陽通りは「山田才吉ストリート」

若宮八幡社の北筋は地図では「矢場町通」と表記されていますが、地元では「東陽通り」と呼ばれています。戦災で焼け残った家屋もあり、戦後の都市復興計画でも道路拡幅が不十分で電線の地中化が困難なため今でも電柱が林立し、政秀寺や白林禅寺の貸地でもあり木造建築の残る「昭和ロマン」を感じる通りと言えます。

昭和34年住宅地図から見ますと、若宮北の大野理髪店や和光堂時計店、若原裁縫具、朝倉鍼灸、つばめ理髪店がプリンス大通り西に、東にはレコード楽器の明治屋、玉竹染工丸栄家政婦紹介所、向側の政秀寺底地所有の山田板金、ユニフォームの深尾商会、水谷さん、宮田肉店がそのまま現存して昔の商店街の面影を残し、ほとんどが2階に住居があり店主か社員がお住まいの職住一体となっています。

終戦直後に建設された木造2階建てで六軒長屋「ソエダアパトメント」だけでなく、玉竹染物では今でも井戸の水による繊維染色整理、白林寺南にはトタン扉に囲まれた畑や菜園があり、栄中心とは思えない光景です。南東角の足立運動具店ではスキーや登山用具を問屋価格で、中学生の頃に正雄は仲間とスキー用品を買い求めた思い出もあります。

そして、この地の話題のお店は「店員は無愛想だがカメラは安い」のCMで知られたアサヒドーカーメラ。ビデオカメラやパソコンも取り扱うようになり、南大津通りのテナン



扇屋本ビル



先々代の平松愛之助寄贈の若宮八幡社南正門の大鳥居



政秀寺北では珍しい電柱群



矢場町通り東側にはソエダアパトメントなど商店街の面影が？

ト1階の13坪という狭い店舗で、店員1人あたり・単位面積あたりの売上高日本一の店舗でした。

しかし、平成2年頃には手狭な店舗では商品管理ができず、勝鬨寺トタン葺車庫や建設協会の会議室などで受け渡しがなされ、東陽通りの賑わい雑踏名物といえました。11年には花長ビルに移転、ビル内に音楽スタジオ「スタジオアサヒドール」をオープンするほか中古カメラの通販事業も展開されています。

社長の後藤寿美さんは栄ミナミ地域活性化協議会のメンバー、そしてFM愛知の番組『大人の栄ミナミde猫まねき』でパーソナリティとして活躍しています。「ニシニヨイパパ……」、「今金中夕」などの宣伝コピーやCM「ミカとパパの物語」は懐かしい街の文化史です。

この地区は、東陽通り商店街の起点として若宮八幡社から4―5丁目の東陽館への「山田才吉ストリート」といえます。東陽町は天津通りから中央線まで12丁と最も長い商店街でもありました。

天津通り東の東陽町1丁目は、名古屋バルコ建設にあたり桃源亭と岡本造花店は共同地権者として館内に、岩田結納店は同館南に移転しており、パルコ南館との連絡通路が空中に出現しております。辰巳屋旗店と家具「伊東屋」はビルに、そして生菓子「六十一石」の大福餅は子供のころからの好物で、いまでも東陽町の饅頭屋の面影を感じさせてくれます。

新栄1丁目にあるお茶の東陽園は、東陽町8丁目付近で昭和10年に創業されています。

そして、栄ラシック建設で移転した成田山萬福院が東陽館に代わる名所として新しい門前型商店街として、今後発展されることを楽しみにしております。

(2015・4・23)

新発見！ 名駅と栄を結ぶ・歩いて楽しい三蔵通り

最近、世界中で「LRT（ライトレールトランジット）」と呼ばれるお洒落な路面電車の復活があいついでいます。名古屋でも名古屋駅と栄を結ぶ三蔵通りが歩行者目線で街並みを楽しめる可能性が高く、道幅も ترام 導入には最適との議論が街づくり仲間ですタートしています。

一般車両の通行を制限したバリアフリーの電車導入は都心部の新しい移動手段として脚光を浴び、リニア新幹線開通時には「三蔵 ترام」への夢も膨らんでまいります。

この三蔵通りの大きな動きと歴史をご紹介しますまいりましょう。
現在は直線で久屋大通りから笹島まで東西の道幅20メートル、伏見通り西では大規模再開発が多く、一光石油跡地や岡崎信用金庫本部ビル、御園座プロジェクト、納屋橋東地区再開発事業が堀川天王崎橋まで続き、堀川からは「劇団四季」など名駅南再開発や名鉄・日生グループの笹島プラン、「ささしまライブ24」へと大きな動線となりつつあります。名駅南地区まちづくり研究会（現・名駅南地区まちづくり協議会）も活発に啓蒙活動を実施され、将来が楽しみになってまいりました。



矢場町あたりの北見式地図



南大津通歩行者天国での春姫道中のパレード（平成27年4月19日）



三蔵通り、アメリカ村東の北見式地図

そして、名駅と栄地区の民間メンバーや大学教員らで作る「NAGOYA創造協議会」が発足しております。2027年のリニア中央新幹線開業を見据え、名古屋駅周辺と栄地区での連携したまちづくりを目指す「NAGOYAクリエイティブフォーラム2015」が名古屋工業大学であり、両地区を直線で結ぶ三蔵通りを「歩いて楽しい街路空間」に創造することで、両地区の魅力を一体的に高めることを提案しています。

江戸時代の三蔵通りは縦三蔵通と住吉町までの8ブロックで、堀川から本町までは中級武士の住居、本町からは遊興の町と南寺町の境となっていました。広小路水路・紫川の流れと紫式部の石碑のあった伝光院にご注目ください。

明治時代には尾張藩の米蔵は牢屋となり、南側に三蔵通り、そして天王崎橋も架かり江川まで伸長しております。町名は横三ツ蔵町1丁目から5丁目と表記されています。

戦後は戦災で焼け野原となったのを契機に市街地の大規模都市計画が実施され、三蔵通りは久屋大通から笹島に抜ける東西の直線道路として整備される予定でした。しかし、GHQの幹部将校の家族住宅として昭和21年より33年まで徴用され、返還後は南に白川公園、北側は民間に返還されて栄2丁目として開発が進み、やっと栄から笹島への直線道路として発展しつつあります。

昭和35年住宅地図から見ますと、栄3丁目三蔵通りで現存する同じ業態店は、南大津通り交差点から大和屋漬物店、料亭蔦茂、菅井新聞店、池田宝石店、服飾附属の脇田の5店舗のみとなりました。日本信販名古屋支店は創業者・山田光成の親族が辰見ビル、八百屋の山健、旅館楽々はインペリアルプラザビルとなり不動産業で頑張っています。

正雄にとって懐かしいのは、電通ビル一階のパラー「ミルクケーキ」の生卵イッパイの味。西隣、富士フィルム名古屋営業所の2階には中学生写真連盟の事務所があり、高校1年から委員長を務める正雄は毎日学校にも行かず、会員増強や雑誌編集、撮影会、セミナー、交流イベント、寄付集めに奔走しており、1年間の在任中に成績が急降下した思い出があります。角の喫茶「シーゼン（べんてん）」で「クラブ活動」と称してタムロシていた不良高校生でした。

(2015・12・20)

しんしよさかえし花屋町、白川通りを散策して

「花の名古屋の碁盤割」を謡う『七墓御詠歌』は、広小路より南の筋を入江町、三ツ蔵町の後に「しんしよさかえし花屋町」と紹介しています。宝暦12（1762）年では、花屋町筋は伏見通りから伊勢町通りまでのいたって細い路。

住吉から西は紫川沿いに南側には光明寺や大林寺など寺院が連なり、きっと墓参も多くの清水を利用した花屋が多かったのではないかと、祖父良矩は正雄に語っていました。

この地の造花を商いとす俳諧師「木天」は末広町の扇ヶ関から花屋町を望み、「咲花や 人の旅路の 日をさぐる」と詠っています。そして、伝光院の南端に位置する北から流れる紫川が花屋町筋を西に流れるところに、生花の松月堂古流「家元鷲尾方住吉屋」華道稽古場があり、江戸時代の花屋町筋は花にゆかりある人々の町であったようです。



「NAGOYAクリエイティブフォーラム2015」のポスター



天王崎橋より北を望む



南大津通り交差点



白川通りあたりの北見式地図

「白川通り」と名前の変わった現代の花屋町筋を、昭和35年の住宅地図をもとに花や緑をもとめて散策していきましょう。

戦前から「婚礼の家具は広小路『高麗屋』、ふとんは『すぎの』」といわれ、大津通り北角にはスギビルの名前が残っています。元オーナーの杉野峯一郎は南大津通り商店街の発展に寄与され、ロサンゼルス友好、南大津通りのセットバック建築条例、業態指定、盆踊りソング『丸八音頭』などユニークな活動で貢献、いまでもお元気でご指導をいただいております。

南角の中部電力はオシャレなファッションビルに变身。西北は電設・設備工事の中央電気工事で昭和23年から営業を継続されています。南伊勢町を経て、面影があるのは寺島商店で「カフェ・ド・クリエ」がテナント入居されていますが、ご家族は3階で生活されている様子です。

平成8年のナディアパーク完成を契機に栄地区で東西の筋で唯一、白川通り都市景観協定が締結されて当時の住民の意識の高さが偲ばれます。地元商店街では早咲きの「オオカンザクラ」を統一した街路樹として植樹を開始、往時の花屋町を彷彿とさせてくれそうです。

南呉服町通りを西に、現存するのは清水美容室「E.P.敦子」、敷物・車両シートの市岡のみとなりました。そして、芸処・住吉の代表「西川鯉次郎・あやめ」鯉水会の稽古場には竹囲いと竹林前庭がありました。長年のコインパーキングを経て今秋から「ホテルウイングインターナショナルセレクト」の建設が始まり、見事な奥庭の岩田幸子邸は飲食ビ

ル建設中となっています。

住吉通り東南角のうどん屋「一八本店」のプランターには可憐な季節の花々が咲きほつとさせてくれます。

住吉通りから本町にかけては、戦後まもなく先々代ご主人がミドリヤカメラ店、奥様がパンとお菓子のミドリヤを経営。ご子息の福井剛さんは住吉通り商店街会長で、お仕事からリタイアされ、現在は3代目がフォトショップを経営されています。

西隣の華道の松月堂跡地はアリアケジャパン名古屋支店に、竹市峰弘社長の共立袋物はオリジナルバッグ製造で頑張っています。佐々木さんはマンション経営、1階には人気の「はらドーナツ」が入居、若い女性が並んで買います。

白川本町ビルは昭和10年創業の大橋幾商店の本社、子供用のキャラクターハンカチで話題です。本町南角の袋物「ふじや」も往時のままバッグ卸業を営んでいます。青果の八百秀はファミリーマートを2軒経営されましたが、西濃運輸の配送センターとなっています。現在は本町沿いのグラスステイ公開空地の木々、佳陽ビル玄関廻りの植木が花屋筋の名残を感じさせます。

子供の頃、なんといっても懐かしいのは「パン菓子・大阪屋」、通称「3丁目」と呼んでいた昭和レトロな駄菓子屋。メンコ、ビー玉、書き石、ラムネ菓子、癩癩玉（1ヶ50銭）、線香花火、一袋5円の「渡辺ジュースの素」、おまけ付きグリコ、そして、奥には子供たちのダイニングルーム「お好み焼きコーナー」1枚10円也、自分で焼きながら豚肉の細切れを探し当てては喜んでいました。ちなみに角の「一八うどん」価格は素うどん20円、き



スギビル南口とオオカンザクラ並木



都市景観協定地区のサインボードと裏向きのデジタルサイネージ（ナディアパーク東北入口）



一八本店の緑のプランター。明治2年の創業から現在地で営業とのこと



グラスステイ公開空地。白川通り側の花屋町の面影を残す緑地帯

しめん25円也と記憶しています。

(2013・10・24)

路地裏物語

住吉町界隈の各ブロックには昔から路地裏通りがあり、繁盛する小型飲食店が賑やかに軒を並べています。歩いて楽しいシークレット・スポットを探検してみたいかがでしょうか？

住吉1丁目東(栄3―2)の**栄銀座**。手作り餃子で有名な「夜来香^{いらいしやん}」は昭和30年に小縣新一郎創業とのこと。正雄はおばあちゃまのシゲさんからも搾菜^{ざいさい}など特別サービスいたただき感謝いたしております。季節料理「八幡屋」、つい最近まで「とんかつ八千代」中店と広小路から30メートル南の銀座裏通りは毎晩、酔客で賑わっています。2年前に、ダイエー跡地にキング観光の大型パチンコ店工事で南側店舗壁面をツツカイ棒^{つつかいぼう}で補強、今度は丸善ビル建て替え工事のため建築仮柵で包围中。早く昔の栄銀座の景観に戻ることを願っています。

住吉2丁目西(栄3―10)の**住吉小路**。メーフラワービル南の路地にあつた欧州ビストロ「コリーズ」、飲み屋の「鳴子」、いつのまにやら転出とは寂しい限り！名古屋コーチンやきとり「万亀」、居酒屋「城」、小路南の「らくや」、寿司「豊年」、懐かしいお店が頑張っています。そして、メーフラワービルもオープンな間取りでビル内路地裏となつてお

り、「世界の山ちゃん」がここからスタートしたのはご存知でしょうか？

住吉2丁目東(栄3―9)には謎の路地裏「**B1ストリート**」。料亭蔦茂東のグラウンドビルから北側の明星ビルの地下一階がトンネルで繋がり小型カウンターバーを中心にストリートを形成しております。昭和40年代まで明星ビルにはキャバレー「明星」と「ルナパーク」の2軒、そしてガーランドホテル敷地には路地があり、コタケ美容室や喫茶店などがありました。

南呉服町2丁目東から伊勢町への路地(栄3―8)。最近まで「**むつみ小路**」という看板がありました。現在は見当たりません。最近ではファッションヘルスの看板が気になります。うなぎ「いば昇」、カウンター洋食店「キッチンゲラン」は超老舗、ランチタイムは満席の繁盛ぶり。呉服町側の入り口には、北から西村薬局、鈴木海苔店、肉の杉本分店、伊勢町側には理容店セントラル、うどん・そばの名店、そして、中央部北(現・バラカ駐車場)には名古屋で初めてのゴルフ練習場があつたの思い出されます。

むつみ小路中央部の南、エスアイ栄ビルの1階はサンリツビルと連結しており路地を形成。2つのビル境界では名妓連かつ子・千代江の「なごやか」が人気店で、芸どころ名古屋のPRに活躍しています。

スカイル(栄3―4)の南には「**日活小路**」が現存。昔の映画館前の丸正は酒蔵館となりましたが、ユニークなお店が軒を並べています。入り口の丸八証券ビルはJプロジェクトが買収、居酒屋「新九栄本店」が繁昌しています。

日活の南、証券ブロック(栄3―7)にも路地がありますが、現在は飲食店が少なく



栄銀座通り



栄銀座のアーチ



住吉小路の看板



B1ストリートにある明星ビル

り金融関連の店舗と混在しています。

また、今はなき路地を2つ紹介しましょう。丸栄南館（栄3-3）跡地には向えの名古屋松竹劇場（のちの松竹ピカデリー）にちなんだ**松竹小路**がありました。入り口には老舗「伍味酉」が陣取り、奥には関取OBの「金鯰山」が懐かしい。そして、現東急インの西（栄1-1）、広小路劇場は洋画専門で、路地には鏡張りの喫茶「CA」、貴金属「ヤマダ」など洒落たお店が軒を並べていました。裏道はスギモト本店周辺で本町通りにつながっていました。

戦後の映画館ブームとともに路地裏繁華街が形成されました。広小路を挟んで北側（錦3-24）、東映（現・サンシャインサカエ）東には錦通りと広小路にわたるアーケードのような大型路地街に有名店が繁昌しておりました。この地域に賑わい復活のためシネマコンプレックスが出現することを期待しております。

（2013・10・24）

栄の路地「むつみ小路」が袋小路に危機一髪！

栄の路地では最も歴史と文化を誇る飲食街「むつみ小路」をご存知ですか？

丸栄南、プリンセス大通り、南呉服町繁華街と南伊勢町証券街を結ぶ50軒余りの東西の飲み屋ストリートです。大東亜戦争直後の区画整理から地元の店舗が共同して通路の土地を供出、私道の両側にびっしりと小料理屋・寿司屋・天ぷらや・洋食堂・うなぎ屋・うど

ん屋・バー・クラブ・床屋などが林立しておりました。そして、地域住民が利用する生活道路として人通りの多い路地といえます。

そこに、南伊勢町地区を再開発する平和不動産が路地北に「名古屋平和ビル」を平成16年竣工、南側も買収して丸善ビルの建設が平成25年秋に着工され、工事のためむつみ小路が一時閉鎖されました。今春、地元への説明もなくビル完成後も封鎖することが発覚し、小路の飲食店は営業上死活問題でもあり地域で大騒動となりました。むつみ小路が行き止まり「袋小路」となってしまうと、治安防災上の状況変化も解決しなくてはなりません。

私道として供出された小路の北と南の土地も平和不動産の所有となり、容積率・環境アセスメントなど私権上の要請、そして「歩いて楽しい栄ミナミ」の街づくりグループとの調整が大いなる課題となりました。調べれば、平成25年9月13日の大規模小売店舗立地法の届け出は封鎖を条件に提出されていたようですが、2回の地元事前説明会では封鎖予定の報告なく大混乱！

大規模小売店舗立地審議会への要請、平和不動産トップへの依頼、名古屋市民経済局との調整、市長への要望書、弁護士のお知らせなど栄ミナミの同志パワー炸裂！お蔭で名古屋市当局と平和不動産の英断で4月28日の丸善オープン後、5月13日に封鎖解除され、無事元の「当たり前前小路」に復帰いたしました。

昭和37年のむつみ小路地図から捜しますと、現存する店は2店舗のみ。「キッチンゲラン」は当時バー・ゲランから洋食堂に転じたばかり、現在もバーカウンターが残っています。ハンバーグのデミグラスソースは本格老舗の味です。むつみ小路発展会会長として地域



南呉服町1丁目の松竹小路入口の元伍味酉（昭和30年代当時、現在は丸栄南館）



丸善ビルからむつみ小路への通路



昭和37年頃の店舗マップ（名古屋タイムズより）

を取りまとめ、毎朝、愛犬と散歩される素敵なファミリーです。

もう一軒は、「いば昇」。井戸水でうなぎを3日ほど筑で生けて調理、辛めのためかりっとした焼き方「チンチンの熱い井」が名物です。

以前、両店の間に「小春亭」があり、繁盛しておりました。女将は踊りの名人で西川流あやめ師匠とともに名妓連の指導もされる粹人。お母さんのおでんの味が懐かしく、その後鶴舞に移転されましたが、しばしばモリシマのスタッフと飲みに出かけた思い出がございます。お嬢さんの村瀬真理子さんは日本舞踊を愛され、プリンセルガーデンホテル東となり割烹「月」のママとしても大活躍、地域の仲間たちがお世話になっております。

表通りに面した建設中の山田時計店は、元東海銀行本店向えの広小路劇場西隣から移転する前です。時計宝石店から多湖不動産をへて、現在は「牛井すき家」。西村薬局の息子で栄小学校同級生の西村雄司くんは女の子をからかうのが大好きで、2階が住居の便利なドラッグストア。

最近まで多湖不動産営業所でしたが、今は関連の不動産「アクセス」として地元テナント情報を集約される便利な仲介業者といえます。隣は幼稚園からのやんちゃ坊主でお友達の鈴木正徳君くんの海苔間屋で、漫画雑誌『冒険王』が大好きでいつも見せてくれました。

正徳くんは小学校4年の時に飛鳥村に転出、翌年の伊勢湾台風では命からがら生き延びたといっていました。また筏川観光釣りのオーナーでもあり、村の発展に寄与。海部ロータリークラブ会長職も歴任、素晴らしいボランティア活動もされています。その後、「^{しばらく}暫」という粋な割烹店でしたが、今は「浪花ひとくち餃子・チャオチャオ」として繁昌

しているようです。

小路の南は「お肉の杉本&タバコ店」。明治33年創業の杉本食肉産業のご親戚筋で、テナントビルとなり、一階は国際色豊かなトルコ料理店「I am Istanbul」が入居されています。

伊勢町側の丸善ビル跡地、角に証券マンでござったがえすそば店「やぶ彦」、気軽な相場情報交換所の理髪店「セントラル」が繁昌しておりました。ここは、深田家三代の行きつけの床屋さん。豊証券の創業者・伊藤さんは大の錦鯉マニアで、いつも父と鯉談義で花を咲かせていました。その後、万代証券や名坂証券を吸収して、地場証券の雄として地域活性化にご尽力いただいております。

サンリツビル1階は、現在も三蔵通りと繋がる飲食街となっています。そして、中央の割烹料理「白菊」やバー「鹿鳴館」も話題の店として多くの金融マンが^{ひいき}最賃にしていたようです。

数年前まで北側にファッションヘルス店が数店並び、客引きも往来して異様な雰囲気でしたが、現在は若い飲食業者が新しいコンセプトで頑張っています。チケットを購入して参加店をハシゴしていく食べ歩き・飲み歩きイベントのサカエミナミバルには「熟成肉&ワイン・みんなのステーキ栄店」「みんなのエビバル店」も参加し新しい息吹を感じさせています。



むつみ小路南側のいば昇、キッチンケラン



プリンセス大通りからのぞむむつみ小路



むつみ小路北の新しい飲食店。ファッションヘルスから変身

名門路地街「松竹小路」と懐かしのトリオカレー！

戦後、栄で一番初めにできた小路。名古屋松竹劇場の向えに飲食店が約30店舗勢揃い、軒を並べていました。昭和50年代に丸栄による開発が進みお店は全て近隣に移転、59年には増築された丸栄南新館としてオープン、現在は駐車場出入口となっております。

松竹小路の入り口には名古屋居酒屋の元祖「伍味酉」、創業者・佐藤桂一の趣味から数々の骨董品が飾られ、グロテスクなお面や彫刻で人目を引いていました。2代目オーナーの佐藤嘉晃は「栄中部を住み良くする会」会長として、昭和60年から平成16年まで栄ミナミの街づくりリーダーとして尽力されました。長女のご主人の渡邊正数テイスト代表が多店舗展開されています。次女の女婿・稲本健一さんはゼットンゼットンの創業社長です。

隣、貴金属・宝石卸「柏圭商店」は加藤日出雄が昭和3年に創業して戦後はここからスタート。丸栄百貨店の宝飾部を担当され、その後、南の富士フィルム代理店の榎村名古屋支店を取得、平成11年には新組織「カシケイ」となり、全国規模のダイヤモンド卸として発展されております。

蛇の目寿司本店も数ある蛇の目グループの元祖？ 南の入江町通り「かしわ鳥栄」の西で数年前まで営業されていましたが、今は開発中の空地となっております。

突き当り大型店は割烹「金鯨山」、昭和19年1月まで角界で幕下23枚目の金鯨山きんしょうやまが戦後いち早くオープンして大繁盛されていました。お嬢さんの吉田さんは南山中・高卒の美人才媛で、横綱大鵬関の花嫁候補と街で噂されていました。開発で東新町に移転され、10年

くらい前までお嬢さんが経営されていました。暖簾分けで安田通りの「とんかつ・金鯨山」、四日市で「洋食・金鯨山」が頑張っています。

小路の南の富士屋、仁志河は住吉2丁目（栄3-10-7&8）に移転され、お隣同士ふぐ料理で繁昌されています。赤門美容室も名門で、いつも飲食店のママたちで盛況、多くのお弟子さんが市内で赤門の名前で事業を展開されているようです。

なんといつても思い出深いのは「トリオのカレー」。シヤビシヤビの黄色、味の強い独特のカレーが一世を風靡しました。10坪ぐらいのお店に連日1000食をサービス、高校帰りの正雄らはいつもならんで当時シングル70円のカレーをおやつ代わりに頂いていました。お肉など具はなくカップライスの横にルー・スープカレーの単一メニュー。でも、食べると「病みつき」になりリピート客で大賑わいでした。

くらぶ亭グループの森川さんのお店で、喫茶店のメニューとして店長に開発させたら大ヒット。大量の玉葱たまねぎをミジンカット炒め、SBカレー粉を使用くらいまでは記憶がありません。

昨年、NHK教育テレビ『感涙！ よみがえりマイスター』でトリオ伝説のカレーを復元しようとの企画、味を覚えている数少ない市民として番組制作のお手伝いをしました。「もう一度食べたい、亡き父の伝説のカレー」として1時間の特集が生まれ、何度も再放送されて全国の話題となりました。この番組にはトリオの味を復活する生き証人として正雄と新聞店の菅井隆光さんが出演しております。撮影時は森川春男さんがお住まいになっていましたが、今はご不在でちょっと気になります。



丸栄百貨店南館出入口とワリンセス大通り（松竹小路跡地）



松竹小路と栄銀座店舗地図（名古屋なつかしの商店街より）

丸栄の再開発にともない店舗は伏見（栄2―2―36）に移転、昭和末期まで営業されてきました。閉店時のメニューではシングルカレー1280円、漬物はいつも紅シヨウガ！福神漬やラッキョウはサービスされず、なぜかと聞いたら「コストが違うからね」、なるほど納得した次第。現在でも調理場は現存しておりデツカイ鍋、すり減ったまないた組板、シヤモジ、看板など文化遺産として登録して欲しいと願う中高年は多いと思います。

また、昭和21年に開館した名古屋松竹劇場の柿落としては市川雷蔵主演『鯉名の銀平』。38年の新装オープンには倍賞千恵子も駆けつけ隆盛も、45年に閉館。その後、ダイエー栄店を経て、現在はパチンコキング観光のサウザンド栄住吉店と変遷しております。

（2015・10・26）

栄小路「栄銀座」には八幡屋、夜来香が健在です！

昭和30年代、名古屋松竹劇場北の「栄銀座」を語っていききたいと思います。

昭和37年頃、北側は明治屋、丸善ビル、とんかつ八千代中店、栄郵便局、南には飲食店16店と住吉ホテルが並び、市内で最も賑やかな南呉服町と住吉通りを結ぶ東西90メートルに有名店がそろっていました。毎晩、新内流しの三味線や歌謡曲のギター弾き語りが飲み屋から聞こえてきました。

現存する2軒のうち、清酒『菊正宗』の看板が相應しい、もともと年季の入っていると思われる「八幡屋」の暖簾のれんをくぐります。小料理屋のようでありながら、ざつくばらんな

2代目と思われる御夫婦といつもの常連で楽しい様子で繁昌しています。季節感のあるお通しはおいしいし、お造りは目利きのよさを感じられうれしくなります。店もしみじみと観察すると造りのよさが60年の歴史を感じさせるいい店です。本格料理なのでチョットお値段が張りますので、ご理解ください。

もう一軒は小縣新一郎が昭和30年に創業した手作り餃子で有名な「夜来香」。事業家で名古屋駅前の中経ビル、刈谷駅前、今池、大曾根に新店オープン、38年には生産部を独立してセントラルキッチン萬寿食品を設立、住吉町に和食「うな甚」、中日スタジアム売店と幅広い展開をされていました。現在は栄銀座「バーハワイ航路」跡地がニュー夜来香となり2店舗に集約されています。

正雄は子供の頃からお店が忙しくまかない賄が作れないときなど水商売のチビッ子達と週に一度はお世話になり、夜来香の薄皮ギョーザはいわば「おふくろの味」として今も親しんでおります。トリオのカレー、ヨコイのスパゲッティと共に正雄らの栄三大B級グルメでした。水商売のお店が立て込んでお家に帰れない子供たちは松竹映画館で時間つぶし、もちろん切符代は払った記憶がございません。

名物といえは「とんかつ八千代中店」、とっても大きな店舗で宴会でも賑わっていました。本店と共にいつのまにやら閉店、その後東急鮫バスの永沼憲男さんの粋な計らいで丸の内東急イン「レストランオルカ」にコックが移り、懐かしい八千代風味のサクッとジューシーなヒレカツや牛スジ・デミグラスソースを楽しんでいましたが、ここもホテル閉店、建物も解体中！子供の頃に感激したカキフライのタルタルソースの味が忘れられません。



栄2丁目に移転後のトリオヤ
レー店（現在は閉店）



現在の季節料理八幡屋と餃子
なら夜来香



プリンセス通り側の立て看板
にはとんかつ八千代中店の名
前も残っています

現在は中村区稲葉地に「名代とんかつ 八千代 味清」として、板さんの2代目・高杉満さんが伝統の味を承継されているとのこと。

気さくなマスター「スコッチバー・くら」は高校生の正雄らも気軽に一杯飲める店として、不良学生がたむろしていました。

住吉側には名古屋栄郵便局、平成7年作成の舗道の陶板にはなんと「10万円切手」、バブル崩壊あとのハイパインフレを局長が予見したのではないかと思われます。郵便局の2階ホールは街の展示会場、昨年は正雄が会長している東海高校OB会の写真展を一カ月間開催させていただきました。土日は閉館ですが、栄の一等地でなんと無料開放ですので興味ある方は米田敦哉局長までご連絡ください。

住吉ホテルは南洋を思わせる棕櫚しゅうろの木が玄関庭にある洒落た都市ホテルの先駆けです。布団に足のあるベッド、便所と風呂が一体化しているバスルーム、陶器の風呂桶にも足がついていました。正雄はビックリ！ その後にアメリカ村の家庭で拝見した『アイ・ラブ・ルーシー』の世界と感動の連続でした。

古川為三郎が経営する「住吉パチンコ」は当時市内ナンバーワンの大型店舗で、陶板には花札やジャンケンモチーフにギャンブル場の面影が残っています。

現在の栄銀座は丸善ビル解体に伴い跡地が平地大型駐車場となり、南側だけの飲食街となり、昔の小路の面影は薄くなっています。

(2015・11・24)

日活映画館の「栄楽天地」と広小路劇場小路！

南大津通りと日活劇場を結ぶ地域最大？ の路地「栄楽天地」（現・栄NOVA周辺）を調査しました。実は住吉町の料亭蔦茂からチョット離れて通学路でもなかったので、正雄の思い出は日活劇場周辺に無数の飲食店があり、南伊勢町の証券マンで賑わい、流しのギターギターの音色がいつも聞こえていたことくらいしか記憶にない状態です。

昭和27年10月7日付けの「名古屋タイムズ」によれば、栄町角のオリエンタルビル建設予定地から西へ17丁の広小路を構成する店舗数調査があります。第1位・喫茶食堂55店、第2位・化粧品洋品雑貨28店、第3位・銀行信託保険25店、第4位・菓子食料品店21店、第5位・事務所19店、第6位・呉服14店、第7位は2業種、靴履物・パチンコ各12店、第9位・時計メガネ11店、第10位・機械器具10店。そして、大小百貨店8店、写真屋・生花果物店各7店、運動具釣具5店、ホテル旅館・日用雑貨・文具各4店、映画・薬局各3店、書籍2店、ほかに新聞・麻雀・タクシー各1店あつてしめて257店です。そして、南側大小の路地には数百店の居酒屋や飲み屋街があり、栄楽天地・日活南の小路（南小路を含む）にも小型の飲み屋を中心に58店舗がひしめき、軒を並べて賑わっていました。

正雄の知っている日活南の飲食店「食堂丸庄」は、1年後輩の森朴繁樹くんのお店で今は酒蔵館となっています。現在、嬉しいのは栄NOVAの西側に通路ができ、小路との往来が自由にできることが街の活気づくりに役立っています。

斜め向かいの「食堂鳥栄」は数年前まで西の入江町筋に鉄筋4階建ての大型店舗で、ア



陶板：10万円切手



陶板：ジャンケン



陶板：花札



小型の飲み屋を中心に58店舗がひしめき軒を並べていました（名古屋なつかしの商店街）より



NOVA西の路地。右は元丸庄、現・酒蔵館

ツアツの鳥唐揚げの元祖で大繁盛店。舶来物も多い個性豊かな調度品や絵画も話題でしたが、いつのまにか青空駐車となってしまいました。

明治時代に初めて名古屋証券取引所が開設されたところは戦後に丸万証券（現・東海東京証券）となり、現在はトーション本社ビルの建設工事が進捗しています。

入江町から南にも路地がつながり、北角西には昭和19年設立の寿証券、東側は大正11年創業のヒノデ写真館ビル、南小路奥には手形割引金融業の栄産業、近年業態を変えた大徳証券が現存する4店舗です。

また西に2ブロック、本町と広小路角に面した広小路劇場の路地の入り口にあった焼肉「雅城園」は白川幼稚園からの同級生・山内一くんがいましたので、よく遊びに行きました。雅城園も最近まで岡谷鋼機の南にある宝第一ビル地下で営業されていましたが、どこかに移転され劇場小路にあった店は皆無となりました。

劇場の西側にはお洒落なお店が勢揃いで、特に喫茶「CA」は壁面総ガラスでカッコいいカウンター、本格コーヒートの香いっぱいでした。スツールが高く子供の正雄は足がつかずフラフラさせながら、進駐軍の真っ黒なドリンク『Coca Cola』の味を知った次第です。今は第一生命ビルとなり面影もない状況です。そして、綿織物大手卸の岡田商店、本町を挟んで戦災で焼け残ったグンゼ総代理店の八木文ビルも懐かしい思い出のお店です。

表通りで頑張っているのは「杉本精肉店」で、スギモト本店として現在は1階が精肉小売、2階が松阪肉高級レストランとして市民に愛されています。

(2016・1・24)

路地裏変遷

平成31年3月、名古屋都市センターから「名古屋都心における路地的空間の形成可能性の基礎研究」（調査課・中島壮太郎）という名のユニークな研究報告書が発表されましたので、そちらを引用しつつ栄の魅力向上の要素として戦後の変遷を紹介してまいります。

栄3丁目―1番街区①

戦災で丸焼けになりましたが、広小路西「吉田ビル」と東角の「富国生命ビル」は鉄筋だったため外部や躯体が残り、その間に広小路劇場がオープン。劇場周辺が大きな路地を形成して「本町バザー」と呼んでおりました。

路地内には劇場前広場が形成され、釣り堀や露店街としても親しまれておりました。オシャレなカウンターと壁面鏡張り「喫茶CA」、舶来品カメラ「もみじや」、広小路キャンデーストアなど進駐軍文化を感じさせるアーケードも西の本町通りにつながっておりました。富国生命跡地は赤玉パチンコ、キャバレー赤玉会館と山田泰吉の戦後創業の地といえます。

栄3丁目2番「栄銀座」②

終戦後に建物が建てられ路地が形成されたようで「栄小路」とよばれ、幅員2〜3メートル直線型、延長89メートル、当時からあるお店は中華料理「夜来香」のみとなりました。北側の丸善は平成24年閉店、現在はコインパーキングとなり路地がオープン通りとなりました。路地全体が7筆の土地で共同所有もあり、土地の所有者は37名、建物の



北小路入り口。左がトーション本社（工事中）、明治時代は名古屋証券取引所



南小路奥の栄産業、大徳証券



栄3丁目1―10番地（昭和34年）路地地図

所有者は21名となっています。西南角の住吉ホテル、とんかつ八千代中店が有名でした。割烹八幡屋は一昨年まで営業されていました。

丸善と明治屋はダイテックが取得後に取り壊し、最高級ホテル「リッツカールトン」が進出とのこと。南の路地・栄小路との調和と融合がいかになるか楽しみです。

栄3丁目3番「松竹小路」③

向かいの栄銀座南に名古屋松竹劇場があったので名付けられました。全てが飲食店、コの字型小路。

入り口の伍味西、トリオカレー、金鯱山など思い出深い名店が並んでいましたが、昭和59年の丸栄南館建設に伴いなくなっていました。

栄3丁目4番「日活小路」④

日活映画劇場南の小路のみ現存。幅員約4メートル、延長668メートルの「L字型」が残っています。かつては栄NOVAのところに「栄楽天地」路地が2本、南大津通に通じた飲み屋街で多くの証券マンで賑わっていました。

栄3丁目7番⑦

名前はなく、奥に空き地が多いため酔客の放尿場所、地元の子供は「小便小路」と呼んでおりました。

ヒノデ写真館から南に幅2.5〜4メートル、約80メートルのT字型路地で手形割引、個人金融（サラ金）、才取業など小規模でチョット怖そうな業態が多く、飲食店はあまり見当たりませんでした。

栄3丁目8番「むつみ小路」⑧

戦前から現存する栄地区最大の路地。幅3〜4メートル、約135メートル、Y字型の路地です。全体が12筆にまたがって、西側は5号道路指定であり、東側は平和不動産の非道路となっています。

むつみ小路には商店発展会があり、戦後60年以上の歴史となる「キッチンゲラン」が会長、うなぎの「いば昇」の親父が副会長で街づくりに熱心なようです。

最近では、将棋の藤井聡太七段が腕を鍛えた「板谷将棋記念室」が路地の突き当りにあり話題です。名古屋ゆかりの棋士・板谷進九段の馴染みの居酒屋が隣接しています。

栄3丁目9番「地下小路？」⑨

ちよつと特殊な形態で、入江町に面する「明星ビル」（かつてのキャバレー明星）地下1階の飲み屋街がなんと！三蔵通りにある「グランドビル」と地下でつながっています。是非、住吉での飲み歩きの時に探検してみてください。

栄3丁目10番「住吉小路」⑩

地区最小の路地。幅員1.5メートル、奥行29メートルの直線型で現在は3軒のお店が営業中。奥から2軒目の「やきとり万亀」は超人気で、名古屋コーチン焼き鳥の有名店です。いつも満席です。

地権者は上田土地の1社のみで、将来は北側の同社所有のメーフラワービルとともに再開発が期待されます。上田浩嗣社長は住吉町商店街の会長として地域の街づくりに貢献されています。



栄小路看板。奥が丸善跡地と明治屋ビル



路地の元八幡屋跡地、現存する中華・夜来香



日活小路の突き当りに日活映画館がありました



ヒノデ写真館より「小便小路」をのぞむ



むつみ小路南側のいば昇、キッチンゲランが山岳会館と板谷将棋記念室に



謎の地下小路。明星ビルから突き当りグランドビル地下の飲食街通路

思い出の 旧町名編

戦前、この地区は碁盤割の町づくりの南端広小路以南で、道幅は3間（5・4メートル）、地域全体が入り組んだ路地空間であったようです。

入江町通りも三蔵通りも住吉以东はつながっておらず、道路が狭く袋小路のような地域でしたが、明治19年、南伊勢町に名古屋証券取引所が開設され金融街ができたことが発展の大きなきっかけとなりました。終戦の翌年、昭和21年に松竹映画ほか各ブロックに映画館がオープン、そして栄2丁目にあった進駐軍のアメリカ村の影響で欧米風俗イッパイの斬新な遊興店が林立して発展してきました。

戦災で丸焼けとなり、全て焼失した栄に都市復興計画で碁盤割を基本に広い道路空間が計画され、地域住民の土地の供出が実施されました。しかし、栄住吉地区の各ブロックにはすべて路地空間が残り、広小路屋台とともに独特な飲み屋文化を醸成していました。地権者、建物所有者、路地道など複雑に権利関係が入り組み反社会勢力の温床となったことでもあります。地元住民の努力で環境浄化が進み、健全な飲食街に変わっています。

周辺の再開発にともない今後の対応が課題となりますが、下町の界隈性を活かした情緒ある路地飲食街が発展することを楽しみにしております。

(2019・8・24)



住吉小路の北側が一世を風靡した「キャバレー・メーフラワー」のあったメーフラワービル



ユニークな研究報告書「名古屋都市における路地的空間の形成可能性の基礎研究」

名古屋の旧町名を復活させる有志の会

料亭葛茂の住所は栄3-9-27、何ともロマンも粋も文化も感じさせません。昭和41年の町名変更までは住吉町2丁目26番地、長年にわたり繁華街の中心「住吉」といえば料亭の並ぶ花街のイメージが昔の人々には想像できました。それでも町内会の名称とアーチ灯や通りの名前には住吉名が残っているのが救いともいえました。

正雄の所属している名古屋中ロータークラブの例会卓話で、知人の北見式賃金研究所の北見昌朗さんが江戸中期、宝暦12（1762）年の名古屋地図を配布しながら旧町名から清州越えの逸話など興味あるお話をされました。北見さんは明治時代の地図と著名人のエピソード、そして大正時代のマップを自費出版され、ボランティア魂豊かに地域の歴史について啓蒙活動を実施されております。

「名古屋の昔の町名が失われて久しいです。例えば、長者町とか、茶屋町とか、御園町とか、素晴らしい歴史のある由緒ある地名がなくなってしまったことは、名古屋人にとって寂しいことです。地名は、歴史そのものだからです。その地名を消してしまうことは、歴史そのものの喪失と同じです。昔の由緒ある地名を復活させたい、そう思っている人は多いはずです」

このお話に共鳴したのがキツカケとなり、北見さんに代表となっていただき、正雄が世話人となり平成24年春に「名古屋の旧町名を復活させる有志の会」を発足しました。そして、大村光子議員（減税日本）が平成24年3月7日の名古屋市議会で旧町名の復活を求め

て個人質問を行い、歴史好きな河村たかし市長の賛同を受け、毎月の例会で旧町名の認知啓蒙活動を目的に勉強会をしながら、由緒の情報発信や金沢市など町名復活の事例研究などを継続しております。

町名を変更するには、住民や事業者など関係者の理解と協力が必要です。まず地元住民の方々の機運が盛り上がり、その上で主体的な合意形成に至ることが大切です。そのためには、若い世代に名古屋の歴史や地名の由来に興味をもっていただき、旧町名使用のメリットを感じていただくこと、そして祭りやイベント、町内会などで地域の特性・個性と近世名古屋の歴史や文化を知っていただかなくはなりません。

（2013・4・24）

富沢町4丁目・住吉1-2丁目の思い出

昭和31年の経済白書には「もはや戦後ではない」とまで記され、戦後復興の完了が宣言されました。戦後12年を経た神武景気の頃の下七間町界隈の繁盛ぶりを紹介してまいりましょう。正雄の小学校3年当時の思い出いっぱいの地名・店名に興奮しております。

大正の頃、豊田佐吉が通った料亭「花月」は蒲焼町南、富沢町4丁目にあったといわれています。西側の現在三菱UFJ銀行名古屋営業部駐車場あたりは、食品問屋大手の梅沢商店があり、キリンビールや麺類の木箱がイッパイありました。正雄らは「かくれんぼ」陣地、「ポコペンポコペン、だーれが突っついた……」と鬼ごっこ、缶蹴り遊びで日の



第12回例会は昭和7年建築の陶磁器会館のホールで河村たかし名古屋市長をお迎えし37名の出席者で盛り上がりました



名古屋の大正時代の古地図（北見昌朗さんより）。栄のど真ん中、松坂屋のルーツ「いとつ呉服店」が栄の交差点（現丸栄スカイル）にあります

暮れるまで時を過ごしておりました。

お向えの倉庫のお洒落な「50円サントリーバー」がカウンターバーの嚆矢としてオープンしました。借楽亭など食堂や喫茶店、バーの南にパチンコ・フジは赤玉会館とならぶ老舗として現在はサウナも併設し賑わっています。隣接するオクムラ写真館、現在は5代目館主の奥村喜一郎が地区唯一の写真館として創業以来100余年営業されております。

広小路西角には高級家具・高麗屋ビル建設前のアーケードがあり、現在は呉服の市松のみが残っています。

広小路から南は住吉町1丁目、焼け残った富国生命ビルの上階は廃墟となり、鳩やカラス、蝙蝠（コウモリ）の巣窟でちよつと気味悪く子供達も近寄りませんでした。1階は赤玉パチンコ、地階はキャバレー赤玉と山田泰吉の中部観光グループの礎で、後の東急グループへの承継となった永沼憲男さんもここからスタート。

昭和36年10月に泰吉が東京・赤坂に「東洋最大級」と謳われたレビューキャバレー「ミカド」を開業させたものの下手な経営管理が災いしてか、39年の東京オリンピック開幕を待たずしてミカドの運営は破綻し施設も閉鎖しました。これに連鎖して中部観光グループも経営が行き詰まり、ちよつと東名高速道路の開通を見据えて名古屋進出を目論んでいた東急電鉄に昭和40年4月買収されました。

南の「バー三姉妹」は地元の邦人相手の最初のクラブと言われ、先般50周年を迎えた「なつめ」オーナーマダム有加瀬文恵さんがデビューしたお店です。バー・タイガーは大喜ビル、三越食堂はイデックス・IDデイスコと姿を変えています。そして、南角にはキャバ

レー女の城、サロン赤い靴と進駐軍のアメリカ兵隊さんと共に名古屋人が一緒に享受していたようです。

東側には今も残る栄町郵便局、栄銀座の路地を挟んでフルタメが買収した住吉ホテル、タバコ屋のよねちゃん、茶道具の長宜堂、南角にはうなぎ割烹「うお興」、山田静雄先生の新々薬局は日用品のデイスカウトでは名古屋で最初ではないでしょうか？

界隈に多くあったのがタクシーの操車場。住吉1丁目には丸八タクシー、2丁目には朝日タクシー、鉄砲町2丁目には東和タクシーが外車とトヨタクラウンを並べていたようです。

住吉2丁目東は割烹・料亭街、北から料理・千代富久、かしわ香楽、うどん割烹戸田屋、ふぐ料理灘屋、おでん「くに平」、割烹住吉、タチソウ、旅荘富月、榎本マツサージ、そして料亭蔦茂と三業者の大型店が軒を並べていました。

西は文具卸・菊花堂から高級バー「シロー」ほか飲食店が軒を並べ、大型キャバレーメイフラワー、ゴールデンナイトは泰吉の実弟・山田久太さんの経営で何度も火事騒ぎがありました。建物は現存し、現在は上田土地が管理されています。

住吉小路を挟んで、寿司の豊年、南角には住吉薬局がご夫妻で住み込み営業されています。三蔵通り沿いには靴卸の近藤産業、中日新聞や中部経済新聞などを扱う菅井新聞店が懐かしい。菅井さん宅には多くの新聞配達をする中学生が住み込み、同級生の菅井隆光くんと一緒にカウンターでトランプの「婆抜き」やメンコをして遊んでもらいました。

(2013・12・17)



富沢町4丁目から住吉1丁目あたりの北見式地図



昭和33年、蔦茂の新车「クラウン」と母のり子。背景の寿司豊年、キャバレー・メイフラワー、シローや街路樹、「蔦茂」の電柱広告、マツサージ榎本治療院の看板が懐かしい



地元紙を扱う「菅井新聞店」は懐かしい

南呉服町1—2丁目の思い出

昭和58年、鉄鋼業を営む天野鋼鉄（現・プロスチール）が東京第一ホテルの開業指導をえて、プリンセスガーデンホテルをオープン、その時、町内に南呉服町通りの名称をプリンセス大通りに変更して欲しいと要請されました。南呉服町発展会会長の佐藤嘉晃から「アーチや街路灯などの協力を基本条件に通称変更した」と聞いております。その後、オーナー変更にも関わらずホテル名が変わらないのは、通りの名称の効果も大きいようです。松竹小路地南には幼稚園から東海高校まで同期で友人の西脇義訓くんの大きな自宅があり、入り口には番傘が陳列、そして居間にはデッカイパイプもついた立派な木琴が鎮座する音楽一家です。裏庭にはイチジクの大木があり、弟の峰雄くんと一緒に木登りしてイチジクを食べた思い出があります。

実は、ここは120年の歴史がある末広町「西脇」の羅紗販売の闇支店として、統制で服地が表向き商い出来ないで傘屋を装っていた名残と聞いて納得しました。ちなみに正雄が後に経営した同じ通り南300メートルの森島羅紗店は終戦後、表向き竹籠屋であったようです。

そして、パチンコ&スロット「フジ」に買収された数店の飲食店が軒を並べ、お洒落な喫茶店「茶ばしら」は現在スカイパーキング、南角には「河新カマボコ店」と「蝶屋はきもの店」は一年先輩の石田しんちゃんの住まい。できたてのチクワをほおばりながら栄小学校に通学したことが思い出されます。現在は弁護士として活躍中と聞いています。

南のブロックで同じ場所に現存するのは、3軒のみとなりました。現南呉服町発展会会長・加藤貞夫さんの「ふじみや」は名古屋コーチン料理で有名ですが、当時は木炭屋も併設されていました。

他には、西ブロックに移転された「すし・幸楽」も懐かしいお店です。南側には料亭「万代」のビル、地下「クラブよしみ」のママは名妓連の売れっ子OBとして有名。現在は札幌かに本家栄中央店となっています。「アカシヤ洋裁店」は超高級婦人服のオーダーサロンで一世を風靡、母もお世話になったようです。

南呉服町二丁目西北角は「テラー三星」、高級紳士服地『スリースターテックス』を晒谷さんが仕立て、南隣のパン屋「大ます」には貸自転車・手荷物一時預かりの看板、西隣にはお洒落な喫茶「ケルン」、路地を入ると小竹さんの「パーマ丸美」、左枝さんのキャバレー「ルナパーク」は進駐軍撤退後も繁盛していましたが、現在は名古屋ガーランドホテルとなりました。

なんといつても懐かしの銭湯「栄温泉」をご紹介しなくては。「からくり紋々？」のお客もちらほら、「三助」(背中流しのおじさん)がいる栄唯一の公衆浴場として憩いのスポット。でも、正雄はお風呂の湯が熱くていつも「烏の行水」。大型の体重計と番台横のコーヒー牛乳の味が忘れられません。現在はプリンセスパーキング。

南角は当時ナンバーワン高級クラブ「バー・ウインゼル」。稲葉大ママはゴルフ大好き。名古屋ゴルフ倶楽部の戦後チャーターメンバーで、女性ロッカー番号はナンバー1。お嬢さんの真寿美ちゃんは女子プロゴルファーで昭和54年デビュー、80年代に大活躍したこと



広小路南呉服町角の丸善ビルが取り壊され、コインパーキングが開業予定



南呉服町1—2丁目あたりの北見式地図



名古屋コーチン料理で有名な「ふじみや」

をご存知ですか？

正雄より2つ下の真寿美ちゃんは朝寝坊で、集団登校に遅れそうになると正雄はウインゼルの上にある自宅ベルを鳴らして「遅れるよー！」と叫んでいた思い出もあります。30年のちには和合コースではずいぶんしぼられました。ゴルフはちっとも上達しませんでした。

西隣には「バー・クインメリー」、なぜかメイフラワーの山田久太郎さんが居住され、赤いサンダーバードが一階に駐車されていました。提灯卸の平松商店は競輪場外車券販売場「サテライト名古屋」となりました。そして、昭和38年頃完成した「グランドビル」は、名古屋で初めての内装付賃貸レジヤビルとして今でも住吉地区のランドマークとなっています。

(2014・1・26)

名古屋の金融街 「南伊勢町物語」

東京の兜町、大阪の北浜とともに「金融街」といわれた伊勢町について昭和30年代の昔話をいたしましょう。

江戸時代は広小路より南で下級武家屋敷が両側にあったものの町名はなく、明治4年に至って「南伊勢町」を新設、26年末に86番地（現・スカイル南の路地）に取引所が創立され証券会社が軒を並べるようになりました。

正雄の小学生当時の記憶では、労働争議が続き組合の赤旗がひるがえるレトロな名古屋証券取引所ビル、そして重い擦りガラス扉をあけて地下へいくと洒落た居酒屋「ニュートーキョー」、また片側1車線の入江町道路上に跨る立会所建物とガード下のタバコ屋、焼き芋屋、飲み屋屋台の奥にはチョット暗い中小証券店舗が思い出されます。浮浪者が2、3人、雨風をしのいで生活していたようです。

昭和35年当時は地場証券業者の登録は36社あり、うち26店舗が伊勢町に軒を並べておりました。現在、同一敷地では寿・大徳・岡地証券の3店が残り、他は平和ビルに移転した明治から続く老舗の木村証券、そして37年に参入の豊証券の5軒のみが営業する寂しい金融街となってしまいました。また、戦前からの地元リーダーの安藤証券は広小路の丸栄向えで隆々と活躍されております。

三蔵通りの交差点、北東角には玉塚証券の株価記入ボードがあり、折からの庶民の証券大衆化ブームで梯子を掛けてチョークで記入する相場変動に人だかり、一喜一憂するオジサンやオバサンの姿が懐かしく感じられます。玉塚の北には「レストラン・ブギ」、分厚いカツサンドや名物ビーフシチューの味を覚えている方も多いのではないのでしょうか？

南伊勢町は路地裏が賑やか。居酒屋と高利貸し？ が軒を並べ、日活劇場周辺には森朴さん経営の食堂「丸庄」ほか大津通りへの東西に2本、南北に1本の路地裏繁華街に証券マン相手の多くの飲食店がありました。

現在、丸八証券ビルは新田治郎さん率いるジェイプロジェクト本社となり、取引所ガード北は共産党の赤旗から緑の街路樹へと変わった美しい公開空地「セントライズ栄」、入



名古屋証券取引所立会場の外観（昭和30年代）。入江町筋のガードが懐かしい（名古屋証券取引所提供）



南伊勢町あたりの北見式地図



伊勢町取引所ガードから北に並ぶ証券会社。右は日活劇場（名古屋証券取引所提供）

江町通り南は名古屋平和ビル、そしてむつみ小路南の金融マンの常連で繁昌した床屋「セントラル」（親父の佐藤さんは競馬好きで有名）や「やぶそば彦」の跡地には新ビル建設が工事中。

角の丸栄ホテル食堂部から国際フードレストランは名古屋証券取引所となり、三蔵通り西の料亭「河文」の林ファミリー所有の土地は伊勢町平和ビルへとかわりました。地元証券業を支えた平和不動産が都市型デベロッパーとして地域開発に貢献されています。

今の名古屋証券取引所の1階が洋服店「エルメネジルドゼニア」（銭屋）とは語呂合わせでマッチングしますが、西隣サンリツビルの出逢いカフェ「ナナカフェ」やピンクサロン? 「名古屋栄フラン」の風俗店が混在し金融街らしくない困った街の環境浄化が課題です。

(2014・2・26)

大久保見町には紫川が流れておりました

明治5年中須賀町と大久保見町の2つは、鉄砲町と合併して中須賀町は鉄砲町2丁目、大久保見町は鉄砲町3丁目となりました。鉄砲師が住んでいたので鉄砲町、清州の須賀口から移り中須賀町、おおくほみ（大窪み）とは地形が窪んでおり、本町に架かる石橋の下に紫川の流れがありました。

若宮八幡社に唯一現存する「福祿寿車」は延宝4（1676）年に大久保見町が建造し

た山車で、神社東に同町の所有する蔵で戦災による焼失を免れました。焼け残った福祿寿車と「河水車」（住吉町建造）も、昭和22年に出来町に売却され、ついに若宮から山車が消える事態となりました。

しかし、その2年後に若宮八幡社が復興されるとともに、福祿寿車は再び当地に返還されました。そして若宮八幡社の所有となり、祭礼時に氏子8町内（末広町・裏門前町・南大津通り・矢場町・住吉町・鉄砲町・池田瓦町・門前町）が毎年交代で当番をつとめることで運営されています。

旦那衆の面影が残る鉄砲町3丁目のお店を紹介しましょう。

繊維雑貨、羅紗、袋物の百貨店問屋が軒を並べる西ブロックは、ボタンの「脇田商事」、糸商の「川口」、敷物の「伏屋」（息子は正雄と小学校同年の秀才）の本店も今は脇田商事が現存するのみで、味噌煮込みの山本屋本店やコマダコーヒーと様変わりです。

南の大正15年創業の横山商店はリオグループとして平和町に移転。婦人服チェーンやショッピングセンター開発、ゴルフ場と多角経営されています。

小島専蔵商店は現金問屋として発展、「センゾー」の通称、素人歓迎販売で近郊より多くの会員の買物客で週末は大賑わいです。名古屋グリーンカントリークラブを運営され、戦後発展した代表的な全国レベルの問屋として東京で市場を広げられています。

天明元（1781）年に創業し小問物商からスタートした「森本店」の当主は明治時代より名古屋財界の重鎮でもあり、戦前は最初のカタログ通信販売を国内や満州各地で展開されたと聞いております。10年ほど前に一宮の大きな配送センターに移られました。



平和不動産による新ビル群、栄ミナミの新しいイメージインボルの街路灯が新設されています



白川通り・花屋町筋の道路看板、東西が白川通り

「青山紐店」は鉄砲町2丁目の「青山リボン」と同系列で現存。創業明治5年の「服部」は裏手の西角に移転されました。

沢井ネクタイ店は「澤井万」となり、錦2丁目でメンズ中心の繊維問屋としてご兄弟で経営、お嬢さんのゆき子ちゃんも正雄の小学校の同級生です。一緒にアメリカ村探検や3階の自宅で遊んだ思い出があります。何故か隣のビルと屋上で繋がっており、立体的な「かくれんぼ」が楽しかったようです。南角の「沢重」はお向えの東海スポーツにその後、買取されました。

この角地「おおくぼみ」はかつての紫川流域で地形が低く、現在でも大雨が降ると下水処理が追いつかずいつも洪水となっています。

尾張藩士・高力種信の尾張名陽図会から、紫川の石橋を紹介させていただきます。

大久保見町と末広町の間の筋は、現在「白川通り」と名前が変わってしまいましたが、江戸時代は紫川に沿って「花屋町筋」と呼ばれていました。細い道の花屋町は花にゆかりのある人々の町で、安永（1772〜1781）年間、是心軒一露の創始した華道の松月堂古流家元、生花の三省堂、造花店、花卉商人が軒を並べ、南寺町への墓参に町衆が立ち寄りから伏見通りに向かって2メートル以上の高低差があります。

現在の東側はかつての面影はなく、ライオンズマンションや日貿ビル、そしてお洒落なグラスステイ栄の3棟となっていました。地図では羅紗や洋品、糸などの問屋街で、南角の山本さんは錦2丁目に移転、現金問屋「万勝」として繁昌されています。

現社長の山本勝さんは2年年下で、色白の西洋人の風貌でもあり栄小学校では「マーシャル」（かつて中日ドラゴンズに在籍した外人選手）とあだ名で呼ばれていたことが懐かしく思い出されます。また、白川通りに師匠がお住まいであったのか、松月堂の名前が残っているのが嬉しいです。

(2014・4・20)

末広町は門前町として繁栄

末広の由来は、江戸時代大久保見町南の木戸から本町通りの道幅が広く南に末広がりになっていたことや、若宮八幡社の門前に扇屋があったからといわれています。いずれも事実で、35年版地図には東南角から3軒目には「大国屋・扇子店」がございました。

大国屋は住吉2丁目の料亭蔦茂の西に移転されましたが、オリジナル手作り扇店として今も営業され、若宮祭礼の扇子制作などお世話になっております。

末広町は若宮八幡社の門前町として繁栄。若宮祭では各町内のトップを先導し、豪華絢爛な黒船行列は他六町内「山車からくり」と比べランクが違ったそうです。（祖父良矩談）

南寺町は若宮から本町通りを南に続きますが、寺社仏閣の本堂は通りの東は全て南向き、西側は本町通りを起点に東向きに建造、家康の街づくりの原点となっています。

また、戦災で全て焼失した末広町でも現存する鉄筋コンクリートの「佐藤タオル」は炎上を免れ、躯体は当時の面影を残したオル問屋として営業を継続されています。北隣のビ



「尾張名陽図会」紫川大久保見町の石橋



鉄砲町3丁目あたりの北見式地図



末広町で消失を免れた佐藤タオルと北隣のシヨップ



平成26年の若宮祭礼。末広町の当番で山車御渡中の休憩スナップ

ルも焼け残ったようで、「宮吉硝子」の関連かステンドグラスやレンガ彫刻から大正ロマンの香りがいたします。最近まで高級ステークレストラン「白川亭」でしたが、いつのまにかアンティーク衣料のお店になっていました。

(2014・5・26)

末広町3丁目の思い出

庶民の生活も安定し岩戸景気に沸き立つころ、昭和34年4月に皇太子・美智子妃殿下のご婚儀があり、婚礼ブームに伴い若宮八幡社での結婚式が年間数百件挙行されました。披露宴も「蓬萊」、「芋子」から出張料理が提供された若宮会館のみならず、隣接の「旅館八幡」も週末は大盛況であったといわれています。門前では長谷川結納店、大国屋扇子店、森田宝石商、宝飾・花木、人形守田など祝儀関連のお店が軒を並べていました。

なかでも創業昭和10年の「守田」は現在も雛人形や五月人形の大手でもあり、『ダイヤ鯉のぼり』は武将の幟とともに尾張の黄門様・徳川宗春の遊び心を感じさせるオリジナル作品です。正雄宅近くの鶴舞4丁目に配送センターをもち、毎朝、番頭さんが周辺を清掃されている姿に感動しております。

地域内で末広町は別格で、若宮祭礼では常に行列の先頭をひときわ立派な「黒船車」がリードして祭を盛り立てておりました。毎年の5月祭礼の前2日間、夕刻に末広町衆が「買いにおいで」という問屋の露店バーゲンセールが戦前から続き、街の名物となって

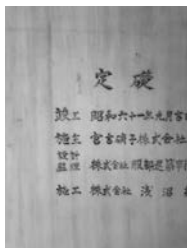
います。また、末広会館というビルを所有して組合事務所と本町通り歴史資料館を3階に、1-2階はテナントを入居させています。近年、会館の北となりにはラーメン「博多一風堂」がオープン、昼時には長蛇の列ができています。

昭和35年当時から3丁目に現存する企業は、東側の不動産の「藤谷商店」、昭和60年頃「聞安塾もうあん」という中学受験用の塾教室を藤谷さんのご家族が3階で運営され、多くの小学生を車で送迎する父母で夕刻から賑わっていました。ビル上階には住居があり、本町通りのマンション以外唯一の住人ではないでしょうか？

南には、大正10年創業の「宮吉硝子」が昭和61年に大型ビルを建築、大阪の現金問屋「根来」に一棟ごと賃貸されています。本社や配送センターは昭和区福江町に移転されましたが、立木彰一社長は若宮祭礼などにも活発に関与されています。

これからは、正雄の記憶から戦後の末広3丁目を紹介してまいります。
小物卸大手の「味噌屋」の公園沿いの店は白川コーポラスに変身。弟の「伊勢ヤ味噌屋」の建物は建築デザイナーの神谷利徳が町屋造りをそのまま残して、なごやめしの元祖、稲本健一が「ゼットン」の1号店として平成7年にオープン、その後のレストラン展開の礎となりました。現在は創作和風居酒屋「オアシス」として、木造建物を生かした営業をされています。

味噌屋、長崎家の先代夫人は宝タクシー企業群の創業者・森重利の実妹で、長男の長崎守利さんは現宝グループ代表として陣頭指揮されています。守利くんは正雄の白川幼稚園、栄小学校、東海中学・高校と2年後輩で、いつも中学への通学の市電で鞆を持ってくれて



宮吉硝子ビルの定礎



守田の本社ビル



末広会館ビルとラーメン「博多一風堂」のお客様の列



末広町3丁目あたりの北見式地図

いました。慶應義塾大相撲部で活躍、気持ち良いスポーツマンでもあり、末広町のマンションにお住まいです。

各地の洋服仕立て（テーラー）に毛織物など洋服地を切売りする羅紗屋も3軒。高取ラシャ「安藤商店」（アンケン羅紗）、トヨタ産業名古屋支店・倉庫と地図に表記されています。アンケンはバブル期に、角地でもあり「坪1000万で土地売却」と話題になり、ツルヤ靴店から現在は出版事業やウェブサイト運営を全国レベルで展開する「ワークスジャパン」となっています。

宮吉硝子の南、御幸毛織の総代理店・トヨタ産業は大阪本社に業務を集中して同地を名古屋服地卸商協同組合に譲渡、正雄が副理事長のときにヘラルドグループの古川為之さんの古川ビルに売却いたしました。

南角地はヘラルドグループのレジヤセンターとしてボーリング場や映画館をはじめヴィレッジヴァンガードの出店もあり、大いににぎわっておりました。ヘラルドグループの事業整理にともない、同地は運送会社を経由して東建グループに転売され、「栄タワーヒルズ」の名称で高層高級マンション建設予定とのことですが、数年空地で放置されているのが気にかかります。

また、婚礼や展示会で長年親しんだ若宮会館も現在解体中。平成27年春「若宮の杜・迎賓館」として名古屋観光ホテルの運営でオープン予定とのこと、どんどん変化する末広町です。

(2014・7・26)

下町情緒感ずる住吉町3丁目

料亭やキャバレーが立ち並ぶ住吉通りの南は名古屋庶民文化の集約地のようで、芸事の師匠、旅館、料理店ほか魚屋、八百屋、パン屋、カメラ屋、饅頭屋、駄菓子屋、文房具店、喫茶店など店舗兼住宅が多く、映画『三丁目の夕日』のような人間味あふれる町です。三業者の下町・住吉3丁目をご紹介します。

通り西側3丁目1番地はパン屋の「川本」ですが、ビル建設が始まった昭和36年に飲食雑居テナント「塩谷ビル」が完成。居酒屋・バーが中心でしたが、「スパゲッティ・ハウス ヨコイ」が2階階に創業して話題となりました。「それ」で働いていた山岡博さんが生み出したオリジナル「ミラカン」などが後に「あんかけスパゲッティ」と命名され、なごやめしの代表となりました。筋向えの正雄の深夜食は、移動屋台の「夜鳴きそば」かヨコイの70円スパ「スペシャル」をいただいでいました。

南の魚屋「初政」、森さんは戦前に下之一色から行商されていましたが、戦後いち早く都心に出店し料亭を中心に高級鮮魚を販売、料亭蔦茂でも毎日、親父さんが魚をさばっていました。10年ほど前までおばあちゃんがお住まいでしたが、「焼肉サカイ」が高級レストランビルを建設され、現在は漫画喫茶「亜熱帯」と変わっています。孫の森保憲さんは現在サテライトジャパンで街の調整役としてご活躍頂いております。

文房具「たけいち」はパイロット万年筆の代理店でもあり、昭和6年生まれの竹市稔夫は栄中部を住みよくする会事務局ほか、長年、地域の振興に尽力され、住吉町景観協定の



東建グループの栄タワーヒルズ予定地（ヘラルドセンター跡地）



解体中の若宮会館。「若宮の杜・迎賓館」としてオープン



住吉町3丁目あたりの北見式地図



塩谷ビル（初政跡地）の漫画喫茶「亜熱帯」

立役者ともいえます。建物の躯体はそのままにして賃貸、現在は「MJカフェ」で婚礼の2次会などで賑わっています。「割烹有本」は蔦茂旅館の有本料理長が昭和15年に尾頭橋で創業。

旅館鈴蘭荘・スズラン理髪店とも西奥に庭があり、崖下^{がびか}の白川幼稚園から爽やかな風が懐かしく感じられます。現在は「ピボットハウス」となり、地下の屋台村が話題となったのは15年ぐらい前のことでしょうか。昭和17年創業の「古川商店」は私立学校靴で有名で、現在はオリジナルオーダーバッグ製造の老舗と言えます。

南角は「ミドリヤカメラ」。先代はDPE専門店でしたが、現在はお孫さん兄弟が婚禮写真など外販で頑張っているらしいです。親父の福井剛さんは住吉通商店街振興会の理事長で、町内の取りまとめ役。ひ孫は住吉では唯一の栄小学校の生徒ではないかと思えます。古地図では「菓子ミドリヤ」となっており、剛さんの母上がカウンターで、食パン一斤から16枚にスライスする薄切り包丁の妙技は鮮やかで幼い頃の思い出です。

ミドリヤから西で現存するのは、お洒落なバッグ問屋の「共立袋物」のみとなっています。花屋町筋・華道の「松月堂」、お祭り子供獅子でお世話になった佐々木宅も懐かしい町家造りの居宅でした。

住吉町3丁目28番地「旅館らく楽」の創業者・白瀧京次郎は郡上八幡北・白瀧地区の豪農から大正時代に名古屋でカフェーブームをつくって関東にも進出、粋な遊興人としても祖父良矩以上の話題多き人物です。東京・銀座でクラブ「姫」のママ・山口洋子（直木賞作家としても著名）のご尊父でもあると噂されています。2代目昭三とは父正矩も親しく

親子3代のお付き合いです。

正雄はらく楽の長い広い廊下を駆けっこで遊び、テレビの試験放送で空手チョップの力道山や大相撲の鏡里と吉葉山の一番を近所総動員でハラハラドキドキして観ていました。現当主で京次郎の孫・正人さんは料亭からインペリアルプラザとされ、不動産業ほか介護事業でも幅広くビジネスを展開、栄ミナミ地域の街づくりの中核として活躍されています。

美鷲^{みすず}商会はかつて存在した日本のカメラ、写真機材の商社で富士フィルムの四大特約店の1社、名古屋支店は石造り3階建中庭のある洒落た建物は印象的でした。現在は豊橋の甲羅グループが若者向き飲食店を展開されています。

住吉通りには雀おどり支店、南大津通りの総本舗「船橋」の弟さんが経営されていたようです。現在は矢場町から移転された「繊維の熊田」となっています。

インプラントの権威・関谷昭雄さんの歯科医院が御園座北の「寶石のシバタ」2階仮店舗から昭和30年頃に移転されました。大の鮎釣^{あやぶち}りマニアで、父正矩と夏場には毎週のように長良川や飛驒川水系に釣行していました。関谷先生はお元気に今も診療され、釣場での診断のお蔭で正雄は歯の痛みを知らないまま一生を終えそうです。

喫茶「サボン」は住吉の社交場としていつも賑わっていました。足立ファミリーで、親父さんは大工の棟梁、奥さんが店の切り盛りをされていました。息子の行久くんは正雄と白川幼稚園から同級生、やんちゃ坊主でいつも「お坊ちやま正雄」はいじめられてばかりでした。



有本富夫さんは住吉に天ぷら料理店を開業します



古川商店、ミドリヤカメラは現在も繁盛しています



「サボン」前の関谷隆夫くん（右）は法被姿で楽しんでっ

行久さんは江口巖商店の総務担当、江口浩平オーナーの秘蔵っ子として活躍されていました。お姉ちゃんの山本衣子さんは茶道の先生で、料亭蔦茂で茶会などを開催していたております。サボンと間瀬商店跡地が蔦茂駐車場となっております。

(2014・8・26)

伝統文化豊かな住吉町3丁目

住吉3丁目の伝統芸能といえば西川鯉次郎さん。大正10年生まれで正雄の叔父、深田次郎と白川小学校で同級生。戦後の混乱の中で西川流舞踊の伝承と普及をめざし、昭和22年より日舞の公演・鯉水会を毎年開催されていました。

お稽古場には戦災で焼け残った土蔵もあり、入り口は天婦良「あやめ」の粋な造作とお稽古場への竹林玄関が併設されていました。今はコインパーキング（現・ホテルウイングインターナショナルセレクト名古屋栄）となっておりますが、竹囲いの塀が情緒を感じさせます。

西隣10番地は創業明治42年、森川オーナーの「大同別珍織物」の倉庫はゼットン創業者・稲本健一さんの「ODEON」（現・アロハテーブル）という居酒屋に変身。貨物用エレベータしかない5―6階には「神谷デザイン事務所」の看板が最近までありました。カリスマ店舗デザイナー・神谷利徳さんとの共同事業発祥の地といえます。

角の「針亀袋物店」は水野鞆店の駐車場となり、栄ミナミ音楽祭のライブ会場としても

活用させていただいています。「水野鞆店」は創業明治23年の老舗で、現在の本社ビルは昭和41年に完成し、大同別珍ビルと同様一階にトラックで搬入できる高い天井とデッキイ貨物エレベータが特徴です。前会長の水野喬樹は名古屋鞆協会代表、住吉商店街会長、名古屋ロータリークラブ会長などを歴任され、今もビル5階にお住まいです。

周辺には花柳流、お茶の松尾流、華道の松月堂、三味線の余合師匠などの稽古場もあり、着物姿のご婦人が「針亀」のお洒落な和装小物や簪・扇、^{かんざし}籠甲、^{べっぴん}帯メなどをご覧になっていたようです。

北の「八木佐」は業務用陳列品卸で、現在のシママラタイプのお店、「中島屋酒店」は業務用の酒卸店、周辺の飲食店配送用トラックの激しい出入りが思い出されます。その後手狭になり、大須1丁目に移転されました。

ブロック南の道幅が狭く舗道がないのにお気づきでしょうか？ その理由は角のうどん一八、文具早川商店、酒屋・松屋、スズモリ4軒と南に続く竹市さんの長屋が奇跡的に戦災から焼け残り、区画整理が十分にできなかったからです。

きしめん「一八本店」は現当主松本さんの祖父が明治時代に兄から店を引き継ぎました。創業年は明確でないようです。飲食業では栄3丁目でも最も歴史があり、同じ土地で戦前から営業しているのは料亭蔦茂と2店のみとなりました。

雑貨の「早川商店」は大正時代の建物が現存し、「トンボ鉛筆」の大きなブリキ看板の地元文具屋として頑張っていました。現在はレトロの建具をいかした焼鳥屋「わ家」となりました。先代は溪流釣りマニアで、正雄も形見である鮎の竹竿を息子さんよりいただき



蔦茂駐車場とレストラン「ウォーノ」（喫茶サボンと間瀬商店跡地）



ルアウアロハテーブルの看板の後ろに西川あやめ師匠の稽古場の竹囲いが残っています



うどん一八、早川商店は戦災を奇跡的に免れた一角

いており、将来、料亭蔦茂店内に展示したく思っています。

西ブロックの「八百秀」はコンビニに転向。子供たちの集まる駄菓子屋で「ひもや」？とか「三丁目」？と呼ばれた「大阪屋」、10円のお好み焼きから豚肉を見つけて大喜びの児童のパラダイスでした。

「人形の好洋」の初代・清村金豊きんぽうは幼少の頃から浅草本所で人形師の修行を積んでおり、明治40年に独立。そして大正初期、その技を名古屋に伝承するために来名。人形師として大池町に居を構え、二代目好洋がブランド展開。末広町のお店は戦後の区画整理で接収、住吉3丁目に移転されました。当主の奥様の実家が管理されていた明治2年築の土蔵がショールームとして現在も使用されています。

三代目の好英さんは栄小学校の2年後輩で、節句人形工芸士として伝統技術を承継され人形組合の重鎮で活躍されています。清村家と親戚の竹市家の花柳美洲さんの稽古場があり、近所の旦那衆が美人の美州師匠にあこがれて練習に励んでいたようです。

お向えの割烹「若鈴」跡には茶道の松尾流、尾関宗般師匠がお住まいになり、時折、町家造りの風情にぴったりの茶会が開かれています。

(2014・9・26)

南呉服町2丁目南、プリンセスガーデンホテル境界

広小路から南3つ目のブロック、鉄砲町、住吉町、南伊勢町は3丁目、南呉服町は戦前

は三蔵通りが通じていませんでしたので3丁目がなく2丁目が南にのびていました。昭和30年代の三蔵通りから南となる南呉服町2丁目をご案内してまいります。

西角地はブラザー工業名古屋営業所、割賦販売の営業マンとショールームを訪れる人々で賑わっていました。3階建の大きなビルでしたが、その後、かに本家「寿司道楽」から現在は全国に展開する街のごはん屋「宮本むなし」が24時間営業で、深夜勤務のスタッフやサラリーマンのランチに喜ばれています。

西隣「喫茶ドル」は「マイネクライネ」となり、ドイツ風の内装と家具の洒落たカフェ、粋なママが思い出されます。料亭「らく楽」が土地を買収されたようで、インペリアルプラザは住吉ではなく南呉服町内会のメンバーとなり、らく楽社長の白瀧正人さんはプリンセス大通り商店街の代表でもあります。

喫茶「カトレア」は近所の皆さんから長年愛されたお店で、店の前からただようコーヒーの香が忘れられません。小さなカップ、エスプレッソに近い濃い味で辛い「ヨコイピーナッツ」と相性がよく繁盛していましたが、最後までモーニングサービスはなかったように思われます。

モリシマの番頭たちが毎日通っていましたので、正雄は遠慮していけなかった記憶があります。その後、杉本さんのカレー専門店を経て、「鳥笑」「骨付鳥・からあげ・ハイボールがブリチキン。」と若者から人気の店に替わりました。メリヤス卸「山発商店」は「スパゲッティこだま」と「カレーハウスCOCOC壺番屋」となっているのでしょうか？

現在の「赤から」は中山畳店跡地で、多くの畳職人が玄関先で作業されていました。こ



人形の好洋。花柳流の稽古場は明治2年築の土蔵を活用



ドイツ風の内装と家具の洒落たカフェ「マイネクライネ」



南呉服町2丁目三蔵通り南あたりの北見式地図

の前を祖父良矩が通ると必ず「終戦直後は土地より畳の値段のほうが高かった！」と口癖のように正雄に語っていました。

「とんかつのブルドッグ」は地元の名物で、サクツとしたカツのコロモにオリジナルのブルドッグソース、お代わり無料の千切りキャベツが大好評。最近までインペリアルプラザ1階で営業されていましたが、何処へ行かれたのでしょうか？

楽器屋の三木商店跡地には「山本屋総本家」が30年程前に南より移転されました。「ビュートイサロン敦子」と看板を替えた「清水美容室」のみがこのブロックで当時から残っているお店といえます。きしめん「げんき庵」となった吉田さん宅、古民家風町家造りの岩田邸は「質屋岩正」として当時営業されていたようです。

東側ブロック（現・栄3-13）で現存する建物は、北西角の南呉服町ビルのみとなりました。4階にはオーナーの住まいがあり、1階は多くの飲食テナントが入り込んでおりません。

信号機のポールにスピーカー付大型監視カメラが常設されているのをご存じでしょうか？ 悪質な客引きなどに「おいこら、お前らなにやとる！」とマイクから警察官の警告アナウンスが流れます。中警察署直結のリモート設備で、常時署内でチェックできるそうです。最近ではプライバシーを意識してかマイク音が聞かれません、カメラは常に北側の「出会いカフェ」に焦点が合っているように思われます。

スポーツ用品卸大手の「渡森商店」はアシックスに買収され、現代風のスポーツブランドショップとなりましたが、お隣のうどん店「角忠」はいつも元気に営業されています。

清水美容室、角忠、そして五味西の佐藤嘉晃さんの三親父が中央高校跡地の建設プロジェクトで侃々諤々議論の末、ナディアパークが誕生したと聞いております。

三枝商店は「マエマス画廊」に、子供の頃お世話になった歯医者野田さんはサークルK、中部メリヤス会館前には素敵な庭があり、中部メリヤス組合理事長はリオ横山創業者の横山章一がお務めであった記憶があります。寺島さんは「カフェ・ド・クリエ」の上階にいまもお住まいのようです。カップ・トロフィーの「誠光社」は栄センタービルの地権者、「三矢医院」はイタリアンレストラン「ピッツェリア・マリノ」となったようです。

(2014・10・26)

常もにぎあふ広小路 日もくれかかる入江町

日もくれかかる入江町について、由来や戦後の思い出をお話ししてまいります。祖父良矩曰く。

「堀川沿いの三蔵にあった21の尾張藩の米倉に運ぶ小さな運河を掘削、船が倉廻りに着岸できるようにした。名古屋温泉パレスの東側にある石垣は入江の護岸だぞ。入江町の名は堀川沿いからの町名だ！」

しかし、古地図から見ますと広小路南の入江筋は伏見通り以西には繋がっておらず、疑問をいだいておりました。この謎は平成18年、堀川文化の会から発刊された『花の名古屋の碁盤割』で解決しました。



質屋岩正と清水美容院（現・ビュートイサロン敦子）



南呉服町ビル交差点の信号柱上には中警察署直結のスピーカー付大型監視カメラが設置されています



スポーツ用品の渡森商店（アシックススポーツスタイルショップ）、うどん店角忠

「町名の由来については2説ある。一つは同筋に宗内という何人もの手下をもつ親分がいた。その親分の姓が入江といたので入江町とした。宝永5年のことである。また『尾張名陽図会』によれば、むかし紫川という大河があった。その川の入江の跡ゆえにこのように名付けという」

広小路より入江町まで紫川の岸辺に藤の花の咲き乱れる野原があり、そこを「藤野」と呼びました。紫川、藤野というロマンティックな里山も、今はビルに囲まれた繁華街となっていました。

戦前は、住吉・富沢町の料亭街を支える入江町には検番（芸妓の取次所）が3軒あり、置屋がならんで夜ともなれば大変な賑わいで、名古屋の「夜の顔」というべき町でありました。戦後になっても、入江町は夜の賑わいのメッカ。芸者呼んで遊ぶ待合や料亭から何軒ものマンモスキャバレーが通りの両側で繁盛しており、場内はダンス音楽に合わせて踊り興じる人々で満ち溢れていました。

アメリカ村のゲート前、進駐軍の将校でにぎわった「レストランシアター・ミカド」「アルサロニューヨーク・女王蜂」、本町通りから西に向かつて入江筋北には「サロン・赤い靴」「キャバレー・女の城」。南には「バー・フロリダ」「クラブ・シスコ」「キャバレー・明星」「サロン・ルナパーク」など大型のキャバレーが並んでいました。

「日もくれかかる入江町」はダンスサーの脂粉も艶めかしく、女給さんたちのドギツイ化粧の香りが子供心に懐かしい思い出となっています。そして、進駐軍の兵士も日本のオジサンもホステスと一緒にダンスやアルコールに興じる日米文化の融合地域といえました。

現存している明星ビルは改装され、IDEXグループ運営のディスコ、「やぎや」「居酒屋・畳々」を経て、現在は「春夏秋冬燈」がテナントとして入居しています。明星ビル看板も4階に残っており、南側グラウンドビルと地下1階で三蔵通りに抜ける「First Street」も昔のままです。オーナーの佐枝さんファミリーは、隣接する名古屋ガーランドホテルも経営されています。

昭和35年版住宅地図より、アメリカ村北の入江筋・住吉から栄小学校への正雄の通学路の記憶をたどっていきたいと思います。

アメリカ村北側には旅館が多く、「美そ乃旅館」はプロ野球巨人軍の常宿として話題で、露橋の中球場（現・ナゴヤ球場）に弁当屋を出店されていました。

伏見角の松岡久晴くんは栄小学校の同級、父上の久三郎はPTA副会長で、商店併設住居ばかりの通学路でもとても文化的な珍しい一般家庭でした。

北の「エスキモー冷機」は古田明良くんのお店。2階が住まいで、米軍の家庭や施設に冷蔵庫・空調設備を納入されていたようです。

清水焼を中心に、美濃で自家工場を運営される陶磁器業務用卸の「山城屋」。社長の楠仙三は東京大学経済学部卒で、社内では「天皇」として君臨し口をはさめる部下は皆無であったといわれています。全国各地の高級旅館や料亭との取引が中心で、料亭蔦茂の仕器の大半もお世話になっています。

名古屋ロータリークラブで活躍され、昭和40年代にはいち早くニューヨークに和食堂「Yamashiroya」を出店されました。長男の楠吉邦現社長は京都大学、次男の吉史副社長



広小路と入江町通りあたりの北見式地図



明星ビルは居酒屋などテナントビル。昭和50年ごろまで1階「キャバレー明星」、2階は「サロン・ルナパーク」として営業されていました。奥は名古屋ガーランドホテル



クラシック音楽愛好家の松岡久三郎

は慶応義塾大学と素晴らしいエリートファミリーと評判です。

八百屋町の老舗繊維卸「八木久」のお嬢さんは、加藤真由美ちゃん。同級生で可愛くしっかり者の学級委員。とても利発で横浜のフェリス女学院に進学されたときいています。が、お元氣でしょうか？ 現在はオシャレな飲食テナントビルですが、塔屋には「SINCE 1872」と創業年が銘板として掲示されています。

(2016・7・23)

「料亭・割烹・屋台の町」南桑名町と桶屋町5丁目

江戸時代、紫川支流に沿って桑名町の南は中級武家屋敷が各ブロックに連なり、東西に4〜6軒のお武家様の住まいとなっておりまし。

桑名町は、清須の北市場に伊勢の国から桑名の人々が集まってきていた桑名町が移ってきたもの。桶屋町は同じく清須の桶屋町が名古屋に移転、町名の由来は清須時代に町内に家持桶師・孫左衛門という者が居住していたからです。

明治時代となり、長者町筋の西・広小路が拡張され、南北の飲食街が広がり料亭や割烹店が軒を並べておりました。

第2次大戦で焼失した後は、アメリカカ村の進駐軍需要に支えられた料理店や居酒屋、キャバレーなどで賑わった地域となりました。昭和21年に南桑名町2―3丁目はアメリカ村に接收され、広小路から1ブロックのみ1丁目となりましたが、大型飲食店舗もあり繁

盛っていました。

現存するのは陶磁器業務用卸の「山城屋」、北側の大野ミシン店にショールームビルを建設、東の「万富」跡地は専用駐車場として活用されています。

角の「島正」はどて焼き（味噌おでん）やどて飯などなごめしの老舗。昭和24年に広小路屋台「きむらや」として創業。36年に現店名へ改名、その後、現在地に移転。島正という店名は、御園座に出演していた常連の新国劇俳優・島田正吾に由来することです。北の電化ストア「池田」は飲食ビルを運営、路地の呑み屋街は駐車場と自転車置き場と

なっていました。懐かしいのは映画館「千歳劇場」。洋画の封切館として賑やかで、2階はキャバレー「キング・オブ・キングス」、隣接の「バー・ニューナゴヤ」とともに米軍兵士と地元の人と一緒にダンスに興じていたようです。

劇場の売店でタバコや菓子、飲物を販売していたのがお隣の「チトセ」。ご子息で南桑名町の町内会長・林統一郎夫妻が地域発展に尽力されています。「理容・千歳」の後、たばこ店と貸しビルを経営、映画館で売れた「平野屋」の純米手焼き『善次郎せんべい』を今も販売を継続されています。映画館は飲食街とマンション、オフィスのダイアプレス伏見となりました。

通りの東には本格料亭が2軒。南の「一楽」は白木の門構えと近藤歌子女将の気遣いで有名。その隣りは八事「八勝館」の中店で、栄でのナンバーワン料亭として毎日芸者衆で賑わっていました。



八木久ビルにはオシャレな飲食テナントやクリニックが入居。屋上に創業1872年と掲示されています



尾府全図・明治2年（名古屋時代MAP）江戸尾張地図No.10より



現在の島正、山城屋



林統一郎氏宅のチトセビル。以前は「理容・千歳」

北側のSBカレースタンドは「くらぶ亭」。森川ファミリーがオーナーで、丸栄南館増設後の昭和40年ごろに松竹小路の「トリオのカレー」が移転。一世を風靡した幻のカレーとして話題となりました。

北隣は三代続く吉田さんの洋食「三好乃」。現在は1階にテナント入居させ、2階で「とんかつ三好乃」を営業中、本格ランチのお店として好評です。

そして、角の旧三井銀行名古屋支店は昭和10年竣工で、設計は曾禰中條建築設計事務所、施工は竹中工務店。6本の円柱はギリシャのイオニア式文様で柱に礎盤があり、曲線状の渦形を持つ柱頭に特色があります。両端には壁面を配し、ファサード（建物の正面）は花崗岩で仕上げられていて優美で壮麗な雰囲気醸し出しています。名古屋の歴史建造物遺産・ランドマークとして現役も活躍中です。

広小路の両側は屋台で賑わい、NTTデータビル北の桶屋町5丁目には「料亭たいや・名古屋本店」と路地には割烹・居酒屋が軒を並べていましたが、今は駐車場となり寂しい限りです。東側の「鯛めし楼」は、高級割烹・料亭として各界の著名人に愛されるお店として活躍されています。

戦後の南桑名町と桶屋町5丁目の通りは住吉とならび紫川の伏流水に恵まれた料亭・割烹・居酒屋・バー・キャバレー、そして広小路屋台と賑やかな繁華街でありました。

(2016・10・25)



「とんかつ三好乃」と森川春男宅。奥にはカレー調理場も現存しています。



料亭たいや・名古屋本店（平成10年ごろ）

「おたび所横町」うちこして

「慶長15年（1610）、徳川家康は名古屋城築城にあたり三の丸にあった若宮八幡社と亀尾山天王社を移転させようとなりました。若宮は素直に応じ、今の地・南寺町に遷座し尾張名古屋の総鎮守として現在に至っています。天王社の宮司は神からのお告げで『移転できず』とのこと。困った家康は占いかけたところ2回とも動いては駄目の神託であり、現在の東海農政局あたりにそのまま残り、社領348石を拝受し城の鎮守となったとのこと」（名古屋城観光ガイド・栗田正昭談）。

時は明治となり同地は陸軍の司令部と変わり、天王社は明治9年に旧藩校明倫堂跡地に移転、那古野神社と改称しました。

天王祭は、東照宮祭・若宮祭とともに「名古屋三大祭り」に数えられ、名古屋城下を代表する祭りでした。7月15・16日祭礼で、最盛期には車楽2台と見舞車十数台が曳き出される大変賑やかなものでした。

家康公逝去後3年が過ぎた元和5（1619）年に日光と駿府に準じて、徳川義直は若宮跡地に3番目の東照宮を創建し、社領1000石を附したといわれています。

翌年、本町通り東、若宮八幡社北に御旅所おたひしょを設け、毎年4月17日には神幸の儀が行われました。神輿みこしを始め山車9両を列ね、供奉総勢6千人以上が本町を南に若宮まで渡御とぎよし、名古屋一の東照宮祭として代表的な祭礼が執り行われました。同時に5月15、16日の若宮祭は城下の天王社に赴く山車行列。すべてが御旅所を中心に営まれたといわれています。



「尾張名陽図会」御祭礼御宿院。左が本町通り、左が別当の「東漸寺」

東照宮御旅所は北の守綱寺、隣に設けられた寺・別当の「東漸寺」があり、大藪と老樹が鬱蒼と生い茂る薄暗い地であったといわれています。

御旅所とは祭礼に神輿が本宮から渡って仮にとどまる場所で、多くの海山の幸が供えられ、神楽がにぎにぎしく奉納されました。三大祭では各所から神輿・山車とともに参加した氏子たちの憩いの場で、各町内は休息所で腕によりをかけてご馳走を振舞いました。

御旅所は明治8年に取り壊されました。樹木は切り払われて境内地は民家に払い下げられ、町家ができました。昼なお暗かった若宮八幡の北は、俗に「御旅所横町」とよばれ、「花の名古屋の町割」七墓御詠歌にも詠われるようになりました。

現在の道路標識では「矢場町通り」となった「おたび所横町」。昭和34年地図をもとに南伊勢町から西に若宮八幡へ旅をしながら、ご案内してまいります。

白林禅寺と政秀禅寺が底地権を持っているのか、この通りは多くのお店が現役で頑張っている珍しい地域といえます。南は、栄小学校の同級生・宮田卓三くん率いるお肉の名門「宮田精肉店」です。中公設から三越を中心にギフトや世界金賞を獲得したソーセージなどで大活躍。調理工場は堀川沿いの天王崎橋南で展開しています。もちろん料亭蔦茂で人気のステーキ弁当は宮田さんの宮崎牛で、大好評です。

お隣の小笠原さんは現在もお住まいで、ユニフォームの「深尾商会」の弟は深尾康夫くん。やはり栄小学校の同級生で、チョットおとなしい感じでした。最近、お顔をみかけませんがお兄さんの息子さんが社長となったのかな？

水谷義裕さんは10年前に正雄が「栄中部を住み良くする会」の会長就任時の副会長で、

やんちゃな正雄の後見人兼町内のまとめ役としてご尽力いただきました。住吉町歩道絵タイルをCDにまとめて収録していただき感謝しております。板ガラス「尾畑商店」は駐車場となり、「山田板金」の山田耕三さん宅はご家族がお住まいのようで現役です。

北側、丸栄家政婦紹介所の奥様はお元気で、とても和服がお似合い。「玉井染工」は今でも井水を汲み上げ繊維染色業を営み、「明治屋楽器店」は演歌のテープやCDがいっぱい陳列、奥様にはいつも栄ミナミ盆踊りの先生としてお世話になっております。

プリンセス大通りを越えて、左には老舗「理容ツバメ」。犬が大好きで、まるまる太った柴犬がいつも車道で寝そべり、車が徐行し交通安全。お向かいの「朝倉鍼灸治療院」、裁縫具の「若原商店」は往時のままの営業。ご両人とも矢場町3丁目老人会の重鎮としてご活躍。時計卸の「和光堂」は本業とともにご親族が「サカエ美容室」を運営されているようです。

御旅所跡地「大野理髪店」は最も古い貸しビルを経営。深見社長の「マルサン教材社」は本町通りに移転、西隣りオーダー洋服の「フクヤ工房」（森島羅紗グループ・深見順一社長）は手羽先の「風来坊」となっております。本町角はチサンマンション白川公園。

南の若宮八幡社に隣接した「旅館八幡」は婚礼や宴会で一世を風靡、「マダムジュジュ」の看板が懐かしい化粧品卸「双葉屋」の宮田操くんも栄小学校の同級生でした。両地とも駐車場となっていました。平成28年10月より工事が始まり、中日シネラマ会館跡地とともに再開発され、栄地区では最大規模の地上28階・高さ100メートルのホテル型高級賃貸マンション「栄タワーヒルズ」が平成31年2月完成とのことです。



若宮八幡社北・おたび所横町あたりの北見式地図



南伊勢町通りからおたび所横町を西に見る。宮田精肉店、深尾商会



若宮八幡社北。理容ツバメ、朝倉鍼灸治療院、若原商店



東建コーポレーションの工事現場を北から見る(旅館八幡、双葉屋跡地)

八百屋町は高級レジデンスエリアへ

明治4年には南の光明寺町を編入して、広小路より八百屋町各ブロックがそれぞれ1〜3丁目となつて紫川沿いの花屋町筋まで延び、南の突き当りは光明寺で白川町に続く街並みとなりました。

明治末から「つこの市めがね店」、大正期「後藤銅器店」の店名が懐かしく、最近まで頑張つていらしたようです。

昭和20年、太平洋戦争の空襲ですべて焼失。八百屋町2〜3丁目は寺町の白川町とともに進駐軍将校家族宿舎、通称「アメリカ村」に供出され、残念なことに八百屋町は1丁目のみとなりました。

アメリカ村用地の供出は昭和21年から34年まで続き、所有者には僅かばかりの地代が払われました。35年に代替地として戦前のオーナーに返却されたとき、神武景気、岩戸景気に沸き立っておりまして。都心部の地価も高騰したため、返還された土地は坪20万円以上の価格となったように聞いています。終戦直後、豊の値段のほうが栄の土地より高いと言われた頃から十年余りでの変化です。

返還成金の土地を買収したのは都築紡績で、八百屋町2〜3丁目に白い大型ビルを4棟建設されています。

2つのホテル（現在はハミルトンホテル・レッド、ハミルトンホテル・ブラック）、鉄炮町3に「グラスステイ栄」建設用地取得、栄三越南ブロック（現・ラシック）買収など、平成15年に会社更生法を申請するまで大きな影響力を及ぼしていました。

住宅地図協会が昭和35年に発売した地図から、八百屋町1丁目の変遷を語ってまいります。

西側の都築紡績名古屋支店跡地はアーク栄広小路ビルとなりました。「稲垣洋品店」は向かい西角に稲垣ビルを建設、1階には割烹「荒木」が入居。「小林洋品雑貨」は小林商事として不動産賃貸業に転身されました。東側には唯一、同じ敷地で「青木鯉節店」の看板がありますが、現在は自宅として青木ファミリーがお住まいのようです。

アメリカ村の土地返還後、新しく開発された八百屋町2丁目では昭和49年に宝塚エンタープライズが初めての事業として、都市型ホテルスタイルの分譲マンション及び高級テナントビル「ヴィア白川（サンメンバーズ名古屋白川）」を開業されました。当時はオイルショックで建設コストの急上昇、そして不況による販売不振で苦勞されたとうかがいます。その後リゾートトラストと商号を変更され、リゾート会員権販売とともに都築紡績の白川ビル群を取得されました。

また、「田宮服飾」は街おこしに熱心で、平成24年には、八百屋町マルシェを4月と8月に開催され、町名のPRにも寄与されました。

そして、八百屋町3丁目南角には南桑名町より「八勝館中店」が移転。地域一番の大型料亭で繁昌しました。敷地内には中華料理「九龍」も併設して一世を風靡しましたが、平



八百屋町あたりの北見式地図



青木鯉節店と稲垣ビルの間のコインパーキングに戦前は罵茂旅館がありました



旧都築紡績ビル群とヴィア白川

成11年に総戸数112戸の大型高級賃貸マンション「ウインコート白川」となり、公園一帯の居住スペースの嚆矢となりました。現在は広東料理「茗圃（ミョウホ）」、創作フレンチ「仁」の高級料理店が入居されています。

八百屋町界隈は緑いっぱい新しい高級レジデンシャルエリアと変貌しております。

(2017・5・26)

長者町はアートの町

清須には富豪が集まり住んでいたところがあり、長者町と呼ばれておりました。清須越して江戸時代の長者町は大名が通る本町の裏通りとして、下級武士や荷役、商人、旅人が通るところであったとか？

同様に太平洋戦争後、本町通は広小路角の徴兵館ビルが進駐軍第5空軍司令部になったことでジープが轟音を立てて通る道となり、跋扈する米兵に恐れをなして通行する人もまれな道路となっていました。一本西の長者町通は、雨後のタケノコのように薄利多売・現金売りの日本有数の繊維問屋街となりました。

しかし、糸へん景気が去り、長引く繊維不況と流通システムの変化から長者町繊維問屋街は危機に瀕しています。老朽化したビルと駐車場が半分以上を占めるゴーストタウンからの再生を懸けて、現在は新しい活気ある街づくりへ試行錯誤しながらチャレンジしております。



長者町繊維街の名物アーチは各ブロックに設置されました

錦2丁目の活性化のために、秋の長者町ゑびす祭り、あいちトリエンナーレ誘致などいろいろなトライアルがされています。正雄が世話人の「名古屋の旧町名を復活を目指す有志の会」とコラボレーションして郷土の歴史を復活し名古屋人が郷土に誇りを取り戻すことを目的に、町名復活を目的とした組織「長者町を復活させる有志の会」が平成25年末に立ち上がりました。

会長には八木兵の山口兼市、副会長には吉田商事の吉田俊雄、綿常ホールディングスの浅野隆司が就任、長者町復活へむけて活動開始！

下長者町1〜4丁目すべてに繊維関連のお店が軒をならべていましたが、現在、同じ場所にある長者町協同組合員企業はわずか6社となりました。

1丁目北角の「吉田商事」は吉田俊逸が愛知県栗原郡木曾川町で呉服商を創業され、戦後いち早く昭和22年に現在地に移転、代々地域のリーダーとして活躍されています。正雄が58年に森島羅紗店を承継した際には、俊雄会長の兄上にナオリ健康保険組合の仕事などが親切にご指導いただき感謝しております。

神谷商店の創業者・神谷茂雄さんは「神谷茂」で婦人洋品卸。現在は駐車場となりましたが、丹羽幸商店の初代・丹羽幸一郎は明治41年に洋傘卸売商を開業、丹羽吉輔が戦後は下長者町2丁目再スタート、「丹羽幸」に社名変更し元会長の幸彦さんと代々幅広く事業を展開されています。

個人的には、街づくりで「ゑびす祭り」などに尽力し河村たかし衆議院議員（現・名古屋市長）の秘書を経て民主党公認で市会議員当選、その後、減税日本のナゴヤ市議団团长



下長者町あたりの北見式地図



町名は郷土の誇り「長者町」を復活せよう！の大型ポスター（北見昌朗氏制作）

を務めた則竹勅仁の活躍が思い出されます。

吉田商事南の「則竹商店」の御曹司で、ゑびす祭りでは布と綿で作った「長者町山車」のお宿となっていました。平成15年に「費用弁償受け取り拒否」を公約して初当選。23年3月の市議選でも拒否の実績を選挙公報に明記して3選を果たしましたが、市が法務局に供託していた7年分536万円をまとめて受領していたことが発覚し同年6月に辞職したのが残念です。

家業の窮状から供託金を活用されたと思いますが、現在は「コート・オブ・アームス」という洒落たアメリカンカジュアルレストランとなっています。

店舗ばかりの2丁目商店街に唯一業態の違う、玄関に緑の植栽が見事な「加藤歯科」がありました。親父先生と祖父良矩が親しく、幼稚園の頃からお世話になりとても痛い治療を施してもらった思い出が……。以来、正雄はどうも長者町を避けるようになり、住吉町の関谷歯科に主治医変更。お陰で歯痛から解放されたようです。

同じ場所、同じ業種で唯一現存するのは「足立商店」。「丸善」は手芸をされる方なら知らない人はいないというぐらい有名店として、現在も営業中。そして、ランドマークは創業明治10年の「遠山産業」の焼け残ったレトロなビルでした。現在はコンビニとなり、周辺はコインパーキング街となりました。

明治4年に八百屋町から長者町3-4丁目となり、広小路北を中心に町名変更されたようです。4丁目東角は「綿常」が南の大同別珍の土地を取得され、繊維業からホテル「ドゥーミーインPREMIUM名古屋栄」のオーナー、そして近隣に多くの貸しビルを経営され

ています。西側の「後藤銅器」は創業100年の老舗、最近移転されたようで寂しく思っています。

懐かしいのは「川瀬書店」。戦後、書籍の流通会社の東京出版販売（現・トーハン）や日本出版販売などが新しく誕生しますが、終戦直後は川瀬書店が名古屋一の取次だったと思います。本屋さんは川瀬、星野、丸善と広小路の3店が大手といえました。

名古屋・錦二丁目まちづくり協議会の会長をつとめる堀田勝彦さんの堀田商事ビルの北側駐車壁全面に描かれた現代アートの作品は、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」でナウイン・ラワンチャイケン（タイ）が制作した幅11メートルの『新生の地』です。この作品には、長者町に縁のある戦後の人々が描かれています。勝彦さんに登場人物について、いろいろうかがいました。

中心にいる2人は60年の歴史を持つ喫茶「クラウン」のママと手芸・毛糸屋「丸善」の女将さん。右上は「堀田商事」先代の若き頃の堀田次郎・一枝夫妻、黒電話の名畑恵さん、「吉田商事」会長の神谷茂雄さん。下は「糸和」の佐藤順一さん、三坪の小さな店から始まった「ファッションコイケ」の小池隆さんの青年時、現在の本重町町内会長の小出さんおよびご家族、バイクにまたがる「八木兵」の山口兼市社長、「丹羽幸」の丹羽幸彦相談役。

左上は昭和15年創業の八木兵、山口先代ご夫妻と妹さん、戦争に行った兵隊さんは滝一会長、福生院お聖天さんの松平住職。下は「綿常」の浅野隆司さん、天保11（1840）年創業「お茶の升半」の横井さん。最下段でクラシックカーに乗るのは街のコンセプト創りを担う建築家の延藤安弘先生とドラマ『氷山のごとく』に出演した長者町の従業員たち。



遠山産業ビル跡地はコンビニとなりました



堀田商事ビルの壁面に描かれた現代アートの作品「新生の地」

商店街としての事業規模や町の序列とは違い、中心にるのが小さな店を営む女性というのが面白い。「上長者町に 漏れくる 三味の音も 今は聴かれず 昔懐かし」など絵に書き込まれている短歌は、町の人が長者町への思いを込めて詠んだものです。作者には町の歴史を共有していくことが大事だという思いがあり、町の昔が今につながることで「新生」しています。

あいちトリエンナーレの主旨にこたえたこの作品のお陰で、長者町はアートの町として世界に認知されようとしています。

(2017・6・23)

白川町は都心のオアシスに

名古屋市は空襲で焼け野原となった白川町の各寺院に協力を求め、墓地は平和公園へ、本堂や庫裏は市内か周辺へ移転させ、昭和21年に米国進駐軍将校の家族住居「アメリカ村」を建設、町のほとんどが昭和33年末まで接収されることとなりました。返還後、白川通り南は「白川公園」、北地区は民間の旧地主に戻りましたが、都築紡績などの大手企業による開発が進展してまいりました。

戦後の国勢調査による白川町の人口推移を見ますと、昭和25年はゼロ、米軍家族191人（実際は132世帯といわれています）。30年には3—4丁目を中心に50人。復帰後の40年には58人の住民登録がされていました。そして、42年に新住居表示のもとすべて栄2

丁目となり白川町は消滅しております。

返還後の白川町筋の変遷を三蔵通りから南へご紹介してまいりましょう。

角の「脇田」、「小島専蔵商店」は今も元気に営業、名門の「森本商店」は郊外に移転。なかでも「岩田和楽器店」は尺八や三味線、箏などの専門店として好事家の鼻^{ひな}があるように、唯一の木造店舗です。

角には「服部」があります。歌舞伎幕の製作から始まり、国旗やのぼり、トリバナの扱いは老舗、日の丸の元祖のお店ともいわれています。おむかえの「伊藤内科」は伊藤清次先生がお住まいにもなり、地元の町医者として正雄の両親もお世話になっていましたが、いつぞや診療所も閉鎖され不便を感じております。

岩田ビルはマドラス・岩田工機・湯ノ島館・岩田産業を経営する岩田グループの本拠。他は全てマンションや学校、診療所、駐車場などとなりましたが、大橋大吉さんの裏庭の巨木が本町衆の本店の面影を残しています。また、「西脇羅紗店」の邸宅もコインパーキングとなっていました。

白川町4丁目も様変わり、小間物卸の味岡屋は長男の長崎守利が宝グループ会長でもあり、宝不動産の開発による高級賃貸マンション「ルシェット白川公園」が工事進捗中。唯一「人形の守田」の倉庫が現存され、「新日本教文」も老舗となりました。南の花木さんは本町通りが宝石卸店舗で、公園側がご自宅となっております。元名古屋市議会議長の斉藤実夫人の実家です。同様に「高取羅紗店」の自宅が現存していますが、今は廃屋のようになっているのが寂しい限りです。



白川町あたりの北見式地図



和楽器屋の岩田家全景。唯一の木造店舗



白川通り角。伊藤内科、服部（元江口跡地）



高取宅住居。奥は人形の守田の通用口

現在、人口ゼロの焼け野原だった白川公園周辺は緑いっぱい、白川公園の魅力と都心回帰ブームで、時を経て都心のオアシスを求めて多くの人が集まるオシャレで便利な新しい居住地区となりつつあります。

(2017・9・26)

南鍛冶屋町は風光明媚なりゾート

美濃の国・関の刀鍛冶が清州に住んでいた関鍛冶町が清須越しで移転。碁盤割の外、広小路より南は「南鍛冶屋町」と江戸時代から呼ばれていました。現在は、東半分は100メートル道路・久屋大通公園となっており、西は名古屋三越、ラシック、松坂屋名古屋店、名古屋バルコと大型店舗が連なっています。広小路通り南側は、南鍛冶屋町1〜4丁目までが栄3丁目、若宮通を挟んで4〜5丁目が大須4丁目となっています。

標高差のある小袖川沿いの町で、名古屋三越北東から久屋大通庭園「フラリエ」西まで南に約5メートルの落差があります。関鍛冶町の泉から流れる小袖川は精進川に注いでいたようです。

江戸末期の地図を見ますと、中級武士の家並みの中に萬福院が北側に聳え、東の川沿いの南の崖と、さぞ眺めの良い景勝の寺であったようです。

萬福院はその昔、清須の御園町に重秀法師により建立され「潮音山萬福院」と称し、清州越しで南鍛冶屋町1丁目に移転。昭和13年、本山の新勝寺より不動明王の分身を勧請し、

本尊とされ「真言宗成田山」に改められています。

昭和20年の空襲による焼失後、30年に再建されました。平成14年にラシック建設に伴い、現在地である栄5丁目に移転しております。節分会には毎年2〜3千人が訪れ、交通安全のご祈祷でも地域の人々に親しまれております。

通りを挟んだ西側にはお武家「牧登」宅があります。牧家は戦国の斯波氏守護代で天文17（1548）年に小林城を築いた牧長清を祖として、現在も末裔の牧清が小林城の跡、清浄寺の檀家総代をお務めになっています。

牧家は後に尾張藩に仕えて馬廻組頭や御書院番になり、文芸の功績からか加増されて150石を与えられました。牧墨僊は、姓は牧、名は信盈。お城務めだけでなく粹人で、狂歌本や俳諧の摺物など多岐な芸術方面と関わりを持つ仕事を中心に活躍しておりました。

文化9（1812）年、葛飾北斎が関西へ行く途中で名古屋の牧宅に滞在したとき北斎の門人となり、肉筆画や絵手本、絵本及び細判摺物、版本の挿絵制作をしていたようです。北斎は半年余り逗留して下町を散策して『北斎漫画』を出版し、大須の「だるま絵」や『富嶽三十六景』の「尾州不二見原」を描いたといわれています。

「尾州不二見原」は富士見原を描いたもので、遊郭や武家の別宅が存在する名勝地として知られていたそうです。北斎が幾何学的構図を好んで使ったことを説明する時に必ず登場する作品と言えます。丸い桶を通して見える三角の富士。「桶屋の富士」とも呼ばれています。木工の盛んな南鍛冶屋町5丁目から北を望んだと思われれます。仮想の不二は尾張富士ではないかといわれております。



久屋大通公園。南鍛冶屋町東、南に高低差5メートル。戦前の成田山萬福院跡地あたりから南を望む。



江戸末期の南鍛冶屋町武家屋敷



北斎筆「尾州不二見原」

明治31年に瀧兵（現・タキヒヨー）4代目の瀧兵右衛門は、山田才吉の開発後に東陽町通り北・南鍛冶屋町2丁目20番地に敷地2000余有坪を買い、別宅の新築にとりかかりました。屋根瓦の一部を徳川家屋敷から譲り受けて使用したり、ずいぶん趣向を凝らした建物で、普請を始めてから3年がかりで完成したと伝えられています。

4代目はこのころから事業の実権を5代目の信四郎に委ね、この贅をつくした別宅は財界人との交流の場・サロンとして、店の幹部の家族慰安会場としても活用されたようです。東に昇る月が池に移り、川あり、滝あり、鶴まで飼われていた風光明媚な都心リゾートで、その後5000坪に拡張されたようです。

4代目は明治15年に名古屋銀行（東海銀行の前身の一つ。本店は中区丸の内2丁目3にあり、現在は八木兵本社）を設立して、初代頭取に就任。人材育成に熱心な5代目は瀧家発祥の丹羽郡古知野町（現・江南市）東野に瀧実業学校（現・滝中学校、滝高等学校）を開校して、教育の分野でも貢献されております。そして、4代目のひ孫が富夫（滝学園理事長）、勝夫（滝学園副理事長）、康夫（タッキーファーム代表取締役）、茂夫（タキヒヨー会長）で、タキヒヨーの現社長は富夫の子にあたる一夫となります。

（2018・8・23）



大正15年の南鍛冶屋町（1丁目萬福院、2丁目瀧邸）

4代目瀧兵右衛門



明治の南久屋町はお役所街と豪商の邸宅

「寛永年間（1624〜1644年）のことである。初代藩主義直がこの町を通った時の話だ。

『この町の名前は、何と呼ぶのか』とお尋ねになった。お供をしていた者が『干物町です』とお答えした。『これからますますこの町は繁昌しなければならぬ。干物町という名前では何か物足りない。今から町名を改めて久屋町にせよ』とおっしゃった。久しく家屋のある町という意をこめて、初代藩主が名づけた町が、久屋町である（『花の名古屋の基盤割』より）

小袖川を挟んで西が鍛冶町、東が久屋町で、万治の大火（1660年）で拡張された広小路の東詰め、北側が町人街で南に下級武士の御屋敷が続いていたようです。

明治10年6月に東本願寺内にあった愛知県庁が広小路の終点に移転、新庁舎は木造2階建ての洋風近代建築で、左に県会議事堂、右に警察部が置かれました。

しかし、この南久屋町庁舎も名古屋市の道路改修事業の一つ、広小路を千種駅まで延長したことにより、明治33年には南武平町に移転しております。現在の中日ビル北と広小路通り、明治生命ビル南一帯と推察されます。その後、県庁跡地は広小路ロータリーとなり、中央に日清戦役記念碑、南は名古屋市役所、愛知県知事公舎となりました。

大正末期の住宅地図から、現存する名称は南久屋町1―9「名古屋市医師会館」が愛知県医師会館（中区栄4―14―28）となつて残っているのみです。

西側1丁目3には、上遠野富之助邸があります。東京の報知新聞の記者であった上遠野は、名古屋財界のドン、奥田正香から名古屋商業会議所（現・名古屋商工会議所）の書記長に迎えられ、その後、明治42年には副会頭、大正10年には会頭となって活躍。昭和3年に胃がんで逝去されました。遺言に従って私邸は名古屋市に寄贈され、後に名古屋商業会



愛知県名古屋明細地図（明治11年）



上遠野富之助

矢場町編

矢場公園駐車場

④

駐車場出入口

平日
7:00~23:00

最大料金
1,500円

矢場公園駐車場のポイント
※この駐車場の利用は、駐車料金を支払った後、必ず駐車券を回収してください。
※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。
※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

平日
7:00~23:00
最大料金
1,500円

※駐車券を回収してください。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

※駐車券を回収しない場合は、駐車料金を徴収させていただきます。

議所の一部となり、蔵書は商業会議所に寄付されました。
上遠野邸の南隣1丁目4は、奥田のパートナーである初代・神野金之助邸です。神野の活躍は西三河の干拓事業、神野新田開発、明治銀行頭取、名古屋電力や豊和工業、福寿生命、名古屋鉄道などの設立、貴族院議員など枚挙にいとまがないといえます。大正11年の葬儀は、一柳葬具總本店による日本初の霊柩車（外車・ビム号）の使用例であるとされています。
長男の2代目・神野金之助は、紅葉屋財閥の当主として名古屋鉄道社長、名古屋テレビ塔の建設・社長就任、東海テレビ放送設立に関わり、昭和30年には日本商工会議所副会頭に就任しました。なお、名鉄百貨店元社長で国際ロータリー第2760地区元ガバナーの神野重行は孫にあたります。
大正末期の住宅地図で瀧兵右衛門邸の向い、南久屋町3丁目12には南久屋尋常小学校があります。明治6年に第11義校が開校し、後に小林尋常小学校となり、大正4年に紅葉尋常小学校と合併し翌年には生徒数1328名のマンモス校でした。
戦災で焼失し区画整理で久屋大通の一部となり、白川国民学校・中ノ町国民学校と合併して昭和22年に現在の栄小学校となりました。卒業生には海部俊樹元総理もいます。

(2018・9・14)



大正末期の南久屋町住宅地図

オアシス・矢場公園

矢場公園では、伊勢湾台風前には昼は「紙芝居」や屋台・仮設市場、そして、夜には町内会主催の屋外映画があり、正雄もそろばん塾「とうかいそろばん」の帰りにアイスキャンデーを舐めながら友達と遊んだ記憶があります。

戦後の震災復興計画の一環で、丸焼けになった栄の真ん中に夜間定時制の「中央高等学校」と昼の「前津中学校」を併設してベビーブームで急増する生徒に対応しようです。そして、南側に区画整理で戦前の白林寺の墓地部分を公園としたのが矢場公園の発祥です。

その後、定時制高校が新築に、子供の数の減少で前津中学校も廃校となり、中郵便局、中区役所の工事期間中の仮設事務所を経て、平成8年にナディアパークが開業。矢場公園も地下の駐車場とともに整備されました。

しかしながら、公園にはホームレスが住みつき、一部をゲートボール場として町内の老人会が使用するなど、矢場町の公園愛護会の有志が草花の手入れや清掃する程度で十分に活用されていませんでした。

平成11年には学生だった水野孝一くんから「よさこいソーラン祭り」の名古屋版を矢場公園で開催したので、地元の調整を依頼されました。当時は変な若者たちが踊り狂い騒音でうるさいなど、近隣からのクレーム対応に苦慮いたしました。会場もまだ少なく「にっぽんど真ん中祭り」の中心となり、飛び入り大歓迎で一般参加も多く、現在でも矢場会場は飛び入り自由な踊り企画や「ちびっこ大会」が継続しております。

通称「どまつり」はゲインの藤井英明社長など地元の支援を得て、「財団法人にっぽんど真ん中祭り文化財団」（理事長・岡田邦彦さん）が運営し、毎年8月末の週末には参加者2万人以上、観客動員200万人を超える名古屋の一大イベントとなりました。地元の人たちに矢場公園の楽しい活用を知らせてくれた学生たちに感謝しております。

その後、愛知万博開催もあり白川公園や若宮大通りなどとともにホームレス退去活動が一段落して、矢場公園もビルの谷間の緑の憩いの場となってまいりました。そして、平成16年にはオーダー紳士服店「マस्या」の増田国勝・雪子夫妻から寄贈された、彫刻家で文化勲章受章者の富永直樹による『夢の女神』像が「多くの若者に夢に向かってチャレンジして欲しい」という願いを込めて設置されました。

以来、毎年3月には市内の小学6年生を対象に「わたしの夢」をテーマにした作文コンクールの表彰式が行われています。

(2012・11・24)

矢場町1丁目北地区と土地バブル

矢場町1丁目北角地の名古屋平和ビルは、名古屋洋品商会（メイヨー）と山本屋総本家、そしてセビラー理髪店の跡地です。平成元年ごろのバブル最盛期、坪単価2000万と云われた土地で話題となりました。

設立まもない東海信託銀行（現・三菱UFJ信託銀行）の開発事業として話題となり、



戦前の白林寺の墓地を公園にしたのが矢場公園の発祥です



『夢の女神』像



矢場町1丁目あたりの北見式地図

当初は丸栄の所有となりました。その後桜花学園に譲渡され、旧チェリープラザビル建設、そして平和不動産が買収してお洒落なテナントビルとなっています。男性用小物ネクタイ・ベルト卸の「メイヨー」は坪3500万の希望価格を固持されたまま売却チャンスを失い、バブル崩壊とともに会社も整理されたようです。

その南は、路面のセレクトショップ「ヴィアスティック」の上階は元旅館「山泉」の伊藤さん宅です。国鉄（現・JR）推薦の旅館で代表の伊藤鉄之進は戦後名古屋の旅館割烹業界のリーダーで、名古屋中旅館組合の組合長として活躍されていました。

昭和31年6月の組合名簿110店のなかから周辺の旅館を紹介しましょう。

副組合長・らく楽 白瀧京次郎（住吉町3）

葛茂 深田良矩（住吉町2）

会計・蓬萊 佐治捷一（矢場町1・南大津通り3）

組合員・住吉ホテル（住吉町1）、富月荘（住吉町2）、さくらや（矢場町1）、つた

や（鉄砲町2）、ヤマトホテル（栄町7）

栄地区の多くは料亭や割烹店との併業が主体であったようです。そして、現在も愛知県旅館組合員として営業継続しているのは東橋町の「丸ため」と大池町の「名龍」のみとなっています。

当時は宿泊飲食代金（基礎控除額以上に対して）の10パーセントを飲食税として納入義務があり、公給領収書が名古屋東部県事務所から組合を通して各店に配布されていました。そして、納付額に対して1パーセントくらいの代行報酬が組合に交付されて預託され

ていました。

伊藤組合長は先見の明とリーダーシップに富み、役員の白瀧、深田、佐治3氏との合意をとり、預託金残高に近畿相互銀行（のちの近畿大阪銀行）からの借入金200万を加えて、新栄1丁目2617番に土地139・67平方メートルと平屋52・06平方メートルを購入しました。組合登記もない任意団体で、役員4名個人共同持分として購入し登記を昭和31年9月にいたしております。

バブル末期の平成2年7月にこの土地が1平方メートルあたり229万円、総額約3億2000万円で売却され、現在でも旅館組合の活動運営資金として有効に活用されていることを嬉しく思っております。

現在のNCA（名古屋コミュニケーションアート専門学校）は「広瀬商店」と呉服卸の「丸為」跡地です。丸為は銘仙呉服を扱う中堅問屋。鉄筋5階建てのビルで事業展開されていましたが昭和60年頃廃業されました。その後、地上社が買い上げ、ビルを解体し同社の展開する「エスポアマンション」「アルティア鳥羽リゾート」などのモダンなショールームとなりました。

アルティアとは「ALTO（極み）」と「IA（国）」を組み合わせた造語で、「至高の国」をテーマに日下靖浩社長の熱い思いで開発されました。土地取得価格はバブル期で坪1000万円前後といわれました。その後、全国にユニークな専門学校を経営する滋慶学園がNCAをオープン、若者の街・栄ミナミのキッカケとなりました。

その後、4つの関連校舎を開設され、毎日1500名前後の学生が音楽に、料理に、医



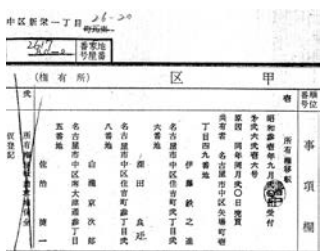
平和ビル



セレクトショップ「ヴィアスティック」と元旅館山泉の伊藤宅



個人の名義貸しの念書



「登記簿謄本」地番・新栄1丁目2617番、4名の役員共同所有として登記

療に、動物愛護の学習にいそしんでいます。

白川通り西、矢場町1-49の「上村商店」は家具や車両のガラスを扱う問屋で、とても可愛いお嬢さんの上村陽子さんは白川幼稚園と栄小学校で正雄の同級生でした。お元気でしようか？ また、「市岡」はインテリア敷物の卸商として現在も同じ土地にビルを建設され、唯一残っている会社と言えます。

(2014・11・26)

なつめ・住吉ビル

住吉ビルの西隣、矢場町1-17の「バー・ラムール」は加瀬文恵さんが「バー・三姉妹」から料亭蔦茂北の第3ビル「なつめ」を経て、独立して店舗を開業した場所です。現在は8階建てのビルとなつてクラブやプール、ヘルスクラブ、料亭個室、フランス料理店を併設した超高級会員制となっています。別名「夜の商工会議所？」と言われております。

文恵さんは話題多き女傑で、昭和ひとけた生まれ。名古屋では最も著名な女性経営者の一人といえます。平成26年3月19日にいちやなぎ中央斎場で「宇津井健さん」の喪主を務められ、日本中がビックリしました。

ある人から耳にしたご二人の素敵なラブロマンスを紹介させていただきます。

亡くなる2週間ほど前、宇津井さんは文恵さんにこんなことを語り始めたという。

「僕は君に喪主をやってほしい。名古屋で葬式をやりたい。だから正式に籍を入れてほし

い。息子には僕から手紙を書くから。あなたは商売柄、僕と結婚すると迷惑になるかもしれないけど、僕は、ぜひ君と結婚したいんだ」

文恵さんにしてみれば、思いもかけないプロポーズだった。そして、宇津井さんが亡くなった3月14日、長男も納得のうえで、宇津井さんと文恵さんは正式に入籍した。亡くなる5時間ほど前、宇津井さんは、か細くなった弱々しい声でこう言ったという。

「籍も無事に入れて、よかった、よかった……」

この言葉を最後に、宇津井さんは眠るように安らかに、この世を去った。

南向かいのメリヤス問屋「寺沢商店」は、その後、大西社長の婦人既製服「大織」をへて、現在は「なつめ」専用駐車場。角のカメラ材料問屋「S商会」は、文恵さんの実弟・加瀬英比古が経営する会席料理「加瀬」となっています。京都の「吉兆」ご出身で、湯木貞一オーナーの直弟子として「白吉兆」の看板を掲げています。

界限では「なつめ」で文恵さんの薫陶を受けたママたちが、気の利いたクラブを運営されています。ピボットビル6階の「みつこ」、インペリアルプラザ地下1階の「麻樹」などが代表格といえます。

住吉ビルについては、創業者の定政さんのご長男・英樹さんの愛知学芸大学（現・愛知教育大学）附属名古屋中学校時代に親しくしていた友人柴田正康さん（清須市・愛知登文会理事、旧町名復活の会メンバー）から詳しくご説明いただきましたのでそのまま転記します。

「住吉ビルの前身は、住吉通・最南端の割烹として三業地に相応しい料理旅館『清風荘』



NCAの校舎と後方はネクストフォーカス



なつめのマッチと灰皿



日本料理加瀬の全景。右に住吉ビル、奥になつめビル

だった。

現オナーの台湾で教師だった父、定政さんが戦後の引き揚げ後、同地で清風荘を開業。中学2年（昭和30年）の頃に定政家を訪問し、天麩羅を天つゆで食べる事に驚愕した覚えがある。当時、一般家庭では、醤油かソースで食すのが普通だった。

住吉ビルは日本で最初の住宅供給公社資金を導入したビルだった。

返済後の所有権を巡って、定政父が公団と長期に亘り係争していた。その後各地で頻発した所有権返還抗争の嚆矢といわれ住吉ビルに関する係争は、住都公団にとって大きな事件でしたので、公団に記録があると思われます。

先代は係争に備えて名大法学部で聴講生として入学したと聞いています。

ビルは次男が相続し、私の同級生である長男・英樹は弟から賃借し、喫茶『いよ』を営んでいた。喫茶には近隣の店主が出入りし、特に『加瀬』の主人が、4時頃酒を持ち込み、店から料理を出前させて和んでいました。度々ご相伴に与かったのが思い出。

先代は奥さんも大柄な人で、英樹君も大柄でした。喫茶『いよ』（最愛の奥さんの名前）は奥さんが足を悪くして廃業、優雅な引退生活を過ごしていましたが、がんに侵され平成22年7月3日逝去（71才）されました。

私は英樹君と学大附属中学で3年間同クラス、明和サッカー部で3年間共にボールを蹴りました。大学は英樹君が遠く鹿児島へ、名古屋へ残った私と離れ離れになり、『いよ』開業後交友が復活しました。

因みに西脇君（末広町内会長・西脇光彦氏）も附属の同期生ですが、当時の附属は3年

間クラスと担任が持ち上がりで、私と英樹君はB組、西脇君はA組で、余り交流がありませんでした。

英樹君と西脇君は、近所という事もあり、ゴルフ友達（共にシングルプレイヤーでした）として、親しくしていたようです

喫茶『いよ』は住吉ビル1階にあり、料亭蔦茂の料理人や近所の方々の憩いの場であり、夕刻には西脇光彦さんが碁盤を持ち込む囲碁会所でもあったようです。現在は、シルバー装飾品ブティックへと変貌しています。

正雄の思い出は、地下1階の「バー・ロダン」で花柳美洲さんの踊り稽古の後、森島の先代社長や西脇の叔父さんに良くご馳走になりました。平成26年春には京都や大阪で大評判のパンケーキカフェ「ELK」がビル南側にオープン、連日若い女性の長蛇の列が話題です。

先代の定政さんはとても大柄な方で、南筋向いにある森島の洋服仕立て部門「富久屋商店」（正雄が最後の社長・モリシマと合併）の常連で、ビッグサイズの仮縫いにテーラー職人が苦勞していたことが思い出されます。

(2015・1・22)

守綱寺と小倉トースト

徳川十六神将の一人、槍半蔵こと渡辺守綱は三河松平家の譜代家臣として家康に仕え、



住吉ビルあたりの北見式地図



現在の住吉ビル。1階3軒目がパンケーキカフェELK、上階は集合住宅でした

尾張藩家老として名古屋の町づくり起点「南寺町」北端に菩提寺・守綱寺を構えました。江戸末期には青松葉事件で処刑された渡辺在綱（守綱の末裔）の墓も建立されたといわれています。

18世紀中期・宝暦年代の地図では、守綱寺の西は白林寺、南には東照宮御旅所、若宮八幡社とつながり、東は末広町を挟んで清須越しの多くの寺院が立ち並んでいます。現在も羽塚尚明住職ご家族がお住まいで、奥様は栄学区の子供会役員として地域のお世話をされています。

南寺町も戦災と区画整理で寺社の面積は半分以下に、敷地内の墓は全て平和公園に移転となり新しい街づくりのキッカケとなりました。寺の向え、平沢外科の大先生は京都帝国大学（現・京都大学）医学部から軍医を経て戦後開業、結構荒っぽい手術で虫垂炎など早く退院させてくれます。「平沢軍医さん、盲腸手術は即日退院！」という話題で繁昌していました。

先生のお嬢さんは服部絃子さん。アマチュアゴルファーでアプローチの上手い天才少女といわれて全国各大会にも出場されてきました。プロゴルファーの服部道子は娘さんで、ご自宅は守綱寺の南隣にあり、玄関の前庭には練習グリーンがありました。現在は2台分のコインパーキングとなっております。表札には「平澤・服部」両家名が併記、数寄屋造りのご自宅にお住いのこともあるようです。

絃子さんは和合ゴルフ場でプレイされたり、近所で買い物され、笑顔で挨拶されるとても気さくな方です。ミッチャンは昭和60年の全米女子アマで当時史上最年少、日本人とし

ては初の優勝をへてプロデビュー、平成10年には年間5勝を挙げて賞金女王となりました。母上と同様にお医者さんとご結婚、25年にベビー誕生とうかがっていますが、最近ほ町内で姿を拝見していません。

レース卸「野村商店」の3代目・野村忠司さんには町内会長、栄小学校PTA会長、名古屋子供会連合会広報理事など地域のお世話をいただき感謝しております。「大石豆腐屋」は毎朝早くからお仕事され「パワー」とただよ大豆の香が懐かしい思い出です。

「割烹光洋」はいち早く鉄筋ビルを建設され「ホテル光洋」に変身、栄界隈ビジネスホテルの先駆といえます。現在はそのままの建物で、札幌かに本家グループが社宅と託児所として活用されています。

ブラシ製造卸「徳安」の伊藤さんは駐車場経営と野村さん北隣換地移転した洋服「富久屋」の場所で、マンション「フォトレス栄」を運営しつつお住まいです。内装用繊維卸の「熊田商店」は住吉3丁目に移転、一帯はライブハウス「ホリデイ・ネクスト・ナゴヤ」と坪井花苑の作業場が変わっています。

昭和46年にほていや（古川呉服店）と西川屋チェン（西川屋履物店）が合併してユニーが誕生。ほていや本社に古川ファミリーはお住まいでなく、活気ある配送センターとしてオート三輪車で賑わっておりました。現在は7社のコインパーキングが並んで当時の面影は全くございません。

文具製造卸「伊藤大商店」の次男・伊藤豊くんは正雄の白川幼稚園時代の親友で、事務所奥1階のダイニングでしばしばパーティなどご馳走になりました。当時、珍しいテレ



平澤・服部宅の練習グリーンはコインパーキング2台分となりました。数寄屋造りの建築で雨戸が懐かしい。



若宮八幡社北通り（住吉通南）あたりの北見式地図



若宮北の住吉通南西角にあった喫茶舗つ葉 伊藤大商店、ほていや本社跡地は、それぞれフティック、モルテン名古屋支店、コインパーキングと変遷

ビが2台、洋風リビングにもありお金持ちの洋風生活にビックリ！ 母上の作る手作り料理など家庭の味を知らない料亭の小倅には羨望の的でした。

先代の伊藤大は名古屋文具卸組合の設立に尽力、業界に貢献されました。現在はサッカーボールなどスポーツ球具を製造販売するモルテンの名古屋支店として、建物もそのまま利用されています。

若宮八幡社鳥居前の喫茶「アリ」は、なごやめし「小倉トースト」発祥の地です。伊藤早苗さんは3年前前に閉店され、現在はブティックとなっています。もともと、名古屋三越隣にあった小倉トースト「満つ葉」が移転し、15年前前にオーナーの西脇さんから受け継いだと聞いています。

最後に「こなもんや三度笠」のブログから、引用紹介させていただきます。

「大正10年頃、名古屋・栄に『満つ葉(まつば)』という喫茶店がありました。そこに『西脇キミさん』という美人で心の優しい評判の女性が働いていました。彼女は、『広小路の小町』と呼ばれました。喫茶店のオーナーのお嬢様。彼女を一目見たさに旧制八高(現・名古屋大学)の学生たちがたくさん押しかけたそうです。

当時、バタートーストはハイカラブームの人気メニュー。キミさんのご両親は、市内の大須で製菓業を営んでいたもので、メニューには『ぜんざい』もありました。食欲旺盛な学生たちは、トーストとぜんざいを注文。トーストにぜんざいをトッピングして食べていました。それを見ていたキミさんが、トーストにあんこを挟みました。これが、小倉トースト(あんトースト)の始まりです」

(2015・2・20)

ものづくりの起点

莊園時代、矢場町地域は湧水に恵まれた小林村の北側に位置し、天文17(1548)年に牧長義の居城として小林城が築城されました。小林城は永禄13(1570)年に廃されて剣術指南・柳生利蔵の屋敷となり、元禄17(1701)年に清浄寺となって現在は「矢場地蔵」として親しまれています。矢場町の名は、地域内に現存する三輪神社に寛文9(1669)年に弓矢場が作られたことに由来するようです。

江戸期に下級武士が軒を並べて居住し、お城勤めより「職芸」に熱心で、鍛冶職やからくり、建具、和時計、家具、武具などの「ものづくり」や寺子屋の教師、武芸師範など副収入もあり優雅な生活を営んでいたようです。武芸指南も活発で、稽古場として剣術の柳生流の道場「清祥寺」、「三輪神社」には弓道の通し矢道場(現・矢場とん本店周辺)は京都の三十三間堂並みであったといわれています。

和時計の津田助左衛門は家康お抱えとなった後に清須に移り、その後、子孫も代々尾張藩の御用時計師として仕え、正式に尾張藩の御時計師・鍛冶職頭となり、矢場界隈で仕事をしていたといわれています。尾張藩士・津田助左衛門の故事に因んで、和時計をモチーフにした「からくり人形時計」が建てられています。

南には寺院が隣接しており、関西府県連合共進会開催に伴って建造に携わる多くの建材



小倉トースト発祥の地、喫茶アリ(2010年頃)



和時計をモチーフにした「からくり人形時計」

関連店が万松寺や絵見寺、性高院境内に裏門前町として進出。北の矢場町は「ものづくり」のインフラに恵まれ家具問屋とともに指物やガラス、金具店が昭和30年代まで軒を並べていました。昭和30年代地図を基に、戦後開発された若宮通り北から懐かしいお店をご紹介します。ぜひ見ましょう。

南呉服町通りの東側は政秀寺の土地を借り上げ、南から「菱家木工」の作業場、「秋田自動車」の跡地は丸栄の家具・内装店「ハローネ」からヤマダ電機を経て平成26年末、外車ディーラー渡辺自動車の「ランドローバー名古屋中央」がお洒落なショールームをオープン。「石清金物」、「富士道木工」の倉庫はリーパークの駐車場、角は「小松タペストリー」の敷物・ドレープの展示場からインテリアショップ「SEANT」になりました。

寺の西と北の底地は政秀寺所有のため開発が進んでいなく、いまだに木造家屋と駐車場となつています。丸栄の角ビルはなぜ鉄筋コンクリートで寺敷地に建設ができたか？丸栄創業者の中林一族が寺の檀家総代で当時の住職も断れなかったといわれていますが、真実はいかなるものでしょうか？

西側は角の民家北に大兼家具店、荻野建具店、菱家木工、石家道具、富士道木工、鍋野金庫と軒を並べた「道具屋ストリート」を形成。中でも「富士道木工」はいち早くビルを建設、上階には能舞台があり、粋な親父さんがお稽古されていました。現在は「NOCÉ」という洋風家具のショールームとなつております。富士道木工の三好工場には広大な敷地に人食いサメ「ジョーズ」の剥製はくせいがあり、工場直売セールの何度も訪問した記憶があります。

「菱家木工」は菱家ビルとしてマンションとなり、3代目の菱田雅之さんは矢場町2丁目町内会長として地元で活躍されています。

北のブロック、「ベル栄ハウス」オーナーの鈴木さんは江戸末期から同じ土地にお住まいと聞いています。お隣の「地金伸銅商品・今津」は家具建材の金具部品製造卸として現在も経営され、粋な和風店舗には昔ながらの尺貫法・度量衡が鎮座しているようです。そして、「前田寿仙堂」は茶道具骨董で、マンション併設で営業されています。

南の「尾畑板硝子」は家具材料「中日ガラス」、角の「河合茂商店」は『君が代』文具ブランドが懐かしい思い出です。北角の「瑞穂商事」は愛知時計電機の卸部門として名門であり、和時計制作とご縁があるように勝手に考えています。なお、地元では矢場町を呼ぶイントネーションは、「ば」を高く発して「ちょう」は下がることにご注意下さい。

(2015・3・26)

矢場公園周辺

矢場公園の現在地は清須越えに伴い成瀬家の菩提寺・白林禅寺の北敷地で墓地として使用されていましたが、明治になり育児院（保育所）と日本専売公社（現・JT）のタバコ工場があったといわれております。戦後の区画整理で墓地は平和公園に移転し、学校の隣地は公園という行政指導もあり、中央高校の南の児童公園として子供たちの遊び場となっていました。



政秀寺の西側。河合ビル「くまカフェ」、小松タペストリー「SEANT」、丸栄の「ハローネ」は「ランドローバー名古屋中央」へ



ベル栄ハウスと地金伸銅商品・今津は今も健在

昭和37、8年頃には道路も舗装されて民間の車の出入りが多くなり松坂屋、丸栄、名古屋証券取引所関連の駐車問題解決が街のテーマとなってきました。杉戸清名古屋市長が地下駐車場建設促進を発表、「金文堂」の丹羽金作社長をリーダーに地元の有志の合意をえて、なんと公園の地下に有料の車置き場を建設することとなりました。

松坂屋が中心となり名古屋地下駐車場が設立され、昭和41年4月矢場公園下に141台、10月に久屋大通り南公園地下にも294台が開設され一般供用されました。当時は駐車するのにお金を払う習慣がなく営業にも苦労されたようですが、近隣の大手百貨店などの提携で繁昌し、平成14年には社名もエンゼルパークと変更、収容力も1000台と市内最大の規模で展開されております。オープン時の料金は30分60円、月極め1万9000円であったと社史に記されています。しかし、株主や役員に森永グループは一切関与されていません。

森永グループといえば、名古屋駅前の旧大名古屋ビルヂング屋上にあつた森永製菓の象徴的な球形回転型ネオンサインが有名ですが、栄とのかかわりについてお話ししましょう。森永製菓は明治38年、トレッドマークにエンゼルマークを制定。マークの由来は創業時の代表的な商品のマシュマロの別名「エンゼルフード」からヒントを得ました。

矢場公園西のブロックは森永製菓のキャンディストアーや事務所、倉庫、配送センターを有する広い土地で、戦後のベビーブームを支えた粉乳販売にも注力していました。広告塔としてエンゼル球場や公園を管理運営して、正雄たちは一帯を「エンゼルパーク」と呼んでいました。そして、公園はナディアパーク開業に伴って整備され、イベント広場とし

て地域のコミュニティ活動の中心となってきました。

名古屋地下駐車場10周年記念誌に掲載されている矢場公園全景写真から当時を偲んでいきます。

3階建ての加藤小児科ビル屋上から南西に向かって撮影されたようですが、手前は森永製菓名古屋駐在所のショップ・倉庫・駐車場、左奥は化粧品卸の「江口商店」です。右奥の4階建てビルは栄で最も古い雑居レジャー「住吉ビル」。オーナーの定政さんの実兄が1階で「喫茶・いよ」を経営され、近所の社交場として10年ほど前まで賑わっていました。手前のビルは一光石油の矢場給油所、7年ほどまで閉鎖されコインパーキングでしたが、平成26年には大型の紳士靴店「ネクストフォーカス」がオープン。なんと！オーナーはツルヤ靴店オーナーだった服部博幸さん。本物のこだわりのお店で栄に復帰され、新しい名所となりそうです。

南は昭和38年竣工の森島羅紗店ビル、正雄が昭和58年から平成18年まで代表を務めておりました。全国のテラーへ尾州の服地を切り売りするのが母体の事業で、屋上の看板の横には「高級紳士服地・長大スーターテックス」の懐かしいネオンが輝いて見えます。現在も後継の杉本忠夫社長のもと、オーダースーツ展開で頑張っています。

そして、広告塔「アイチの時計」は昭和22年創業の瑞穂商事で、愛知時計電機の営業部時計部門を分離、アイチの時計総発売元としてスタート、新ビルも建設され輸入時計の卸業で活躍されています。その奥は昭和35年頃建設の山市ビルで、多くのテナントが今も入居されています。南の3階建ビルは内装品卸の「小松タペストリー」、向え角は「河合茂



矢場公園での栄ミナミ音楽祭
オープニング。サカエガール
ズと共に(2014年)



昭和39年頃の矢場公園全景を
東北より望む(名古屋地下駐
車場10周年記念誌より)

商店」のビルで、現在は1階がセブンイレブン、2―3階は「くまカフェ」が入居されています。

(2014・12・19)

矢場公園パークサイドストーリー

うなぎ料理「万喜料理店」のやんちゃ坊主で1年後輩の青木くんは分団リーダー、「東館」からの暖簾分けすし店「千力」の自社ビルはブランド衣料店となり、お店は丸の内2丁目に移転されてかき揚げ丼が名物の天ぷら屋に変身して頑張っています。

パーマ屋の「森」、「マキ」、どちらも母娘で賑やかでしたが、この地域の大型ヘアサロンの礎といえるかもしれません。公園西の「EMA」、「WORKS」、南と西には「BLANCO」とカリスマ美容師がリードするファッショントウンと変化しています。雑誌「ケリー」が名付けた「名古屋巻き」「なごや嬢」スタイル発祥の地区といえます。雑誌「ケ

学生服卸の「寺井商店」は1階に「ジョンブル」という英国調喫茶店を奥様が経営。正雄はモリシマ勤務時代の朝にはモーニングサービスをこちそうになっていました。現在はお洒落なファッションビル、最上階にお住いの子息・寺井規智さんは栄ミナミ・エリアマネジメントのメンバーとして街づくりに貢献していただき感謝しております。

「伊東商店」は明治24年に先々代の伊東米次郎が中区鍛冶屋町で小間物やべつ甲製品の製造事業をスタート。小柄でバイタリテイある先代の善一郎社長は『男のダイヤモンド・ロ

イヤルバロン』ブランドを展開、宝石業界への貢献で藍綬褒章や勲五等瑞宝章を受章されております。

南隣には「岩田玩具」がユニークな玩具の小売店とテナントビルを建設されましたが、現在は「エフジーパークサイド」にリニューアル、素敵なカフェやワインバーなどが入居され憩いの場となっております。

南は皮膚科「十全病院」と相山先生宅、東角の内科・小児科「仙田医院」とも評判の名医で、早朝より患者が長蛇の列をなして開院を待っていました。路地内では、「カメラのヒダカヤ」の山口さん、篠製品・乳母車の東谷さんのご自宅や長屋がありました。白林寺の借地が多く現在は移転に伴い月極め駐車場群となりました。

「若園」、「御宇良」2軒の旅館跡、トタン塀の内側にはキャベツや茄子、えんどう豆、トマトなどが植えられた白林寺の菜園など、都心とは程遠いレトロな景観が印象的です。

そして、東側角の江口化粧品店は自然食レストラン、和洋ナチュラルレシピと自然派ワインで「安心・安全で体にいいもの」がコンセプトのカフェ、お洒落な菜園食堂「ハタケタナカ」。森永製菓のストックヤード南は、昭和53年に大分分譲マンション「ロータリーマンション栄」がオープン、1階には南大津通りの「花長」から独立された「花ギヤラリーめぐみこ」が素敵な緑と憩いの空間を提供しています。

北角は駐車場ビルを経て、平成21年秋に東海地区最大約800坪の売場面積を持つ「ユニクロ名古屋栄店」が誕生、多くの若いお客様で賑わっています。

公園南地区は商人旅館が多くありましたが、12、13年前の「さくらや旅館の再生ストーリー」



矢場公園東



矢場公園あたりの北見式地図。なんと矢場公園が久屋公園と誤植されています



矢場公園南の白林寺の駐車場

をご紹介します。オーナーの三浦英二とカリスマ設計士の神谷利徳の発想から話題の町おこし事業となりました。

その後、料亭「蓬莱」の敷地などとともにタキヒヨウのリードで開発され、平成26年末にパルコの「名古屋ゼロゲート」が開業されています。

ここで、さくらアパートメント開業頃の都市研究所スペースシアのニュースレターを転載します。

「近頃『栄南』と愛称される矢場町界隈。ナディアパーク、パルコが並び、大須へと向かうこの地域は今名古屋の若者たちに最も注目されている。

栄という立地でありながら比較的規模の小さなビル、また路地やぬけ道などがあり、若者たちのインディーズ気分は十分にそそられる。そのため矢場町界隈には老朽化したビルや空店舗などをうまく改装した個性的な店舗が集積してきた。さくらや旅館にもそういったオファーが以前からもあったようだ。

旅館時代の部屋をそのまま貸し、服やアクセサリ小物、アロマセラピーなど30軒ほどのテナントが、各々部屋を自由に改装して店舗にしている。店のオーナーたちは若く、ほとんどが自分でデザインした手作りの商品を置いている。各部屋の個性的な内装もみな手作りだ」

(2015・5・23)



さくらアパートメントの入口

栄 ミナミ 編



栄、そして栄ミナミの歴史と由来

名古屋栄の歴史と由来について、お話ししてまいりましょう。

現在の栄地区は昭和41年の新住居表示実施により設定され、大まかには北は広小路、南は若宮通りが南北域となります。西の堀川から伏見通りまでを栄1丁目（御園地区）、本町通りまでが2丁目（白川地区）、久屋大通までが3丁目（住吉地区）、その西が4・5丁目（武平町・東新町）となりました。

この地は「藤野」と呼ばれる台地の南で、大津通が小高い丘となり豊富な地下水と泉に恵まれた里山であったようです。西に紫川流域があり、1丁目は北から2本の流れが合流しています。水量も多く、古代の海進時代の堀川以西は海岸線で、栄小学校南周辺には「豎三蔵遺跡」と呼ばれる約2万年以上前の旧石器から縄文時代のナイフ形石器や鏃^{やじり}が発掘されています。海の幸や果樹の実にも恵まれ、紫川に水を求めに来たシカやイノシシの狩りをしていたようです。

2丁目の白川公園遺跡では、縄文から弥生時代は栗・ドングリやクルミなどがとれる豊かな森で木の実をすりつぶす石皿や土器が発見されています。農耕の跡もあるようです。紫川は名古屋科学館北の白川通りを東から西に流れていました。3丁目では泉が湧き出し、江戸時代には地下伏流水を利用した「住吉屋」という造り酒屋がありましたので、街の名前が碁盤割七間町の南は住吉町となったといわれています。西の丘を越えて、4丁目は藤原師長由来の「小袖川」が北から流れます。フラリエ近辺では、精進川に注ぐ高低差

のある風光明媚な邸宅が明治の頃には並んでいたようです。

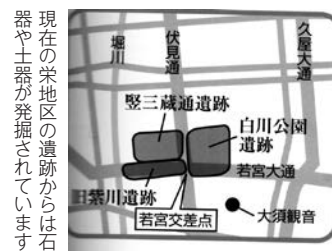
「清須越し碁盤割外の東南隅で南寺町に至る場末の境から、サカエと呼ばれた」と祖父良矩から聞いていましたが、明暦年間（1655～1658年）頃から栄村^{さきむら}（後の中村区栄生町）の住民が店を出して商売をするようになったことによるとい説もあるようです。

江戸時代は大規模な商人の本町通り、三業者（芸者・置屋・料亭）遊興の住吉通り以外はほとんどが下級武士住居であり、南隅が寺町となっていました。万治の大火（1660年）後は防火帯として広小路ができ、庶民の広場として賑やかな下町の中心となりました。「栄町」という町名が正式に成立したのは明治4年で、広小路長者町より栄町1丁目から南久屋が栄町7丁目となりました。その後、東海道線笹島駅オーブンに伴い、名古屋電気鉄道（市電）が31年に開通し、広小路が笹島（名古屋駅）と中央線千種駅につながりました。これにより官庁や金融街が集約され、南北の大津通に熱田と結ぶ市電が開設されました。

明治43年、栄町5丁目交差点の南西角、火災で焼失した名古屋市役所跡地に移転して中京の百貨店の先駆けとなった「いとう呉服店」（後の松坂屋）が開業し、栄界隈が大変化を遂げてきました。

戦災で栄学区はほとんどが焼失して、土木技師の田淵寿郎がリードする都市復興計画によって道路と公園が50パーセントを占める新しい碁盤の町割りとなり、町名も明治のころから南〇〇町と呼ばれる通りが多くなりました。

高度成長の続く昭和45年、広い通りを活用したイベントとして南大津通の栄交差点から



現在の栄地区の遺跡からは石器や土器が発掘されています



宝暦12（1762）年名護屋路見大図。現在の栄1-5丁目、左端が堀川、右端が武平町界隈

矢場町の区間で日曜遊歩道「歩行者天国」が始まりました。毎週日曜日には多くの人で埋め尽くされましたが、交通量の増加もあって59年に中止されました。近年復活の声に呼応して平成24年に「ホコ天」が復活し、毎年春秋の日曜日に楽しい憩いの場を提供しています。昭和57年、南呉服町商店街の佐藤嘉晃理事長（伍味酉社長）が新設されたプリンセスガーデンホテルからの賛助金でアーチを建設。通称「プリンセス大通り」と命名されました。そして、60年には灘家の伊藤泰弘のリーダーシップのもと住吉町のアーチも完成し、栄繁華街が年々賑やかになってまいりました。

昭和52年には栄2〜3丁目18の各町内会が連合して「安心・安全な町づくり」をテーマに「栄中部を住みよくする会」が設立されました。平成19年から23年まで正雄も会長を務めさせていただきました。この頃には住吉地区や栄中部ではなく「栄ミナミ」という呼称で表現されるようになりました。

「栄ミナミ」の名称はゲインの藤井英明社長の発案です。雑誌『ケリー』でサカエのPR、ゲイン関連の外食や美容関連事業で新しい町づくりに貢献、「栄ミナミ音楽祭」の開始とともにこの呼称が市民権を得たようです。

しかしながら、歴史も文化も感じさせない情緒のない町名ではなく、三蔵、御園、伏見、桑名、長島、八百屋、鉄砲・末広、住吉、呉服、伊勢、大津、鍛冶屋、久屋、武平、瓦町など旧町名の呼称をもっと大切にしていきたいと思っております。そして、平成24年2月に有志が集まり「名古屋の旧町名を復活を目指す有志の会」を立ち上げました。

(2019・3・14)



プリンセスガーデンホテル

「栄中部を住みよくする会」が街づくりの原点

栄2〜3丁目地区町づくりの原点である「栄中部を住みよくする会」の変遷とともに、栄ミナミ地域の諸活動を紹介してまいります。

昭和41年に新町名表示となっても、各町内は旧町名地域での町内会や振興会の活動でも組織もバラバラで一体化した活動が不十分でありました。そこで、警察や行政からの指導もあり、栄3丁目を中心に総合的に共通の問題を考える組織として「栄中部を住みよくする会」が発足しました。

会の中心は住吉町の深田正矩（正雄の父）、南呉服町の佐藤嘉晃（伍味酉）、南伊勢町の山岸正明（山岸自転車）、南大津通りの杉野峯一郎（ふとんのスギノ）、そして事務方は竹市稔夫（たけいち文具）、伊藤泰弘（灘屋）であったと父から聞いています。

住みよくする会の主な活動は防犯・防災が中心で、年末の深夜巡回や客引き防止、暴力団対応、歩道看板撤去などでした。そして、お互いのコミュニケーションの場として啓蒙しあうために各商店振興会が発足。街路灯や防犯カメラ、植樹、イルミネーションなど各町内が個別に活動しておりました。

昭和50年頃、栄住吉地区は名古屋の最も賑やかな繁華街として悪質な客引きやぼったくりバー、違法風俗店、不法駐車、公園でのホームレス、そして暴力団対策など多くの課題を抱えていました。

なかでも中央高校跡地の市有地開発にコンペ方式を採用。アメリカ人のマイケル・ウイ



「栄中部を住みよくする会」の中心をになった父正矩

ニックの設計を取り入れ土地信託に基づく商業施設ナディアパーク開業については、住みよくなる会の佐藤会長の調整力が大いに評価されております。名古屋市の街づくり事業として数少ない成功事例といえましょう。

そのころ住吉通商店街振興組合では「灘屋」の伊藤社長のリードで、当時飲食店街では珍しい「住吉通都市景観協定」を平成9年7月18日に締結。大型のアーチ3基、街路塔、そして住吉1―3丁目全域の舗道には絵タイルを5メートルごとに設置しております。

254枚のオリジナル陶板による絵タイルはそれぞれの店舗や事業者の由来と要望に応じてデザイン。制作費用は1枚8万円、設置には各5000円を地元負担で施工しました。現在も数枚を除き現存しており、是非、住吉の街歩きの話題として足元の絵タイルを楽しみながら繁盛振りを思い出してください。

しかし、このような街づくり活動は各商店街が個別に企画検討して、イメージの統合もなく実施されておりました。

大規模店舗をかかえる南大津通りのメンバーが商業イベントを仕掛け、建設協定やイルミネーション、バナー&共聴放送、共同清掃など栄地区の中核として頑張っておりました。しかし、ナディアパーク開設までは全く街づくりから取り残された居住者の多い矢場町も隣接しておりました。矢場町1丁目では公園の愛護会による共同清掃、老人会、子供サークル、婦人会、資源ごみ回収など昔ながらのコミュニケーションが図られる場も多くありました。

平成17年ごろ、雑誌『ケリー』が住吉地域を「栄ミナミ」と命名して話題となつてまい

りました。同時に住みよくなる会の世代交代がきっかけで、新しい栄ミナミの地域活性化が若手と外部の力で萌芽していくこととなります。

(2012・7・26)

楽しく愉快な仲間たちと街づくり活動

7、8年前に「栄ミナミ文化村フォーラム」というサークルができ、毎月のように会合をして喧々諤々けんけんがくがくと討論をしていると聞いておりました。もともと広小路より南寺町の大須にいたる地域は「住吉」と呼ばれ、飲食店を中心とする繁華街として昔から発展してまいりました。

ここに「よそ者」があつまりました。住吉地区を勝手に「栄ミナミ」と名付けたゲインの藤井英明さんが呼びかけ人。イベント事業「サンデーフォークプロモーション」の桑原宏司さん、そして新進の広告会社「アイ・アンド・キューアドバタイジング」の藤井一彦さんの3人が中心となり、若手のカリスマ飲食店設計士の神谷利徳、ゼットンゼットンの稲本健一など気鋭の創業者たちがいろいろな事業展開と街づくりをテーマに勉強会をしております。

そんな時に正雄はフォーラムにゲストとして招かれ、ユニークな論議に「ビックリ仰天！」したのがキッカケとなり、大きな栄地区活性化活動になってきております。とにかく、地元の町内と無縁で居住したこともない所謂「よそ者・変わり者」たちがボランティア



住吉町アーチを1丁目（東急イン東）、2、3丁目にも各1基設置



住吉町2丁目の絵タイル。薦茂の旧玄関前（現在は居酒屋あろちゃん）は池の橋をイメージ



2010年夏に開催された「第2回栄ミナミ盆おどり@GOGO」(左から正雄、藤井一彦、原田さとみ、ウクライナ留学生ニカ、藤井英明、後藤寿美、宮本忠博アナ)

ア魂旺盛で、熱心に栄ミナミの課題や展望を論じているではありませんか。

コメントを求められた正雄は、年長でもあり開口一番「君たちよそ者が何をヤツトルカ！ けしからんけど、素晴らしい。地元としても是非、協力したい。一緒にやろう！」と発言したのがスタートのようです。

その頃、佐藤会長が健康を害し、後任に正雄に白羽の矢!? が立ちました。そして、住みよくなる会の幹部の若返りを条件にお引き受けすることとなりました。

この地区は百貨店をメインとする物販店、料亭からラーメンやスナック・バーなどの多岐にわたる飲食店、そして公園と緑に恵まれた居住地区が独特にミックスしており、特に矢場町1丁目町内会など活発な住民のチームワークで公園の美化や地域清掃、挨拶運動もユニークなものがありました。

「コミュニケーションはセキュリティ」のテーマのもと、お互いが協力し合う祭りやイベントで一体化できないかと思案しているところへ、平成19年には名古屋駅前にミッドランドスクエアのオープンが予定され、栄商業地区から多くのお客様が流出するのではと危機感も高まってまいりました。

文化村フォーラムのよそ者活動が「栄の各町角でストリートミュージックのイベントをやろう」という提案となり、平成19年5月の「第1回栄ミナミ音楽祭」開催となりました。正雄は地元代表として栄ミナミ地域活性化協議会の会長に担ぎ上げられてから、旧来の地元町内や住民と若手事業者との一体化にチャレンジしているのが現状といえます。

南呉服町の元料亭「楽らく」やインペリアルビルを展開する白瀧正人さん、矢場町で子

供会活動にも熱心な野村忠司さん、南伊勢町のウエルビーグループを率いる米田行孝さんから若手が活躍。そして、南大津通りの発展の礎づくりに奮闘される「栄ミナミ商店街連盟」会長の勝田明さん、「栄中部を住みよくなる会」会長の多湖秀明さんらの指導で、物販・飲食・住民と調和のとれた街づくりに邁進しております。

近年は地元警察などの協力でホームレスや違法カジノ、客引き問題などを改善するほか、各町内での清掃活動も活発化、監視カメラを設置して「歩いて楽しい栄ミナミ」作りはスタートしてまいりました。

(2012・8・20)

中高年男性の街からお洒落な若者の街に

南呉服町に竈、末広町に舌頓? 「ZETTTON」なんとも意味不明でユニークな飲食店が平成7年にオープン。近くで森島羅紗店を営んでいた正雄は斬新なネーミングと若者の「和」の感性にビックリした鮮烈な印象が今も残っております。

本町通りの南端、子供の頃から親しんだ「味岡屋」の古民家(現・猫カフェ)が床や天井、壁などをリストアしてオープンカフェ「ゼットン」として冬場に開業。斬新さに誘われ若い社員たちと洒落た気分、真冬の屋外の寒さに震えながら膝掛をかけてドライマティーニを飲んでおりました。

聞けば、設計企画は西尾出身の神谷利徳、経営者は金沢からのバーテン・稲本健一との



2011年5月に開催された「第5回栄ミナミ音楽祭」



栄ミナミの仲間たちと

こと。二人とも30歳前後の若造！ 素敵なお店でしたがお客がサッパリ！ 冬場にオープンバーとは？ しかし、ZETTONのコンセプトに惚れた正雄は、多くの仲間や友人を紹介して楽しんでおりました。

そのうち若者から話題となり、満席状況となりだした頃に今度は住吉町3丁目の大同別珍の倉庫が稲本さんの「ODEON」（現・アロハテーブル）という居酒屋に変身。貨物用エレベーターしかない5―6階には「神谷デザイン事務所」の看板が上がりました。

そして、数年の間にカリスマ設計士の神谷さんが関与する異なったコンセプトの飲食店が、ラーメン店からカフェなど地域に20店舗以上を数えるようになり、それぞれが若い女性にうけるのか大繁盛、[〃]神谷神話[〃]と話題となりました。料亭蔦茂南の正雄所有地で神谷さん監修・設計の「そぞろあるき」を平成14年夏に開業し、繁盛しておりました。

名古屋パルコやナディアパークのオーブンも影響して、地域の客層が仕事帰りの中高年サラリーマンから変わり若い女性が楽しめる街に変貌しました。

モリシマも若い潮流に対応するためゲインとレストラン「むらい」を開業、ヴィレッジヴァンガード名古屋中央店を誘致、そして矢場町を中心にお洒落な女性好みの「カリスマ美容師」ヘアサロンが多く林立する明るい街となってまいりました。

さらに、多くのマスコミ媒体を通して地域PRや美容関連シヨップの誘致・開業指導、レストラン運営など幅広く関与、矢場町にある中堅繊維やスポーツの間屋などがブランドシヨップなどに様変わりしてまいりました。

栄ミナミ変革のキッカケとなった神谷利徳は店舗や住宅、商業施設など1000件以上

を手がけるほかデザインスクール「So-Co（ソーコ）」を設立、西川流[〃]名古屋をどり[〃]の舞台美術まで手がけるなど八面六臂の活躍といえましょう。

(2012・9・20)

「なごやめし」と老舗変遷

栄ミナミで戦前から同じ土地で飲食店を継続営業しているのは、わずか2軒のみです。

住吉3丁目南角にある明治初期創業のうどん「一八本店」。和風の飾らない引き戸をくぐると、昔ながらの内装が見えます。店内は敷居の無い5席のテーブルがあり、都会の喧騒を離れた雰囲気は、ちょっと貴重です。

なぜ一八か？

「一八とは、たまり1、出汁8の割で汁を作っていた？」

真偽のほどはわかりませんが、祖父良矩が言っていたとのこと。尾張に数ある「麵類一八……」の元祖ではないかと思われまます。

戦災で一带はすべて焼失しましたが、一八の近隣4軒のみ焼け残りました。西隣の「早川商店」は大正時代の建物です。一八は昭和34年に改築されましたが、昭和ロマンの趣が楽しめます。そして、もう一つは創業100周年の我が料亭蔦茂です。

「なごやめし」という言葉は、ゼットンの稲本社長が東京進出時にメニューにつけた呼称と言われていますが、「ひつまむし」と並び当地区の「味噌煮込みうどん」「味噌カツ」「手



稲本健一さん



神谷利徳さん



一八本店(住吉町3丁目)

羽先」が全国的に知られるようになりました。

「山本屋総本家」は大正14年に大須で創業。初代店主のもと町田守一の妻雪枝さんが奉公で勤めていたことをきっかけに戦後屋号を譲り受け、中区南呉服町2丁目7番地にて昭和24年に開店。30年に矢場町1丁目（現・栄ミナミ平和ビル）へ移転し、お隣では町田のおじいちゃんが床屋さんも営業されていきました。

大きな座敷もある数寄屋造りの店で信楽焼の土鍋の蓋に穴がない、薬味入れは2尺以上の燗竹、ゴロツトした超太の角箸で食べる名物が懐かしく、八丁味噌の香りが店前通りに漂っておりました。

3代目の町田善一さんは民社党幸友会（春日一幸議員の後援会）の世話役でご指導いただき、とても麻雀好きでお付き合いさせていただきました。近年は女婿の小松原克典専務のリードで各百貨店でギフト販売にも注力されています。

「矢場とん」は昭和22年大津通り4丁目電停前（現在地）で創業。ホームページによれば、「雑踏の屋台で、一人の客が何の気なしにつまみで食べていた串かつを、おもむろに、どて鍋のたれにドボンと浸して食べてみた。そして一言『こりゃ美味い！』。たまたまそこに居合わせた客も試しに食してみると、『なるほど、これはいける』と……。実はその人こそ『矢場とん』の初代店主、鈴木義夫でした」とのこと。現在は「なごやめし」の代表格として全国展開ですが、正雄にはナゴヤ球場の売店も懐かしい思い出です。

南呉服町2丁目「うなぎ・いば昇」は明治のころ武平町で創業。昭和26年に現在の「むつみ小路」にて再開、現在は4代目の木村隆之さんがオーナーです。30メートル程南の飛

び地に駐車場と井戸があり、井水で養殖うなぎを2日間くらい立てると身がしまり脂ものようになります。

「ひつまむし」もさることながら、昔ながらのチョット濃いたれの味付と蓋まで「チンチン」に熱いうなぎは正雄にとって母親の味のようなものです。先代の漬けた手作り奈良漬がもう一度、賞味できれば嬉しく思います。なお、「ひつまぶし」はあつた蓬菜軒の商標登録とのことです。

洋食では南伊勢町2丁目「レストラン・ブギ」のビーフシチューやポタージュスープ、カツサンドの味が懐かしく、本格手作りのソースが話題でした。気が付いたらファッションヘルズに業態が変わっていたのが残念です。10年ほど前、青森の郊外で「ブギ」というお店に立ち寄ったらなんと同じ味でビックリ！名古屋のブギで修行して奥様の実家の青森で創業されたと伺いました。

「とんかつ八千代」はヒレカツとさらっとした独特のソースで一世を風靡、中店が住吉1丁目郵便局隣、栄銀座にありました。本店のコックが丸の内東急インレストランに移り、「シャングリラ」というレストランで思い出のカツライスを味わっていましたが、時代と共になくなつたのが寂しく思われます。

居酒屋では丸栄南の松竹小路入口の「伍味酉」。ガラクタ骨董品がいっぱいならび賑わっていました。名古屋における居酒屋の元祖。昭和53年に2代目の佐藤嘉晃さんが社長に就任され、多店舗展開をスタートして地域のリーダーとしても活躍されました。

(2013・9・24)



うなぎ・いば昇（南呉服町2丁目、むつみ小路）



伍味酉（南呉服町1丁目、松竹小路入口、現在は丸栄南館）

栄で競輪！ 「サテライト名古屋」

平成19年の秋、地元の中堅不動産企業の社長から「街づくりについて事例見学して欲しいところが都内にあるから、とにかく上京してくれ」と懇願されました。訪問地も告げず「詳細は東京で」とのこと、出張ついでに新橋駅前のS.L広場で待合せました。そして、立ち寄ったのは広場横の「ラ・ピスタ新橋」という会員制場外車券売場、大変明るく楽しい雰囲気、圧倒された記憶があります。ギャンブル場外車券売場の暗い、そして不潔なイメージが一新された鮮明な印象でした。

某社長曰く「栄の活性化には是非、都市型競輪サロンの導入を考えて欲しい、場所も住吉に素晴らしい適切なビルがある」とのこと、また、ビックリ！

「どうして事前に見学場所を伝えないのか？ 今、なぜ課題の多い公営ギャンブルの出先を栄へ？」

「場外車券場と言ったら、先入観で絶対に見学にも来ないでしょう？ 栄の環境浄化にはこういったドラステイックな事業が必要！ 見れば判るでしょう！」

実は、同年より「栄中部を住みよくする会」の会長を拝命して、地域活性化への仕事と地域町内の協調の中心に据えられておりました。

イベントを通じて各町内相互のコミュニケーションがやっと始まり、地域の問題も語り合える環境が出来つつありました。当時はミニダブルが崩壊して、関東や関西の不動産投資ファンドやリートが住吉地区の大型ビルを取得、開発しておりました。

しかしながら、長引く不況もあり大型テナント需要は一部の違法カジノや出会いカフェ、キャバクラなどに限られ、反社会的勢力関連の事業誘発につながる恐れがありました。ファンドの所有する住吉町2丁目のサラスクエアビルには2階に「Chanko Dining 若」のみ入居で、町内でも不適切なテナント入居の可能性に疑心を抱いておりました。このビルに新橋などで実績を上げている「サテライトジャパン」が場外車券所を運営をするという企画でした。

早速、新橋地区の町内を中心に地元の評判や同社の運営実態を調査しました。素晴らしい街づくりへの貢献に納得し、当該町内会長の鬼頭釵二さんも快諾され、近隣町内会のメンバーの見学などを推し進めました。誘致に向けて平成20年7月25日、東急インにて第1回住民説明会を開催し、一部の参加者から風紀の乱れを心配する意見もありましたが、栄地区全体に呼びかけ趣旨を理解していただくことと第2回設置説明会を8月22日に設置しました。

しかし、第2回当日は説明会どころか、地域外から名古屋市商店街振興組合連合会（名商連）関連のグループが150人以上集合して、反対の鉢巻姿で会場に押しかけました。登り旗を掲げ大反対のシユプレヒコールで混乱、冷静に事業説明を聴こうとする地元住民とはかけ離れた行動となりました。

十分に計画内容を検討もせず、当該地域の意見もきかず、名商連は「市内の中心地でこの施設は、生活環境や青少年の教育に悪影響を及ぼす恐れがある」として議論の余地なく反対するため、騒ぎの收拾がつかなく説明会は流会となり、マスコミに大きく取り上げら



ラ・ピスタ新橋



地域の活性化に貢献する「サテライト名古屋」

れたことはご存知の方も多いかと思えます。

残念ながら地元意見とはかけ離れた外部からの影響の反対意見で地域は混乱、当該の住吉2丁目町内会は分裂騒動にまで発展しました。しかしながら、地道な啓蒙活動や事例見学、当該関連町内の熱意で次第に近隣の理解も深まり、1年後には栄地区の合意がほぼ得られ事業伸展の目途がつかまりました。

しかし、新たな難問が生まれました。仲介した不動産会社が経営難に陥るだけでなく、予定地のオーナーファンド運用会社で東証一部上場企業のパシフィックホールディングスが会社更生法を平成21年3月10日に申請、更生債権となる当該物件の開発がストップとなり、再建計画の承認前では住吉町での開業が困難となりました。

事業の継続を諦めかけていたところ、地域の合意形成に大奮闘した住みよくする会の副会長の白瀧正人が三蔵通り・南呉服町2丁目にある日本リートのビルの活用を提案、サテライトジャパンが賃借する方向で地元誘致を継続する交渉を展開しました。

平成22年には建設予定地変更の合意も得られ、開業へ向けてスケジュール調整の最中に再び新たな難問が生まれました。これまで事業者の中心であったサテライトジャパンが親会社の業績不振で銀行融資がつかなくなり事業撤退を表明、また頓挫寸前となりました。

そこで、白瀧の調整でオーナーの日本リートが運営会社「サテライト名古屋」を設立して事業計画を承継するという一件落着。関係官庁への申請など4年間の紆余曲折を経て平成24年5月7日無事、開業となりました。

現在は人気スポットとして、会員数7400名、毎日数百名の来場者で賑わい、地域の

活性化に貢献しております。町内各地の清掃、警備と案内ガイドを配置して「歩いて楽しい栄ミナミ」にはなくてはならない存在となりました。

また、開業年の3月には競輪事業に伴う地元事業交付金の授受・使用について「サテライト名古屋地元連絡協議会」が設立されました。そして、勝田明会長のもと栄2―3丁目の17町内代表の総意で、安心・安全な街づくりのテーマに基づき地域に100台の防犯カメラ設置計画を推進することが決定し、平成25年5月10日、河村たかし名古屋市長とともに矢場公園で記念式典が開催されました。

(2013・5・23)

活性化の起爆剤「栄ミナミ音楽祭」

平成18年12月27日、文化村フォーラムのリーダー3人が急遽、東山公園近くのファミリーストランに集合しました。

「勉強会や検討会ばかりでは何も変わらない、来年5月にミュージックイベントをして活気づけよう！」

藤井英明は企画・地元との調整、運営・アーティスト手配は桑原宏司、資金調達は藤井一彦が責任をもってやろうと意気投合したのです。

住みよくする会で世代の交代とともに具体的なイベントを通じてコミュニティが一体化できないか検討していたとき、啐啄せつとくどうじ同時、卵の中から地元、殻の外からよそ者が呼応して



グラントビル東に隣接するサテライト名古屋外観。戦後は岐阜提灯問屋「平松商店」、立体駐車場ビルとなりました



河村たかし名古屋市長(手前)とともに開会式のスティーツにて

生まれた「栄ミナミ地域活性化協議会」による「栄ミナミ音楽祭ゼロ回」を平成19年5月12―13日に実施、大盛況となりました。

以来、毎年スケールアップして、平成24年には大須地区も加わり41会場で250以上のアーティストが参加して20万人以上の人々にナゴヤ・ミュージックデーを楽しんでいただきました。

栄ミナミ音楽祭の軌跡

開催は5月第2週の週末（土曜・日曜）、栄ミナミ地区の会場数、参加アーティスト数、メインキャラクター、来場者数を記します。

第1回 2007年5月12―13日 14会場 参加アーティスト100組

（ゼロ回）メインキャラクター…柳ジョージ、嘉門達夫

来場者数 75,000人

第2回 2008年5月10―11日 22会場 参加アーティスト120組

メインキャラクター…根本要（スターダストレビュー）、ジェロ

来場者数 90,000人

第3回 2009年5月12―13日 24会場 参加アーティスト120組

メインキャラクター…宮沢和史（THE BOOM）、JAYWALK

来場者数 130,000人

第4回 2010年5月8―9日 27会場 参加アーティスト150組

メインキャラクター…杉山清貴、押尾コータロー、嘉門達夫

来場者数 150,000人

第5回 2011年5月14―15日 28会場 参加アーティスト174組

メインキャラクター…鈴木雅之、南佳孝、READ&BUTTER

来場者数 150,000人

第6回 2012年5月12―13日 41会場（大須を含）参加アーティスト250組

メインキャラクター…鈴木聖美、上田正樹、小柳ゆき

来場者数 200,000人

（2012・10・24）

栄ミナミのイベントの特徴

栄ミナミのイベントの特徴は、「よそ者」であるプロスタッフによる主導運営、タイアップ企業協賛の財源確保にあります。街の魅力と動員でPR効果のあるマーケティング対象として栄のイベントが位置づけられています。これらの成功事例が名古屋市、警察、消防からの積極的な支援をえて、矢場公園だけでなく久屋大通り公園での企業共催イベント（ビールフェア、テレビ局の催事など）が毎週末のように開催されています。

また、「南大津通歩行者天国」が平成23年に本格的に再開、春秋の日曜日にはファッションショーや音楽ライブ、バザーなど盛りだくさんのイベントにより毎回15万人以上の来場者を数えています。ストーリーライブが連動した日曜日は、多くの人出でホコテンが賑わ



2012年に開催したメインの矢場町公園会場



2012年5月に開催された「第6回栄ミナミ音楽祭」

いました。大須を結ぶ矢場交差点若宮広場では「名古屋あそびなうレ」、お化け屋敷、クリスマス・イルミネーションも話題となっています。

矢場公園では栄地域の仲間がともに動いて8月の第1週末に「盆踊り@GOGO」、冬には屋外アイススケートリンク「ナゴリン」そして、平成23年10月には名古屋グルメ選手権「NAGOO-1グランプリ」を初めて開催しております。

第2回NAGOO-1では、なんと料亭蔦茂の「わらび餅」がグランプリ第3位の栄誉に輝きました。

また、平成25年春、栄のブランド力を高めるイメージキャラクター「SAKAE GIRLS」がトップモデル8名でデビュー、FM愛知での広報・イベント出演で話題となっています。さらに、26年秋から街の情報サイト「栄ミナミWeb」を開設し、ホットな飲食・物販店情報提供をしております。

(2016・3・24)

「NAGORIN」の思ひ出

「栄ミナミ音楽祭」や「につぼんど真ん中祭り」など恒例の栄ミナミ発イベントは開催地域も広がり、全国から多くの参加者で賑わう観光事業として定着してまいりました。矢場公園での「栄ミナミ盆踊り@GOGO」、「NAGOO-1グランプリ」も継続して開催、栄の名物催事として話題作りにも事欠きません。

しかしながら、矢場公園でチャレンジしたユニークなフェアの中には、諸般の事情で継続できなくなったケースもあります。栄ミナミ地域活性化協議会ではとにかく何でもやってみようと様々な事業を展開しましたが、現在は実施できなくなったイベントの将来の再開を期するためにも紹介させていただきます。

全国でも珍しい屋外アイススケートリンクの「NAGORIN」の初年度の運営にあたっては大日本印章に特別協賛いただき、エイデン（現・エディオン）ほか30の企業の支援のもと、東海テレビの全面協力で総費用約8200万円で実施しました。

もちろん公的助成は一切受けずにチャレンジしましたが、入場料など興行収入が2000万にも満たず多額のマイナス計上となり、アイ・アンド・キューアドバタイジング及び関連企業、南大津通り商店街などからの救済に頼る状況となりました。

次年度は改善したものの、平成23年3月の東北大地震の影響もありスポンサーの集まりも芳しくなく、3年目からの継続は断念せざるを得ない結果となりました。

エキシビションで登場したチビツ子スケーターに魅せられて、スケート教室は大賑わいでした。夜のロマンチックな公園は多くのカップルで賑わい、入場者以外にも多くの人々が栄ミナミの魅力に感動されたことと思います。また近い将来、この経験を生かして新しい街づくりの担い手により「NAGORIN」が再開されることを祈念しています。

(2017・2・22)



イメージキャラクター「SAKAE GIRLS」は街のイベントで大活躍



一面がスケートリンクとなった矢場公園



会場入り口に飾られたLED仕様のクリスマスツリー（豊田合成・協賛）



チビツ子によるエキシビション。その後、皆さんがオリンピック選手や候補に

「シネマキャラバン」の思い出と早咲き桜まつり

もう1つ、将来の再開を楽しみに「シネマキャラバン」プロジェクトを紹介したく思います。

平成24年9月頃に冬のイベント開催を検討しておりました。ちょうど湘南の若い女子で料理研究家の河田真知子さんから、突如「オシャレな栄ミナミの矢場公園で食と映画のイベントを開催したい」との意向にビックリ！ 関東のナウいファッション界の若手から「栄ミナミでどうしても」との要望に嬉しいやら、当惑するやら。地元はNAGOO1グランプリの準備で大わらわ、シネマ企画への対応がまったくできない状況でした。

「協力・栄ミナミ地域活性化協議会」とは名ばかりで、資金面や運営面で十分な支援もできずでしたが、湘南の若手数数名が来名して大奮闘、ビッグイベントを実現。11月3—4日の週末にお洒落な上映会「シネマキャラバン」として開催しました。

寒いなかにもかかわらず初日は1500名、2日目は3000名もの粋な若者たちで賑わいました。実は矢場公園での映画会はおよそ50年ぶりのことで、伊勢湾台風前には、昼は「紙芝居」や屋台・仮設市場、夜には町内会主催の屋外映画が開催されました。正雄もそろばん塾の帰りにアイスクャンディを舐めながら、友達と遊んだ思い出のパークでした。

「Play with the Earth」をテーマにして湘南を拠点に地球の様々な場所に行き、そこに暮らす人々との交流からアイデアや価値観を共有し、その想いを未来に繋げていく移動式映

画館「シネマキャラバン」。都会のオアシス・矢場公園が2日間だけ非日常的な空間となり、視覚にも味覚にも美味しいイベントとなりました

食では、湘南・葉山在住の料理研究家・有本くるみが東海地方の食材をふんだんに使い、食のカルチャーエクステンジに挑戦。また、東海の飲食ブースも多数出店。映画はロードムービーの名作『バグダッド・カフェ』や伝説的アーティスト、ポップ・マーリーのドキュメンタリー『ポップ・マーリー／ルーツ・オブ・レジェンド』を上映。公園でカッコいい帆布のシートに腰をおろし、ホットワインを飲みながら毛布にくるまり、仲間と鑑賞した映画は素晴らしい思い出となっています。

翌年も「第2回シネマキャラバン」開催に協力、矢場公園でお洒落な屋外映画上映、そして屋台テントで各地からのゲストを「おもてなし」いたしました。しかしながら、平成26年には資金面の手当てがつかなくなったようで河田さんから協力の要請がなくなり、とても寂しく思っています。戦後まもなく、栄といえば映画館で賑わった街。なんとか「シネマキャラバン」の復活を鶴首待望する次第です。

栄ミナミでは「栄ミナミ桜を育てる会」（米田行孝会長）がリードして、平成27年から早咲き桜を植えこれまでに117本植樹しております。将来は名古屋駅まで三蔵通り沿いを桜並木でつなぐ構想で、新しい桜の名所を目指して活動しています。

平成29年には桜もち誕生300周年祭を記念して、「栄ミナミ早咲き桜まつり」を実施しました。名古屋生菓子組合青年会が2000個の桜餅をナディアパークで無料配布する



矢場公園での上映会には全国から粋な若者大集合。50年ぶりの屋外映画になりました



矢場公園でのオシャレなフードテントや素晴らしい照明



「栄ミナミ早咲き桜まつり」のパンフレット

など、楽しいイベントが開催されました。グランプリ大会では栄地区31のレストランが「桜メニュー」を、市内50店舗の菓子店が「桜デザート」を提供し、大いに盛り上がりました。

この企画は桜関連の食材を扱う商社・山眞産業の平出眞代表が提案され、準備期間もなく苦慮しました。しかし、私たちのポリシー「何でもやってみよう」のチャレンジ精神で支援、日本さくらの女王や大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長にも登場いただき、素晴らしい話題作りができたと感謝しております。今後も継続して、地域の催事として根付くことを祈念しております。

(2017・3・23)

リビングタウンとして脚光浴びる本町通り

中区の人口急増、住宅の都心回帰が著しい名古屋栄周辺！ 栄中部を住み良くする会などの街づくりに関与して以来、栄2―3丁目の居住者数動向の変化が気になっています。栄学区の学区別・町丁名別人口（公簿人口、1月1日現在）から11年の変化を比較してみました。

地区	平成28年人口	平成17年人口	対比率
中区	80,626人	70,085人	115パーセント
栄学区	7,543人	6,773人	111パーセント
栄2丁目	977人	550人	178パーセント
栄3丁目	1,186人	1,349人	88パーセント

中区の人口増が顕著となり、市議員定数は2名から3名へ増員、白川公園周辺には高級マンションが林立しつつあります。特に栄2丁目は人口急増、白川公園北側の1―14番西側の15―16番で本町通りと伏見通りに囲われた地域ですが、十数年前は公園を中心にホームレスが100名以上生活し、ゴミが散乱し薄暗くて治安も良くなく、薄気味悪い雰囲気といえました。

白川公園と2丁目6―13番の8ブロックはアメリカ村からの返還地区で開発がしやすい、比較的大きな敷地群といえます。昭和49年に2丁目7番地に宝塚エンタープライズが都市型ホテルスタイルの分譲マンション及び高級テナントビル「ヴィア白川（サンメンバース名古屋白川）」を開業したのが、最初の大型共同住宅といえます。現在のリゾートトラスの最初の事業で、第1次オイルショックもあり大変販売に苦労されたとのこと。当初はワンルーム中心の小型住居が多い状況といえました。

その後、バブルによる地価高騰で居住用開発として採算が困難でしたが、平成11年、料亭「八勝館中店」跡地に公団融資をえて112戸の大型賃貸マンション「ウィンコート白



ナディアパークで日本さくらの女王と河村たかし名古屋市長も参加して名古屋生菓子組合青年会の主催で桜餅2000個が無料配布されました



白川公園北のウィンコート白川（左）とラウンド栄白川公園（右）



プレサンスロジエ栄白川公園（ラレスانسコーポレーション）

川」が名古屋科学館北に完成しました。その後、19年にはお隣にデザイナーマンションと称したお洒落な「アーク白川パークマンション」、20年「グランアベニュー白川公園」、北の稲垣商事ビルに21年「ディアコート白川」と賃貸マンションがオープンしています。

平成15年「ライオンズシティ栄本町通」46戸が化粧品店の村瀬商店跡地に、16年「栄アイスタワー」68戸、17年「プラウド栄白川公園」21戸、「ザ栄レジデンス」95戸の高級分譲マンションが分譲されたのが、栄2丁目の大きな人口増加となっています。

平成23年、科学館に世界最大となるドーム直径35メートルのプラネタリウムの開設を契機に公園一帯が整備され、若宮大通りのホームレス宿泊所撤去から緑の公園に恵まれた住環境が注目されてまいりました。

そして、東日本大震災の体験から地震に強い堅牢な地盤、海拔10メートル以上の大津波の影響が少ないといわれる名古屋台地の中心地域が安心・安全な居住空間として脚光を浴びつつあります。街づくり活動では、防犯カメラを各ブロックに設置することにより犯罪抑止力が強化され、安心安全な地域貢献となっています。

本町通りの大手靴卸や人形店など撤退に伴い、カバンのマツモト跡には「プレサンスロジェ栄白川公園」42戸、袋物卸のエリットと山一跡地には「グランアルト栄白川公園東」95戸の建設が始まっています。公園側が好評で、坪単価300万円が人気の、緑が楽しめる住居となりつつあります。

南には味噌屋、佐藤タオル跡地での「ルシエッタ白川公園」が工事スタート。若宮交差点・旧ヘラルドビル角地も東建コーポレーション「栄タワーヒルズ」が今年着工予定とのこと。

こと。2つとも高級賃貸で合わせて250戸規模、最高賃料月100万円近くと噂されています。

そして、栄1丁目納屋橋東開発プロジェクトの「プラウドタワー名古屋栄」は平成29年6月オープンの第一期販売が終了し、310戸出しのうち290戸が契約済みで売れ行き大好調！30年完成予定の「ランドメゾン御園座タワー」は池下のマンションギャラリにてクローズド販売で20階以上はほとんど契約済みとなり、全体で197戸程度販売完了とのこと。

歩いて楽しい栄ミナミが、リビングタウンとして脚光を浴びだしています。緑豊かな公園空間、多くの新しく居を構える人々との融合、そしてイベントを中心に交流して活性化する地域の発展が楽しみになりました。栄ミナミエリアマネジメントが主導する歩行者を重視した三蔵通り新ビションにも期待がもたれます。

名古屋の歴史と文化を継承しながら、新たな機能を備えた御園座、科学館、美術館と周辺の商業飲食施設、個性豊かな分譲マンションの複合開発とすることで周辺地域も活性化し、街のにぎわいが創出されることと思われれます。

(2016・2・24)

住吉通都市景観協定からデザインコンセプト策定

住吉町は広小路から南に向かって1ブロック、入江町通りまでを1丁目、三蔵通りまで



グランアルト栄白川公園東
(大京・住友不動産)



ルシエッタ白川公園 (宝不動産)



栄タワーヒルズ (東建コーポレーション)



栄2丁目あたりの北見式地図

を2丁目、白川通りと一部南までを3丁目としてそれぞれの町内会があります。

住吉2丁目町内会の役員として戦後から料亭蔦茂がお世話しており、祖父良矩が昭和47年の逝去まで会長。その後は父正矩が昭和63年頃まで担当しておりました。

時代は平成となり、会長職は料亭「灘屋」の伊藤泰弘社長が7―8年頃まで、そして靴卸業「近藤産業」の近藤勤社長が10年まで、「寿司ひろ」主人の鬼頭釵二さんが22年まで歴任されておりましたが、いずれも癌の病にて若くしてお亡くなりになられ十分な資料が保存されていないのが残念に思われます。

昭和30―40年代、1丁目はサラリーマンの勤め帰りに立ち寄る居酒屋やバーが中心、2丁目はキャバレーと料亭、3丁目は靴・文具問屋、旅館、住居が混在しており街の個性が異なっていたようです。

昭和53年3月に3町内をまとめた「住吉商店街振興組合」が発足。初代理事長に近藤産業の勤社長の父上である近藤信一が就任され、街づくり活動の嚆矢こうしとなったと聞いています。その後、代表は水野喬樹、浅井定一から現在はミドリヤの福井剛さんに引き継がれております。

そして、平成23年から南大津通り、南伊勢町、プリンセス大通り各商店街と連合した「栄ミナミ商店街連盟」（代表・勝田明）が発足。秋の「NAGOOー1グランプリ」を主催、地域のコンセプト創り、イメージ統合などが話し合われております。

住吉通りでは灘屋の伊藤さんが中心となり、3基のアーチ設置、舗道には各店の由緒ある陶板254枚を設置して飲食繁華街活性化のモデルケースとして話題となりました。同

時に、住吉通都市景観協定を地権者の総意を得て平成9年7月18日に締結。「美と食のクロスオーバータウン」、「食文化の発信基地」の機能を分担し、沿道関係者のまちづくりに対する意思統一を図り、調和のとれたまちづくり活動を継続しております。19年には竹市稔夫のとりまとめで29年まで延長更新されております。

自主運営管理は「住吉通りまちづくりの会」のもと商店街組合が一体化して、「おもてなし、和の心、歩いて楽しい」をテーマに景観形成の基準を設定運用しております。同様の景観協定は、栄ミナミ地区では南大津通り（南北）、白川通り（東西）でも運用されていますが、今後は栄ミナミ商店街連盟全域でのイメージ統合に基づく意思統一を前提に検討していく方向性が確認されております。

平成22年春より、名古屋工業大学の伊藤孝紀研究室のスタッフが研究テーマとして「栄ミナミまちづくり計画プロジェクト」をスタートさせました。栄ミナミ地域活性化協議会、そして各商店街とデザインルールについて毎月話し合いをしております。

伊藤先生の熱意と学生の旺盛なボランティア精神から、具体的なコンセプト創りがはじまりました。そして「歩いて楽しい街、栄ミナミ」の計画案が平成25年5月に発表され、地域の交通問題や駐輪システム、ごみ処理なども含めて広範な提言がなされております。各通りのターゲットを定め、通りの個性を高める提案から、住吉通りは「季節で表情を変える大人の街道」というコンセプトでデザイン展開が検討されています。

栄ミナミ地域活性化協議会との連携活動として、百貨店や商業施設が立ち並ぶ大通りを含む栄ミナミエリアの「デザインガイドライン」の設定もスタートしました。具体的には、



住吉通都市景観協定は平成9年に締結されました



「住吉通都市景観協定地区」のモニタリング



住吉通りコンセプト（名古屋工業大学伊藤孝紀研究室、平成25年4月16日計画案より）

一部街路灯の新コンセプト展開もトライアルで実施。地元協議会が様々なジャンルのイベントを開催するなど人と地域の活性化、文化の創造を積極的に行いながら、栄ミナミをイベント企画・運営から道路空間のリデザインまで総合的にマネジメントする基本構想が伊藤孝紀研究室より提言され、地域内で行政諸官庁からも協力をえて実現に向けてアクションプランの策定を進めております。

(2013・8・26)

「掃除と挨拶」から新たな社会実験へ

栄ミナミエリアマネジメント社会実験が「日本初！ 地上の歩道部へのタッチパネル式デジタルサイネージの設置」でスタートしました。河村たかし名古屋市長も参加し、社会実験開始セレモニーを開催いたしました。名古屋初となる都市再生特別措置法を活用したエリアマネジメントの導入をめざし、地元主体で社会実験を行います。

栄ミナミエリアマネジメント社会実験協議会では、日本で初めて地上の歩道部にタッチパネル式デジタルサイネージを7カ所に設置しました。多言語対応の地図やイベント情報などまちに関する最新情報を発信することで訪れる人の快適性を高めます。

また広告を掲出し、その収益で道路清掃などの公共還元事業を実施。将来、公共空間で得られた収益で地域を活性化するエリアマネジメントの仕組みづくりを検討します。今後はエリアマネジメント事業の本格実施をめざして、有料駐輪場事業やコミュニティサイク

ル事業などの社会実験を予定しております。

20年前の矢場公園周辺の「掃除と挨拶」活動から栄ミナミ音楽祭をキッカケに、新たな組織づくりが活発に動き出しました。

「コミュニティはセキュリティ」の合言葉で、町衆の安心・安全な街づくり共同体として栄ミナミ地域活性化協議会が中心となってイベント事業を継続することによって、お互いが親しくなっています。他地域では例のない事業も多く、これからの姿と社会実験の流れを紹介してまいります。

平成27年末より話題となっているのが、プリンス大通りのアーチ広告です。

「安定した収入を得て、まちづくりに投資できる仕組みができた。車が走る公道の真上に広告を掲げるのは全国的にも珍しい」(伊藤孝紀名古屋工業大学准教授・談)。

3本のアーチ改修費2600万円をサントリーが宣伝協賛するなど、商店街の財源に貢献しております。

平成28年の春には栄ミナミの若木の桜が注目されました。仲間たちが「栄ミナミ桜を育てる会」として三蔵通り、久屋大通から名駅地区までの2キロに約250本を植える構想です。早咲きのオカメザクラ、オオカンザクラを各商店街と企業が協賛して名古屋市内に寄贈、土木局が管理していく協力体制ができてつつあります。

有料駐輪場事業は、三蔵通りラシック南側歩道に機械式駐輪ラックを100台規模で設置しました。料金は100円ですが、商店街での利用者には駐輪チケットをサービスしていただく計画です。



日本初！ 地上の歩道部へタッチパネル式デジタルサイネージを設置



プリンス大通りに設置されたサントリーのアーチ広告



オオカンザクラの並木(南伊勢町通、ナディアパーク西)

コミュニティサイクル事業も社会実験として、実施できるようになりました。用地確保を含めて検討していますが、ナディアパークや矢場公園周辺で1時間100円、1日500円くらいを目処にスタートする予定です。

そして「長期ビジョンマスタープラン」では、各ストリートのカラーシンボルやターゲット、個性を大切にしながら栄ミナミビジョンのデザインコンセプトの同意ができてきました。また、「矢場公園リニューアルプロジェクト」も仲間で話し合われています。さらに、こういった活動を名古屋市住宅都市局や緑政土木局、警察などが一体となって支援していただいています。

(2016・4・24)

まちを演出する、仕掛けとしてのデザイン

「ユネスコ認定という和食、山車からくり、各歴史遺産などが思い浮かびますが、名古屋市は2008年8月にユネスコから『クリエイティブ・シティ』の称号をもつ、世界に認められた数少ないデザイン都市ということをご存知ですか？」

こんな切り口で街づくりのブランド戦略を語り続ける、よそ者・変わり者（敬意を込めて）、名古屋工業大学の伊藤孝紀教授は桑名市多度町出身。栄ミナミ大好きで、街の仲間たちに、栄IIデザインタウン、コンセプトを熱く語り続けています。

事の始まりは今から8-9年前に栄ミナミ音楽祭がスタートして地域コミュニティがで

き、街づくりへの課題が共通の認識となった頃でした。伊藤先生から「研究室の学生が栄ミナミ、矢場町1-2丁目のデザインプランを模型で作成したので、研究成果を地元の人々に聞いていただき、コメントしてほしい」との話がありました。

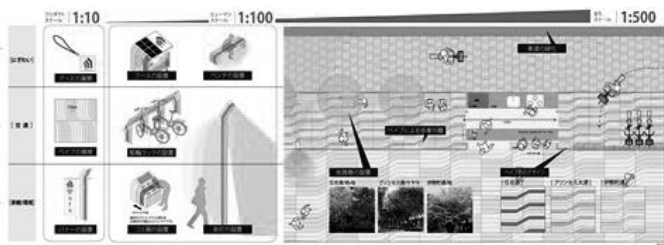
チームごとに数人の学生が3つに分かれ、「住みやすい街」「緑の空間」「路地の活用」などあまりにもユニークなアイデアにビックリするとともに、通行量調査や個々の建物の立体模型、矢場公園リニューアル、寺社の活用と共同開発など熱意ある発表に感動するとともにレベルの高い学生の発想の転換といえる都市づくり案に唖然としました。

そして、これが縁で知り合えた学生たちは街のイベントボランティアや清掃活動、若宮祭礼などに参加しながらともに栄ミナミを演出する仲間となっています。

平成元年に実施した「世界デザイン博覧会」をきっかけに、名古屋市は「デザイン都市」を宣言。そして、ナディアパークがメデアポートとしてオープンして国際デザインセンターを中心にした矢場公園と空中階段でつながっています。この恵まれた環境に気がついたのも学生からの提言を聞いたからです。四季折々のイベント運営から街づくりへのトータルコンセプトの重要性も理解できるようになりました。

そこで、伊藤研究室からの「市民主体のマスタープラン」、そしてエリアマネジメントへのチャレンジ事例を2、3紹介できればと思います。

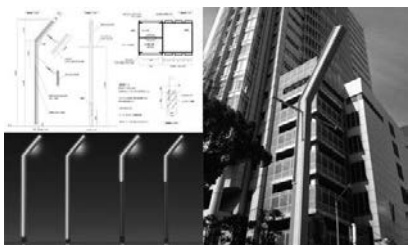
名古屋市の都心部は、江戸時代から碁盤目状に構成されています。しかし、栄ミナミ地区は南北の通りが「く」の字型に屈折しているのが特徴です。逆「く」の字をデザインモチーフにロゴマークや街路灯、ベンチ、サイン看板、駐輪ラックなどを統合し、個



学生から提案されたユニークなアイデアにビックリ



逆「く」の字をデザインしたサイン



「く」の字フルカラーの街路灯を南伊勢町に設置

性ある各通りのカラーイメージを決定しました。産官学が連携した地域主体のマスタープランが実現しています。

伊藤研究室は名古屋駅地区街づくり協議会に働きかけ、栄ミナミとともに「NAGOYA A創造協議会」事務局として両地区をつなぐ三蔵通りに着目し、クリエイティブ産業のクラスターストリート「文化・交流軸」を提案しています。久屋通りから名駅南までオカメザクラを2キロに植樹、歩行者優先、トラム導入など従来の発想から飛躍したプランを実行させるためにできることから行動しています。

学生たちの固定概念を打ち破る発想は、プリンセス大通りアーチ広告の実現、路上でのデジタルサインボードで企業タイアップ、歩道の憩の場「ウッドデッキ」設置、矢場公園リニューアルなどこれからの街づくりへの話題提供にも事欠きません。

イメージ統合しながら栄ミナミのブランディング、そして市民が当事者意識を持ち経営の視点から将来ビジョンへつなげることが今後のポイントとなります。

栄ミナミの街づくりは行政主導ではなく自らの街を自らの手で切り拓くパワーが基本となります。「安心・安全」からイベントによる「街づくり」、コミュニティ対話の「人づくり」を理念に、栄ミナミエリアマネジメント設立プランも具体化しています。

(2016・5・31)

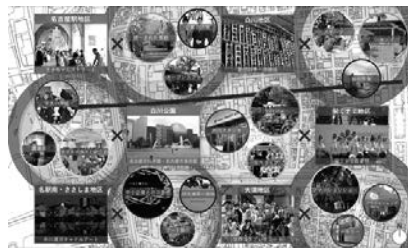
栄ミナミまちづくり構想と社会実験

地域活性化のためにイベントを毎年継続し、「街づくり催事」として定着させることをきっかけに、平成28年11月14日にわが国で初めての民間全額出資「栄ミナミまちづくり株式会社」(藤井一彦代表取締役)が設立されました。「栄ミナミエリアマネジメント委員会」監督のもと、事業の取り組み方針を決定します。平成30年度には都市再生推進法人として本格事業展開を検討し、特例の計画提案から道路占用許可や公園占用許可を得てオープンカフェなどの常設も可能となってまいります。

太平洋戦争で街のほとんどすべてが焼失した栄2丁目・3丁目は、世界に例を見ない大胆な区画整理を実施しました。100メートル道路建設や緑の公園設置、そして最近は地域開発に伴う公開空地が増え、何と地域の50パーセント以上が「まちづくりに活用できる資源」となっています。この10年の間、地域の団体による多様なイベントや街づくり活動が全国でも話題となり、「栄ミナミWeb」を通じてまちの情報発信やPRをしています。

栄ミナミ音楽祭からスタートしてNAGOY1グランプリ、南大津通歩行者天国、日本ど真ん中祭り、多彩な防犯・防災活動、全域にわたる防犯カメラの設置、マスコミ各社の催事、テーマ街路灯、早咲き桜植樹、車道上アーチ企業広告など日本で初めてのトライアルといえる事業を含め、枚挙にいとまがありません。これらの活動が栄のコミュニティを作り上げ、商店・住民・企業・官庁が一体化して楽しみながら組織作りが進んでいます。

栄ミナミ地区においては、名古屋初となる都市再生特別措置法を活用したエリアマネジ



久屋大通りから名駅南までの周辺地区の既存コンテンツを研究室のスタッフがクリエイティブクラスターとして提言してくれました



栄ミナミ音楽祭



NAGOY1グランプリ



南大津通歩行者天国

メントの導入をめざし、栄ミナミエリアマネジメント委員会が地元主体で3つの社会実験を平成28年4月より実施いたしました。

第一は、「日本初！ 地上の歩道部へのタッチパネル式デジタルサイネージPRと広告」。平成28年4月より表示灯に依頼し、7カ所に設置して運営しています。歩行者の中で実際に触った人は全体の1パーセント程度にとどまっています。広告販売も月単位では厳しく、週単位に変更し改善はしていますが採算ベースには程遠い状況となっております。地域情報発信の効果は高く利用者は満足されていると思われるですが、イベントなど情報の更新が必要との見解です。アップデート可能な情報システム、栄ミナミWebとの連動、各店舗のホームページへのリンクなど課題も明確になってまいりました。

第二は、「有料路上駐輪場 7月よりラシック南、三蔵通り99台分設置」。

1日平均有料利用は43台、放置自転車の減少、有料化による「安心感」の効果がアンケートにも表れています。商店などからのサービス券提供など地域サポートが必要です。周辺の駐輪禁止地区設定などで改善されていますが、有料化にはもつと広域の面整備が重要と考えられます。今後は放置自転車対策の要として位置づけてまいりたいと思います。

第三は、「シェアサイクル事業 10月より『でらチャリ』として3カ所で蔦井に運営委託で供用開始」。

2月までの登録者数は785名、2月は利用回数93件と冬季は激減しました。名駅、伏見、錦、名城各地区との相互連携が必要ですが、これから暖かくなる季節の利用が楽しみです。街の新たな移動手段の提供、安心な歩行空間の確保に向けて他地区にも働きかけて

いく必要があります。

仲間たちとどんどんチャレンジしている社会事業。そこで、伊藤孝紀准教授から栄ミナミの「日本初」となる4つをリストアップしていただきました。

- ・ 全国初、道路（車道上・プリンセス大通アーケード）に広告を掲出
- ・ 全国初、道路（歩道上）のタッチパネル式デジタルサイネージを設置
- ・ 全国初、駐輪禁止地区の指定無し、有料駐輪システムの導入
- ・ 東海初、シェアサイクルの導入、交通系ICカードによる個人認証と決済が可能

このような短期的な取り組みをスタートとして、中長期的なビジョン実行へ取り組む栄ミナミまちづくり会社の今後にご期待ください。そして、栄ミナミ社会実験の成果が各地の街づくりのモデルケースとなり、周辺地区との連携のきっかけになれば幸いです。

(2017・4・21)

実施した3つの社会実験

1 デジタルサイネージ実験	2 有料路上駐輪場実験	3 シェアサイクル実験
 ● 見やすい ● 歩道の視界の確保 ● 歩道の視認性の向上 ● 歩道中利用性の向上	 ● 見やすい ● 放置自転車の抑制 ● 安心な歩行空間の確保 ● 駐輪場での安全の確保	 ● 見やすい ● 歩道の視認性の向上 ● 歩道中利用性の確保 ● 歩道中安全の確保
● 見やすい ● 歩道の視界の確保 ● 歩道の視認性の向上 ● 歩道中利用性の向上	● 見やすい ● 放置自転車の抑制 ● 安心な歩行空間の確保 ● 駐輪場での安全の確保	● 見やすい ● 歩道の視認性の向上 ● 歩道中利用性の確保 ● 歩道中安全の確保
● 見やすい ● 歩道の視界の確保 ● 歩道の視認性の向上 ● 歩道中利用性の向上	● 見やすい ● 放置自転車の抑制 ● 安心な歩行空間の確保 ● 駐輪場での安全の確保	● 見やすい ● 歩道の視認性の向上 ● 歩道中利用性の確保 ● 歩道中安全の確保

開始から1年、次年度の社会実験に向けて「簡便認証」を行います。

スペシャル対談

深田 正雄

料亭蔦茂会長

河村 たかし

名古屋市長

各通りのデザインコンセプト

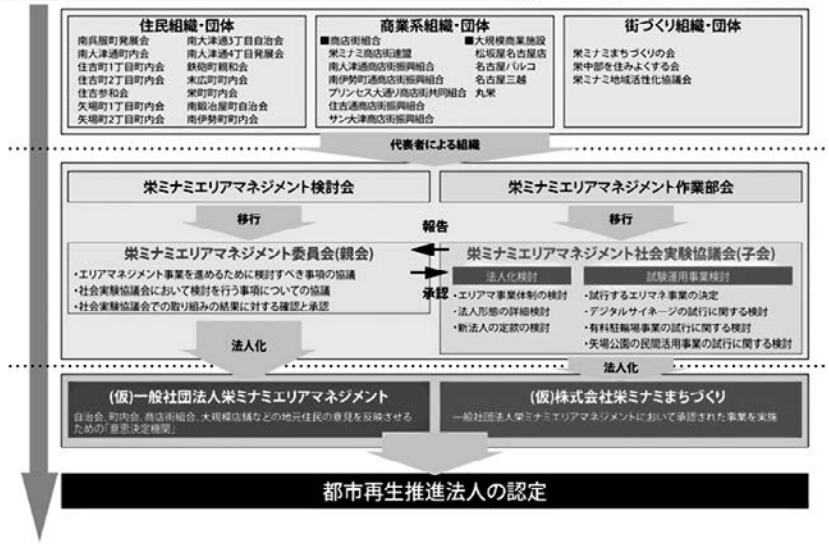
ターゲットを定め、通りの個性を高める

<p>西側通</p> <p>季節で表情を変え大人の街道</p> <p>住家街の会社員</p> <p>赤・黒・濃緑の落ち着いた色使い</p> <p>飲食ブース/ベンチを中心に設置</p> <p>緑・紅葉を設置</p>	<p>アソビ通り</p> <p>流行の発信地として若者でにぎわうセンター街</p> <p>買物で賑わう若者</p> <p>赤・黄・青の明るい色使い</p> <p>電灯/電柱ブースを中心に設置</p> <p>ケヤキを設置</p>	<p>東側通</p> <p>経済の中心として会社員の行き来が活発なオフィス街</p> <p>オフィスビルで働く会社員</p> <p>白を基調としたさわやかな色使い</p> <p>飲食/電柱ブースを中心に設置</p> <p>桜を設置</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



栄ミナミ地区のマスタープラン 一地域者・行政・大学の協働による都市空間のリデザイン

街づくり活動を推進する組織の変遷



同年で旭丘と東海 一橋大学OBとして出会う

河村 深田さんが応援してくるようになったのは、最初に衆院選に出馬した時だよな。

深田 友人を通じて応援演説を頼まれました。演説ではすごく褒めたな。ひどく厳しい戦況でしたが、当選できるかなような盛り上がりだったことを覚えています。いろんな人や団体に声をかけました。特に一橋大学の校友会「如水会」は結束が強くて、当時のリーダーも応援してくれました。「当選すると思っていなくても、すると言えっ！」と釘を刺されたものです。期待度は決して高くありませんでしたが、明るいキャラでみんなに好かれましたね。

河村 あの時深田のお兄ちゃんのおかげで頑張れたわ。

深田 応援した仲間は面白い連中ばかりで、自転車で轢を立てて走るとか、桃太郎の恰好で街を練り歩くとか、いろいろアイディアを出して実践しました。風呂屋へ行って風呂呂に入って、その後うちに泊まったりして。

河村 懐かしいね。

語り部シリーズの始まりは 旧町名復活の話から

深田 地元を愛する心って、歴史を大事にすることと一緒なんです。旧町名復活の話はもともと河村さんのマニフェストにあって、やりましよう。それを伝えていく必要もあるということで、僕のシリーズが始まったのです。元と言えば人形作家の夢童由里子さんが経済同友会の役をやっている、毎月メールマガジンにまちの話や本丸御殿の話を書いていたんだけど「二年やったからもう勘弁して」と言うんです。僕も同じ役についていたので、「次は、あなたが書け」と振られてしまいました。それからいつも誉めてくれて、調子に乗って続いたんです。

河村 深田さんの連載は読んでいました。紫川の話に始まってね。名古屋は戦後、戦災復興事業でどれくらい広い道路をつくりました。広いのはいいけど一歩入った道まで全部ぶっ壊しちゃった。東京や大阪は断ったのですよ。この辺の墓を全部平和公園に移したんです。

深田 中区のお寺には、一つも墓がない。

深田 もともと同年で、旭丘、東海と高校は違いましたが同世代の親近感と郷土愛の強さですごくウマが合いました。

河村 「名古屋で四百年生きとります」。私も誰にも負けないぐらい郷土愛をもっていますし、家業の基盤もある。うちの先祖が尾張藩の藩士で書物奉行の家系という背景もあって、名古屋市長を目指す気持ちも当時からなかったわけじゃない。

深田 河村さんは、大学卒業後すぐに政界入りではなく、家業に就いたんだよね。

河村 どこにも就職していません。長男は家業に従事するという考えから脱却できなかった。でも、大学で学んだことが仕事の実態と違うんです。

深田 それで司法試験受けるんだよね。検事を目指すつもりで。

河村 ちょうど石油ショック後の不況で、古紙業界も厳しくなりました。全部で九回受験し、短答式試験は四回合格しましたが論文式試験には一度も合格できず、結局断念しました。

河村 先日、知り合いの住職が当時のことを「失敗した」と言っていた。誰も寺に来ない。檀家がなくなっちゃったから。そこで、深田さんがこういうことをやるというのは嬉しい。私も古いものが大好きだから、我が意を得たりだ。

深田 みんなが語らないとまちの話は忘れられてしまいます。その中で河村さんが旧町名の復活を提唱する、情報を共有して昔のまちの素晴らしさをどうやって伝えようかと考えていた時に夢童さんがきっかけをくれた。少しずつ書いていくうちにみんなが関心をもってくれるようになりましたが、そのうちにもう一つ宿題が出てきました。名古屋城の木造化です。「深田さん、やってくださいよ」って。

河村 財界は動かないからね。

深田 そういうことに向き合いながら、名古屋の良さというものを伝えていきたい。日本の文化の多くは名古屋から出ています。食文化しかり。河村さんの言っていることは僕には非常に分かりやすいんです。河村さんも僕にいろいろ言ってくれますが、僕も三つ提言させていただいた。一つは地域委員会。地域のみんなで

自治をするってことだね。

河村 あれはうまくいって良かった。

深田 それから無税のまち。少なくとも税金を安くしてみんなが自由にそのお金を使えるようにしてほしい。そして、議員数を最低限にしてくださいというお願い。そういった様々な話をしましたが、それを繰り返してトライしてくれていますよね。僕は栄のまちづくりのお手伝いをしてる。河村さんが必ず応援してくれる。すると、みんながまとまるんです。

河村 古い建物、ネイバーフッド、巨樹を大事にするということは人間を大事にするのと同じこと。お年寄りを大事にするってこと。これが本当のリベラリズムなんです。

深田 論語ですね。

河村 こういう想いが、深田の兄ちゃんと共通してるんだな。

深田 また、規制緩和。僕は「まあええがや」という言



葉が好きだね。江戸幕府が質素儉約・規制強化を推し進めた享保の改革の時に、尾張藩の徳川宗春は祭りや芝居、遊郭など民の楽しみを大事にして規制緩和をし

たでしよう。だから、町は賑わっていた。ただの緩和じゃない。決して幕府と対立せず、一定の節度を保っていた。こんな姿勢を名古屋の文化としてももう少し徹底していきたい。それを僕はいつもあのコラムの中で伝えています。その中で、河村さんのコンセプトを伝えながらずっと応援してきました。

河村 ありがたいね。

私たちが、数少ない 生き証人のひとり

深田 たとえば、中部学生写真連盟のことなど生き証人はいないんですよ。これを語れるのは僕しかいなくなっちゃった。でも、古出来町を語るなら河村さんが

生き証人だ。いいね、ああいう文化は。

河村 庶民のまちですよ。同級生がおります。

深田 一部燃えていません。焼け出されたものと残ったものとの格差はものすごいですね。我々は命の賜物の山車を担がなくてはいけない。古出来町に買っても買ったんです。一旦出してまた買い戻しましたが、綴帳など一部が失われたとか言われています。

河村 出したやつをお金を払って買い戻したとか、お金がないから買えなかったとか、プライドがあるから自分たちで作ろうという話になったとか、諸説ありますが、お金がなくて買えなかったという説が有力らしい。ご存命の人がいるので、一度聞いてみてほしいけどね。

深田 焼け残っただけ立派です。でも、こう言う話ができる友達っていいよね。いろんなことがすぐに分かり合えるし、旧町名の会のことも気にして、いつも来てくれるし。

河村 こちらこそだ。死んでいく時には言葉に残していかないのだめだ。終活だ。第四コーナー回って、各馬一斉に鞭が入りました。

深田 河村さんはいろいろ出版していますが、こういう

歴史とか文化に関して語ったものはないよね。河村ファミリーから調べて編纂していったら。

河村 そうだね。河村秀根ひでねの名古屋騒動のこととかね。

彼は尊王だったとされ、尾張藩は江戸幕府に対してクーデターを企てたと言われている。一七七七年のある日、北町奉行だと思いが何百名もの役人が来て、籠で江戸まで送られたそうだ。拷問もあった。尾張藩に謀反の疑いありと。そんなことは断じてないと頑張って、半年ぐらいで無罪放免となって戻された。拷問に耐えて尾張藩を守ったというエピソードを、引き継がないといけない。兄貴の秀頼ひでたかも国学者で、書物奉行でした。

深田 このようにルーツを語ることを一つの文化にしたいと思っています。みんなが調べて、互いに語り継いでいってほしい。想いは僕も一緒ですから、旧町名復活と名古屋城木造天守閣のことは応援しています。

住吉界限の思い出

深田 河村さんは子どもの頃、住吉に遊びに来ることは

料亭 葛茂 編



ありました？ 何か思い出はありますか？

河村 子どもの頃はあまりないね。ただ、ラシックの西側の角辺りにカワムラヤという店がありました。そこはうちの親戚だね。

深田 へえ、そうなんですね。

河村 親父の従兄弟で、面白くて立派な実業家だね。そういえば衆院選の前、県会議員になる時に挨拶に行きました。ああ、松坂屋へは行きました。それから、よく覚えているのは栄の交差点からちよつと行ったところにあった浪越軒。亡くなった父とよく行きました。お袋も行ったかもしれない。ちよつと建物の出っ張ったところがあって、そこでオヤジさんがものすごい勢いできび団子をつくっているんだ。

深田 浪越軒か、今もあります。最近は鬼まんじゅうで有名です。あそこの娘さん、可愛かったね。河村さんに好意をもっていたんじゃないかな？ 旭丘だったはずだよ。



河村 兄さん、よく覚えているね。昔はモテたかな。でも、何十年ぶりの昔の話をなぜこんなにあれこれ覚えてるんだろう？

深田 そうですね。思い出すんですよ。この本を読んで、みんなでこういう話をたくさんしてほしいと思います。昔のことを思い出して語り合い、引き継いでいくことって本当に大切だから。

河村 昔のものを大事にして残すのは、人間を愛するということ。

深田 その通りです。

河村 深田の兄貴みたいに地域を愛するのは、実は人間を愛することなんだ。

深田 ありがとうございます。これからもお互いに応援しあって頑張っていきましょう。

お蔭様で創業100周年を迎えます

大正2年に祖父、深田良矩が旅館蔦茂を取得して以来、皆様のご愛顧のお蔭で平成25年には創業100周年を迎えさせていただきます。そこで、祖父のエピソードを交えて料亭蔦茂の変遷をお伝えしたく思います。

明治42年発行の名古屋市中央部営業案内地図に広告を出した現存する住吉近隣のお店は、僅か3軒のみとなっております。住吉1丁目の名古屋郵便局、鉄砲町2丁目の金銀美術品商の池田商店、そして八百屋町1丁目の蔦茂旅館が多少区画整理などあり場所が変化はしておりますが、営みを継続している店舗です。三業者（芸者・置屋・料亭）の街といわれる住吉は、旅館という名前で割烹店が軒を並べていたことが分かります。

この地図から4年後の大正2年に金融業者の良矩が現在地の旅館「丸屋敏」近隣と旅館蔦茂を取得したように思われます。戦災で全て焼失して記録がないので、祖父の語りの思いが頼りとなります。

住吉町を蔦茂本店、そして八百屋町の蔦茂は支店がアメリカ村に接收され返還後、鉄砲町の森本商店に売却、買い換え土地として取得して自宅と板場など雇い人の宿舎として使用していたと思われれます。長男の正矩（正雄の父）と次男の次郎は八百屋町一丁目12番にて出生届けが出されており、その後、営業主体は住吉に移っていたようです。

江戸末期には大須の歌舞伎小屋近くにあり、店名も歌舞伎戯曲『一本刀土俵入り』の主人公、お蔦と茂兵衛から名づけられました。明治に八百屋町に移転したのではとNC A

の鶏徳尚雄元校長が古地図を調べていましたが、確たる証拠がまだ見つかっていません。

良矩は海部郡蟹江村須成の大地主・鍊輔の嫡男として生まれ、愛知三中（現・津島高等学校）を卒業後、近隣の酒造業者「紅葉屋」の神田鐳蔵に師事して名古屋で金融業を営み、東京で活躍する相場師・鐳蔵を地元で支えていたようです。

祖父良矩は詳しく語りませんが、鐳蔵を信奉して名古屋での証券引き受け業で当時は福沢桃介の起業する電力関連の各社新株元受けや鐳蔵の命にて財界人交流の場として蔦茂旅館を大正2年に買取。その後住吉2丁目にも店舗展開して、地元の商工業者から新事業への資金調達のサロンの料亭で、細かい経営は従業員に任せる旦那衆でございました。

趣味は乗馬と狩猟、イギリス貴族を気取るハイカラ兄さんとして大いに話題の遊興人であったようです。

(2012・1・22)

道楽三昧できた最後の旦那衆・深田良矩

大旦那で明治26年より村長職を務め、須成祭のスポンサーであった深田鍊輔の嫡男として良矩は明治21年2月10日生まれ、愛知三中では当時の新しい西洋スポーツの野球に親しみ野球部を設立、キャッチャーとして活躍していたようです。

恵まれた大地主の物領として、中学の卒業祝いには別当（馬の養育担当）付で乗馬用の馬だったと聞いています。そして、ハイカラな英国紳士に憧れ、狩猟のためにセミオート散



若き美業家時代の深田良矩



名古屋中央部営業案内地図



岐阜谷汲での山鳥獵で水平二連26インチのレミントン獵銃とともに若き英国紳士気取りの良矩

弾銃「レミントン」などを揃え、山鳥や雉をゲームとするハンティングを趣味として猟犬と共に山野を駆ける毎日を楽しんでいましたようです。

神田鐮蔵とともに名古屋の伊勢町にて金融ブローカーとして活躍するヨーロッパ貴族まがいの良矩は乗馬と狩猟をこよなく愛し、自分の接待所として現在地の住吉町に料亭蔦茂を開業、日露戦争や第1次世界大戦の勝利と日本の殖産振興とともに絶頂期を過ごしていたようです。

大正4年3月には父、鍊輔の死亡にともない須成深田家の家督を相続し大いなる資産を背景に幅広く事業を広げ、名古屋の芸妓数十人に座敷相撲を取らせる旦那として話題の遊興人であったようです。

しかしながら、昭和2年の金融恐慌により神田銀行破産に伴い連鎖倒産。そして、須成深田家から勘当され個人破産で全てを精算、債権者から逃れるためにお抱えの人力車引き車夫の実家がある谷汲華厳寺の麓・長瀬地区で数年疎開？生活を送ります。そこで馬と鉄砲に加え、根尾川水系で溪流釣りをマスターして大自然と共生を満喫していたようです。

事業整理に伴い、表面上離婚した妻の山田静江が商人宿として蔦茂旅館をマイナスから再建、*「細腕繁盛記」*ながら頑張っている店に良矩はほとぼりが冷めた頃に下足番として戻ってきました。

祖父曰く、

「玄関で下駄を揃えていたら、昔の仲間は大変だったゾ！」

「まあ、せいぜい奥さん孝行しろよ！ 借金はチップ代わりでゆるいたるがや……」

本当かな？

女将の静江は夫の道楽を愚痴もいわず、ずっと認めていたようで、良矩は乗馬と狩猟費用を宿銭の売上から捻出していたようです。この趣味は長男の正矩にも受け継がれ、第2次大戦後は一緒に溪流釣りを含めた、蔦茂三種道楽を楽しんでおりました。

そして、乗馬馬「アルプス2世」を名城西の土居下にあった栗田厩舎に委託して、毎朝住吉の料亭蔦茂から並足で鶴舞公園までの散策を道路が舗装される昭和30年頃まで継続、その後は厩舎の森林公園移転に伴い、車で馬場まで赴く旦那業をさせてもらっていました。当時、一般の月給が1万円以下の頃、馬の飼葉代、つまり委託料は毎月4万円でした。

本当に良くできた女将で、道楽爺さんに最後まで好きなことをさせていましたが、珠にガールフレンドができると雷が落ちていたような記憶がございます。

こんな爺さんは内孫の正雄が可愛くて……。正雄は毎朝、おじいちゃんと乗馬した後近くの白川幼稚園に通っていました。

(2012・2・22)

山田静江の細腕繁盛記と再建

最後の旦那衆・良矩の妻・静江の再建エピソードをお伝えしなくてはなりません。料亭蔦茂が現在あるのはひとえに山田静江の努力と奮闘の賜物、そして戦後は名物女将として



昭和35年11月1日初猟で鴨65羽。前年の伊勢湾台風で周辺の水田が刈入れ前に全滅、稲を求めて日本中の鴨が伊勢湾に！その翌年もシベリアから多くの渡り鳥が名古屋沖に舞い戻り、記録的な大猟となりました（深田父子と船頭・精海丸の伊藤さん）



「アルプス2世」に乗る祖父良矩と正雄（鶴舞公園にて昭和28年ごろ）。当時、公園の一部は進駐軍に接収中で、ゴルフ場があった記憶があります。返還後の「コニアイランドシヨール」というアメリカ遊園地は楽しかった

創業100年の礎を築き上げました。

静江は明治25年4月26日、蟹江町須成の深田家近隣にて父・山田芳景、母・富田ハルの次女として出生。父が朝鮮開拓史として活躍するも行方不明となり、母の再婚に伴い十四山村の尼寺・観音寺に姉の梅芳とともに預けられたと聞いております。住職で尼僧・梅芳の徳行は近隣に知れ渡り、妹・静江も賢女として話題の姉妹であったようです。

名古屋で金融業を営み家督を相続した道楽息子の良矩にはうってつけの連れ合いとして、大正5年に結婚入籍、葛茂旅館にて新婚生活となりました。

すぐ長男の真一を授かりますが、出生の届け前に死去。正矩は長男として大正7年2月11日に、次郎は大正11年1月に誕生、自宅にて子育てに忙しい毎日を送って良矩の事業発展を見守っていたようです。住吉2丁目が本店機能を果たし、割烹の仕事は使用人任せであったようです。

しかしながら、前述したとおり静江はマイナスから商人宿として葛茂旅館のみを残して再建し頑張った新しいスタートを切ったとのこと。八百屋町店の一部を売却し、屋号も「山田旅館」と変更してやっと落ち着き、隠遁・逃亡？ 生活から戻った良矩と住吉2丁目26番にて旅館を再興しました。三男の三郎は昭和6年に誕生。女将采配に全てを支えられて良矩はニワカ番頭を務めていたようです。

何度も三郎叔父が語っていました。

「お袋は朝の送り出しから深夜のお客様の就寝まで働きっぱなし、横になって寝ている姿を見たことがなかった！」

小遣いを貰うときに、静江は言ったそうです。

「必要ならいくらでもあげるよ！ でも、お母さんがいかに苦勞して稼いだ金かわかるよね。大切に使いなさいよ」

涙がこぼれて無駄遣いはできなかったと言っています。

でも、ご主人良矩はノーテンキ。平気で宿屋の売上で狩猟や乗馬を楽しんでいたようですが、お得意の「女遊び」はお預けのようでした。

昭和初期の「国鉄旅館案内」には葛茂旅館のオーナーは山田静江と表記され、建物も山田名義となっており、二人が戸籍上再婚するのは昭和14年1月まで待たなくてはなりません。

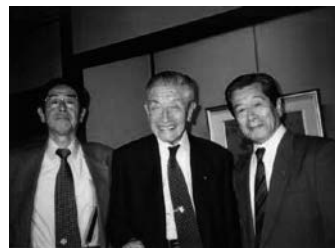
その後、太平洋戦争中は一般の商人旅館としてではなく、軍需工場の幹部宿舎として大曾根の三菱電機、春日井の王子製紙など戦後トップになられた方々の社宅として使用されました。静江は下宿のお母さんように面倒をみたことが、戦後の人脈作りにつながったようです。しかしながら、昭和20年3月12日の大空襲で地域は全焼壊滅、焼け跡には名物・池の錦鯉が茹って浮かんでいたとのこと。

疎開先の蟹江から戻った良矩夫婦は、兵役を免れた正矩とともに戦後いち早く復興の宿舎提供という丸公の物資供給を得て、昭和21年夏には都市区画整理計画に基づき名古屋で最初の2階建て旅館を住吉2丁目に建設いたします。ここで良矩が「一生で初めて仕事らしいことで貢献した」と親戚では語り継がれています。

仕事1. 旅館は完成したが塀をつくる金がない



創業女将の深田静江は遊び人の良矩を支え、細腕繁盛記のモデルのような女傑でした



ありし日の深田3兄弟（左から三郎、正矩、次郎）



昭和27年頃に戦後最初の鉄筋ビルに和室を建設。屋上の葛茂神社前の良矩と静江

米軍接収から逃れた私宝のレミントン猟銃を進駐軍将校に売却、その代金でヒノキとシバの黒塀を建設。現在でも粋な黒塀は住吉のシンボルとして名所となっています。

仕事2. 酒がない

須成の弟・胤次（明治27年生）が教員で、近隣の教え子の『義侠』で有名な山忠本家酒造に依頼。燃料に困っていた酒蔵に多治見の親戚・富田（静江の母の嫁ぎ先）ルートで御高から亜炭を馬車で輸送してヤミ酒を入手。一部は葛茂で、残りは栄角地のオーナーである平松さわさんに頼んで、栄のヤミ市場の密売で資金調達。亜炭輸送の馬車の調達は乗馬仲間の厩舎から。

仕事3. 什器・茶碗がない

多治見の義弟・富田が教育者として女学校の先生として活躍、その生徒の陶器卸からヤミ調達。良矩がリュックに詰めて連日満員の中央線で運んだ。これが唯一の肉体労働？と冷やかされていました。

というところで、良矩の道楽だった鉄砲、乗馬、そして健康な体も再建には大変役に立ったとのこと。何よりも幼少の頃から尼寺で、仏の加護で育った静江の慈悲心が良矩の遊び豊かな人生を許していたようです。

（2012・3・22）



祖父良矩愛用のレミントン猟銃。戦災で全焼するも鉄砲だけは担いで逃げ、隠し保存していました。店の黒塀建設のためにお宝を売却した悔しさを何度も正確に語っていました。

良矩の遊び心とアイデア旅館経営から料亭へ

良矩と静江の奮闘で再興した木造2階建て7室の葛茂旅館は連日満室状況で繁盛したようです。焼け野原の中、建設に当たり苦慮した点は、名古屋市が昭和20年12月に発表した「大中上京再建構想」に基づく区画整理事業との兼ね合いであったといわれています。

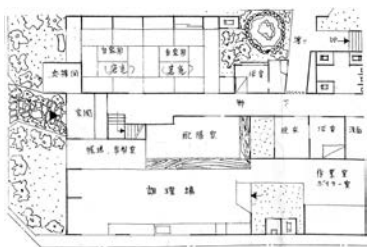
明治から続く八百屋町店は進駐軍将校の宿舎（アメリカ村）建設に伴い土地を全て強制供出、住吉周辺は旧所有者から40パーセント前後の減付により道路公園を拡充するということでもない指令でした。事業区域決定前（決定は昭和21年4月2日）に計画を入手、変更あればいつでも取り壊しする条件の下、英文つき覚書を交わし新築建設しました。

祖父良矩曰く。

「敗戦国でアメリカ植民地だがや！ 土地接収が否なら、銃殺……と言われたぞ！ そして、各寺院の墓場まで掘り起こし、平和公園に移転、神社は60パーセント前後の土地について供出や換地対応を迫られたのだ」

この市民の協力による戦災復興計画が名古屋の中心部の緑・公園、道路建設となり、2本の100メートル道路など尾張藩碁盤割を一層拡充した世界にも類を見ない都市づくりとなっています。

区画整理決定後の昭和23年には東に隣接して2階建て木造大宴会場を含め5室増築、既に営業の中心は宿屋から料亭へと移行していました。もちろん統制経済の中ですから、表向きは旅館のお客様と一緒に仲間と食事するという業態であったようです。



戦後再建した葛茂旅館1階平面図。現在地南側と同じ。2階に5客室、調理場、風呂場、トイレが多くの面積を占め、料亭飲食主体の旅館でした。

終戦直後の開店から繁昌したのは静江の気遣い奮闘だけでなく、良矩の遊び心あるセンスがお客様のニーズをつかんだようです。

ビジネスマンに必要な情報として、電話を各部屋だけでなくトイレ（各大便所）や湯殿・脱衣場にも常設、交換台を通じて市外局申し込み後の待ち時間対応で「どこにいても通じる旅館」として大好評！ 当時の電話は東京の日本電信電話公社（現・NTT）に申し込み、つながるのに30〜60分くらいを要したといわれ、受信対応が必須でした。玄関わきには大型の交換台が設置され、電話交換手は女性の花形の仕事でした。

新聞も近郊県や東京版など10紙以上、テレビも試験放送の昭和28年ごろから全室に完備して、近隣の商人達が「力道山の空手チョップだ！」と連日押し寄せてまいりました。

洋風のトイレやバスも完備している。ハイカラ旅館として話題でした。また、宴会や接待の対応では、毎日、名妓連の芸者衆が2、3名常駐し外人さんが日本のガールフレンドとともに短時間の投宿？ 玄関を2ヶ所にわけ談合などに対処、京料理の薄味会席で板場も10名以上配属して、関東や関西のVIPにも対応できる料亭としての礎を築いていきました。

正矩は名古屋市立第三商業学校（現・桜台高等学校）を卒業後、箱根の富士屋ホテルで3年間修行して、「近代ホテルの祖」といわれる山口正造から薫陶を受けました。結核を患い、兵役を免れ病氣療養しておりましたが、戦後は良矩の妹が日本紙統制連合委員長で三菱製紙の岡本達郎社長の妻というご縁があり、統制物資の紙配給を受ける愛産印刷を創業して事業拡大しておりました。

昭和30年ごろ葛茂新館建設プロジェクトもあり、印刷業を従妹の主人・竹尾に委譲して家業の発展に妻・のり子と貢献することとなります。そして、東京都文京区八千代町では愛工社を設立、弟の次郎に運営を任せて経営しておりました。

そして、神武景気に沸く国内経済成長の最中、昭和32年には5階建て鉄筋コンクリートビルを建設。43畳の大宴会場広間など7室を新築、料亭として充実させてまいりました。

この頃から正矩は、狭い敷地内での増築に対して「日本文化のテーマパーク」としての品格をいかにビル内で維持するか腐心していたようです。石庭の庭園やミニ枯山水園などを各部屋に設置するほか、文化勲章を受章された著名な日本画家の新作を画商などから入手。これが現在のコレクションに繋がり、季節ごとに名画をお客様に鑑賞いただけることに喜びを感じておりました。

また、良矩のアイデアでビルの屋上には名古屋で初めてインドアゴルフ練習場を設置して、接待客の待ち合わせや話題提供の場として評判となっておりました。

(2012・4・25)

住吉町から栄3丁目へ、業態変更と生き残り

芸者・置屋・料亭の三業者「伝統芸能と遊興のクラスター」、住吉も昭和41年に新住居表示で栄3丁目として風情も粹も感じさせない名称に変更されました。高級料亭の連なる住吉2丁目東側も各店舗の事業形態が大きく変遷してきました。



中庭の錦鯉



昭和21年建設の葛茂旅館前景墨絵。当時のままの「ヒノキとシハ材」。粋な黒塀と7室の旅館は住吉町の癒やしのスポットでした。

住吉の料亭蔦茂も生き残りのため、営業形態を余儀なくされました。完全個室で数寄屋造りのお座敷で芸者衆とともに会席料理を楽しみながら接待するという料亭特有の男性客中心の基本パターン、中には夕刻に来館してひと風呂浴びて浴衣に着替えてくつろぐお客様もございました。

「料亭」は建物の構えや庭の佇まい、床の間の掛け軸や置物など調度品の贅沢さ、生けてある花の風情、女将の挨拶や立ち居振舞いなど、すべての要素を複合的に楽しめる日本文化のテーマパークといえます。

しかしながら、生活の洋風化と女性の社会進出、旅館からホテルの利用、社用需要の減少など従来のやり方ではお客様のお好みに対応できなくなってまいりました。

平成元年には政府のバブル鎮静化政策の一つで「地価税導入」が決定しました。私どもを含め繁華街に土地を所有する形態では、坪1000万近い評価に対して何パーセント課税、つまり売上の何割かの地価税が徴収されるということでもないこととなりました。

そこで、従来の旅館としての宿泊業務を止めることにより、住み込み社員の福利厚生施設の一部として風呂・トイレ・調理場・お庭……があることにして、営業スペースの低減措置申請を企てた経緯があります。

戦後旅館として認可され、料亭を営む名古屋特有の大手「割烹旅館」がすべて宿泊を廃業することとなり、おもてなし文化の衰退に拍車がかかったようにも思います。しかし、地価税に対しては批判も多く結局1年のみで実質廃止となりましたが、今更、宿泊業も再開できず残ったのは社名「株式会社蔦茂旅館」と看板のみとなりました。

旅館業からの撤退で朝食や布団の作業もなくなり、昼会席のスタートから女性マーケットへの進出、従来料亭がお休みであった週末には婚礼や結納、法事など家族催事への対応不明朗な料金の明確公示化、常連客のみの売掛勘定から一見客受け入れ、クレジットカード導入、数寄屋造り畳に椅子・テーブル……、創業の良矩爺さんが見たらチョット悲しくなるのではないかと思います。

とくに椅子席での和風座敷の床の間や掛け軸を額装に、生け花の先生も苦慮しております。お客様が腰掛けては、芸者衆のお酌やお座付き（踊りや唄）、お座敷遊びも風情が失われていくようにも感じます。

(2012・5・25)

わが母、2代目女将「のり子」の悲哀と現在の発展

母のり子は岐阜県海津郡奥條の豪農・石原重則の四女として大正14年9月9日に出生、高須の岐阜県立海津高等学校（現・海津高等学校）を卒業。絵画が大好きで、子供のころの水彩画がいまでも石原家の居間にかけてあります。

石原家は宝暦治水時に薩摩藩の河川土木工事に村を挙げて協力。とくに竹と石を組んだ蛇籠じゆかひで揖斐川堤防作りに尽力したといわれ、代々庄屋を務めておりました。居室の中庭には盆踊りの櫓、内庭には現在でも水琴窟すいせんくつが2つあり、研究者が訪問することもあるようです。



昭和25年、蔦茂南に全員集合！右の出窓から出汁の香りがイッパイで現在も住吉名物です



現在も大切に掲げられている看板

戦争前に長女は大垣木呂町の資産家に、次女は大垣市郭町の老舗味噌たまり店、三女は名古屋駅前の肥料問屋に嫁ぎました。しかし、太平洋戦争で世の中がすべて変わり相応しい嫁ぎ先がなく、当時名古屋で初めて旅館を再興した深田家へ仕方なく、住むところがあればと嫁入りしたと聞いています。

静江女将の厳しい指導と人見知りする性格もあり、若女将の仕事は慣れない座敷で苦勞の連続であったようです。祖母の方針からか「子供は一人でよい」とのことで、次の出産ができなく兄弟のいない正雄に「御免ね」と謝る母の心境の複雑さを今感じております。家業が多忙で一人息子の養育は従業員に任せることが多く、母の手料理、家庭の団欒やPTA参加の記憶は全くない寂しい状態でした。

住居と店舗が同一ですので、子供のころ店で「お母さんー」と呼べない辛さは少年の理解を超えるものでした。母親を喜ばせることができるのは、元気よく挨拶ができる良い子であり、学校の通知表をみせることであつたようです。

お蔭で小学校では優等生。それなりに勉強もしていましたが、店に帰ると板場さんが作る正雄の晩御飯にはお銚子がついてくることも多く、10歳前後から晩酌の習慣がつきましました。店が繁盛して自分の居所がなく、芸者さんの控室で遊んでもらったり宿題をお願いしたりしました。

満席続きの料亭で母は若女将として座敷の采配と挨拶、小学生の正雄は孤児同様ですが小遣いは十分で、近所の仲間と映画館巡りや外食の毎日也多かつたようです。

店の商いは女将静江、そして、サポート役の若女将のり子のコンビで大繁盛。若い仲居

を揃えて芸者を呼ばなくても楽しめる気軽な繁華街の料亭として賑わつておりました。

母の趣味は日本画と俳句、60歳で他界するまで制作意欲は衰えませんでした。苦勞をかけた母には若くして亡くなったこともあり、家庭の喜びを味わうことも少なく、充分な親孝行もできませんでした。今は「のり子」が命を懸けて発展させた料亭葛茂の暖簾を守る事が大切と家内と話合っています。

父正矩は創業した愛三印刷の仕事もあり、家族とは離れ子供とは対話のない状況でした。それでもしばしば、好きな釣りと狩猟に正雄を連れていって大自然の醍醐味を教えました。父を喜ばせるには鉄砲は無理ですが、溪流釣りが上手になること、そして中学生時代は毎週のように近鉄桑名駅乗り換え北勢線で終点阿下喜駅か麻生田駅下車、町屋川の上流で白ハエ釣りから練習していました。お蔭で溪流釣りの腕前は地元漁師並みのレベルに上達、86歳で逝去するまで父とは釣り場ではライバルという友人感覚での付き合いともなりました。

今でも毎週末には父との思い出ある岐阜の山奥に釣行するのが楽しみとなっています。もちろん釣果にも恵まれ、料亭葛茂での特別料理として塩焼きや甘露煮として提供も致しております。

平成20年9月のリーマンショック以来、法人需要が減少して料亭市場が激変。接待や社用中心の男性マーケットから日本文化を楽しむ女性市場が大きくなり、お客様単価も大幅に減少、市内老舗料亭が相次いで廃業・撤退となり葛茂も大打撃を受け存続の危機に瀕してまいりました。



2代目女将、母「のり子」に
甘える正雄



父正矩とテツカイ山女魚を自
慢する正雄

婚礼市場への参入も店内スペースの制約もあり限られておりますが、栄の若宮八幡社、一宮の真清田神社への出前婚礼サービス、各家庭や企業への出張宴会・弁当配達なども積極的に対応させていただいております。

3代目の女将「旬子」のアイデアで、女性を対象とした惣菜・弁当店を平成22年5月に旬子女将の友人の紹介からジェイアール名古屋タカシマヤに出店。6月からは、女性マーケットへの進出から「料亭の昼ごはん」という平日限定の一人様2000円のプランを実施、気軽に敷居の低くなった料亭蔦茂をご利用いただいております。

そして、本店調理場が手狭になり新形態のセントラルキッチンを丸の内1丁目魚の棚通りに翌年オープン、お気軽に料亭蔦茂の味をお楽しみいただける配達弁当が大好評をいただき、本店並みの事業規模に成長し、幅広いお客様からの真の和食の味へのご要望に対応できるようになりました。また、平成30年6月には新店オープンで板前が活躍できる場「シェフズ・テーブル」をつくり、ユネスコ文化遺産「和食のおもてなし」を満喫していただけるようにチャレンジしております。

メニュー開発やディスプレイ、ダイエット感覚、自然オーガニック志向、カロリー表示、徹底した衛生管理などこれまでの料亭蔦茂にはなかった新しい女性の思考が大切となってまいりました。

このように料亭蔦茂は3代にわたる女将の発想と奮闘に支えられておりますこと、改めて紹介させていただきました。

(2012・6・26)

名古屋市登録地域建造物資産第100号に登録される

名古屋市は都市景観条例を改正し、まちの中で大切に使われてきた身近な歴史ある建造物を地域の資産として「登録」、または「認定」する新たな制度をすすめております。

平成25年6月、創業100周年を迎えた料亭蔦茂が名古屋市登録地域建造物資産の第100号に登録されました。地域に残る歴史的建造物を多くの人に知ってもらい、それらを大切にしていくなぎ運の醸成につなげ、歴史的建造物の保存・活用を推進してまいります。

昭和20年の戦災で建物は全て消失しましたが、庭・池の石、清州越えからといわれる3本の井戸が残りました。戦後、いち早く黒塚本館を昭和21年に市内で最初の旅館として開業。27年には岩城誠一郎設計の玄関ビル内に初めて和風料理屋を作るユニークさで話題、そして本格数寄屋造りの別館、33年には息子の岩城誠作と共に屋上にゴルフ練習場を併設するなどユニークな宴会場ビルなどが名古屋の粹を守り料亭座敷として活躍しております。また、地下10メートルから汲みあげる豊かな井水は池の鯉や生け花、調理の下ごしらえに活用、400年の歴史を感じさせるともにかつての紫川の源流のひとつといわれています。

平成23年より歴史的建造物保存活用の担い手となる専門家を養成する「名古屋歴史的建造物保存活用推進員養成講座」がスタートしました。歴史的建造物の保存活用に関心の高い建築士などを中心に全科目を修了した合計77名が、公益財団法人名古屋まちづくり公社の「なごや歴まちびと」として登録されています。



料亭蔦茂は3代にわたる女将の発想と奮闘に支えられております。



女性マーケットを意識してジェイアール名古屋タカシマヤに出店し好評を得ています。



蔦茂解体時に本館建設時の棟札が見つかりました。左は「魚留」の板倉恭子さん。

この人たちは、名古屋市内に現存する建築後50年以上を経過した歴史的に価値有る建造物に対して、保存・活用のための補修、改修、活用方法などについてアドバイスをを行っています。

栄3丁目地区は昭和20年の大空襲でほとんどの家屋が焼失しましたが、一部の土蔵が残ったほか、奇跡的に矢場町の勝鬘寺一带北側の長屋と住吉3丁目角4軒の木造家屋が戦火を免れ現存しております。

現存する土蔵は3つ。若宮八幡社北側の元住吉町の山車蔵（古出来町の河水車が残る）、住吉町3丁目花柳流の踊りの稽古場、そして南大津通り安藤七宝店「七寶藏部」の土蔵（大正7年建造）です。安藤七宝店の土蔵は保存改修され、登録地域建造物資産第46号として評価されております。常設の尾張七宝焼き展示館だけでなく、栄ミナミ音楽祭では素敵なクラシック演奏会場として市民に憩いを提供しております。

名古屋市指定有形文化財の勝鬘寺（本堂・山門・太鼓楼）北にある明治以前築といわれる夫馬商店（栄3―28―23）は、登録地域建造物資産第21号に登録され現在も店舗・住宅として活用。同じく第99号に登録された、住吉3の早川商店（栄3―19―2）は大正末期建造といわれ文具店として営業されております。

両地区では住宅建物が戦後も残存したため区画整理の遂行上道路の拡幅が難しく、現在も歩道のない狭い通りとなっております。

（2013・6・25）

戦前、そして空襲後の再建―建物の記憶より―

料亭葛茂の移転計画が発表され、多くのお客様から建造物を惜しむお声をいただき感謝申し上げます。耐震工事や防災、保守管理の面から現状の建造物での営業は困難と判断した次第ですが、戦後、名古屋では一番初めに開業した旅館でもあり旧館からの思い出を語っていききたいと思っております。

昭和20年3月、2度にわたる焼夷弾の攻撃で栄地区は全て焦土と化し、葛茂旅館も庭石と石灯籠を残して全焼しましたのでなにも記録が残っておりません。深田本家に叔父の次郎と仲居が昭和初期に中庭で撮影したセピア色の写真などが見つかりました。

葛茂旅館の中庭の石組、そして青銅の鶴2匹、石細工の親子カエルは残っております。焼け跡に埋もれた庭石とともに灯籠は窃盗から逃れ、小さな中庭に不釣り合いに置いてあります。また、清州越しからの井戸も3本残っていますが、稼働中のものはとうとう南側の1本のみとなってしまいました。

昭和21年秋には戦災復興の一環で宿泊施設が必要との政策により、公的資材の提供を受けていち早く葛茂旅館が開業しました。区画整理事業で私有地の40パーセントを供出。道路幅は5・4メートルから15メートルとなり、奥にあった井戸は玄関先に、また敷地が狭くなり庭石を活用するために平らな庭は瀧が流れる山岳風となりました。

戦後は統制があり料亭という商いが認められず、宿泊のついでに仲間と会食、宴会、都合で泊まらずに帰宅？ という形態。そして中京連、浪越連、城西連、名妓連と多くの検



登録地域建造物資産第21号に登録された夫馬商店



登録地域建造物資産第99号に登録された早川商店



戦災から残った石灯籠、親子の石カエル、玄関先の井戸（左から）

番から芸妓が派遣され、常駐していました。施設の中で調理場の面積が広いのは、売り上げの多くを料理屋業に依存していたからです。

宴席のお客様が到着されるとお茶を楽しみ、浴衣や丹前たんぜんに着替えてひと風呂浴びたあとに芸妓が入り宴会というパターンも多く、イタリア大理石の壁・床、そして檜の風呂掛け、シャワーなどユニークな調度も話題のようでした。

店舗の南西角には調理場の煮方台がありますが、ここでは午前9時ごろから鮪節かつおがしを引き、一番出汁をとる香りが通りにまで広がります。この香りは住吉の名物フレーバーとして、通りかかる人々に憩いを提供しております。栄ミナミの三大フレーバーともいわれ、ほかに南大津通の「妙香園」のほうじ茶を煎ずる匂い、南呉服町の「いば昇」の蒲焼の匂いが名物、街の香りでした。しかし近年、消防からほうじ茶を路上で煎じてはダメとのこと、チョット寂しくなりました。

(2017・11・27)

旅館の営業と飲食税・公給領収書

料亭蔦茂の玄関は震災復興直後、昭和21年のままの面影です。植木は樹齢80〜100年で、72年前の植樹以来そのまま元気に育っています。

クロガネモチ、棕櫚しゅろ2本が緑を保っています。ヤマモモは桜の終わる4月に数珠つなぎに小さな桃色の花卉4枚の目立たない花をつけ、6月ごろに黒赤色の丸い果実を結ぶと

もに、小鳥が群がるのが楽しみです。

卯月、住吉の街路樹キクモモの真紅の花との競演は趣豊かな情緒を感じさせます。そして、住吉名物の紅葉が東南角に2本あります。秋が深まると板場の若い衆は長い鋏はさみを使って「もみじの葉」採り、会席料理の飾りに活躍しております。

ここで、飲食税についてお話をしましょう。

税務大学の租税資料によれば、遊興税は、大正8年5月に石川県金沢市が初めて市税として創設しました。条例は「本市内に於ける料理店、貸席、貸座敷にて芸娼妓を招聘して飲食又は遊興をなし金員を消費せしものに課税する」となっており、芸妓の招聘しょうかいを伴うことが条件でした。遊興税導入は他の市へと波及していき、1年後には5県38市にまで広がりました。

大正15年には、地方税法の改正により課税することもできるようになり、昭和14年には全道府県が導入していました。そして、同年に遊興飲食税として国税へ移り、芸妓の招聘を伴わない料理店等での飲食代や旅館（ホテル等を含む）の宿泊料なども課税対象にされました。

税率は、遊興飲食の内容や税法改正により変わります。芸妓への支払代金（花代）で見ると、導入当初は20パーセントでしたが、昭和19年には300パーセントにまで跳ね上がりました。この異常な増税の背景には戦争があり、「消費の抑圧」及び「国民精神の緊張に資する」という理由が挙げられていました。

遊興飲食税は昭和22年3月で廃止となりますが、同年4月から再び地方税としての遊興



旅館の大風呂



震災で焼ける前の蔦茂旅館の中庭での深田次郎（叔父）と仲居たち（昭和2年頃）



料亭蔦茂の玄関は震災復興直後のままの面影です。樹木は80〜100年で、植樹以来そのまま元気に育っています

税となりました。その後、遊興飲食税、料理飲食等消費税、特別地方消費税と名称を変えて存続しましたが、地方消費税の創設等の理由により平成12年3月に廃止となりました。廃止時点の税率は3パーセント、免税点は宿泊1万5000円、飲食7500円以下は非課税。

また、昭和30年11月1日から遊興飲料税が改正となり、同時に公給領収証制が導入されることとなりました。この公給領収証制は、勘定を払った客に対して業者が必ず渡さなければならぬもので「各都道府県が発行し一枚一枚写しをとってゴマかせない仕組となっているので、業者は領収証の写しの集計で総売上げをはっきり押さえられ、ひいては所得税にまで影響してくる」というものであったようです。

課税対象は課税最低限を超える全額で、芸妓花代はもちろんすべての飲食と宿泊代の10パーセントでした。

実情は、料亭などは「領収書いらないから飲食税10パーセント割引せよ！」というお客の対応に苦慮し、「断れば店には行かないゾ！」……公給領収書を出さないまま営業すると売上が簿外となり、今度は裏金を増やす結果となりました。

使いみちに困った料亭の親父たちは、自分の道楽や書画骨董、什器・備品に贅を尽くすこととなりました。料亭蔦茂も輪島の大向高洲堂おむかいこうしゅうどうの超高級漆器などがイッパイで、とても今ではお金で買えない器が残っています。そして、ウン百万円と噂される蔦茂名物の錦鯉たちが優雅に泳ぐ池となった次第です。

料亭蔦茂にある清須越しからの3本の井戸は、常に33尺ほど地中の水温17度の豊富な地

下水に恵まれていました。しかし、平成29年1月に井戸が枯れる事態に見舞われ、復旧に10日間ほどかかりました。地殻の変動から水脈が変わったようで、上水道の水温になじまない古参の錦鯉のほとんどが天国に召される事態となりました。

(2017・12・21)

料亭営業の再開と蔦茂を支えた職人衆

旅館業として再興した蔦茂旅館は復興と共に大繁盛。連日満館で芸者衆も復活して、ぼつぼつ風俗業としての料亭ビジネスを再びという機運が高まりました。そこで、昭和26年に鉄筋玄関ビル3階建て4室、本格数寄屋造り4室の2棟を新築し、公安委員会宛6月に開業申請、7月3日警察本部保安課の認証が得られました。

設計は新進気鋭の設計士、岩城誠一郎・誠作親子。大工・加藤棟梁、屋根瓦・坪井利三郎、庭師・鬼頭、左官・村手、井戸水回り・福田ポンプ、表具・襖唐紙・桜木、掛け軸・道具・前田寿仙堂などの職人軍団が形成され、当地で初の鉄筋コンクリート建物に数寄屋和室を建造したという事で、ずいぶんと話題となりました。

当時は風俗営業に対する規制が厳しく設けられていました。開業申請書には、旅館とは玄関・建物を別途とすること、風俗を乱す絵画装飾を設けないこと、照明は一坪10燭光しよっこう以上、浴室はダメ、就寝施設や押し入れ禁止、専用トイレもダメ、一部屋は3坪以上などの構造設備規制があり、定款の目的に「料理業」を加えて開業にこぎつけております。



ビル2階の「竹の間」



玄関ビルは平成25年に売却、建物は現存し、現在は「地鶏坊主住吉店」



設計士の岩城誠作夫妻



建物見学ツアーに参加した蔦茂普請を支えた職人衆(前列:左・経師屋の桜木さん、大工の棟梁加藤さん、真中・二村正次番頭、鬼頭庭師。後列:祖父良矩、左官の村まさん他)



玄関



巴の間



薦の間：違い棚と桜柱



薦の庭：手水、石庭



桐・床の間、波の欄間



桐の南庭、滝と月見石版



松の床の間、柱は出節丸太



菊・松の欄間：山葵

旅館部と料理部は表向き別途営業形態ですが内部では繋がっており、お風呂に入って浴衣に着替える宴席スタイルが好評でした。各部屋には洗面所やトイレ、押し入れも併設し、旅館としての利用も毎日ありました。料亭の調理場として申請した地下一階は、女中部屋に変わってしまいました。

料亭としての粋と趣を大切に、中庭には焼け残った庭石や灯籠、手水、水琴窟を活用し、栗の木橋・廊下、天井には矢羽根網代を配し、両側には錦鯉の踊る池と滝が和の別世界へお客様を招き入れます。

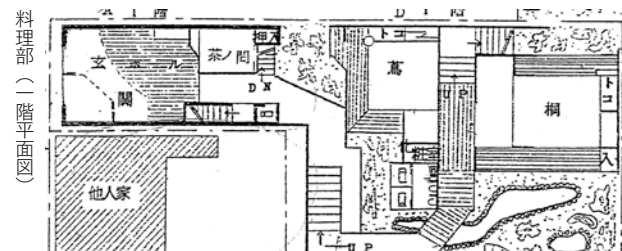
池を渡ると左には粋な「松竹梅」をシンボルとした小部屋からイタリア大理石の厠、左には茶室としても利用の多い「蔦」の間となります。

柱は桜の皮付き丸太、粋な違い棚、杉梅の竿縁天井、縁側には掛込天井・市松網代から、手水から流れる井水は和の安らぎを感じさせます。

両側に庭を配する「桐」の間、真冬には滝の元から17度の水で湯気ももうもうとあがり、錦鯉が群がっております。月見のウサギ石版は戦前からの庭石のようで、周辺には多くの種類の苔が群生しています。

縁側天井の、北山杉の絞り一本丸太は珍しい素材です。北側の庭には「つたも神社」が祀られ、真夏の手水鉢には冷気を求める小鳥たちが水浴びする午後の光景はなんともいえません。1階は平地の材木を使い海浜イメージを大切に、欄間には青海波を、違い棚には大波を配しております。

そして、松の廊下を階上にあがり、菊・松の間は椅子テーブルを排除して芸者遊びには



もってこいのお座敷と人気です。山のイメージで建築され、欄間は富士山、三つ葉葵がテーマ。床柱は「横の木・出節丸太」で、建具の多くを平成30年夏オープンの新店に移築するように手配しております。

また、窓ガラスは昭和26年当時の手作り一枚硝子による波打ち模様が特色で、欄干には鳶の文様に階下の苔むす庭を配し、山里を感じさせております。

祖父良矩は普請道楽を楽しみながら、粋な建造物を支えた各職人衆を各地の名所旧跡や建物庭へ見学につれていったようです。

ここに深田家と縁の深い、もう一人のプロ職人・青木庄司を紹介しておきます。

青木は丸栄百貨店内で釣具店を開業。鮎・溪流釣りの名人として、父正矩や釣り仲間を現地で指導されてきました。オリジナルの鮎の友釣り専用「ヤマ庄の移動式銅製鼻環仕掛け」は長良・揖斐川の急流向け針として大人気でした。

青木名人と父たちが釣行した天然のアマゴや鮎は、春先から盛夏の料亭鳶茂話題の食材としてお客様からご用命いただく名物料理でした。幼き頃から正雄も青木師匠に薫陶をうけ、今では溪流釣り玄人の仲間入りをさせていただいております。

(2018・1・24)

「和食・日本人の伝統的な食文化」と鳶茂料理人

料亭鳶茂の伝統の味を伝える調理人について、ご紹介させていただきます。

戦前の板前で立身出世した有本富夫さんは、昭和15年に独立して尾頭橋にて創業。戦後、復員され住吉町3丁目（現・ピポットビル）に「割烹有本」をかまえ、鰻・天ぷらで人気店になりました。

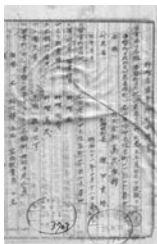
戦時中の調理長の梶川さんは、戦後に名古屋で最初の調理師学校を設立され多くの弟子を育てられたと聞いています。

正雄の思い出の料理人は、戦後初代の山川料理長。腕利きでしたがちよつとアル中気味？と思われ、小学校から帰ってきた正雄にいつも「コップ酒」とツマミをふるまってくれました。

自分が飲んでいるので、お坊ちやまにもお勧めして言い訳のつもり？ 人間関係を損ねてはと、正雄も目を真っ赤にしながらいただいた記憶が……。ひとり息子の夕飯には必ずお銚子が付き、晩酌とともに食事するのが正雄の子供の頃からの習慣となりました。

東京から招聘した包丁式で有名な四條流師範の獅子倉祖憲さんは、若手の森野祐介さんを指導しながら、名古屋料理界に寄与されました。そして、とつても粋でオシャレな森野料理長は、住吉界隈では結構な遊び人としても話題でした。でも部下には厳しく、よく鍋や包丁が飛んでくる調理場であつたようです。

そこで鍛えられた鳥居修一総料理長は、昭和63年に30代半ばで就任。鳥居の目覚ましい活躍は、積極的な新メニュー開発から朝日文化センター料理教室、新規事業での松坂屋本店惣菜売場出店、また女性向けに料亭のランチ開発、出前弁当・出張宴会、つたも玄関改装、さらに若手料理人への指導と名古屋名厨会会長就任など枚挙にいとまがありません。



料理業開業申請書(昭和26年)



川釣名人の青木庄司師匠と正雄



笑顔の料理人(「味人」2005年葉月 日本調理師会監修より)

(左後列) 大瀧寿宏様、田中慶昭さん、大矢裕さん、伊藤敬親さん、五十住忍さん、(左前列) 料理長の鳥居修一さん、寺島武彦さん、山本功さん、杉田雅則さん



日本さくらの女王と本店板場スタッフ(平成20年春)

新しい感覚でバブル崩壊後の料亭の切り盛りに貢献し、若手料理人の育成にも尽力されましたが、平成20年、癌の病魔に侵され50代で逝去。なんとも惜しまれる人材でした。正雄は繊維業に従事しており、料亭経営は鳥居常務に任せて資金繰りだけ手配しておりました。

その後、寺島武彦副料理長が後を任され、若手の大道寺宏樹を育成します。平成24年、大道寺は鳥居の思いを託され35歳で料理長に就任。ジェイアール名古屋タカシマヤ店への出店、また気軽に料亭の味を楽しめる仕組づくりでセントラルキッチンオープンさせるなど、新規事業にチャレンジしておりました。

しかしながら、平成26年1月28日早朝に自宅の電話が鳴り、突然の訃報が正雄を襲いました。何と、大道寺が中区橋2丁目で午前5時40分自転車走行中、飲酒運転の轢き逃げ事故に遭遇し急逝したのです。この事件に遭遇した後は、呆然自失とした日々だったように思います。

何とか気を持ち直し、料亭葛茂の料理の伝統を承継できる人物探しに奔走しました。やっと、鳥居の後任で名古屋名扇会代表を務める山口孝朋を平成27年2月に招聘することができました。

山口総料理長との出逢いにより、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食・日本人の伝統的な食文化」を本格的に伝承して若手調理人を育てることこそ料亭葛茂の使命と感じ、平成30年6月に画期的な意匠を凝らした板前割烹と料理店を新店として開業するきっかけとなりました。新店で日本の料亭文化を伝承しつつ、若き調理人がチャレンジできる舞台

を提供できることが楽しみとなります。

名古屋の和食料理人が「技と友情と相互扶助を末広がり集う会」として昭和58年に設立した「名古屋名扇会」についてご紹介してまいります。

昭和57年ごろ名古屋で活躍する大阪京繁社（調理師紹介あっせん所）のリーダー、翠芳園の小玉清孝料理長、ロイヤルパークホテル「京たち花」の池田恭一調理長を中心に有志が集ったのが契機とのこと。

初代会長は山口が翠芳園に入社した際の恩師・小玉さん、2代目は池田さん、そして3代目は20年近く尽力された料亭千代田の泉瑞士料理長、そして4代目の鳥居修一を経て、平成21年より山口孝朋のもと、会員数約50名で板場仲間の相互の交流と技能研鑽の場となっています。多くの料亭や和食店が支援していましたが、日本料理の再興とともに若手料理人が研鑽できる場の提供ができればと思っています。

また、葛茂OBとして鳥居と同期、昭和47年入社で稲垣さんは京都で修行され、陶芸や茶道の造詣も深く、名駅南に新感覚の「料亭神谷」（ロイヤルホテル弁天閣グループ）や錦3丁目のサウスハウス最上階に「東山」（名古屋観光ホテルグループ）を開業し、話題となりました。丸の内2丁目の古民家風割烹「あらた」では毎昼に料理教室を運営し、創作料理を提供する日置智也料理長も森野の薫陶を受けた弟子の一人です。

ところで、和食を「ユネスコ無形文化遺産に登録」提言された京都料亭「菊乃井」ご主人の村田吉弘は、若い頃、名古屋「か茂免」にて修行され青春時代を過ごされています。最近では女性の料理人の台頭も著しく、「キッチンつたも」では料亭の出汁を基本に、女



創業105周年記念料亭つたも新年会でのスタッフ一同（平成30年1月7日、中日ハルスにて）



現在の総料理長・山口孝朋



「あいちの名工」受賞記念で挨拶する山口孝朋



料亭の味を惣菜や弁当でお届け！右から白田有佐リーダー、葛谷周子、森夏希（丸の内セントラルキッチンにて）

性の感性を大切にした惣菜や弁当をお手軽に楽しんでいただけでいいように、デパート店舗や配達サービスで評判です。

(2018・2・23)

「おもてなし」と名妓連

戦後再建を果たした蔦茂旅館は、昭和30年頃には料亭営業を中心に、祖母静江の「おもてなしの心」と母のり子のもとに住み込む仲居15名での接客サービスは好評で、芸者を呼ばなくても楽しめる気軽な店として大繁盛でした。

また、芸者衆も名妓連2〜3名が常駐し、当時は舎人町の中京連、西区の城西連、富沢町の浪越連などそれぞれ100名を超える芸妓をかかえる検番からも毎日、出入りが多くありました。料亭売り上げの30パーセント以上が芸妓花代関連でした。

名妓連組合は中区にある舞妓・芸妓の団体です。昭和27年、名古屋芸妓株式会社として設立。東新町に自社ビルを持ち、往時には250名以上の芸者を抱え、昭和33年より「名妓をどり」を名鉄ホールにて39回開催、その後、組合員の減少により解散するも、平成12年に名妓連組合として新しく生まれかわりました。

現在は芸妓17名、舞妓2名が活躍中！ 日本舞踊、鳴物、太鼓・鼓、笛・邦楽、三味線、唄などの稽古があり、伝統芸である「金の鯨」の習得は必須となっております。

また、舎人町の東検番芸能協同組合は昭和33年に中京連芸妓組合と名を改め、地域とと

もに昭和27年から行われる「舎人花街祭」には毎年200名の名妓さんが街を踊りまわつての名物行事でした。しかしながら、バブル崩壊のころ舎人町の花街の衰退とともに解散状態になっています。個人で2〜3名が中京連として頑張っているとのこと。

市内の料亭の廃業とともに芸者のお座敷も少なくなり、検番も名妓連のみとなりました。名古屋伝統文化の担い手となった名妓連を支援しようと、東邦ガスの社長を務めた名古屋邦楽協会の薦田国雄会長の音頭で「名古屋伝統芸能振興会」が発足しました。名古屋商工会議所に事務局をおき、現在法人会員70社、個人184名で名妓連の新人育成や「名古屋をどり」などの発表会へ、助成活動を継続実施しております。

最後に、絶滅危惧職種・芸者の地域別レッドリストを掲載させていただきます。

地域	名妓連	踊り・西川流「名古屋をどり」
名古屋	名妓連 19名	櫻川直太郎
安城	笑美素会 16名	安城芸妓文化振興会、置屋6軒
岐阜	岐阜芸妓組合 18名 鳳川技連 6名	岐阜芸妓振興会120社が支援 幫間2名 喜久次活躍中
飛騨高山	おもてなし文化振興会 16名	商工会議所が支援
桑名	芸妓組合・桑華連 13名	民謡「桑名の殿さん」が有名



昭和30年頃の節分祭の仲居頭妙子、みち子と二村支配人



常駐の名妓連かつ子(中)と大女将の静江



昭和32年頃の蔦茂の仲居と深田ファミリー(前列左から3人目父正矩、母のり子、正雄、祖母静江、仲居頭妙子、支配人・二村正次)

金沢 主計町・10名
ひがし・13名 金沢伝統芸能振興協同組合
にし・19名

富山 朝日町・泊 3名

福井 福井・浜町 5名
小浜・三丁町 1名

静岡 静岡・清水 11名 清美株式会社(平成16年解散)

(2018・3・24)

ロバート・モージャーの戦後写真と料亭葛茂の黒塀

第2次世界大戦後、GHQの文民スタッフ(civilian secretarial staff)としてロバート・モージャーが昭和21年4月から翌年1月まで日本に滞在した際、東京・名古屋・広島など全国各地で撮影した街頭風景や建築物のカラー写真304枚が、国立国会図書館デジタルコレクションとして平成29年末に公開されました。

昭和20年3月12日の大空襲で名古屋中心部は焼け野原となり、その後、終戦16カ月を経た葛茂旅館建設当時の界隈の写真を発見しました。22年1月頃、焼け残った4階建ての中部配電ビル(現・大津通中電ビル)屋上から北西の本町方向を撮影した雪景色の映像と思



モージャーが撮影した葛茂旅館界隈

われます。

GHQ司令部大和生命ビルが聳え、周辺に木造の新しい建物が建設されつつあります。当時はアメリカ村建設が完了しつつあり、区画整理前で道路が明確となっていませんが、戦前の基盤割を基本に道路が拡幅されつつある過程です。

木造二階建て葛茂本館、南の三蔵通りができる前でまだ塀や囲いがなく唯一の家が建ち、2階からは名古屋駅ステーションビルが見渡せたと聞いています。

住吉通りと広小路交差点の富国生命ビルには戦争未亡人達の華やかな職場「キャバレー赤玉」が入居し、南呉服町にはいち早く映画館「松竹ステート座」(現・キング観光サウザンド栄住吉店)が建設されています。

拡幅予定道路の反対側には、最初の喫茶店「茶ばしら」がオープンし、現在は立体駐車場「茶ばしら駐車場」として現存しています。

同時にGHQ本部東、現在の三菱UFJ銀行名古屋営業部には「中村呉服店」が開業して、オープンセールの様子が撮られています。その後、昭和29年に栄交差点に平松さわさんから賃借して「オリエンタル中村百貨店」と改称し、カンガルーがキャラクターのデパートとなりました。55年には「名古屋三越」となりましたが、屋上にはわが国最古の「観覧車」とカンガルー人形が展示されています。

葛茂旅館は昭和21年末に7部屋で営業開始し、戦後の復興最初の宿屋として大繁盛。しかし、囲いもなく用心が悪いので黒塀を建築する予定でしたが、本館開業で資金が枯渇してしまい苦慮しておりました。



映画館「松竹ステート座」



拡張工事中のステート座通りを挟んで喫茶「茶ばしら」

祖父良矩の実弟・胤次たむつが須成深田家の後継ぎとして佐屋村の学校教員を務めたところ、山田忠本家酒造の8代目・山田忠右衛門さんの子女の教師だったご縁で、新築祝いでお酒を馬車イッパイご寄贈いただきました。

お店で使用するのは一部で、ほとんどを平松さんが仕切る闇市場（現在の名古屋三越周辺）で販売。隣に戦地から引き揚げてくる板場衆が天ぶら屋台をやりながら黒塀建設資金を調達しようです。

山忠さんにはお札に、多治見中学の教員であった祖母の弟が教え子のいた東濃の亜炭採掘場から内津峠を越えて、燃料を馬車で佐屋村まで運んであげたと、自慢げに祖父が話をしていたようです。

それでも資金が足らず、徴用から隠し持っていた大切なレミントンの猟銃を進駐軍将校に売却してやっと「ヒノキとシバ」の黒塀が完成したとのことです。

黒塀の中庭には常緑樹のクロガネモチやヤマモモ、紅葉、カエデ、棕櫚2本が樹齢100年となろうとしています。かつて栄周辺の街路樹は柳一辺倒でしたが、住吉通りは毎年4月中旬に満開となる街路樹のキクモモと黒塀とのコラボレーションが住吉の風情として名物です。

(2018・4・24)



オーブンセールの中村百貨店（手前）とGHQ本部の大和生命ビル（昭和21年）



葛茂南側の黒塀に紅葉の緑とカエデの赤茶が映えます。左角が調理場で毎朝の出汁の香りが懐かしい

モージャーの日本滞在時の写真をフェイスブックのお友達に知らせたところ、栄小学校の1年後輩で茨城県那珂市在住の橋本裕くんから感動の返信をもらいました。

我が家発見!! モージャー氏戦後写真コレクションの166番の写真、第5空軍（中部方面）司令部となった大和生命ビル正面を撮った写真、手前の空き地にジープが駐車しているもの。その横に「WATCHCLOCK」と横壁に書かれている家屋が我が家です!!

店の棟と住居の棟になって、その間はコンクリート打ちの通路。

大和生命ビル入口の正面でした。裏手は墓地で、長円寺。

時計・貴金属・眼鏡が本業ですが、司令部前という立地からか、龍や虎の大きな刺繍が入ったジャンパーから警棒・手錠・胸章・肩章なども取り扱っていました。

名古屋今池の東、仲田本通から、戦後すぐ栄二丁目に移って店舗を構えたと聞いていましたが、戦後1年ぐらいの早い時期だったと知りました。私はその3、4年後この地で生まれました。

「WATCHCLOCK」と横壁に書かれているのがかつての我が家・店舗 昭和21年秋9月頃？昭和20年空襲で焼け出され、親父は終戦間際に召集され、小倉へ。終戦後すぐ除隊となって帰還。家族が疎開していた稲沢の実家にしばらくいてからこの地（岡谷鋼機所有）を借りて……断片的な記憶を繋ぐと、こんなところか。

父は進駐軍を良客としていい商売をしたとは思いますが、各務原基地のPXにも品物を納入したのは覚えています。そんなに商才があつてバリバリ稼ぐタイプではなく、どちらか



葛茂の黒塀西、キクモモと緑の樹木の色合いが人気です

といえば職人タイプ。このころ運がよかったのでは？（天候が良ければ小倉で原爆投下、被爆していたかもしれない。小倉⇩長崎）英語はまるでだめだったと思うので、母親の方が適当な英語で対応していたのか？

こんな早い時期に広小路、それも司令部前に店舗を開いたことの経緯はもう聞くことはできません。のち西側に喫茶・バー「ウスケボー」を開いています（S31～S35）、これもどんなきつかけがあつたのでしょうか。こちらでは、バーテンダーからチェーカーの振り方、ダイスの振り方、ハンバーガーの作り方なども習いました。

店舗の角は煙草、はがき・切手、宝くじ販売。ここではよく店番をして、札の数え方を覚えました。

この一枚の写真を見ていると、いろいろなことを思い出し、懐かしく感じます。

腕時計分解修理・組立、柱時計の調整、眼鏡度数検査、宝石鑑定などの作業、父に連れられて刺繍加工屋、寿屋、専売公社、税理士事務所に行ったこと、店のガスストーブで焼いて食べた干芋（角柱形で白い粉がふいた）、店先に来てくれた魚行商、スケートを習ったこと、丸善・明治屋・丸栄・中村百貨店、屋台（みたらし、ラーメン・ワントン）など、溢れてきます。

ここが自分の原点。

懐かしい「ウスケボー」、日本人が楽しめるカウンターバーの発祥の老舗です。最近まで経営者が代わったようですが、近くのビルで営業していた記憶があります。

名古屋駅前の大型バー「うすけぼー」はニッカウキスキー直営アンテナショップと思われる、橋本さんとは直接の関連はないようです。うすけぼー（Usigebaugh ウーシユクベーハ）とはケルト語で「生命の水」という意味、つまりウイスキーの語源です。

橋本さんの店の名前は？

命の水、ウイスキーの語源、徳川夢声の命名。マッチには夢声の似顔絵。「Torys」と字がはいった菱形ガラス小皿で「新道」で仕入れた「ピーナッツ」や「揚げソラマメ」をコーヒーのときも付けて出していました。7種のリキュールを比重の大きいものから順にグラスに注いで作る「レインボー」、ジンフィーズ、ハイボールの作り方の手ほどきをうけましたねえー、小学生の時でしたが？ 仕入れはサントリーさんでした。（橋本氏コメント）

終戦直後、名古屋ではアメリカ第25師団が連合国軍（進駐軍）として軍政を敷き、市内のビルなど約40ヶ所が接収されました。また、名古屋城三の丸旧陸軍第3連隊兵営跡にキャッスルハイツとキャッスル野球場、広小路南に現在の栄2丁目に将校の家族専用住宅「アメリカ村」と占拠されました。

司令部の交通の要所の交差点に第5空軍司令部、本町通りと広小路通りは占領軍専用道路となっていました。そして、橋本時計店の西にはジープが8台駐車しており、馬車を含めて邦人の車両通行などはなかったようです。本町通りは米軍ジープが砂煙を上げて闊歩し、日本人は恐れおののき、一本西の長者町筋が新しい繊維街として終戦後発展したと聞かれています。



橋本裕さん（平成6年ウイ
ンにて）



モージャーが撮影した大和生
命ビル手前の橋本さんの自宅



広小路本町交差点あたりの北
見式地図。北側左より旧GH
Q大和生命ビル、家具・高麗
屋、広小路サロン、朝日神社
南側：バー・ウスケボー、時
計・橋本商店

「賀正」の看板を掲げたシキシマの「広小路サロン」は最初の食堂。丸焼けとなった朝日神社の焼けた楠の大木も一年で緑を取り戻し、街の復興めざましく庶民は活気を取り戻しつつありました。

白い建物は「パチンコ広小路センター」として大いににぎわっておりました。すでに歩道が舗装され、電線も地中埋設されたようで電柱や電線が見当たりません。この後、柳の街路樹が歩道に植えられ、屋台が進出して「広ブラの原点」となったようです。

(2018・5・23)



正月の広小路のにぎわいは「広ブラ」の原点(モーシャ―撮影写真、昭和22年)

あとがき

なごや・住吉に生まれ、住吉で育ち・学び、住吉に商いし、住吉の街づくりに携わった想いを「住吉の語り部」として、世話人を務めている中部経済同友会の産業懇談会から発行されます月刊メールマガジン「産懇宅配便」に平成23年4月より毎月、地域の歴史と文化を紹介してまいります。

昭和20年3月の空襲で焼け野原となった戦後の栄地区のエピソードを祖父・深田良矩が可愛い孫「まさお」に語ったお話を中心にまとめました。

清州越し碁盤割七軒町通りの広小路南地区は、料亭蔦茂旧店にあった井水豊かな「造り酒蔵・住吉屋」から町衆が地域の呼称として「住吉」と呼ぶようになったと聞いています。そして、料亭・芸者・置屋の三業者の町・繁華街として発展してまいりました。しかし、昭和50年代は治安面での不安が多く、反社会勢力やホームレス、ゴミ問題、不法飲食営業など解決すべき課題が多くありました。

東京や海外での16年間の生活後、地元への懐かしさを感じながら名古屋に戻った私は昭和58年頃より森島羅紗店がある矢場町周辺で「掃除と挨拶」をテーマに、街づくりへの関与をスタートさせました。そして、栄ミナミ地域活性化協議会を立ち上げて会長となりましたが、仲間たちとのイベント活動を通じて、地元を愛していただくためにはまず地域の歴史や文化を知ってもらうことが大切と考えるようになりました。

また、平成24年2月には朋友・河村たかし名古屋市長のマニフェストにある「名古屋の旧町名の復活を目指す有志の会」を立ち上げ、毎月例会を開催しております。名古屋城木造復元活動などを提唱し、江戸尾張藩からの文化の啓蒙活動を継続して講演会も開催してきました（令和3年1月には第100回記念講演会を開催）。講演を通じて清州・住人・寺社・地形など由来する旧町名の大切さを感じました。そして、同会の北見昌朗代表には各年代の地図や話題提供いただき、連載にも多くを引用させていただきました。

連載は令和元年8月まで101回にわたりました。多くの読者に住吉周辺の変遷と発展を感じていただけたのであれば光栄です。そして、微力ながら今後も伝承できればと思っています。中部経済同友会事務局スタッフ、産業懇談会の片桐清志代表世話人からの継続執筆への激励、原稿チェックや添削などお世話になりました。

連載終了後に旧知の編集者から「テーマごとにまとめて書籍化してみても」との提案を受けました。しかしながら、その時々話題も織り交ぜながら徒然なるままに綴ってまいりましたので、それらをテーマごとに再編集することは難題でした。そこで、文化・人物・ストリート・旧町名・矢場町・栄ミナミ・料亭蔦茂とカテゴリーを定め、なんとかまとめることができました。

祖父の語りとは言え、地域の偉大なる先人について一方的かつ個人的な印象や見解について勝手な表現をご海容いただくとともに、写真など掲載させていただきましたことお許しいただければ幸いに存じます。

平成18年に「栄中部を住みよくする会」の代表となり、地域の仲間たちの大いなる支援と協力



妻・旬子とともに

で新しい栄ミナミの街づくりが素晴らしい成果を上げてまいりました。「コミュニティはセキユリテイ」の合言葉のもと、「歩いても住んでも楽しい栄ミナミ」、安心安全の街づくりが全国的にも評価されています。さらに、令和元年には「栄ミナミまちづくり株式会社」（代表・藤井一彦氏）が設立され、今後のユニークな展開が期待されています。

栄ミナミのかつての歴史や文化遺産を大切に、これから栄地区に住む人、仕事する人、集う人々がこの本から「温故知新」の心を感じていただければ幸甚の喜びです。

末尾になりましたが、本書を製作するにあたって本当に多くの方々にお世話になりました。特に、妻の旬子には料亭蔦茂の再建、新規事業の展開、そして、事業承継にいたる苦労に「ありがとうございます」の気持ちでいっぱいです。蔦茂スタッフの街づくりへの理解と協力にあらためて感謝しております。また、編集考房羅針盤の編集者、杉浦成之さんの一方ならぬ奮闘で出版できたことを嬉しく思っております。ありがとうございました。

令和3年6月吉日

【参考文献】

- 『名古屋市中区史』（中市区制八十周年記念事業実行委員会 平成3年）
『名美百年史』（名古屋美術倶楽部 平成17年）
『花の名古屋の基盤割』（沢井鈴一 堀川文化を伝える会 2004年）
『不屈の男 名古屋財界の怪物・山田才吉』（藤沢茂弘著 ブックショップマイタウン 平成25年）
『名古屋商人史話』（林董一著 名古屋市教育委員会 昭和50年）
『名古屋本町通りものがたり』（堀川文化を伝える会 平成18年）
『ナゴヤ歴史探検（びあ）2018年』
『博徒と自由民権——名古屋事件始末記』（長谷川昇著 中央公論 1977年）
『愛知千年企業 明治時代編』（北見昌朗著 中日新聞社 2013年）
『時勢と人物』（大日本雄弁会 大正4年）
『名古屋なつかしの商店街』（名古屋タイムズ・アーカイブス委員会編 風媒社 2014年）
『名古屋都心における路地的空間の形成可能性の基礎研究』（中島壮太郎 名古屋都市センター 平成31年）
『名古屋地下駐車場10周年記念誌』（名古屋地下駐車場 昭和50年）
『エンゼルパーク四〇年の軌跡』（エンゼルパーク 平成17年）
『名古屋広小路ものがたり』（沢井鈴一著）
『名古屋さんぽ』（交通新聞社 平成28年）
『占領期の名古屋』（阿部英樹編著 風媒社 2020年）

各種ホームページ、新聞記事

*本書は平成23年4月10日から平成31年8月24日まで101回にわたって中部経済同友会のメールマガジンに連載された「名古屋いちばん物語・住吉の語り部」を改題し、大幅に加筆・修正して単行本化したものです。なお、敬称は略させていただきました。また、各項目の末尾に掲載年月日を付しました。

すみよし
住吉の語り部
そふよしのり
祖父良矩とのダイアローグ
なりたいたい

令和3年7月4日 初版第1刷発行

●
著者 深田 正雄
ふかだ まさお

発行所
料亭 蔦茂

名古屋市中区栄3-12-32 〒460-0008

電話 052-241-3666

URL : <http://tsutamo.com>

●
企画・製作
編集考房 羅針盤

印刷・製本
プリ・テック株式会社

落丁・乱丁はお取り替えいたします。
©Masao Fukada 2021, Printed in Japan

深田正雄のパーソナル・ヒストリー

- 1948年10月2日 住吉町2丁目26番の「料亭蔦茂」の一人息子として生まれる
1952～55年 鉄炮町3丁目31番の浄土宗伝法院にある白川幼稚園
1954～60年 中区仲ノ町3丁目14番の栄小学校
1958年 白川町・アメリカ村接収解除
1960～67年 東区筒井町の東海中学・東海高等学校
1964～65年 中部学生写真連盟・高校の部の委員長を務める
1967～71年 東京都国立市の一橋大学商学部、森田哲弥ゼミナール卒業
1971～75年 米国法人The Kahler Corp.入社、ミネソタ州ロチェスター市の本社にてアドミニストレイティブ研修終了後、ウィスコンシン州アプルトン市、フロリダ州オーランド市のホテル飲食支配人を歴任
1972年 祖父・深田良矩逝去、享年85歳
1975～83年 ホテルオークラ東京に転じ、ホテルオークラチェーン設立業務に携わる
1981年 海外ホテル協会の理事・企画担当に就任
1979年 ホスピタリティコンサルティングの(株)HRSを設立、現在は(株)グローバルマネジメントディレクションズ（あずさ監査法人、米国KPMGのメンバーファーム）に発展
1983年 (株)森島羅紗店／モリシマ入社、10月に代表取締役社長に就任
1984年 異業種交流会「名古屋経営研究会（三土会）」を設立、会長に就任
1995年 (株)蔦茂旅館の代表取締役社長に就任
1996年 (株)フロンティア21の取締役に就任
2000年 (株)フクヤの代表取締役に就任
2006年 「名古屋・栄中部を住みよくする会」の会長に就任、2011年に退任
2007年 「栄ミナミ地域活性化協議会」の会長に就任、2019年より栄ミナミまちづくり株式会社に事業統合
2008年 (株)森島羅紗店の会長に就任、2010年に退任 (株)フクヤ代表取締役を退任
2012年 「名古屋の旧町名の復活を目指す有志の会」を設立
2019年11月 (株)蔦茂旅館の社長を退任、会長に就任

所属：名古屋中ロータリークラブ、中部経済同友会産業懇談会世話人、名古屋中法人会、名古屋の旧町名を復活する有志の会、名古屋経営研究会、楽々座談会ほか

趣味：溪流釣り、異業種交流

E-mail : masao@ab.mbn.or.jp

URL : <http://tsutamo.com/fukada/fukadax.htm>

